

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	保育原理 I Principle of Early Childhood Care and Education I	2単位	必修	講義	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	保育の意義及び目的について理解し、保育に関する法令及び制度を学修する。また、保育所保育指針における保育の基本原則について理解し、保育の目標、内容、環境、方法、子どもの理解に基づく保育の過程を学修する。					
	キーワード	保育の意義 保育制度 保育の基本 幼児教育の思想	学修教育目標	日本の保育の現状と課題について理解し、保育所保育指針を基に保育を巡る課題に対応できる力を身につけることを目指す。		
授業科目の概要及び学修上の助言						
保育とは何か、保育の対象、保育の制度等、保育の基本を学習する。また、諸外国や我が国の保育思想の変遷を学ぶことによって、現在の保育の在り方を考える。毎回授業後に内容理解の確認を行うので、わからないことは自ら積極的に質問すること。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
秋学期の「保育原理Ⅱ」の理解につながる。 保育の原理を知ることが、すべての科目へと繋がることとなると認識すること。						
教科書			参考書・リザーブブック			
書名：新しい保育講座1 保育原理 著者名：渡邊英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀 編著 出版社：ミネルヴァ書房			書名：平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育保育要領解説書 著者名：内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社：チャイルド本社 その他、授業中に適宜紹介する。			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	保育の原理、特性、環境、方法について理解する。				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。					
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	保育に関連する内容について、情報を収集しようとする。				○
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	保育に関連する今日の問題を分析し、理解する。				◎
	② 計画力	保育に関連する今日の問題を分析、理解したうえで解決に向けた準備をしようとする。				△
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力	保育現場における保育者の役割を理解する。				△
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	保育者としての資質を身に付ける。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		50					100
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>保育所保育指針における保育の基本原則について理解したうえで、保育の目標と方法を具体的に学ぶ。</p>					<p>保育の意義及び目的について理解し、保育に関する法令及び制度を学修する。また、保育所保育指針における保育の基本原則について理解する。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	保育とは何か	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第2回 /	保育の対象と場	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第3回 /	子どもの発達（1） —乳幼児期の発達特性—	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第4回 /	子どもの発達（2） —子どもの発達過程—	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第5回 /	保育の制度（1） —保育所、幼稚園、認定こども園—	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第6回 /	保育の制度（2） —幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領—	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第7回 /	諸外国の保育制度	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第8回 /	諸外国の保育思想	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第9回 /	わが国の保育思想	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第10回 /	保育内容（1） —「保育内容」の構造—	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第11回 /	保育内容（2） —保育において配慮すること—	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第12回 /	保育の方法	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第13回 /	保育課程・教育課程	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第14回 /	指導計画の必要性	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第15回 /	まとめ 保育原理の「原理」を問う	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	保育原理Ⅱ Principle of Early Childhood Care and Education Ⅱ	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	「保育原理Ⅰ」で学修した基本知識を踏まえ、保育者としての技能向上を図る。また、保育所・幼稚園をめぐる保育行政の動向と今日的課題とに注目する。					
	キーワード	保育の意義 保育所の役割 保育行政 保育思想	学修教育目標	保育所・幼稚園実習に向けて適切な指導計画案を作成し、実践できる技能を獲得することを目指す。授業では、保育実践例をもとに保育者の援助・指導・助言や指導計画案を作成する。		
授業科目の概要及び学修上の助言						
「保育原理Ⅰ」で学習した、保育とは何か、保育の対象、保育の制度等、保育の基本を確認し、理解を深める。諸外国や我が国の保育思想の変遷を学ぶことによって、現在の保育の在り方を深く考える。毎回授業後に内容理解の確認を行うので、わからないことは積極的に質問すること。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
「保育原理Ⅰ」を理解したうえで、「保育原理Ⅱ」では、より深い学習へと向かうことを意識すること。保育の原理を知ることが、すべての科目へと繋がることとなると認識すること。						
教 科 書			参考書・リザーブドブック			
書 名：つながる保育原理 シリーズ知のゆりかご 著者名：井上孝之・小原敏郎・三浦主博 編 出版社：(株) みらい			書 名：平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育保育要領解説書 著者名：内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社：チャイルド本社 その他、授業中に適宜紹介する。			
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。					
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。					
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	保育の原理、特性、方法に、思想について理解し、専門職としての使命感、責任感、倫理観を身に付ける。			◎	
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	保育に関連する内容について、積極的に情報を収集しようとする。				◎
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	保育に関連する今日的問題を分析、理解する。				◎
	② 計画力	保育に関連する今日的問題を分析、理解したうえで解決に向けた準備をしようとする。				△
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力	保育現場における保育者の役割を理解する。				○
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	保育者としての資質を身に付ける。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20	30				100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		20	30				100
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>専門職としての使命感、責任感、倫理観を身に付け、保育行政の動向と今日的課題とに注目し理解できる。</p>					<p>「保育原理Ⅰ」で学修した基本知識を踏まえ、保育者としての技能向上を図る。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	保育の原理	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第2回 /	保育所の役割	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第3回 /	保育の制度	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第4回 /	諸外国における保育の思想と歴史（1） —子ども観と保育思想—	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第5回 /	諸外国における保育の思想と歴史（2） —保育施設の創設—	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第6回 /	我が国の保育の歴史（1） —幼稚園の成立と発展—	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第7回 /	我が国の保育の歴史（2） —子守学校から託児施設、保育所へ—	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第8回 /	保育課程と保育計画	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第9回 /	保育の方法の基本	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第10回 /	保育の形態	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第11回 /	健康・安全と保育	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第12回 /	保育者の自己評価	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第13回 /	保育所の自己評価、第三者評価	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第14回 /	保育士の資質・任務・職業倫理	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第15回 /	まとめ 保育者になるために必要なこと	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	保育士入門 A Guide to a Childcare Worker	2単位	必修	講義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	保育者の役割や倫理、制度的位置づけについて学び、保育士の専門性について考察し、理解する。また、保育者間の連携・協働、専門機関・自治体・関係機関等との連携・協働について理解する。保育者としての資質・専門性の向上のための組織的取り組み、保育者としてのキャリア形成の意義について理解する。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	保育者の役割 協働 仲間 成長	学修教育目標	1. 保育者の役割と倫理、協働について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけ、専門性について理解する。			
-------	--------------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

保育者の1日、保育の本質等、保育者としての基本を学ぶ。また、保育者同士、保護者との協働や連携の重要性を学び、自分の目指すべき保育者像を考える。わからないことは積極的に質問し、解決しようとする姿勢を持つこと。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「保育原理Ⅰ」「保育原理Ⅱ」と関連し、保育の基本を学ぶ中で、学び続ける姿勢、他者との共生について考えること。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
書名：施設実習必携ハンドブック—おさえてたいポイントと使える専門用語解説— 著者名：新川泰弘・渡邊慶一・山川宏和 編著 出版社：株式会社 晃洋書房			書名：保育所保育指針解説 著者名：厚生労働省 出版社：フレーベル館 その他：授業中に適宜紹介する			

学生が達成すべき行動目標（※1）

①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	保育者の役割と倫理、協働について理解する。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	保育者の役割について、積極的に情報収集をしようとする。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	保育者の役割について分析し、理解する。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	保育者の役割について理解し、状況に合わせた行動ができる。	○
	⑤ 規律性	保育者の役割について理解し、ルールにのっとって行動を律する。	△
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	保育者としての資質を身に付ける。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	5	25		10		10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		40	5	10					55
	技能に関する評価						5			5
	応用力に関する評価		10		5					15
	チームワークに関する評価				5					5
	関心・意欲に関する評価				5		5		10	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
保育者の役割と倫理、協働について理解する。 専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。					保育者の役割と倫理、協働について理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	保育士とは	講義、演習、コメントシート	保育所保育指針を用いての予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第2回 /	保育者の一日	講義、演習、コメントシート	配布されたプリント保育所保育指針を用いての予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第3回 /	保育の本質	講義、演習、コメントシート	配布されたプリント保育所保育指針を用いての予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第4回 /	豊かな環境をつくる —遊びをさせる保育者—	講義、演習、コメントシート	配布されたプリントを用いての予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第5回 /	保育の展開 —絵本を通して豊かな生活を生み出す—	講義、演習、コメントシート	配布されたプリントを用いての予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第6回 /	保育者の協働（1） —保護者との協働—	講義、演習、コメントシート	配布されたプリント保育所保育指針を用いての予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第7回 /	保育者の協働（2） —子育てコミュニティの中核として—	講義、演習、コメントシート	配布されたプリントを用いての予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第8回 /	小学校との連携	面接授業 講義、演習、コメントシート	配布されたプリントを用いての予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第9回 /	保育者になるまでの学び	講義、演習、コメントシート	配布されたプリントを用いての予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第10回 /	児童養護施設とは	講義、演習、コメントシート	テキストを用いての予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第11回 /	児童養護施設における保育者	講義、演習、コメントシート	テキストを用いての予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第12回 /	保育者の責務	講義、演習、コメントシート	配布されたプリントを用いての予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第13回 /	保育者の在り方と歴史（1） —戦前まで—	講義、演習、コメントシート	配布されたプリントを用いての予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第14回 /	保育者の在り方と歴史（2） —戦後の保育に関する動向と保育者—	講義、演習、コメントシート	配布されたプリントを用いての予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第15回 /	子育て環境と保育者の役割の変化・保育者の専門性	講義、演習、コメントシート	配布されたプリントを用いての予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	保育課程論 Course of Nursing	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	幼稚園・保育所・認定子ども園では教育課程・保育計画・指導計画に基づいて保育が展開される。これらの基盤となる子どもの捉えかたや保育者としての援助の視点について解説し、保育計画の立案について学ぶ。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	保育計画・立案 保育実践 環境づくり 指導計画	学修教育目標	乳幼児にとっての環境・指導計画の考えかた、教育課程や保育計画等保育課程について必要な知識の獲得を目指す。			
-------	----------------------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

保育における計画の意義と重要性を理解したうえで、保育計画の必要性を学ぶ。 長期、短期の保育計画の作成と留意事項を学び、実際に各年齢の指導計画を立案することを課題とする回があるので、それまでに分からないことがあれば質問し、解決しておくこと。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

保育計画には、乳幼児の発達の理解が必要であり、また実習時に指導計画を立案することが求められることを認識しておくこと。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
書名：保育所保育指針解説 著者名：厚生労働省 出版社：フレーベル館			書名：平成29年告示 幼稚園教育要領 幼保連携型認定子ども園教育保育要領解説書 著者名：文部科学省 内閣府 出版社：チャイルド本社 その他：授業中に適宜紹介する。			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。					
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。					
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	保育計画・立案をすることができ、実施した後の計画を改善する全体構造が理解できる。				◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	保育の計画について積極的に情報収集しようとする。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分の立てた保育計画の問題点を考えようとする。	△
	② 計画力	保育計画について理解し、保育計画を立てようとする。	◎
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	様々な状況を想定し、保育計画を立てようとする。	○
	④ 状況把握力	様々な状況に合わせ、問題点を考えて保育計画を立てようとする。	△
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	保育者としての資質を身に付ける。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	5	30		10			100
評価 の 指標	知識に関する評価		40	5	15					60
	技能に関する評価						5			5
	応用力に関する評価		15		5					20
	チームワークに関する評価				5					5
	関心・意欲に関する評価				5		5			10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
保育計画・立案をすることができ、実施した後の計画を改善し再度立案することができる。					保育計画・立案をすることができ、実施した後の計画を改善する全体構造が理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	保育における計画の意義と重要性	講義、演習	配布されたプリント保育所保育指針を用いての予習、復習	30
	レポート内容による評価			
第2回 /	保育所における保育計画	講義、演習	配布されたプリント保育所保育指針を用いての予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第3回 /	保育所保育指針・幼稚園教育要領	講義、演習	配布されたプリント保育所保育指針を用いての予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価、			
第4回 /	保育における計画の変遷	講義、演習	配布されたプリント保育所保育指針を用いての予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価、			
第5回 /	保育課程と保育計画の実施と指導計画	講義、演習	配布されたプリント保育所保育指針を用いての予習、復習	30
	レポート内容による評価			
第6回 /	長期の指導計画の作成と留意事項	講義、演習	年間指導計画について調べる	30
	レポート内容による評価			
第7回 /	短期の指導計画の作成と留意事項	講義、演習	月間指導計画について調べる	30
	レポート内容による評価			
第8回 /	日案・週案の考え方・立て方	講義、演習	週案について調べる	30
	レポート内容による評価			
第9回 /	指導計画（1） 0～2歳児の指導計画の考え方	講義、演習	おおむね0～2歳の指導計画を考える	30
	レポート内容による評価			
第10回 /	指導計画（2） 3～5歳児の指導計画の考え方	講義、演習	おおむね3～5歳の指導計画を考える	30
	レポート内容による評価			
第11回 /	指導計画（3） 0～2歳児の指導計画の作成	講義、演習	おおむね0～1歳の指導計画を完成させる	30
	授業参加状況による意欲の評価、指導計画表			
第12回 /	指導計画（4） 3～5歳児の指導計画の作成	講義、演習	おおむね3～5歳の指導計画を完成させる	30
	授業参加状況による意欲の評価、指導計画表			
第13回 /	小学校における計画との関係(1) 小学校との連携の必要性	講義、演習	おおむね5歳の指導計画と小学校での指導目標のつながりを調べる	30
	授業参加状況による意欲の評価、指導計画表			
第14回 /	小学校における計画との関係(2) 小学校との連携の方法	講義、演習	おおむね5歳の指導計画の中で、小学校との具体的な連携の方法を考える	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第15回 /	保育課程事例の見直しと評価	講義、演習	保育所児童保育要録、幼稚園幼児指導要録、認定こども園こども要録について調べる	30
	授業参加状況による意欲の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	子ども家庭福祉論 Child and Family Welfare Theory	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	子ども・家庭を取り巻く社会情勢や、児童虐待・貧困等の諸問題について理解し、子ども家庭福祉の理念や施策・実践について学修する。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	児童の最善の利益 子どもの人権擁護	学修教育目標	1. 子ども・家庭にかかわる諸問題を知り、子ども家庭福祉の理念ならびに制度と実施体系について理解すること、2. 子ども家庭福祉の現状と課題を理解し、実践できる能力を身に付けることを目指す。			
-------	----------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

まず子ども家庭福祉の理念と歴史の変遷、ならびに子どもの人権擁護について学修する。その上で、現代社会における子ども及び家庭をとりまく状況や現代的課題を取り上げて実情を知り、子ども家庭福祉の理念が実現されているのか、また制度が有効に機能しているのか等について検討する。そのような学修を通して、現代社会における子ども家庭福祉の意義と役割、今後取り組むべき課題についてディスカッションやレポート作成などを通して考えていく。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「社会福祉論」「社会的養護論」「子ども家庭支援論」を学修するための基盤となる。
各回の予習として、次回分の授業範囲のテキストを通読しておくこと。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：子ども家庭福祉論 著者名：山縣文治 出版社：ミネルヴァ書房	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	子ども及び家庭の福祉に関する理念や法律・制度についての知識を得る。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	子どもの最善の利益を主として考慮した実践を行うことができる。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	子ども及び家庭をとりまく現代的課題を知り、取り組むことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	子ども家庭福祉の理念に基づき、主体的に児童及び家庭に関ることができる。	○
	② 働きかけ力	子ども及び家庭をとりまく現代的課題について問題であると認識し、自ら働きかけることができる。	○
	③ 実行力	子ども及び家庭の福祉に関する法律や制度を必要に応じて活用することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	子ども及び家庭をとりまく現代的課題を知り、問題を早期発見することができる。	◎
	② 計画力	発見された問題を解決するための方法について検討し計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	問題解決のためのソーシャルアクションを実践することができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	児童家庭福祉の倫理・理念に基づき、児童及び家庭に働きかけることができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		45					95
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5					5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について充分に理解している。 子どもの人権擁護について理解し、実践に生かすことができる。 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について充分に理解し、活用できる。 子ども家庭福祉の現状と課題について充分に理解し、取り組むことができる。 子ども家庭福祉の動向と展望について充分に理解している。</p>					<p>現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解している。 子どもの人権擁護について理解している。 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解している。 子ども家庭福祉の現状と課題について理解している。 子ども家庭福祉の動向と展望について理解している。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	子ども家庭福祉の歴史と子どもの権利1 子ども観の変遷	講義	(予習として) テキスト第3章 1.2. を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第2回 /	子ども家庭福祉の歴史と子どもの権利2 子どもの権利	講義	(予習として) テキスト第3章 3 を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第3回 /	子ども家庭福祉の歴史と子どもの権利3 子ども家庭福祉の歴史の変遷	講義	(予習として) テキスト第4章 を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第4回 /	子ども家庭福祉の歴史と子どもの権利4 子ども家庭福祉の理念と概念	講義	(予習として) テキスト第2章 を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第5回 /	子どもをめぐる問題と子ども家庭福祉の支援1 少子化社会における子どもの健全育成	講義	(予習として) テキスト第1.8.9章 を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第6回 /	子どもをめぐる問題と子ども家庭福祉の支援2 子どもの貧困	講義	(予習として) テキスト第13章 1. を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第7回 /	子どもをめぐる問題と子ども家庭福祉の支援3 子ども虐待	講義	(予習として) テキスト第11章 を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第8回 /	子どもをめぐる問題と子ども家庭福祉の支援4 子ども虐待とDV	講義	(予習として) 第7回で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第9回 /	子どもをめぐる問題と子ども家庭福祉の支援5 ひとり親家庭の現状と支援	講義	(予習として) テキスト第13章 2. を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第10回 /	子どもをめぐる問題と子ども家庭福祉の支援6 母子保健の取り組み	講義	(予習として) テキスト第7章 を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第11回 /	子どもをめぐる問題と子ども家庭福祉の支援7 障がいのある子どもへの支援	講義	(予習として) テキスト第14章 を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第12回 /	子どもをめぐる問題と子ども家庭福祉の支援8 社会的養護	講義	(予習として) テキスト第10章 を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第13回 /	子どもをめぐる問題と子ども家庭福祉の支援9 少年非行	講義	(予習として) テキスト第12章 を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第14回 /	子ども家庭福祉の制度と実施体系1 子ども家庭福祉にかかわる関係機関と専門職	講義	(予習として) テキスト第5章 を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第15回 /	子ども家庭福祉の制度と実施体系2 子ども家庭福祉にかかわる専門職	講義	(予習として) テキスト第6章 を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	社会福祉論 Social Welfare Theory	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	子ども・家庭を取り巻く社会情勢や、児童虐待・貧困等の福祉需要について理解し、社会福祉における子ども家庭支援の視点や制度・実践について学修する。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	社会福祉の理念・意義 利用者の権利擁護 社会福祉の制度と実施体系 相談援助	学修教育目標	1. 社会福祉の理念・意義ならびに子ども家庭福祉への視点について理解すること、2. 社会福祉の制度と実施体系ならびに相談援助の理論と方法を理解し、実践できる能力を身に付けることを目指す。			
-------	--	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

まず現代社会における社会福祉の必要性について学び、社会福祉とは何か（概念）、どのように発展してきたのか（歴史）、大切にしていることは何か（理念）について学修する。その上で、現代社会における社会問題に社会福祉がどのように関わっているのかを、身近なトピックスを取り上げながら具体的に学ぶ。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「子ども家庭福祉」で学んだ内容を基礎とし、より対象を広げて学ぶ。 「社会的養護論」「子ども家庭支援」を学修するための基盤となる。						
---	--	--	--	--	--	--

教科書		参考書・リザーブブック
書名：社会福祉への招待 著者名：北川清一 川向雅弘 出版社：ミネルヴァ書房	なし	

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	社会福祉に関する理念や法律・制度についての知識を得る。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組みについて理解し、実践する。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	対象者をとりまく社会の現代的課題を知り、取り組むことができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	周囲の人を動かして目標を達成するパワーを持って働きかけている。	○
	③ 実行力	失敗を怖れずに、とにかくやってみようとする果敢さを持って、取り組むことができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとすることができる。	◎
	② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。	○
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうすることができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		45					95
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5					5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について十分に理解する。 社会福祉の制度や実施体系等について理解し、活用することができる。 社会福祉における援助について理解、実践することができる。 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解し実践することができる。 社会福祉の動向と課題について十分に理解する。</p>					<p>現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 社会福祉における援助について理解する。 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 社会福祉の動向と課題について理解する。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 1 社会福祉の概念	講義	(予習として) テキスト第1章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第2回 /	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 2 社会福祉の理念	講義	(予習として) テキスト第2章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第3回 /	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 3 海外の社会福祉のあゆみ	講義	(予習として) テキスト第5章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第4回 /	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 3 日本の社会福祉のあゆみ	講義	(予習として) テキスト第4章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第5回 /	現代の社会問題と その構造的背景	講義	(予習として) 第4回の授業で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第6回 /	社会福祉の目的	講義	(予習として) 第5回の授業で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第7回 /	社会福祉の制度と実施体系 1 社会保障制度と社会福祉 小レポート	講義	(予習として) 第6回の授業で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第8回 /	社会福祉の制度と実施体系 2 社会福祉行財政 小レポート	講義	(予習として) 第7回の授業で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第9回 /	社会福祉の制度と実施体系 3 社会福祉の実施機関と施設 小レポート	講義	(予習として) 第8回の授業で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第10回 /	社会福祉における援助 社会福祉の担い手 小レポート	講義	(予習として) テキスト第10章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第11回 /	社会福祉における援助 2 社会福祉の対象 小レポート	講義	(予習として) テキスト第10章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第12回 /	社会福祉における援助 3 社会福祉の利用過程	講義	(予習として) テキスト第7章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第13回 /	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 2 利用者保護の仕組み	講義	(予習として) テキスト第7章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第14回 /	社会福祉の動向と課題 現代の貧困問題 1	講義	(予習として) テキスト第6章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第15回 /	社会福祉の動向と課題 現代の貧困問題 2	講義	(予習として) テキスト第6章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	社会的養護論 Social Protective Care Theory	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	児童虐待の増加や顕在化等にもない、子どもを社会的に養育し保護する社会的養護の役割は重要性を増している。子どもの人権擁護をふまえた社会的養護の理念ならびに制度や実施体系について、また社会的養護の対象や形態、専門職等について学修する。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	子どもの人権擁護 家庭養護 施設養護 家庭支援	学修教育目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解し、実践に活用できる。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解し、実践できる。 5. 社会的養護の現状と課題について理解し、実践に生かすことができる。			
-------	----------------------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

保育所保育と並び、保育士の重要な役割である社会的養護下の子どもたちに対する支援を学ぶ科目である。 まず、子どもの人権擁護や保育士等の倫理と責務など、社会的養護の基本を十分理解したうえで、社会的養護の意義や歴史の変遷、制度や実施体系について学ぶ。 また施設養護の実施体系や、社会的養護下にある子どもへの支援の実際については、適宜事例検討やグループワークを交えて学ぶ。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「子ども家庭福祉」における学びを基礎として本科目を学びます。 さらに本科目を理論的基盤とし、演習科目である「社会的養護演習」の学びに発展させます。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書		参考書・リザーブドブック
書名：社会的養護入門 著者名：芝野 松次郎 新川 泰弘 山川 宏和 出版社：ミネルヴァ書房		なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	社会的養護における子どもの人権擁護及び自立支援等について理解する。 保育士等の倫理と責務について理解する。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	社会的養護と子ども家庭福祉との関連性及び子どもの権利擁護について理解する。 社会的養護の現状と課題について理解する。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	周囲の人を動かして目標を達成するパワーを持って働きかけている。	○
	③ 実行力	失敗を怖れずに、とにかくやってみようとする果敢さを持って、取り組むことができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとすることができる。	◎
	② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。	○
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうすることができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		45					95
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5					5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について十分に理解する。 社会的養護の制度や実施体系等について理解し、活用することができる。 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解し、実践できる。 社会的養護の現状と課題について理解し、自ら課題を発見できる。</p>					<p>現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 社会的養護の現状と課題について理解する。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷1 社会的養護の理念と概念	講義	(予習として) テキスト第1章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第2回 /	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷2 社会的養護の歴史の変遷	講義	(予習として) テキスト第2章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第3回 /	社会的養護の基本1 子どもの人権擁護と社会的養護	講義	(予習として) テキスト第3章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第4回 /	社会的養護の基本2 社会的養護における保育士等の倫理と責務	講義	(予習として) テキスト第5章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第5回 /	社会的養護の基本3 社会的養護の基本原則	講義	(予習として) テキスト第4章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第6回 /	社会的養護の制度と法体系	講義	(予習として) テキスト第6章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第7回 /	社会的養護の対象・形態・専門職1 施設養護① 乳児院	講義	(予習として) テキスト第7章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第8回 /	社会的養護の対象・形態・専門職2 施設養護② 児童養護施設	講義	(予習として) テキスト第7章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第9回 /	社会的養護の対象・形態・専門職3 施設養護③ 児童自立支援施設	講義	(予習として) テキスト第7章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第10回 /	社会的養護の対象・形態・専門職4 施設養護④ 児童心理治療施設	講義	(予習として) テキスト第7章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第11回 /	社会的養護の対象・形態・専門職5 施設養護⑤ 母子生活支援施設	講義	(予習として) テキスト第7章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第12回 /	社会的養護の対象・形態・専門職6 家庭養護① 里親・ファミリーホーム	講義	(予習として) テキスト第10章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第13回 /	社会的養護の対象・形態・専門職7 家庭養護② 特別養子縁組	講義	(予習として) 第12回で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第14回 /	社会的養護の対象・形態・専門職8 社会的養護にかかわる専門職	講義	(予習として) テキスト第11章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第15回 /	社会的養護に関する社会的状況	講義	(予習として) テキスト第15章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	社会的養護演習 Exercise for Social Protective Care	1単位	選 択	演 習	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>「社会的養護論」で学んだ知識を踏まえて、社会的養護の内容について具体的に理解する。施設養護及び家庭養護の実際を知り、社会的養護における支援の計画・記録・自己評価の実際について、また社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践について演習を通じて修得する。</p>					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	子どもの権利擁護 保育士の倫理 日常生活支援・心理的支援・自立支援	学修教育目標	授業では施設養護ならびに家庭養護の特性及び実際、また社会的養護における家庭支援について具体例を示して学ぶことにより、専門的技術を修得することをめざす。			
-------	---	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>「社会的養護論」で学んだ理論を基盤とし、一人ひとりの子どものニーズに応じた養育・支援を行うための技術を身につけることを目的として、ロールプレイ、事例検討、支援計画作成等の演習を多く実施する。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

本科目を学ぶための理論的基盤である「社会的養護論」の学修内容を復習しておくこと。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

書名：子どもと社会の未来を拓く 新・社会的養護の内容 保育士のための演習ワークブック 著者名：櫻井奈津子 出版社：青鞞社	なし
--	----

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ。社会的養護を通して、家庭支援、子ども家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	社会的養護に関わる相談援助の方法と技術について理解する。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	社会的養護における子どもの権利擁護や保育士等の倫理について理解する。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	集団や組織の中でリーダーシップを発揮し、他者や組織を動かしながら目標達成に向けて働きかけることができる。	○
	③ 実行力	失敗を怖れずに、とにかくやってみようとする果敢さを持って、取り組むことができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。	○
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	様々な知識・技能等を組み合わせ、問題の解決に対して新たな方法を考えることができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	立場の異なる相手の背景や事情を理解することができる。	○
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指 標	知識に関する評価		50		45					95
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5					5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解し実践できる。</p> <p>施設養護及び他の社会的養護の実際について十分に理解する。</p> <p>社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について具体的に理解し実践できる。</p> <p>社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解し実践できる。</p> <p>社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解や認識を十分に深める。</p>					<p>子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解する。</p> <p>施設養護及び他の社会的養護の実際について十分に理解する。</p> <p>社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。</p> <p>社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。</p> <p>社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	社会的養護の内容1 社会的養護における子どもの理解	講義・演習	(予習として) テキスト第2章1を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第2回 /	社会的養護の内容2 日常生活支援	講義・演習	(予習として) テキスト第2章2を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第3回 /	社会的養護の内容3 心理的支援	講義・演習	(予習として) テキスト第3章2を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第4回 /	社会的養護の内容4 自立支援1	講義・演習	(予習として) テキスト第3章3を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第5回 /	社会的養護の内容5 自立支援2	講義・演習	(予習として) テキスト第3章3を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第6回 /	社会的養護の内容5 自立支援3	講義・演習	(予習として) テキスト第3章3を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第7回 /	社会的養護の実際1 児童養護施設の生活特性および実際	講義・演習	(予習として) 第6回で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第8回 /	社会的養護の実際2 乳児院の生活特性および実際	講義・演習	(予習として) 第7回で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第9回 /	社会的養護の実際3 家庭養護の生活特性および実際	講義・演習	(予習として) 第8回で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第10回 /	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価1 アセスメントと個別支援計画の作成	講義・演習	(予習として) テキスト第5章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第11回 /	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価2 記録及び自己評価	講義・演習	(予習として) テキスト第5章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第12回 /	社会的養護にかかわる専門的技術2 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践	講義・演習	(予習として) テキスト第4章1を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第13回 /	社会的養護にかかわる専門的技術1 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践	講義・演習	(予習として) テキスト第4章2を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第14回 /	今後の課題と展望1 社会的養護における家庭支援	講義・演習	(予習として) テキスト第3章4を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第15回 /	今後の課題と展望2 今後の課題と展望	講義・演習	(予習として) 第14回で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	ジュニア栄養学（子どもの食と栄養） Child Nutrition (Food and Nutrition of Children)	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	幼児児童期の発育発達において栄養は大きな影響を及ぼす。近年食育が重要視されるのも、この時期の発達の程度が生涯の健康で豊かな人間性を育むうえで基盤となるとの認識からである。また、栄養学は保育の現場で必ず求められる知識である。これらを理解し、子どもの健全な発育とその後の健康を実現するために必要な子どもの栄養に関する知識を学修する。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	子ども 食生活 栄養 食育	学修教育目標	・健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的な知識を身につける。 ・子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 ・食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。 ・家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 ・特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。			
-------	------------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

子どもの栄養と食生活は生涯にわたる健康の基礎となる。本科目では、健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養、食の安全性に関する基礎的知識を学び、自らが望ましい食生活を考え実践する力を培うとともに、子どもの年齢や発育・発達過程における食生活との関連や食生活に特別な配慮が必要な子どもへの対応について学ぶ。また食を通じた保護者への支援や保育実践に係る食育の基本と内容について概説する。

授業外学習では、①事前・事後に教科書等を読み予習・復習に努めること。②日頃より子どもの食をめぐるメディア情報等に関心を持つこと。③自己の食生活、社会の中での食生活に関心を持ち、考える習慣を持つことを求めたい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「ジュニア栄養学演習（子どもの食と栄養）」の理解につながる。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：子どもの食と栄養 著者名：太田百合子、堤ちはる編著 出版社：羊土社	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの発育発達と食生活の関連を理解し、空所補充問題や記述式問題に正しく答えることができる。	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもの発育発達に応じた適切な食事の援助方法を理解し、実践できるようになる。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	子どもにとって「食事」は生命の維持、発育発達に欠かせないものであることを深く理解するとともに、子どもの「食を営む力」の基礎を培う食育の実践者であることを自覚する。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	本講義の学びを活用し、子どもの状況に応じた教育や支援、保護者支援について、自分なりに考えを提示し、文章や口頭で説明することができるようになる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力		
	③ 創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	他の人の考えを理解しようと心がけることができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45	20			10		25	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30	20					5	55
	技能に関する評価								5	5
	応用力に関する評価		10				7		5	22
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価		5				3		5	13
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養、食の安全に関する基礎的知識を理解し、それらを活用し、生活者として望ましい食生活を実践している。 2. 子どもの成長や状況に応じた栄養、食生活を理解し、他者に説明ができる。 3. 食育の基本と内容を理解し、他者に説明できる。					1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養、食の安全に関する基礎的知識を理解し、それらを活用し、生活者として望ましい食生活の実践に努めている。 2. 子どもの成長や状況に応じた栄養、食生活を理解している。 3. 食育の基本と内容を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / ワークシート	オリエンテーション 授業の目的、進め方について 子どもの健康と食生活 (1) 子どもの心身の健康と食生活・現状と課題	講義	予習：シラバスをよく読み、授業内容の把握に努める 復習：授業内容をまとめる	30 30
	ワークシート			
第2回 / ワークシート	子どもの健康と食生活 (2) 子どもの心身の健康と食生活・現状と課題	講義	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる	30 30
	ワークシート			
第3回 / ワークシート	栄養に関する基本的知識(1) 栄養素の種類と機能 -栄養の基本的概念・炭水化物・脂質・たんぱく質-	講義	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる	30 30
	ワークシート			
第4回 / ワークシート	栄養に関する基本的知識(2) 栄養素の種類と機能 -ミネラル・ビタミン・水分-	講義	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる 小テストに向け復習をする	30 60
	ワークシート			
第5回 / 小テスト	栄養に関する基本的知識(3) 食事摂取基準 -献立作成・調理の基本・衛生管理- 小テスト (1~5回授業内容について) 課題 幼児向け食育の媒体	講義 演習	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる 課題に取り組む	30 90
	小テスト			
第6回 / 実習レポート	子どもの発育発達と食生活(1) 乳児期 -乳児期の心身の達と食生活- -調乳実習-	実習	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる	30 30
	実習レポート			
第7回 / ワークシート	子どもの発育発達と食生活(2) 乳児期 -乳児期の心身の達と食生活-	講義	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる	30 30
	ワークシート			
第8回 / ワークシート	子どもの発育発達と食生活(3) 乳児期 -乳児期の心身の達と食生活-	講義	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる	30 30
	ワークシート			
第9回 / ワークシート	子どもの発育発達と食生活(4) 乳児期 -乳児期の心身の達と食生活-	講義	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる	30 30
	ワークシート			
第10回 / ワークシート	子どもの発育発達と食生活(5) 幼児期 -幼児期の心身の発達と食生活-	講義	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる 小テストに向け復習をする	30 60
	ワークシート			
第11回 / 小テスト	子どもの発育発達と食生活(6) 幼児期 -幼児期の心身の発達と食生活 小テスト (7~11回授業内容について)	講義 演習	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる	30 30
	小テスト			
第12回 / ワークシート	食育の基本と内容 (1) 食育 -食育の内容、計画、評価 食生活-	講義	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる	30 30
	ワークシート			
第13回 / ワークシート	食育の基本と内容 (2) 食育 -食育の内容、計画、評価	講義	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる	30 30
	ワークシート			
第14回 / ワークシート	家庭や児童福祉施設における食事と栄養 (1)	講義	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる 期末試験に向けてこれまでの範囲を復習する	30 60
	ワークシート			
第15回 / ワークシート	家庭や児童福祉施設における食事と栄養 (2) 全体のまとめ	講義	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：期末試験に向けてこれまでの範囲を復習する	30 90
	ワークシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域		ジュニア栄養学演習（子どもの食と栄養） Child Nutrition Exercise (Food and Nutrition of Children)		2単位	選 択	演 習	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	<p>子どもの発育・発達と健康な生活の基本としての食育の意義や栄養に関する基礎知識を学ぶ。心身の健康を獲得する上で重要な乳児児童期の食事献立案や食生活改善案を討議する。また、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえた必要な配慮について理解し、その実践方法を身につける。</p>							
	キーワード	子ども食生活食育	学修教育目標	<p>学童期・思春期の栄養と食生活について学び、実際に学童食やおやつ等を作る理論と技術を習得し、食育活動が企画実施できる。 子どもの食と栄養について、授乳期から学童期・思春期にいる発達段階に応じた食生活の重要性を考える確かな能力を身につけている。</p>				
授業科目の概要及び学修上の助言								
<p>ジュニア栄養学（子どもの食と栄養）で学んだ知識を基礎に、子どもの発育・発達過程における食生活を、調理実習を交え理解していく。また食物アレルギーを始めとする食生活に特別の配慮が必要な子どもの現状やその対応についても学ぶ。食育については、子どもをめぐる食の問題の現状を把握し、保育所や学校等で行われている食育を理解するとともに、将来の食育実践者として子どもや保護者への支援を考えていく。 なお演習等は、グループで行うため、求められる役割を理解し、協調性を持って臨むこと。また調理実習については、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により中止することがある。</p>								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
<p>「ジュニア栄養学（子どもの食と栄養）」で得た知識を発展させる。 調理実習では、エプロン、三角巾（バンダナ可）、タオルを用意すること。</p>								
教科書				参考書・リザーブブック				
<p>書名：子どもの食と栄養 著者名：太田百合子、堤ちはる編著 出版社：羊土社 (春学期「ジュニア栄養学（子どもの食と栄養）」で使用した教科書)</p>				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1)					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		食を通した子どもの発育発達を理解し、空所補充問題や記述式問題に正しく答えることができる。				◎	
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		子どもの発育発達に応じた適切な食事や援助方法を理解し、実践できるようになる。				◎	
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		子どもにとって「食事」は生命の維持、発育発達に欠かせないものであることを深く理解するとともに、子どもの「食を営む力」の基礎を培う食育の実践者であることを自覚する。				◎	
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		本演習や関連する科目の学びを活用し、子どもの状況に応じた教育や支援、保護者への支援について、自分なりに考えを提示し、文章や口頭で説明することができるようになる。				○	
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標 (※2)				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。				○	
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力						
		② 計画力						
		③ 創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。				○	
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	自分の考えや質問に対する回答を解りやすく説明することができる。				○	
		② 傾聴力	他の人の考えを理解しようと心がけることができる。				○	
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。				○	
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。				○	
4. 倫理観		① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。				△	

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45	10		15	10		20	100
評価 の 指 標	知識に関する評価		25	10		3	3		5	46
	技能に関する評価					3			2	5
	応用力に関する評価		20			3	5		5	33
	チームワークに関する評価					3			3	6
	関心・意欲に関する評価					3	2		5	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
1. 子どもの成長や状況に応じた栄養、食生活を理解し、他者にわかるように説明ができる。また適切な食事や間食の提供や、食事指導ができる。 2. 食育の基本と内容を理解し、保育所や教育現場などに相応しいものを企画実施できる。					1. 子どもの成長や状況に応じた栄養、食生活を理解し、自分なりに説明ができる。また適切な食事や間食を提供できる。 2. 食育の基本と内容を理解し、保育所や教育現場などに相応しいものを企画できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業の目的、進め方について 「食べる」ということの意味	講義	予習：シラバスをよく読み、授業内容の把握に努める 復習：授業内容を復習しておく	30 30
	ワークシート			
第2回 /	栄養に関する基礎知識 栄養素の種類と機能	講義	予習：資料を読んでおく 復習：授業内容を復習しておく	30 30
	ワークシート			
第3回 /	学童期・思春期の発育・発達と食生活	講義	予習：資料を読んでおく 復習：授業内容を復習しておく	30 30
	ワークシート			
第4回 /	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 体調不良・疾患のある子どもへの対応	講義	予習：資料を読んでおく 復習：小テストに向けて復習をする	30 60
	ワークシート			
第5回 /	小テスト（1～4回の授業内容について） 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 障害のある子どもの食生活	講義 演習	予習：資料を読んでおく 復習：授業内容を復習しておく	30 30
	小テスト			
第6回 /	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギー 調理実習についての説明	講義	予習：小テストに向けて復習をする 資料を読んでおく 復習：授業内容を復習しておく	60 30
	ワークシート			
第7回 /	調理実習 子どものおやつ	実習	予習：資料を読んでおく 復習：授業内容を復習しておく	30 30
	実習レポート			
第8回 /	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギー	講義	予習：資料を読んでおく 復習：授業内容を復習しておく	30 30
	ワークシート			
第9回 /	食育の基本と内容(1)乳幼児の食育	演習	予習：資料を読んでおく 復習：授業内容を復習しておく	30 30
	ワークシート			
第10回 /	食育の基本と内容(2)乳幼児の食育	演習	予習：資料を読んでおく 復習：授業内容を復習しておく	30 30
	ワークシート			
第11回 /	食育の基本と内容(3)小学生の食育	演習	予習：資料を読んでおく 復習：授業内容を復習しておく	30 30
	ワークシート			
第12回 /	小テスト（5～11回授業内容について） グループワーク 子どもの食に関する発表テーマを決める	演習（グループワーク）	予習：小テストに向けて復習をする 発表テーマ案を考えておく 復習：担当部分の資料等を準備する	60 30
	小テスト			
第13回 /	グループワーク 発表ための媒体および原稿づくり	演習（グループワーク）	予習：担当部分の資料等を準備する 復習：発表に向けて練習を行う	30 30
第14回 /	グループワーク 発表会 まとめ	演習（グループワーク）	予習：発表に向けて練習を行う 復習：期末試験に向けて準備する	30 30
	活動記録およびコメントシート			
第15回 /	子どもの健康と食生活 全体のまとめ	講義	予習：期末試験に向けて準備する 復習：期末試験に向けて準備する	30 60
	ワークシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	乳児保育 Infant Care and Education	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	1. 現代の乳児保育の環境について知り、教育・保育施設において保育者が日々実践している乳児保育の意義や目的などについて学修する。 2. 誕生から著しい発達を遂げる乳児の発達の過程や日々の生活、遊びの現状を知る。 3. 保育者として必要な知識や保育方法の基本について、事例を通して検討することから、子どもにとっての最善の利益についての理解を深める。					
	キーワード	乳児保育（意義・目的・役割） 乳児の成長と発達	学修教育目標	1. 乳児保育の意義や目的、歴史的変遷について理解する。 2. 保育所、認定子ども園、乳児院など多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の心身の発達を踏まえた保育内容について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携、保護者および地域の関係機関との連携について理解する。		

授業科目の概要及び学修上の助言

・学修教育目標に記載の内容についてテキストを基に講義する。
 【乳児保育の意義や目的、歴史的変、保育所、認定子ども園、乳児院など多様な保育の場における乳児保育の現状と課題、3歳未満児の心身の発達を踏まえた保育内容、乳児保育における職員間の連携、保護者および地域の関係機関との連携】
 ・受講生の方がイメージしやすい様に具体的な事例を通じて乳児保育の実際を学修する。
 ・教育訓練技法の一つであるロールプレイング技法を適時、授業の中で取り入れる。
 ・日頃から乳幼児期の親子に関心を持ち、保育問題に目を向けるようにする。
 ・保育所（園）、幼稚園施設などへのボランティアやインターンシップ活動には積極的に参加することから保育実践力を高める。
 ※本授業における「乳児保育」は、3歳未満児を念頭に置いた保育を指す。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

- ・保育実習を意識し、指導案作成方法や部分保育の指導についての技能を身に付ける。
- ・自身の住んでいる地域の保育所、認定子ども園、子育て支援施設などにおいて積極的にボランティアなどを経験されることを推奨する。
- ・子どもの保健や子どもの食に関する他教科での学び乳児保育の実践という視点で統合する。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：講義で学ぶ乳児保育 著者名：小山朝子編著 出版社：わかば社 ・必要に応じて資料等を配布する。	書名：保育所保育指針解説 平成30年3月 著者名：厚生労働省編 出版社：フレーベル館 書名：幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 平成30年3月 著者名：内閣府 文部科学省 厚生労働省編

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	乳児保育意義・目的と役割について理解する。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	乳児の部分指導案の作成方法について理解する。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	乳児の手遊びを調べ、実際にできるようにする。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	乳児保育の環境構成について理解する。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	乳児保育に関心を持ち、自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	自らが設定した目標が達成できるよう努力する。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	課題に計画的に取り組むことができる。	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自身の考えを相手に分かるように話すことができる。	○
	② 傾聴力	相手の意見を最後までしっかり聞くことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	自身の役割を把握し、行動することができる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	子どもの最善の利益を尊重することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		10	20	20			100
評価 の 指標	知識に関する評価		50							50
	技能に関する評価					20	10			30
	応用力に関する評価						10			10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				10					10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
乳児期の発達の特徴と保育者の関わりについて理解を深めることができる。 乳児保育の基本、保育者の援助について理解を深めることができる。					乳児期の発達と保育者の関わりについて理解できる。 乳児保育の基本について理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション (講義内容の説明、進め方、成績評価の説明等) 乳児保育の目的と役割-乳児保育の対象と実施体制-	講義 グループワーク、発表、トライワーク	シラバスを事前に読んでおく。 予習：テキスト第1回の内容を読んでおく。 復習：テキスト第1回の内容まとめておく。	60
第2回 /	乳児保育の基本-乳児保育のニーズ・歴史の変遷-	講義、グループワーク、発表	予習：テキスト第2回の内容を読んでおく。 復習：テキスト第2回の内容まとめておく。	60
第3回 /	0・1・2歳児の発達-アタッチメント形成・身体の発達・社会性の発達-	講義、グループワーク、発表、視聴覚教材	予習：テキスト第3回の内容を読んでおく。 復習：テキスト第3回の内容まとめておく。	60
第4回 /	0歳児の保育内容-乳児保育(0歳児)のねらいと内容・3つの視点-	講義 グループワーク、発表、視聴覚教材	予習：テキスト第4回の内容を読んでおく。 復習：テキスト第4回の内容まとめておく。	60
第5回 /	1歳以上3歳未満児の保育内容-1歳以上3歳未満児の発達・1歳以上3歳未満児のねらいと内容-	講義 グループワーク、発表、視聴覚教材	予習：テキスト第5回の内容を読んでおく。 復習：テキスト第5回の内容まとめておく。	60
第6回 /	乳児の生活と遊びの基本的事項-乳児の生活・遊び・安全対策-	講義 グループワーク、発表、トライワーク	予習：テキスト第6回の内容を読んでおく。 復習：テキスト第6回の内容まとめておく。	60
第7回 /	乳児の生活の基本-食事・睡眠・排泄・着脱・清潔-	講義 グループワーク、発表、視聴覚教材	予習：テキスト第7回の内容を読んでおく。 復習：テキスト第7回の内容まとめておく。	60
第8回 /	乳児の遊び-0・1・2歳児の遊び-	講義 グループワーク、発表	予習：テキスト第8回の内容を読んでおく。 復習：テキスト第8回の内容まとめておく。	60
第9回 /	乳児保育の環境構成-0歳児クラス的环境構成・1歳児クラス的环境構成・2歳児歳児クラス的环境構成-	講義 グループワーク、発表、トライシート	予習：テキスト第9回の内容を読んでおく。 復習：テキスト第9回の内容まとめておく。	60
第10回 /	乳児保育における全体的な計画-計画の必要性・全体的な計画に基づいた指導計画の作成・省察・評価-	講義 グループワーク、発表、指導案作成	予習：テキスト第10回の内容を読んでおく。 復習：テキスト第10回の内容まとめておく。	60
第11回 /	乳児保育における子育て支援-子育て支援の実際-	講義 グループワーク、発表、実際の親子とZoomで繋ぐ	予習：テキスト第11回の内容を読んでおく。 復習：テキスト第11回の内容まとめておく。	60
第12回 /	乳児保育における連携-職員間の連携・家庭との連携・地域との連携-	講義 グループワーク、発表	予習：テキスト第12回の内容を読んでおく。 復習：テキスト第12回の内容まとめておく。	60
第13回 /	一人一人を健やかにはぐくんでいくために-乳児保育における保育者の専門性・乳児保育に携わる保育者の資質向上に向けて-	講義 グループワーク	予習：テキスト第13回の内容を読んでおく。 復習：テキスト第13回の内容まとめておく。	60
第14回 /	総括(1)-今までの学びを振り返る-	講義 グループワーク	復習：テキストの全章読み返しておく 予習：テストに向けた学修をする。	60
第15回 /	総括(2)-今までの学びを振り返る-	講義 グループワーク	復習：今までの学びを振り返る。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	乳児保育演習 Infant Care and Education Exercise	1単位	選 択	演 習	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>1. 乳児保育で学んだ内容を踏まえ、0・1・2歳児の基本的な生活習慣における援助について理解し、環境構成や配慮の実際について学修する。</p> <p>2. 乳児保育演習の実践演習として、乳児の玩具づくり・乳児の抱っこの仕方・着脱・オムツ替え・沐浴・乳児の部分指導計画の作成・模擬保育などに取り組み、乳児の生活の具体的な援助方法について講義で得た知識を基に体験を通して理解を深める。</p>
--------	---

キーワード	乳児保育の実際（乳児期の発達と保育者の援助・乳児の基本的な生活の援助方法）	学修教育目標	<p>1. 0.1.2歳児の発達と発育・保育内容における具体的な援助について理解することができる。</p> <p>2. 手作り玩具づくりを通して0.1.2歳児の遊びについて理解することができる。</p> <p>3. 乳児保育における保育者の援助の仕方について、オムツ替え・着脱・沐浴の演習などを通して理解することができる。</p> <p>4. 乳児保育における計画の実際および環境構成や保育者の援助、安全対策について、指導案作成・模擬保育を通して理解を深めることができる。</p>
-------	---------------------------------------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<ul style="list-style-type: none"> 指導案作成方法や乳児保育の環境構成、保育者の具体的な援助の仕方について講義および体験的な演習を通して学修する。 【オムツ替え・着脱・沐浴の演習・計画の実際および環境構成や保育者の援助、安全対策・指導案作成・模擬保育】 受講生の方がイメージしやすいように、具体的な事例を通じて乳幼児保育の実践を学修する。 実際の乳児や保育者の実際を知る機会として、子育て支援センターや保育所、認定こども園などでのボランティアを推奨する。 新聞などで現代の乳児保育の課題などについて関心を持つ。 <p>※本授業における「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭にいた保育を指す。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<ul style="list-style-type: none"> 「乳児保育」で習ったことを復習しておく。 演習時には動きやすい服装で参加するなど保育者を目指す学生として準備物などは自身で主体的に考えるようにする。 保育実習を意識し、地域の子育て支援の場や保育所、認定こども園でボランティアをして乳児や親子触れ合う機会を持つこと推奨する。
--

教 科 書	参考書・リザーブドブック
<p>書 名：演習で学ぶ乳児保育</p> <p>著者名：善本眞弓編著</p> <p>出版社：わかば社</p> <p>・必要に応じて資料等を配布する。</p>	<p>書 名：保育所保育指針解説 平成30年3月</p> <p>著者名：厚生労働省編</p> <p>出版社：フレーベル館</p> <p>書 名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成30年3月</p> <p>著者名：内閣府 文部科学省 厚生労働省編</p> <p>出版社：フレーベル館</p>

No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	保育者に求められる乳児に関する知識について理解する。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	乳児保育演習における実践演習として、乳児の抱っこの仕方・着脱・オムツ替え・沐浴に取り組み、乳児の生活の援助方法について体験を通して理解を深める。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	0・1・2歳児の発達と生活の援助について理解する。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	乳児の手づくり玩具づくりに取り組む。	◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	保育者を意識し、乳児の安全への配慮と適切な関わり合いについて基本的姿勢を身に付ける。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	教育現場を意識し、指導案作成や模擬保育に取り組む。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	これまでに学修してきた保育の知識や実技などを生かし、自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	自らが設定した目標が達成できるよう努力する。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	指導案作成に取り組むことができる。	◎
	③ 創造力	乳児の手づくり玩具について考えることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を具体的に分かりやすく伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手の意見を最後までしっかり聞くことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	自身の役割を把握し、行動することができる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	乳児の最善の利益について理解できる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			30	20			100
評価 の 指標	知識に関する評価		30			10	5			45
	技能に関する評価		10			10	10			30
	応用力に関する評価		10			5	5			20
	チームワークに関する評価									0
	関心・意欲に関する評価					5				5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
乳児期の発達と乳児保育の目的、内容、方法を理解し、保育実践することができる。 乳児期の保育の特性を理解し、必要な環境構成や援助ができる力を身につけることができる。					乳児期の発達と乳児保育の目的、内容、方法が理解できる。 乳児期の保育の特性、必要な環境構成や援助について理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	オリエンテーション (講義内容の説明、進め方、成績評価の説明等) 乳児保育の意義-子どもの自己の育ちと主体性を保障する保育- 実践演習	講義、グループトーク、発表、演習	予習：シラバスを事前に読んでおく。 テキスト第1回を読んでおく。 復習：授業で学んだ乳児保育の意義について自分自身で振り返りまとめておく。	60
第2回 ／	0歳～3歳までの発育・発達-各年齢の発達の理解と保育者の援助- 実践演習	講義、グループトーク、発表、演習	予習：テキスト第2回を読んでおく。 復習：授業で学んだ各年齢の発達の理解と保育者の援助について自分自身で振り返りまとめておく。	60
第3回 ／	食事の援助と環境-調乳・授乳・離乳食・子どもの発達に合わせた食事の援助- 実践演習	講義、グループトーク、発表、演習	予習：テキスト第3回を読んでおく。 復習：授業で学んだ食事の援助と環境について自分自身で振り返りまとめておく。	60
第4回 ／	排泄の援助と環境-オムツ交換・オムツからパンツへ・トイレでの排泄- 実践演習	講義、グループトーク、発表、演習	予習：テキスト第4回を読んでおく。 復習：授業で学んだ排泄の援助と環境について自分自身で振り返りまとめておく。	60
第5回 ／	睡眠・休息の援助と環境-睡眠時の保育・個別の配慮・睡眠の環境- 実践演習	講義、グループトーク、発表、演習	予習：テキスト第5回を読んでおく。 復習：授業で学んだ睡眠・休息の援助と環境について自分自身で振り返りまとめておく。	60
第6回 ／	着脱に関する援助と環境-着脱の基本と発達に応じた衣類の種類・着脱の環境・着脱に関する保護者との連携- 実践演習	講義、グループトーク、発表、演習	予習：テキスト第6回を読んでおく。 復習：授業で学んだ着脱に関する援助と環境について自分自身で振り返りまとめておく。	60
第7回 ／	清潔に関する援助と環境-沐浴・清拭・手洗い・鼻をかむ、歯みがき- 実践演習	講義、グループトーク、発表、演習	予習：テキスト第7回を読んでおく。 復習：授業で学んだ清潔に関する援助と環境について自分自身で振り返りまとめておく。	60
第8回 ／	乳児保育における健康と安全-事故防止・アレルギー・虐待・防災- 実践演習	講義、グループトーク、発表、演習	予習：テキスト第8回を読んでおく。 復習：授業で学んだ乳児保育における健康と安全について自分自身で振り返りまとめておく。	60
第9回 ／	0歳児の保育内容と遊び-0歳児保育の基本的事項・ねらいと内容- 実践演習	講義、グループトーク、発表、演習	予習：テキスト第9回を読んでおく。 復習：授業で学んだ0歳児の保育内容と遊びについて自分自身で振り返りまとめておく。	60
第10回 ／	1歳以上3歳児未満児の保育内容-1歳児以上3歳未満児の基本的事項・ねらい・内容- 実践演習	講義、グループトーク、発表、演習	予習：テキスト第10回を読んでおく。 復習：授業で学んだ1歳以上3歳児未満児の保育内容について自分自身で振り返りまとめておく。	60
第11回 ／	1歳以上3歳児未満児の遊び-1歳児の遊び・2歳児の遊び 実践演習	講義、グループトーク、発表、演習	予習：テキスト第11回を読んでおく。 復習：授業で学んだ1歳以上3歳児未満児の遊びについて自分自身で振り返りまとめておく。	60
第12回 ／	乳児保育における計画と評価-全体的な計画・長期の計画・短期の計画- 実践演習	講義、グループトーク、発表、演習	予習：テキスト第12回を読んでおく。 復習：授業で学んだ乳児保育における計画と評価について自分自身で振り返りまとめておく。	60
第13回 ／	乳児保育を支える連携-職員間の連携・家庭との連携・地域との連携- 実践演習	講義、グループトーク、発表、演習	予習：テキスト第13回を読んでおく。 復習：授業で学んだ各年齢の発達の理解と保育者の援助について自分自身で振り返りまとめておく。	60
第14回 ／	総括(1)-乳児保育演習の実践演習で学んだことを振り返る- 実践演習	まとめ	予習：今まで習ったテキスト(演習)を読んでおく。 復習：乳児保育の実践演習で学んだことについて自分自身で振り返りまとめておく。	60
第15回 ／	総括(2)-乳児保育演習の講義で学んだことを振り返る- 実践演習	まとめ	予習：今まで習ったテキスト(講義)を読んでおく。 復習：乳児保育演習の講義で学んだことについて自分自身で振り返りまとめておく。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	障がい児保育 Handicapped-child Childcare	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	障がい児保育を支える理念についての理解を深め、併せて障がい児保育の歴史と現状、今後の課題について学修する。					
----------------------------	---	--	--	--	--	--

キ ー ワ ー ド	障がい児保育の歴史 障がい児保育の理念 障がいの理解 援助の方法	学 修 教 育 目 標	障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの個別的な保育上の配慮・具体的な状況における保育方法について理解し、相談機関等の種類と内容を理解することを目指す。			
-----------------------	---	----------------------------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>授業では様々な事例を紹介し、障がい児保育の状況や保護者への援助ありかたについて学修する。 障がい児保育の歴史、理念を学び、その学びを基礎として障がいの特徴を理解する。次に、個別にどのような援助が必要であるのかを考察する。その際、事例を交えて考察をしていくので、求められた時には積極的に意見を発表すること。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「障がい児保育Ⅱ」の、基礎となる科目である。なぜ、障がい児保育の歴史や理念を学び、実践へとつなげる必要があるのかを理解したうえで、個別への配慮や今後の課題を学修すること。						
---	--	--	--	--	--	--

教 科 書	参考書・リザーブブック
書 名：ライフステージを見通した 障がい児保育と特別支援教育 著者名：小林徹・栗山信夫 編 出版社：(株) みらい	授業時にて適宜紹介する。

No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1)	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	障がい児保育の歴史や理念を理解し、個別への援助の方法を考える。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標 (※2)	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	支持を待つのではなく、自発的に物事に取り組む。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を分析し、目的や課題を明らかにする。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	相手の意見に丁寧に耳を傾ける謙虚な姿勢を持つ。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守る。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	保育者としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のために生かそうとする。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		50					100
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの個別的な保育上の配慮・具体的な状況における保育方法について理解し、相談機関等の種類と内容を理解することを目指す。					障がい児保育の歴史や理念を理解し、今後の課題について学修する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション (講義内容の説明、進め方、成績評価の説明等) ・障がい児保育について	講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第2回 /	障がい児保育の歴史	接講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第3回 /	障がいの発生 ・障がい児保育の理念	講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第4回 /	障がいの理解と援助 ・視覚障害	講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第5回 /	障がいの理解と援助 ・聴覚障害	講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第6回 /	障がいの理解と援助 ・知的発達遅滞	講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第7回 /	障がいの理解と援助 ・肢体不自由・運動障害	講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第8回 /	障がいの理解と援助 ・軽度発達障害（1）	講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第9回 /	障がいの理解と援助 ・軽度発達障害（2）	講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第10回 /	障がいの理解と援助 ・クラスの中の「気になる子」	講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第11回 /	保育計画における支援と援助（1） ・障害のある子どもに学ぶ保育実践	講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第12回 /	保育計画における支援と援助（2） ・障害のある子どものケース会議	講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第13回 /	保育所・幼稚園と専門機関との連携	講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第14回 /	家庭・地域との連携と援助	講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価、			
第15回 /	保育所・幼稚園と小学校との連携	講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	障がい児保育演習Ⅰ Handicapped-Child Childcare Exercise Ⅰ	1単位	選 択	演 習	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	障がい児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障がいのある子ども及びその保育について理解する。また、個々の子どもの特性や心身の発達に応じた援助や配慮について理解するとともに、特別な配慮を要する子どもへの理解と援助を学び、子どもの保育における計画の作成や実際の援助の具体的な方法について学修する。					
	キーワード 障がい児保育 障害福祉・援助法・実践	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 ・ 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 ・ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 ・ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 ・ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。 ・ 子ども理解とその子どもの生活環境をしっかり把握した視点を持ち、適切な関わりや対応策を考察する力を養う。 			

授業科目の概要及び学修上の助言

<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障がいのある子ども及びその保育について理解する。また、個々の子どもの特性や心身の発達に応じた援助や配慮について理解するとともに、特別な配慮を要する子どもへの理解と援助を学び、子どもの保育における計画の作成や実際の援助の具体的な方法について学修する。 ・ 乳幼児をめぐる様々な問題の理解と対応の基礎的知見を提供する。 ・ 臨床的諸問題の解決への糸口として、支援学校や支援学級、保育所等での体験学習を交え、討議を活発化し方策の選択の幅を広げ、授業の展開を構築する。 ・ 事例の紹介をして、その対応を様々な視点から考える。 ・ 客観的な現状把握、プロセスを踏まえ、それぞれの事象に合った対応策を討議し、多くの視点を身につける。 ・ 授業では、ワークシートと個々にポートフォリオを作成し授業の振り返りとまとめとする。 						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>保育実習や教育実習での実体験を基に、配慮を要する子どもを視点にプレゼンテーションや討議を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所（園）、幼稚園施設などへのボランティアやインターンシップ活動には積極的に参加を促し、現地レポーターとして授業等で発表する。 ・ 授業のたびに課題レポートを提出する。事前学習・ふり返りを重視する。 ・ 毎回の授業での配布物は、ファイリング保存しポートフォリオとして障がい児保育演習Ⅱ等の関連科目に活用する。毎回の受講時には、「iPad」を持参する。 						
---	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
<p>書名：実践事例に基づく障害児保育ちょっと気になる子へのかかわり</p> <p>著者名：七木田教</p> <p>出版社：保育出版社</p> <p>書名：障害児保育演習ブック</p> <p>著者名：増南太志 編著</p> <p>出版社：ミネルヴァ書房</p>	<p>書名：〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント</p> <p>著者名：汐見稔幸 監修 無藤隆 監修 ミネルヴァ書房編集部 編</p> <p>出版社：ミネルヴァ書房</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	保育者に求められる知識や技能について、ねらいや内容等を理解する。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	心身の障害とその理解。	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	障がい児保育の実際と対応策・課題について理解する。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	これまでに学修してきた知識や実技などを生かし、自発的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状認識と課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求める。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を具体的に分かりやすく伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手の意見を最後までしっかり聞くことができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		23	25		7		100
評価 の 指標	知識に関する評価		22		9	8		5		44
	技能に関する評価		12		4	8		2		26
	応用力に関する評価		8		6	3				17
	チームワークに関する評価					3				3
	関心・意欲に関する評価		3		4	3				10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子ども理解とその子どもの生活環境をしっかり把握した視点を持ち、適切な関わりや対応策を考察することができる。					障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題について理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / /	オリエンテーション (講義内容の説明、進め方、成績評価の説明等) 障がいについての基本的な考え方 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ	事前にシラバスを読んでおく。 授業時に適時指示した課題（以下、毎回、時間共に同じ）	60
第2回 / /	障がいの理解（概念と歴史の変遷・ノーマライゼーション） ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第3回 / /	障害児保育の基本 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第4回 / /	障がい児の発達と援助 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第5回 / /	肢体不自由児の理解と援助 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第6回 / /	知的障害児の理解と援助 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第7回 / /	視覚障害・聴覚障害・言語障害児等の理解と援助 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第8回 / /	発達障害児の理解と援助①（ADHD－注意欠陥多動性障害、LD－学習障害等） ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第9回 / /	発達障害児の理解と援助②（PDD－広汎性発達障害等） ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第10回 / /	重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第11回 / /	その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第12回 / /	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第13回 / /	指導計画及び個別の支援計画の作成① ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第14回 / /	個々の発達を促す生活や遊びの環境 保育園等の施設の見学 ワークシート・課題レポート・実践演習	グループトーク、発表、まとめ		
第15回 / /	小学校等の連携、就学に向けて ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	障がい児保育演習Ⅱ Handicapped-child Childcare Exercise II	1単位	選 択	演 習	4年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や自治体・関係機関との連携・協働について理解し、その方法を学修する。また、障がい児その他の特別な支援を要する子どもの保育に関わる保健・医療・福祉・教育における現状と課題を理解する。					
キーワード	障害児保育 障害福祉・生活環境・実践的援助法	学修教育目標	子どもとその生活環境を理解する視点から適切な関わりや援助法を説明し実践できる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児をめぐる様々な問題の理解と対応の基礎的知見を提供する。 ・臨床的諸問題の解決への糸口として、支援学校や支援学級、保育所等での体験学習を交え、討議を活発化し、方策の選択の幅を広げる。 ・事例の紹介をして、その対応を様々な視点から考える。 ・客観的な現状把握、プロセスを踏まえ、それぞれの事象に合った対応策を討議し、授業の展開を構築し多くの視点を身につける。 ・授業では、ワークシートと個々にポートフォリオを作成し授業のまとめとする。 						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習や教育実習での実体験を基に、配慮を要する子どもを視点にしたプレゼンテーションや討議を実施する。 ・保育所（園）、幼稚園施設などへのボランティアやインターンシップ活動には積極的に参加を促し、現地レポーターとして授業等で発表する。 ・毎回、授業のたびに課題レポートを提出する。 ・事前学習・ふり返りを重視する。 ・毎回の授業での配布物は、ファイリング保存しポートフォリオを関連科目にも活用する。毎回の受講時には、「iPad」を持参する。 						
教 科 書				参考書・リザーブブック		
書 名：実践事例に基づく障害児保育ちょっと気になる子へのかかわり 著者名：七木田敦 出版社：保育出版社 書 名：障害児保育演習ブック 著者名：増南太志編著 出版社：ミネルヴァ書房				書 名：〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント 著者名：汐見稔幸 監修 無藤隆 監修 ミネルヴァ書房編集部 編 出版社：ミネルヴァ書房		
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	保育者に求められる知識や技能について、ねらいや内容等を理解する。				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	障がいの概念や障害福祉の理念を踏まえた援助法を理解する。				◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	保育者として臨床的諸問題の対応策や援助法を理解する。				◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	これまでに学修してきた知識や実技などを生かし、自発的に取り組むことができる。				○
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状認識と課題を明らかなるために、他者の意見を積極的に求める。				○
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を具体的に分かりやすく伝えることができる。				◎
	② 傾聴力	相手の意見を最後までしっかり聞くことができる。				○
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		23	25		7		100
評価 の 指標	知識に関する評価		22		9	8		5		44
	技能に関する評価		12		4	8		2		26
	応用力に関する評価		8		6	3				17
	チームワークに関する評価					3				3
	関心・意欲に関する評価		3		4	3				10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
障害のある子どもに対して、保育者として適切な関わりや援助法について理解し考察することができる。					障害のある子どもに対して、様々な援助法があることを知る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション（講義内容の説明、進め方、成績評価の説明等） 障がいについての基本的な考え方 障害のある子どもの地域社会への参加・包容（インクルーシブ保育） ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ	事前にシラバスを読んでおく。 授業時に適時指示した課題（以下、毎回、時間共に同じ）	60
第2回 /	個々の発達を促す生活や遊びの環境 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第3回 /	子ども同士の関わりと育ち合い ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第4回 /	障害児保育における子どもの健康と安全 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第5回 /	職員間の連携・協働 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第6回 /	家庭及び自治体・関係機関との連携 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第7回 /	保護者や家族に対する理解と支援 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第8回 /	保護者間の交流や支え合いの意義とその支援 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第9回 /	障害児支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関（保育所、児童発達支援センター等）の連携・協働 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第10回 /	障害児、その他の特別な配慮を要する子どもの現状と課題 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第11回 /	障害児、その他の特別な配慮を要する子どもの現状と課題（事例演習1） ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第12回 /	障害児、その他の特別な配慮を要する子どもの現状と課題（事例演習2） ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第13回 /	保健・医療・福祉・教育における現状と課題 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第14回 /	支援の場の広がりとなつながら （保育園、障がい者施設等の見学） ワークシート・課題レポート・実践演習	グループトーク、発表、まとめ		
第15回 /	小学校等との連携 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	保育内容総論 General Remarks to Contents of Nursing	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	幼稚園、保育所の役割・機能を知り、乳幼児の豊かな発育・発達を保障していく際に必要な事項について学修する。					
----------------------------	--	--	--	--	--	--

キ ー ワ ー ド	幼稚園・保育所の役割 幼稚園・保育所の機能 発達保障 保育ニーズ	学 修 教 育 目 標	幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、5つの領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）のねらい及び内容の概要と各専門領域と関連性、幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学び等を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画、実行できる。			
-----------------------	---	----------------------------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

幼稚園・保育所の役割・機能を学ぶ中で、現代の保育ニーズを理解する。 現代の保育ニーズは、今日の社会のどのような変化からもたらされているものなかを理解するため、ニュースや新聞などにも目を通して考えるようにすること。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

保育内容総論（演習）の基礎となる学びであることを理解し、社会事象に興味を持ち、わからないことは自ら調べるようにすること。						
--	--	--	--	--	--	--

教 科 書	参考書・リザーブブック
書 名：演習 保育内容総論 保育の総合性を読み解く 著者名：神田伸生 高橋貴志 出版社：萌文書林	『幼稚園教育要領（最新版）』文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）』内閣府 『小学校学習指導要領（最新版）』文部科学省 『生徒指導提要（最新版）』文部科学省

No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	保育思想の歴史的変遷をたどり、今日的意義を理解する。 現代の保育ニーズの多様性を理解する。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	保育士としての責任、関わりの具体についてイメージができること	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	子どもを取り巻く環境についての課題を理解し自らの取り組むべきことをイメージできること	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	保育に関連する内容について、積極的に情報収集しようとする。	△
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	保育内容について分析、理解する。	◎
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにするため努力する。	△
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	相手の意見や立場を理解し、尊重することができる。	○
	④ 状況把握力	保育者の役割を理解し、状況に応じた保育内容を考えようとする。	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	保育者としての資質を身に付ける。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		20					70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				20					20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				10					10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
保育思想の歴史の変遷をたどり、今日的意義を理解したうえで、現代の保育ニーズの多様性を理解する。					保育思想の歴史の変遷をたどり、今日的意義を理解し、現代の保育ニーズの多様性を知る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション ー保育者の役割	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第2回 /	幼稚園教育及び保育の基本とねらい、全体構造① 総論	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第3回 /	幼稚園教育及び保育の基本とねらい、全体構造② 健康	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第4回 /	幼稚園教育及び保育の基本とねらい、全体構造③ 人間関係	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第5回 /	幼稚園教育及び保育の基本とねらい、全体構造④ 環境	講義	指導案作成練習① 3歳児	60
	確認課題、授業参加状況による意欲の評価			
第6回 /	幼稚園教育及び保育の基本とねらい、全体構造④ 音楽	講義	指導案作成練習② 4歳児	60
	確認課題、授業参加状況による意欲の評価			
第7回 /	幼稚園教育及び保育の基本とねらい、全体構造⑤ 表現	講義	指導案作成練習③ 5歳児	60
	確認課題、授業参加状況による意欲の評価			
第8回 /	指導案の作成	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第9回 /	幼児理解と評価の基本	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第10回 /	適切な幼児理解と評価	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第11回 /	教材や情報機器の研究及び有効的な活用とその実践事例	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第12回 /	幼児理解と評価の実際 ー模擬保育実践事例を通しての理解ー	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第13回 /	小学校との連携 ー幼稚園幼児指導要録に基づくー	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第14回 /	小学校の評価の考え方と連携性について	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価 確認課題による知識・応用力の評価および授業参加状況による意欲の評価			
第15回 /	まとめ ー全体の確認と振り返りー	講義	教科書指定箇所の予習、復習	50

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	保育内容総論（演習） General Remarks to Contents of Nursing Exercise	1単位	選 択	演 習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	保育の全体構造を知ることを通じて、保育の基本的考えを学ぶ。					
--------	-------------------------------	--	--	--	--	--

キーワード	子どもの特性 保育の5領域 総合的な指導 保育内容	学修教育目標	子どもの発達や生活を取り巻く社会的な背景及び保育の内容の歴史の変遷をたどることを通じ、子どもの実態から必要な保育内容や手だてを構想できることを目指す。 幼稚園・保育所等での実習を念頭に、保育指導計画の立案・作成をも行い、保育計画の必要性を再認識させる。			
-------	------------------------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

保育内容を総合的にとらえる視点を持つことを目標とする。遊び、生活、環境、行事等、さまざまな視点が必要となることを理解し、指導案を書けるようにすること。わからないことは積極的に質問し、保育内容の構想ができるようにすること。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「保育原理Ⅰ」「保育原理Ⅱ」「保育内容総論」から理解を深め、保育の構想に至ることを目的とするため、総合的に物事を捉える基礎を身に付ける意義を理解し学修すること。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
書名：演習 保育内容総論 著者名：酒井幸子ら編 出版社：萌文書林			なし			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	積極的に授業に参加をし、図書館等に行き、資料の収集ができる。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	今できることに加えて、新しく知識や技能を身につけ、実演ができる。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	他の講義との兼ね合いも踏まえながら、発達に応じたあそびのイメージができる。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	発達に応じた保育内容を考え実践できるイメージをもつことができる	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	保育者としての倫理観や守秘義務について理解することができる。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	保育の5領域を理解し、保育を構想する力を身につけることを目的とする。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	主体的に演習に参加しようとする。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	演習を通じて保育内容の理解を深める。	○
	② 計画力	子どもを総合的に理解し、保育内容を計画する。	△
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	他人とよりよいものを作り出せるように 考えあうことができる	◎
	② 傾聴力	他人の意見に丁寧に耳を傾ける。	○
	③ 柔軟性	相手の立場や意見を尊重し、アドバイスを受け入れようとする。	△
	④ 状況把握力	他人と協力して演習を進める中で、保育者の役割を理解する。	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	保育者としての資質を身に付ける。	△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		15	20	10		10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30		5					35
	技能に関する評価					5	5			10
	応用力に関する評価		15		10	5	5			35
	チームワークに関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価					5			10	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
保育の5領域を深く理解し、保育指導案を立てる。					保育の5領域を理解し、保育を構想する力を身につける。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス 子どもとは	内容を解説した後、グループディスカッションを行う	学修内容を小レポートにまとめる	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第2回 /	保育所保育指針 幼稚園教育要領について	講義	学修内容を小レポートにまとめる	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第3回 /	こどもと保育内容①	内容を解説した後、グループディスカッションを行う	学修内容を小レポートにまとめる	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第4回 /	こどもと保育内容①	内容を解説した後、グループディスカッションを行う	学修内容を小レポートにまとめる	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第5回 /	環境とかかわる遊び	内容を解説	学修内容を小レポートにまとめる	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第6回 /	環境とかかわる遊び	屋外	学修内容を小レポートにまとめる	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第7回 /	環境とかかわる遊びと生活	屋外	学修内容を小レポートにまとめる	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第8回 /	環境とかかわる遊びと生活	屋外	学修内容を小レポートにまとめる	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第9回 /	子どもとあそび①	内容を解説した後、屋外	学修内容を小レポートにまとめる	45
	知識・応用力の評価および授業参加状況による意欲の評価			
第10回 /	子どもとあそび② 折り紙の指導	内容を解説した後、指導案を考える	学修内容を小レポートにまとめる	45
	授業参加状況による意欲の評価			
第11回 /	小学校との連携	内容を解説	指導案を完成させる	45
	オンデマンドを通じた課題			
第12回 /	地域をテーマとする保育内容	内容を解説	指導案を完成させる	45
	オンデマンドを通じた課題作成			
第13回 /	様々な子育て支援	内容を解説	学修内容を小レポートにまとめる	30
	オンデマンドを通じた課題作成			
第14回 /	特別な配慮を必要とする子どもの保育 保育者の専門性	内容を解説	学修内容を小レポートにまとめる	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第15回 /	まとめ	グループディスカッションを行う	学修内容を小レポートにまとめる	50
	まとめと振り返りの中で自分の課題を見つける			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	幼児理解の理論と方法 Understanding of Theories and Methods of Infant	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	発達心理学、幼児心理学における諸研究の方法と成果を踏まえ、幼児期の心理的側面の発達を中心に知識と理解を深める。 幼児の身体、認知、社会性といった領域で、幼児期においてどのような変化があり、それがどのような方法で研究されているかを、できるだけ多くの実証的研究を踏まえて学修する。					
	キーワード	発達心理学 幼児心理学 実証的研究	学修教育目標	(1) 幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度が理解できる。 (2) 幼児理解の方法を具体的に理解できる。		

授業科目の概要及び学修上の助言

幼児の身体、認知、社会性といった領域で、幼児期においてどのような変化があるのかを理解することと、理解の方法を実証的研究を踏まえ学修するので、求められた時には、積極的に発言すること。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「乳児保育」「保育内容（人間関係）」等、乳幼児の発達を理解する科目と関連するので、乳幼児の発達の基礎を理解しておくこと。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

書名：幼児理解の理論と方法【乳幼児教育・保育シリーズ】 著者名：神長美津子他 共著 出版社：光生館			授業内で適宜指示する。			
---	--	--	-------------	--	--	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。					
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	乳幼児の身体、認知、社会性の発達の変化を理解する。				◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。					

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）			
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	物事に進んで取り組もうとする。			△
	② 働きかけ力	自分だけでなく周りの他者に働きかけ、課題に取り組もうとする。			◎
	③ 実行力				
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状の課題に気づき、問題を明らかにし、解決する方法を考える。			○
	② 計画力				
	③ 創造力				
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力				
	② 傾聴力				
	③ 柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する。			△
	④ 状況把握力	自分の置かれている位置を理解し、行動しようとする。			◎
	⑤ 規律性				
	⑥ ストレスコントロール力				
4. 倫理観	① 倫理性	保育者としての自覚を持ち、他人のために行動できる。			○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		50					100
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>幼児理解の方法を具体的に理解し、実践事例の中で自らが保育者・教育者としてどのように関わるかをイメージできる。</p>					<p>幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度が理解できる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	幼児理解の意義と理論（1） －幼稚園教育、保育と幼児理解	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評			
第2回 /	幼児理解の意義と理論（2） －「理解する」とは	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第3回 /	幼児理解の意義と理論（3） －幼児の発達や学びの理解－理論と方法	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第4回 /	幼児理解の意義と理論（4） －遊びと幼児理解	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第5回 /	幼児理解の意義と理論（5） －幼児理解を深める保育者の基本的な姿勢	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第6回 /	幼児理解の意義と理論（6） －保幼小をつなぐ理解－幼児理解と児童理解	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第7回 /	幼児理解の方法（1） －幼児理解の目的と方法	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第8回 /	幼児理解の方法（2） －保育の実践のための記録	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第9回 /	幼児理解の方法（3） －クラス集団の理解と指導	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第10回 /	幼児理解の方法（4） －保育者の自己理解と保育の改善	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第11回 /	幼児理解の方法（5） －幼児のつまずきの理解とその対応	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第12回 /	幼児理解の方法（6） －保護者との連携と理解	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第13回 /	幼児理解の方法（7） －保幼小をつなぐ理解－幼児理解と児童理解	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第14回 /	事例を通して幼児理解とその対応を学ぶ(1)	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第15回 /	事例を通して幼児理解とその対応を学ぶ(2)	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	子ども家庭支援論 Family Support Theory	2単位	必修	講義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	子ども家庭支援の必要性について知り、その目的・意義ならびに支援の実施体制について学修する。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	子ども家庭支援の意義・目的 保育者の専門性 地域の社会資源	学修教育目標	1. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解すること、2. 子ども家庭支援にかかわる保育士に求められる基本的態度について理解すること、3. 子育て家庭に対する支援体制と、多様な支援の展開と関係機関との連携について理解することを目指す。			
-------	-------------------------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>まず子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解したうえで、子ども家庭支援にかかわる保育士の専門性について理解する。その上で子育て家庭が抱えているニーズを理解し、多様な支援のあり方について学ぶ。またそれを解決するための多種多様な社会資源について知り、社会資源マップを作成して、保育所、幼稚園、学校等に就職後、必要に応じて適切に活用できることを目的とする。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「子ども家庭福祉」の学修内容を発展させ、本科目で子ども家庭支援に関する理論的学修を行い、さらに「子育て支援演習」等の実践的な学びにつなげていく。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
書名：子ども家庭支援論 保育の専門性を子育て家庭の支援に生かす 著者名：守 巧 出版社：萌文書林			なし			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	家庭の意義とその機能について理解する。 子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	子育て家庭の支援体制について理解する。 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる。	○
	③ 実行力	強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	成果のイメージを明確にして、その実現のために現段階でなすべきことを的確に把握できる。	○
	② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。	○
	③ 創造力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	事例や客観的なデータ等を用いて、具体的にわかりやすく伝えることができる。	○
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		45					95
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5					5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>子育て家庭に対する支援の意義・目的を十分に理解する。 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について十分に理解する。 子育て家庭に対する支援の体制について理解し、活用することができる。 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解し、取り組むことができる。</p>					<p>子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	子ども家庭支援の意義と必要性	講義	(予習として) テキスト第1章を読み、内容を理解しておく。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第2回 /	子ども家庭支援の目的と機能	講義	(予習として) テキスト第2章を読み、内容を理解しておく。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第3回 /	家庭の状況に応じた支援 1	講義	(予習として) テキスト第7章を読み、内容を理解しておく。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第4回 /	家庭の状況に応じた支援 2	講義	(予習として) テキスト第7章を読み、内容を理解しておく。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第5回 /	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	講義	(予習として) テキスト第5章1を読み、内容を理解しておく。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第6回 /	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	講義	(予習として) テキスト第10章を読み、内容を理解しておく。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第7回 /	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	講義	(予習として) テキスト第9章を読み、内容を理解しておく。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第8回 /	援助者に求められる基本的態度	講義	(予習として) テキスト第6章を読み、内容を理解しておく。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第9回 /	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 1. 援助関係	講義	(予習として) テキスト第6章を読み、内容を理解しておく。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第10回 /	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 2. 相談援助の原則	講義	(予習として) テキスト第6章を読み、内容を理解しておく。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第11回 /	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解	講義	(予習として) テキスト第11章を読み、内容を理解しておく。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第12回 /	子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供	講義	(予習として) テキスト第13章を読み、内容を理解しておく。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第13回 /	子ども及び保護者の状況・状態の把握	講義	(予習として) テキスト第14章を読み、内容を理解しておく。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第14回 /	支援の計画と環境の構成、支援の実践・記録・評価、カンファレンス	講義	(予習として) テキスト第8章を読み、内容を理解しておく。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第15回 /	職員間の連携・協働	講義	(予習として) テキスト第8章を読み、内容を理解しておく。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	子育て支援演習 Childcare Consultation Exercise	1単位	選 択	演 習	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	保育士の行う子育て支援の特性、展開ならびに支援の実際について学修する。					
	キーワード	子育て支援 相談援助	学修教育目標	1. 子どもの保育を通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成など、保育の専門性を活かした子育て支援の特性について理解する。2. 支援計画の策定や支援の実践など、保育士の行う子育て支援の展開を理解する。3. 保育士の行う子育て支援とその実際について、様々な場や対象に関する実践事例を通して具体的に理解し、実践する能力を修得する。		

授業科目の概要及び学修上の助言

「子ども家庭福祉論」「子ども家庭支援論」で学修した相談援助に関する知識を基盤とし、ロールプレイや事例検討などの演習を実施し、実際の子育て支援場面で活用できる援助技術を身につける。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「子ども家庭福祉論」ならびに「子ども家庭支援論」で学修した子ども家庭支援に関する知識を基盤とし、本科目で演習を積み、実際に活用できる技術を習得する。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：子育て支援「子どもが育つ」をともに支える 著者名：原信夫 松倉佳子 佐藤ちひろ 出版社：北樹出版	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	子育て支援の意義と原則について理解する。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	子育て支援の基本を理解する。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	子育て支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 児童福祉施設ならびに地域における保護者支援の実際について理解する。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分の強み・弱みを把握し、困難なことでも自信を持って取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる。	◎
	③ 実行力	失敗を怖れずに、とにかくやってみようとする果敢さを持って、取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。	○
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる。	○
4. 倫理観	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
	① 倫理性	相手の意思決定や権利を守りながら行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		45					95
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5					5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解し、実践することができる。</p> <p>保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解し、実践することができる。</p>					<p>保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。</p> <p>保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	保育士の専門性を活かした子育て支援1 保育の専門性を活かした子育て支援とその意義	講義・演習	(予習として) テキスト第1章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第2回 /	保育士の専門性を活かした子育て支援2 子どもの保育とともにを行う保護者の支援	講義・演習	(予習として) テキスト第1章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第3回 /	保育士の専門性を活かした子育て支援3 子どもの育ちの喜びの共有	講義・演習	(予習として) 第2回で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第4回 /	保育士の専門性を活かした子育て支援4 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	講義・演習	(予習として) テキスト第3章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第5回 /	保育士の行う子育て支援とその実際1 子育て支援の内容と対象	講義・演習	(予習として) テキスト第2章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第6回 /	保育士の行う子育て支援とその実際2 保育所等における支援	講義・演習	(予習として) テキスト第9章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第7回 /	保育士の行う子育て支援とその実際3 地域の子育て家庭に対する支援	講義・演習	(予習として) テキスト第10章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第8回 /	保育士の行う子育て支援とその実際4 障害のある子ども及びその家庭に対する支援	講義・演習	(予習として) テキスト第11章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第9回 /	保育士の行う子育て支援とその実際5 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援	講義・演習	(予習として) テキスト第12章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第10回 /	保育士の行う子育て支援とその実際6 子ども虐待の予防と対応	講義・演習	(予習として) テキスト第13章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第11回 /	保育士の行う子育て支援とその実際7 要保護児童等の家庭に対する支援	講義・演習	(予習として) テキスト第14章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第12回 /	保育士の行う子育て支援とその実際8 多様なニーズを抱える子育て家庭の理解	講義・演習	(予習として) テキスト第15章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第13回 /	多様な支援の展開と関係機関との連携1 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	講義・演習	(予習として) テキスト第7章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第14回 /	多様な支援の展開と関係機関との連携2 子ども・保護者が多様な他者とかわる機会や場の提供	講義・演習	(予習として) テキスト第4章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第15回 /	自己覚知と他者理解	講義・演習	(予習として) テキスト第5.6章を読み、内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	保育内容（人間関係）の理論と方法 Theory and Method to Contents of Nursing (Human Relationship)	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	子どもの人間関係のひろがり理解し、それぞれの段階における身近な人との関わりの中で、どのように自立心が育ち、人とかかわる力が養われていくのかを学修する。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	人間関係 自立心 指導力	学修教育目標	幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」のねらい及び内容について、幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画、実行できる。			
-------	--------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

保育の5領域の中の「人間関係」とは、何を学ぶのかを深く理解する。乳幼児がかかわる身近な人とはどのような人か、子どもはその人たちから何を学び成長していくのかを学修する。また、自らがかかわってきた人たちが、自分の生き方にどのように影響しているのかを考察する。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「幼児理解の理論と方法」「乳幼児保育」での、発達の理解との関連があるので、乳幼児の発達を理解しておくこと。						
---	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
書名：子どもの姿からはじめる 領域・人間関係 著者名：秋田喜代美 三宅茂夫監 出版社：(株) みらい			授業内に適宜指示する。			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。					
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。					
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	幼児教育・保育の場における諸問題と、その解決のための指導力を身につける。				◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	課題や問題に対して、解決のために積極的に取り組む。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を分析し、目的や問題を明らかにする。	◎
	② 計画力	明らかにされた課題や問題の解決のための指導案を作成する。	△
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	他者との意見の食い違いや、立場の違いを理解する。	△
	④ 状況把握力	課題や問題の起こる状況を把握し、行動する。	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	保育者としての倫理観を身に付ける。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			50				100
評価 の 指標	知識に関する評価		50			50				100
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画して実行できる。</p>					<p>幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」のねらい及び内容について理解する。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	－保育内容（人間関係）とは	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第2回 /	人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」の基本	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第3回 /	人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」のねらい	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第4回 /	人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」の内容	講義・演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第5回 /	乳幼児の「人との関わり」① －乳幼児の発達と人とのかかわり	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第6回 /	乳幼児の「人との関わり」② －人とのかかわりと遊び、遊びの中での人とのかかわり	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第7回 /	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法① －指導案の作成、教材や情報機器の研究及び活用	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第8回 /	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法② －指導上の留意事項	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第9回 /	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法③ －評価と改善	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第10回 /	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法④ －模擬保育実践事例を通しての理解－	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第11回 /	人とのかかわりが難しい子どもへの支援	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	指導案作成による知識・応用力の評価および授業参加状況による意欲の評価			
第12回 /	園、家庭、地域の生活と人とのかかわり	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	指導案作成による知識・応用力の評価および授業参加状況による意欲の評価			
第13回 /	小学校の授業と保育内容（人間関係）の違い	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第14回 /	これからの保育と人との関わりに関する領域 「保育内容(人間関係)」の内容	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第15回 /	人生の基礎を培う乳幼児期の「保育内容(人間関係)」	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	保育内容（人間関係）の理論と方法（演習） Theory and Method to Contents of Care and Education (Human Relationship) (Exercise)	1単位	選 択	演 習	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領を基に、「人間関係の発達」についての理解を深める。					
	キーワード	保育所保育指針 幼稚園教育要領 人間関係 保育者の役割	学修教育目標	幼児教育・保育の場における諸問題と、その解決のための指導力を身に付けることを目指す。		

授業科目の概要及び学修上の助言

授業はグループ活動を基本とし、他者との関わりの中での発見を大切にする。
「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」は、保育・教育の5領域の中の「人間関係」であることを理解すること。そのためにも、「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」の意義や重要性を認識しておくこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「保育内容（人間関係）の理論と方法」で、乳幼児の発達を理解しておくこと。そのうえで、乳幼児の発達を支える保育者の関わりについての考察を行えるようになること。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：知のゆりかご 子どもの姿からはじめる領域・人間関係
著者名：秋田喜代美 三宅茂夫 監修
出版社：(株) みらい

授業中に適宜紹介する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	乳幼児期の自己の発達や他者との関係の発達について理解する。	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	自らも一人の人間として、また、専門職として乳幼児の発達を支える使命感、責任感を持って行動する。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	主体的に演習に参加しようとする。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	演習を通じて、保育内容の理解を深める。	○
	② 計画力	演習を通じて、問題を解決するよう計画を立てる。	△
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく伝える。	△
	② 傾聴力	相手の意見を丁寧に聞く。	○
	③ 柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する。	△
	④ 状況把握力	他人と協力して演習を進める中で、保育者の役割を理解する。	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	保育者としての資質を身に付ける。	△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20	20			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		20					70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価					10			10	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
乳幼児の発達を理解し、そのうえで乳幼児の発達を支える保育者の関わりについての考察を行える。					幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領を基に、「人間関係の発達」について理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	「人間関係」に求められること	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による評価			
第2回 /	領域「人間関係」	義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による評価			
第3回 /	「人間関係」を育む保育	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による評価			
第4回 /	遊びや生活の中での人間関係	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による評価			
第5回 /	トラブルと人間関係	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による評価			
第6回 /	道徳性の芽生え	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による評価			
第7回 /	0・1歳児の世界	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による評価			
第8回 /	2歳児の世界	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による評価			
第9回 /	3歳児の世界	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による評価			
第10回 /	4歳児の世界	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による評価			
第11回 /	5歳児の世界	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による欲の評価			
第12回 /	小学校との連携	講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による欲の評価			
第13回 /	これからの時代を生きる力を育む保育実践（1）	模擬保育発表のための準備	模擬保育の準備	30
	授業参加による意欲の評価			
第14回 /	これからの時代を生きる力を育む保育実践（2）	各グループによる模擬保育発表及び意見交換	模擬保育の準備 各グループの評価、及び自らの反省点のレポート作成	30
	授業参加による意欲の評価			
第15回 /	これからの時代を生きる力を育む保育実践（3）	各グループによる模擬保育発表及び意見交換	各グループの評価、及び自らの反省点のレポート作成	30
	授業参加による欲の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	保育内容（言葉）の理論と方法 Theory and Method to Contents of Nursing (Language)	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	言葉を通じた表現の広がりや深まりを体験し、保育者と子ども相互間の「表現と理解」について再認識する。	
	キーワード	学修教育目標

言葉 表現 言語発達

幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」のねらい及び内容について、幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画、実行できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

乳幼児の言語発達状態を知り、絵本、素話、ストーリーテリング、紙芝居、エプロンシアターの特色を理解し、模擬保育をする。乳幼児期の非言語表現（ベビーサイン、ボディランゲージ）を学び、言語発達の状態を理解する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

発達心理学、幼児心理学、精神衛生に関する科目が必要です。表現関係の技術が必要です。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：子どもの育ちと言葉 著者名：松川利広 出版社：学事情報出版	なし
--	----

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	乳幼児の言語発達状態を理解する。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	さまざまな言語伝達と表現方法ができる。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	話す速さや位置、伝えるためのポイントを理解する。	△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	乳幼児の身近な言語表現技術を身につける。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	ひとり一人の乳幼児の差異を考える。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	乳幼児の保育財（こども文化）を反映する。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	さまざまな伝達方法に積極的に取り組む。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	模擬保育でチャレンジしてみる。	△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	なにが原因で伝わりにくかったか考える。	○
	② 計画力	伝えるための構造化を理解する。	○
	③ 創造力	どこに手を加えればさらに面白くなるか工夫する。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	模擬保育の中で改善点を指摘しあう。	○
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			50				100
評価 の 指標	知識に関する評価		10			10				20
	技能に関する評価		10			10				20
	応用力に関する評価		10			10				20
	チームワークに関する評価		10			10				20
	関心・意欲に関する評価		10			10				20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
乳幼児の突発的な反応にも臨機応変に対応できる。					柔軟にアレンジできる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション ー保育内容（言葉）とは 資料 「領域 言葉」	ボディランゲージと言語表現のトレーニングをする	伝えること・聞くことについて考える	20
	3歳未満児の非言語表現と3歳以上児の言語表現の特色の理解			
第2回 /	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の基本 資料 「保育教諭としての言葉」	活動の援助になる言葉がけのトレーニングをする	指導と援助について考える	20
	子どもの視点での命令・干渉・制限の意味の理解			
第3回 /	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」のねらい 資料 「こどもの育ちと言葉」	「ながら」活動のトレーニング	子どもの時間感覚のちがいについて考える	30
	教科と領域の違いの理解			
第4回 /	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の内容 資料 「言葉における人的環境」	ベビーサインのトレーニング	ベビーサインのお国柄を考える	20
	喃語とベビーサインの理解			
第5回 /	乳幼児のことば① ー乳幼児の発達とことば 資料 「絵本の選定」	絵本の読み語りのトレーニング	絵本について考える	10
	3歳未満児に話すスピードと絵本の文字スペースの理解			
第6回 /	乳幼児のことば② ー身体表現、コミュニケーション、人とのかかわり 資料 「乳幼児の非言語環境」	3歳未満児との話し方のトレーニング	幼児語について考える	10
	文字のない絵本のサイズと使い方の理解			
第7回 /	乳幼児のことば③ ー遊びとことば 資料 「幼児の話し言葉環境」	3歳以上児の読み語りのトレーニング	昔話の伝承について考える	20
	ストーリー絵本の使い方の理解			
第8回 /	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の保育方法① ー指導案の作成 資料 「ストーリーテリング」	ストーリーテリングのトレーニング	身振りや手振りについて考える	10
	素話の仕方の理解			
第9回 /	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の保育方法② ー教材や情報機器の研究及び活用 資料 「オノマトピア」	紙芝居のトレーニング	言葉や動作の繰り返しについて考える	20
	擬音などのオノマトピアの理解			
第10回 /	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の保育方法③ ー指導上の留意事項 資料 「エプロンシアター」	エプロンシアターのトレーニング	ナレーションとセリフの分担について考える	10
	役割分担の仕方の理解			
第11回 /	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の保育方法④ ー評価と改善 資料 「ことば遊び」	創作テリングのトレーニング	セリフの方言特性について考える	20
	方言の理解			
第12回 /	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の保育方法⑤ ー模擬保育実践事例を通しての理解 資料 「ことばが気になる子の理解」	時間を食べるトレーニング	バイオリズムについて考える	10
	「みんなちがってみんないい」の発想の理解			
第13回 /	小学校の授業と保育の違い 資料 「唄い語り」	添い寝読みのトレーニング オンデマンド資料を使用した授業	トニックネックレフレックス姿勢について考える	10
	3歳未満児に特有の方法の理解			
第14回 /	これからの保育と身近な環境との関わりに関する領域 「保育内容（言葉）」の内容 資料 「絵本を読んでもらう」	子どもに読み聞かせてもらうトレーニング	既知の絵本表現をアレンジすることについて考える	10
	3歳以上児に特有の方法の理解			
第15回 /	子どもの話を聞き、子どもに語りかける 保育教諭が配慮する点を理解したかどうかチェックする	子どもと語り合うポイント 保育教諭が配慮する点を確認する	14回の講義内容を見直す	10
	乳幼児との対話の要点の理解			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	保育内容（言葉）の理論と方法（演習） Theory and Method to Contents of Nursing (Language) (Exercise)	1単位	選 択	演 習	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	言葉を通じた表現の広がりや深まりを体験し、保育者と子ども相互間の「表現と理解」について再認識する。					
キーワード	絵本 読み語り 制作 文化	学修教育目標	保育者として子どもの発達段階の応じた豊かな表現を引き出す指導方法と技法を学び、保育の場で実践できることを目指す。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
授業では、教材の選択・読み聞かせの実践法を学び、教材を作成して発表する等、実習での実践に役立つものとする。 0歳から3歳未満児の言語発達とボディランゲージを学び、オノマトピアを強調した絵本を作り、読み聞かせをする。3歳から6歳未満児の言語発達と保育財（該当年齢のこども文化）を学び、ストーリーとセリフを強調した絵本を作り、読み語りをする。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
保育内容（言葉）の理論と方法、乳幼児の言語発達に関する科目、言語表現・身体表現・造形表現に関する科目が必要です。手遊びや歌唱力が予備技能として必要です。						
教科書			参考書・リザーブブック			
別途指示をする。			『保育所保育指針』厚生労働省 『幼稚園教育要領』文部科学省 『認定こども園教育要領』内閣府			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	乳幼児の言語発達状態を理解し、発達特性の差異に対応する。				○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	3歳未満児への読み聞かせ、3歳以上児への読み語りができる。				◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	非言語表現とオノマトピアを理解する。				○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	ボディランゲージと言語最近接領域の支援を身につける。				○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	ひとり一人の乳幼児に寄り添う意味を考える。				○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	乳幼児の興味・関心を反映する。				△
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分でプロットを立案する。				△
	② 働きかけ力					
	③ 実行力	3歳未満児と3歳以上児の絵本をつくる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力					
	② 計画力	乳幼児の興味・関心を取り入れる。				◎
	③ 創造力	オリジナルの絵本作成をめざす。				△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	読み聞かせや読み語りのポイントを評価しあう。				○
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性	臨機応変にアレンジする方法を学ぶ。				△
	④ 状況把握力	模擬保育で乳幼児の反応を想定する。				△
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	生命を伝える内容を目指す。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		10	20	20	5		100
評価 の 指標	知識に関する評価		9		2	4	4			19
	技能に関する評価		9		2	4	4			19
	応用力に関する評価		9		2	4	4			19
	チームワークに関する評価		9		2	4	4			19
	関心・意欲に関する評価		9		2	4	4	5		24
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
乳幼児一人ひとりの持ち味に対応した言語表現ができる。					乳幼児を意識した言語表現ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	言語表現とは	講義	子供と遊び、文化の概念を 大きくくりでとらえる	30
	ガイダンス 子どもの文化理解 わたしと親とのあそび文化比較			
第2回 /	保育の中で児童文化を考える（メディアの中の子ども）	講義	主人公の人生を考える	20
第3回 /	児童文化の歴史と子どもの生活	講義	子どもの生活とあそびと社会についてとらえる	30
	オンデマンドに沿って課題を作成し、提出をする。			
第4回 /	おはなしをおぼえる	講義	おはなしをもう一つ覚える。	30
	お話をおぼえて 発表しあうレポート作成			
第5回 /	乳幼児のあそびうた ～わらべうた～	演習	わらべ歌を振り返り、絵描き歌をつくる	30
	わらべ歌を知る、 絵描き歌をつくる			
第6回 /	言葉を育てる環境① おはなしに関する用語 p36	演習	様々な絵本と出会う、絵本の分類	30
	よみかかせの実際から学ぶ			
第7回 /	今日的な課題を扱った絵本	演習	テーマにあった絵本を選ぶ	20
	LGBT シングル家庭などを扱った絵本から考え、分析をすることができる			
第8回 /	絵本の分類絵本と出会う p48	演習	絵本を分類し、よみかかせの練習をする	20
	紙芝居の文化、紙縛りの活用 紙芝居づくりの準備			
第9回 /	おはなしづくり 1	演習	ものを主人公にみだてて おはなしをつくる	40
	ものに命を吹きかける			
第10回 /	おはなしづくり その2	演習	お話づくり 応用編	30
	素話の仕方の理解 身振り手振り②			
第11回 /	ペープサートづくり	講義・演習	ペープサートの練習	40
	お話づくりワークショップ			
第12回 /	ペープサートの発表	講義・演習	パペットを作ってみる	60
第13回 /	パペットとお話づくり②	講義・演習	パペットとお話づくり	30
	パペットの操作とおはなしづくり			
第14回 /	折り紙人形	講義・演習	既知の絵本表現をアレンジすることについて深める	90
	表現についてまなぶ			
第15回 /	まとめ おはなしかい	講義	ふりかえり	90
	今までの学修をふりかえる			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	保育内容（健康）の理論と方法 Theory and Method to Contents of Nursing (Health)	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	乳幼児の健康と子どもが健康的に生活するのに必要な助言と援助ができること。					
--------	--------------------------------------	--	--	--	--	--

キーワード	健康領域、乳幼児の心身の特徴、基本的な指導事項	学修教育目標	幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」のねらい及び内容について、幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画、実行できる。			
-------	-------------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の心身の特徴と発達課題を理解し基本的な援助の留意点を理解する。 2. 幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている健康領域の内容と指導事項を理解する。 3. 健康領域の内容の指導案を作成できる。 4. 幼稚園教諭、保育士を目指す学生としての心構え・姿勢など望ましい態度を養う。 						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

乳幼児の発達に関わる他の領域「環境」、「人間関係」等における基礎的知識						
-------------------------------------	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
『幼稚園教育要領解説（最新版）』文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）』厚生労働省			『小学校学習指導要領（最新版）』文部科学省 『生徒指導提要（最新版）』文部科学省			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）			
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	健康領域の「ねらい」とねらいを達成するために内容（指導する事項）を理解する。			◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	健康領域の「ねらい」とねらいを達成するために指導する事項を行う指導技能を身につける。			○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	乳幼児の心身の特徴と発達課題を理解する。			◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	乳幼児の心身の特徴と発達課題に即した指導が行える基本的な技能を身につける。			○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	乳幼児期に対する保育や教育における健康作りを行う上での使命感、安全確保などの責任感、並びに個人情報や特別な支援を有する子への合理的配慮などの倫理観を身につける。			◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	乳幼児期に対する保育や教育における健康作りの知識や技能を実習などの教育現場において活用することができる。			◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）			
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。			○
	② 働きかけ力				
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。			△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。			○
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。			○
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。			○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。			○
	② 傾聴力				
	③ 柔軟性				
	④ 状況把握力				
	⑤ 規律性				
	⑥ ストレスコントロール力				
4. 倫理観	① 倫理性				

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30				20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		20					70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				10					10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								20	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
1. 講義内容を配布のレジメにまとめる。さらに自分のコメントを書き込める。 2. 調べ学習では積極的に行動する。さらに調べたことを発表することができる。					1. 講義内容を配布のレジメにまとめる。 2. 調べ学習では積極的に行動する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション －保育内容（健康）とは	講義法	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第2回 /	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の基本	講義法	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第3回 /	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」のねらい	講義法	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第4回 /	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の内容	講義法と調べ学習	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第5回 /	乳幼児の「健やかな心と身体」① －乳幼児の発達、生活リズムや生活習慣	講義法と調べ学習	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第6回 /	乳幼児の「健やかな心と身体」② －遊びと活動意欲	講義法と調べ学習	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第7回 /	乳幼児の「健やかな心と身体」③ －安全と保育指導、食育	講義法と調べ学習	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第8回 /	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の保育方法① －不安障害などに配慮した指導案の作成	講義法と調べ学習	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第9回 /	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の保育方法② －教材や情報機器の研究及び活用	講義法	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第10回 /	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の保育方法③ －指導上の留意事項（認知特性を踏まえた合理的配慮）	講義法	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第11回 /	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の保育方法④ －評価と改善	講義法	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第12回 /	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の保育方法⑤ －模擬保育実践事例を通しての理解－	協働学習	資料の収集と整理	30
	レポートの点検と協働学習の観察			
第13回 /	小学校の授業と保育の違い	協働学習	資料の収集と整理	30
	レポートの点検と協働学習の観察			
第14回 /	これからの保育と心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の内容	協働学習	資料の収集と整理	30
	レポートの点検と協働学習の観察			
第15回 /	まとめ －全体の確認と振り返り－	協働学習	資料の収集と整理	30
	レポートの点検と協働学習の観察			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	保育内容（健康）の理論と方法（演習） Theory and Method to Contents of Nursing (Health) (Exercise)	1単位	選 択	演 習	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	乳幼児の健康と子どもの健康的な生活のためには、適切な助言と援助ができることが求められている。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	健康と運動、リズム運動あそび	学修教育目標	幼稚園教育要領や保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領をもとに、幼児の健康を意識した保育教材の作成・指導方法の計画・実行ができることを目指す。			
-------	----------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>授業では、自然の中で活動することの楽しさを感じさせる教材を作り、模擬授業を行うことで進める。</p> <p>1. 幼児期における運動が健康・体力に及ぼす影響を多面的に学び運動による健康作りの基本的知識や技能を習得する。</p> <p>2. リズム運動などの創作を通して運動遊びの教材開発に必要な実践力を習得する。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「保育内容（健康）の理論と方法」における乳幼児における心身の成長・発達に関する基本的な知識						
---	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
なし			『保育所保育指針』厚生労働省			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	幼児・児童における運動が健康や体力づくりに及ぼす影響についての基本的な知識の習得	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	幼児・児童におけるリズム運動などの運動遊び教材を開発する技能を習得する。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	幼児・児童期における運動機能の発達に関する基本的知識を習得する。	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	幼児・児童期における運動機能の発達課題を踏まえた基本的な指導技能を習得する。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	幼児・児童期における運動を通じた健康作りを行う上での使命感、安全確保などの責任感、並びに個人情報や特別な支援を有する子への合理的配慮などの倫理観を身に付ける。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	開発したリズム運動遊びなどを実習などの教育現場において活用することができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。	◎
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	△
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。	△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		10	30			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		10					60
	技能に関する評価					10				10
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価					20				20
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
1. 講義内容を配布のレジメにまとめる。さらに自分のコメントを書き込める。 2. リズム運動づくりでは積極的に行動する。さらにアイデアなどをだしグループにおいてリーダーシップを発揮している。					1. 講義内容を配布のレジメにまとめる。 2. リズム運動づくりでは積極的に行動する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	領域「健康」における運動遊びについて	講義法	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と指導			
第2回 /	幼児期における運動の発達と現状の問題点	講義法	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と指導			
第3回 /	幼児期における運動の意義1（体力、調整力、安全）	講義法	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と指導			
第4回 /	幼児期における運動の意義2（意欲・社会性・認知能力、合理的配慮）	講義法	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と指導			
第5回 /	幼児期における運動の適時性（バランス、操作する動き・組み合わせ）	講義法	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と指導			
第6回 /	保護者との連携（安全、運動遊びの環境、運動遊びの習慣）	講義法	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と指導			
第7回 /	リズム運動遊びの創作活動1（基本的な動き）	創作活動と実技演習	選曲の準備	30
	話し合い活動、動きづくり、協働活動の観察			
第8回 /	リズム運動遊びの創作活動2（音楽に合わせた動きづくり）	創作活動と実技演習	基本的な動きの資料収集	30
	話し合い活動、動きづくり、協働活動の観察			
第9回 /	リズム運動遊びの創作活動3（音楽に合わせた大きな動き）	創作活動と実技演習	基本的な動きの資料収集	30
	話し合い活動、動きづくり、協働活動の観察			
第10回 /	リズム運動遊びの創作活動4（バランス・方向展開）	創作活動と実技演習	基本的な動きの資料収集	30
	話し合い活動、動きづくり、協働活動の観察			
第11回 /	リズム運動遊びの創作活動5（発表会）	発表活動	基本的な動きの資料収集	30
	話し合い活動、動きづくり、協働活動の観察			
第12回 /	子どもの運動指導と健康① 縄遊び	実技演習	基本的な動きの資料収集	30
	話し合い活動、動きづくり、協働活動の観察			
第13回 /	子どもの運動指導と健康② 集団遊び	実技演習	基本的な動きの資料収集	30
	話し合い活動、動きづくり、協働活動の観察			
第14回 /	子どもの心と体の一体性と安全指導・安全管理	グループ討議	資料の収集と整理	30
	話し合い活動、協働活動の観察			
第15回 /	まとめ ー全体の確認と振り返りー	グループ討議	資料の収集と整理	30
	話し合い活動、協働活動の観察			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	保育内容（環境）の理論と方法 Theory and Method to Contents of Nursing (Environment)	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、乳幼児を取り巻く環境とその現代的課題、乳幼児と身近な環境との関わりの発達について学修する。また、具体的な指導場面を想定しながら保育を構想し、実践する力を身に付けていくことを目的とする。					
キーワード	現代の子どもを取り巻く環境 自然 生き物 環境構成	学修教育目標	<ol style="list-style-type: none"> さまざまな演習や身の周りの自然環境に触れることなどを通して領域「環境」の指導で必要となる感性を養う努力ができる。 乳幼児を取り巻く環境について知ることから、その現代的課題を考えることができる。 環境が乳幼児に与える意味、環境を通して行う教育について理解できる。 領域「環境」において育てたい資質・能力を基に、保育指導案の作成に取り組むことができる。 保育・教育施設における環境構成の実践に関心を持ち、自らも環境構成を創造する力を養う。 			
授業科目の概要及び学修上の助言						
身近な自然、生き物に興味を持ち、主体的に調べたり、関わりを持つことを推奨する。 ボランティアなどを通して、実際の子どもたちを取り巻く保育・教育施設の物的・人的環境について考える機会を持つことを推奨する。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
保育・教育実習においても本授業で学んだことが実践できる力を身に付ける。						
教 科 書			参考書・リザーブブック			
書 名：新・保育内容「環境」ラーニング・ストーリーで綴る学びの記録 著者名：永淵泰一郎編著 出版社：教育情報出版			書 名：保育所保育指針解説 平成30年3月 著者名：厚生労働省編 出版社：フレーベル館 書 名：幼稚園教育要領解説 平成30年3月 著者名：文部科学省編 出版社：フレーベル館 書 名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成30年3月 著者名：内閣府 文部科学省 厚生労働省編 出版社：フレーベル館			
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	子どもを取り巻く環境とその現代的課題について理解する。				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	身近な自然環境を取り入れた環境づくりを創造することができる。				○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	乳幼児のそれぞれの年齢と発達にふさわしい環境構成について理解する。				◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	乳幼児の発達・成長にふさわしい環境を創造することができる。				○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	安全への配慮、命ある生き物などへの望ましい接し方を身に付ける。				○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	領域「環境」において育てたい資質・能力を基に指導案作成に取り組むことができる。				◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	子どもを取り巻く環境に関心を持ち、主体的に学ぶ。				◎
	② 働きかけ力	身近な自然に興味を持ち、自ら働きかける。				○
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	子どもを取り巻く環境の現代的課題を発見する。				◎
	② 計画力	領域「環境」で育てたい資質・能力を基に指導案作成に計画的に取り組む。				◎
	③ 創造力	自然を取り入れた環境構成を創造する力を養う。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考えを相手に伝えることができる。				○
	② 傾聴力	相手の考えを理解することができる。				○
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	生命を伝える意義を理解する。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			20		30		100
評価 の 指標	知識に関する評価		50					10		60
	技能に関する評価							5		5
	応用力に関する評価							5		5
	チームワークに関する評価							5		5
	関心・意欲に関する評価					20		5		25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>子どもを取り巻く環境を知り、現代的課題について考えることができる。 さまざまな演習や身の周りの自然環境に触れることなどを通して領域「環境」の指導で必要となる感性を養う努力ができる。 環境が乳幼児に与える意味、環境を通して行う教育について理解できる。 保育指導案の作成に取り組むことができる。</p>					<p>子どもを取り巻く環境を知り、理解することができる。 さまざまな演習や身の周りの自然環境に触れるなどに取り組むことができる。 環境が乳幼児に与える意味、環境を通して行う教育について理解できる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	オリエンテーション 現代社会の乳幼児を取り巻く環境-乳幼児を取り巻く環境の特徴と課題- 1章の学習ポートフォリオ	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第1部1章を読んでおく。 復習：1章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
第2回 ／	乳幼児期の発達における環境との関わり-環境が与える意味と環境を通して行う教育とは- 2章の学習ポートフォリオ	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第1部2章を読んでおく。 復習：2章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
第3回 ／	乳幼児期・児童期の認知的発達-乳幼児期の思考力の育ちと児童期の認知発達の関係とは- 3章の学習ポートフォリオ	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第1部3章を読んでおく。 復習：3章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
第4回 ／	乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり-数量・図形との関わりについての活動例、生物・自然との関わりについての活動例- 4・5章の学習ポートフォリオ	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第1部4・5章を読んでおく。 復習：4・5章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
第5回 ／	乳幼児の標識・文字、情報・施設との関わり-標識・文字との関わりについての活動例、情報・施設との関わりについての活動例- 6・7章の学習ポートフォリオ	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第1部6・7章を読んでおく。 復習：6・7章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
第6回 ／	領域のあり方と環境を通して行う教育の意義-領域「環境」とは- 8章の学習ポートフォリオ	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第2部8章を読んでおく。 復習：8章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
第7回 ／	園内で行われる乳幼児の遊びや活動における環境-1日の流れに即した環境構成とは- 9章の学習ポートフォリオ	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第2部9章を読んでおく。 復習：9章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
第8回 ／	園庭で行われる乳幼児の遊びや活動における環境-なぜ、感覚体験・原体験が大切なのか- 10章の学習ポートフォリオ	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第2部10章を読んでおく。 復習：10章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
第9回 ／	自然に親しみ、植物に触れる環境-なぜ、自然に親しむことが大切なのか- 11章の学習ポートフォリオ	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第2部11章を読んでおく。 復習：11章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
第10回 ／	動物・小動物に関わる環境-動物・小動物に関わる環境の活動例- 12章の学習ポートフォリオ	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第2部12章を読んでおく。 復習：12章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
第11回 ／	数量・図形、標識・文字に関わる保育の環境-数量・図形、標識・文字に関わる環境の活動例- 13・14章の学習ポートフォリオ	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第2部13・14章を読んでおく。 復習：13・14章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
第12回 ／	生活の関心の深い情報や施設に関わる環境-生活の関心の深い情報や施設に関わる環境の活動例- 15章の学習ポートフォリオ	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第2部15章を読んでおく。 復習：15章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
第13回 ／	生活の流れに応じた環境と指導案-部分指導案の立案- 16章の学習ポートフォリオ	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第1部1章を読んでおく。 復習：16章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
第14回 ／	幼稚園・保育所のクラス環境構成の作成-クラス環境構成の作り方- 17章の学習ポートフォリオ	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第1部1章を読んでおく。 復習：17章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
第15回 ／	海外の環境保育-レッジョ・エミリア幼児教育など- 18章の学習ポートフォリオ	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第1部1章を読んでおく。 復習：18章の学習ポートフォリオに取り組む。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	保育内容（環境）の理論と方法（演習） Exercise in Contents of Nursing (Environment)	1単位	選 択	演 習	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	乳幼児を取り巻く環境の中で、乳幼児と環境の相互作用の意義と重要性・乳幼児の成長への影響について学修する。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	保育環境 自然保育 保育財	学修教育目標	保育現場の環境（保育室・園庭・自然等）との関わりにおける乳幼児の発育・発達への影響・期待を理解することを目指す。			
-------	---------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

授業では保育現場の事例を中心に、保育計画の作成・実行に必要な事項を学ぶ。 屋外と室内の保育環境を学び、自然をガイドラインに乳幼児を取り巻く物的環境と人的環境の調整をする。人的環境としてのスキルアップをする。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「保育内容総論」、「環境による保育」に関連する科目が必要です。なんらかの特技があると望ましい。						
---	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
なし			『保育所保育指針』厚生労働省 『幼稚園教育要領』文部科学省 『認定こども園教育要領』内閣府 資料は授業内で随時配布。			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	生命を伝えるための保育環境を理解する。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	達成感、満足感を形にすることができる。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	こだわることの大切さを理解する。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	乳幼児に感動体験を伝える技術を身につける。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	生命を考える。	△
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	自然環境が提示する摂理をガイドラインにする。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	試行錯誤しながら、まずやってみる。	△
	② 働きかけ力	手抜きをせず、一生懸命に取り組む。	△
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力		
	③ 創造力	もう一工夫アレンジしてみる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	うまくできなくても、なんらかの形にする。	△
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	危機管理のガイドラインを知る。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			25	25			100
評価 の 指標	知識に関する評価		10			5	5			20
	技能に関する評価		10			5	5			20
	応用力に関する評価		10			5	5			20
	チームワークに関する評価		10			5	5			20
	関心・意欲に関する評価		10			5	5			20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
発見学習環境を整えることができる。					自分の持ち味を人的環境として理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 資料 「オリエンテーション」	イチゴとトウモロコシの栽培	生命伝達と栽培について考える	20
	栽培作業の割り振りの理解			
第2回 /	幼稚園教育要領環境と指導案のポイント 資料 「認定こども園の環境」	環境構成図・指導案の書き方	環境による保育について考える	10
	領域環境の変遷の理解			
第3回 /	春の自然環境と保育活動の展開 資料 「土を作る」	春を探す散策	春の動植物環境について考える	10
	春の自然環境の理解			
第4回 /	春の遊具環境と壁面構成の展開 資料 「壁面構成」	壁面構成の制作	原色の不自然さについて考える	10
	保育室環境の理解			
第5回 /	遊具と園庭の整備 資料 「園舎の環境」	フレーベル教育遊具	積み木について考える	20
	遊具を屋外で使う環境の理解			
第6回 /	教具と保育室の整備 資料 「保育室の環境」	モンテッソーリ教具	知育教材について考える	10
	教材提示棚の環境の理解			
第7回 /	教材遊具の条件 資料 「保育遊具の環境」	3歳未満児の保育遊具制作	3歳未満児の遊具について考える	10
	「遊具は作るもの」という発想の理解			
第8回 /	教材遊具の制作 資料 「生活・感覚訓練の環境」	3歳以上児の保育遊具制作	3歳以上児の遊具について考える	20
	木製素材へのこだわりの理解			
第9回 /	夏の自然環境と保育活動の展開 資料 「算数・言語訓練の環境」	夏を探す散策	夏の動植物環境について考える	10
	夏の自然環境の理解			
第10回 /	夏の遊具環境と保育活動の展開 資料 「援助と支援の環境」	園庭環境の危機管理	屋外遊具について考える	10
	屋外環境の理解			
第11回 /	水と泥の環境と保育材制作のスキルアップ 資料 「絵本の環境」	ドロダンゴの制作	土ダンゴとの違いについて考える	10
	こだわりの理解			
第12回 /	秋の自然環境と保育活動の展開 資料 「心を育てる環境」	秋を探す散策	秋の動植物環境について考える	10
	秋の自然環境の理解			
第13回 /	秋の遊具環境と保育活動の展開 資料 「屋外保育の環境」	あやとり紐の制作	手作りについて考える	10
	室内遊び環境の理解			
第14回 /	自然物の保育材制作のスキルアップ 資料 「生命を伝える環境」	ドングリ人形の制作	ドングリについて考える	10
	自然物との共存環境の理解			
第15回 /	子どもを取り巻く環境の調整をする 保育教諭が配慮する視点を理解したかどうかチェックする	環境調整のポイント 保育教諭の環境視点を確認する対面 授業	14回の講義内容を見直す	10
	乳幼児の保育環境の理解			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	保育内容（表現）の理論と方法 Theory and Method to Contents of Nursing (Expression)	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	領域「表現」のねらい及び内容、子供の表現の在り方や発達、特性について理解を深め、幼児教育に携わる京育者として必要な感性や創造性を豊かにする多様な表現あそびや環境構成などの専門的な知識・技能を実践的に学ぶ。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	造形表現 乳児幼児の表現活動 実践授業、対話型授業 アクティブラーニング プレゼンテーション 紙芝居	学修教育目標	領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 子どもの表現のあり方や描画の発達について理解する。 実制作を行った後に指導に必要な事項を振り返り記述し、現場で役立つ経験を身に付け資料を作成する。 共通のテーマで協同制作に取り組み、表現活動の共有と相互評価を行い主体的な学びを行う。 伝える技術を習得し実践を行い、発表後の考察を行い課題を見つける。			
-------	---	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

個人制作、協同制作の発表と評価を行う。 個人で取り組む造形表現の実践制作とその振り返りは、成果を提出する。欠席した場合も課外時間に取り組み提出することが望ましい。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

保育内容(表現)の理論と方法						
----------------	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
幼稚園教育要領/保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領			感じることから始まる子どもの造形表現-理論と実践事例から学び、考えよう(教育情報出版)			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	領域「表現」のねらい及び内容を理解し、制作とその振り返りを通じて専門的な知識を得る。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	制作と振り返りを通じて、必要な技能を身につけ現場で活用できるようになる。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの発達について学び、発達を意識した振り返りを行い知識の確認を行う。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもの発達について学び、発達を意識した制作を行い技能の習得と発達に合わせた関わりを意識する。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	子どもの教育・支援に関する工夫について学び、専門職として使命感、責任感、倫理観の伴う行動を意識する。	△
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	制作発表後に考察と振り返りを行い、課題解決のための取り組み手法の体験と、今後の活用を図る。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	提案に対して自ら調査や想定を行い表現を行う。	◎
	② 働きかけ力	制作において発展的な提案を行う。	○
	③ 実行力	発展的な提案に対して実際に形として表す。	△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	意図を明確にして伝える内容を明らかにする。	○
	② 計画力	材料、時間、人員などの制約を守り、計画に基づき成果作品とその発表を完成させる。	○
	③ 創造力	ねらいを明確にして工夫を行い実行する。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	伝える技術を習得し発表で生かす。	◎
	② 傾聴力	他者の意見を取り入れる 他者の作品や発表をしっかりと注意深く見聞きして評価する。	○
	③ 柔軟性	異なる意見や提案に対して、利点欠点を考察して建設的な対応を行い制作に生かす。	△
	④ 状況把握力	得意分野や立場の違いを伝え合い理解を図る。	△
	⑤ 規律性	提出日、発表時間を把握して守る。	○
	⑥ ストレスコントロール力	発表を行い意図した内容を伝える体験をする。	△
4. 倫理観	① 倫理性	教諭としての責任と自覚を持ち、子どもの発達特性を理解して相手の立場に立った行動を心がける。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		10	15	15	15		100
評価 の 指標	知識に関する評価		30							30
	技能に関する評価						15	15		30
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価					15				15
	関心・意欲に関する評価		15		10					25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>領域「表現」のねらい及び内容と子どもの発達について理解し自ら調査模索を進め、造形表現実践とその振り返りにおいて必要な知識と技術の習得に加えて発展的な提案を行い現場を想定し実行に移す。</p> <p>協同制作に積極的に取り組みグループの状況を把握し意見の折衝を行い、表現活動の共有と相互評価を体験し主体的な学びを今後の課題解決に繋げる。</p>					<p>領域「表現」のねらい及び内容と子どもの発達について理解し、造形表現実践とその振り返りを行い必要な知識と技術を身につける。</p> <p>協同制作に取り組み、表現活動の共有と相互評価を体験し主体的な学びを行う。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	授業概要の説明 持ち物と授業形態、課題について 描画造形表現実践 あわせ絵、手足指絵	資料と教科書を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	領域「表現」への理解、実践のまとめと振り返り			
第2回 /	描画造形表現実践 たらし絵・吹き流し 海外の幼児教育	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第3回 /	描画造形表現実践 シャボン玉絵 色の基礎知識	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第4回 /	描画造形表現実践 紙染め	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第5回 /	工作造形表現実践 じぐざぐ折	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第6回 /	工作造形表現実践 立体-円柱、角柱	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第7回 /	工作造形表現実践 端材を使った立体-くるくるカール	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第8回 /	工作造形表現実践 おもちゃづくり	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第9回 /	領域「表現」の意義と子どもの発達について	資料を使用した講義形式	参考資料を用いて復習を行う	30
	領域を意識した学び			
第10回 /	伝える技術 2_資料提示方法	資料を使用した講義形式	参考資料を用いて体験の振り返りを行う	30
	ICT の活用と関わり			
第11回 /	グループワーク導入と概説 紙芝居のついで	資料を使用した面接授業と協同制作	取り組みのテーマを明らかにする	30
	テーマ設定への取り組みと意欲			
第12回 /	アクティブ・ラーニング、グループワーク 紙芝居 グループ制作 1	個別対応面接授業と協同制作	協同制作に関する調査と作業進行	30
	協同制作への取り組みと意欲			
第13回 /	アクティブ・ラーニング、グループワーク 紙芝居 グループ制作 2	個別対応面接授業と協同制作	協同制作に関する調査と作業進行	30
	協同制作への取り組みと意欲			
第14回 /	制作発表と講評	発表への講評と資料を使用した講義形式	他者からの評価をふまえて表現や意図を考察する	30
	協同で表現活動を行い、意図を伝える 他者の評価を行う			
第15回 /	自己点検振り返り、学期末試験内容告知	資料を使用した講義形式	発表後の考察を行い課題を見つける 学期末試験内容に備える	30
	自己課題、他者からの評価をふまえて活動を振り返り次回へ活かす			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分		授業科目名（下段：英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
専門教育科目 幼児教育学領域		保育内容(表現)の理論と方法(演習) Theory and Method to Contents of Nursing(Arthritic Expression) (Exercise)		1単位	選 択	演 習	2年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	領域「表現」のねらい及び内容、子どもの表現のあり方や発達、特性について理解し、幼児教育に携わる教育者として必要な感性や創造性を豊かにする多様な表現あそびや環境構成などの基本的な知識・技能を実践的に学ぶ。								
	キーワード	造形表現 乳児幼児の表現活動 実践授業、対話型授業 アクティブラーニング プレゼンテーション 造形と音楽 楽器作り	学修教育目標	領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 子どもの表現のあり方や描画の発達について理解する。 実制作を行った後に指導に必要な事項を振り返り記述し、現場で役立つ経験を身に付け資料を作成する。 共通のテーマで協同制作に取り組み、表現活動の共有と相互評価を行い主体的な学びを行う。 伝える技術を習得し実践を行い、発表後の考察を行い課題を見つける。					
授業科目の概要及び学修上の助言									
個人制作、協同制作の発表と評価を行う。 個人で取り組む造形表現の実践制作とその振り返りは、成果を提出する。欠席した場合も課外時間に取り組み提出することが望ましい。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
保育内容(表現)の理論と方法									
教科書				参考書・リザーブブック					
幼稚園教育要領/保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領				《感じること》からはじまる子どもの造形表現-理論と実践事例から学び、考えよう(教育情報出版)					
No.	学科教育目標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		領域「表現」のねらい及び内容を理解し、制作とその振り返りを通じて専門的な知識を得る						○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		制作と振り返りを通じて、必要な技能を身につけ現場で活用できるようになる						○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		子どもの発達について学び、発達を意識した振り返りを行い知識の確認を行う						○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		子どもの発達について学び、発達を意識した制作を行い技能の習得と発達に合わせた関わりを意識する						○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		子どもの教育・支援に関する工夫について学び、専門職として使命感、責任感、倫理観の伴う行動を意識する						△
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		制作発表後に考察と振り返りを行い、課題解決のための取り組み手法の体験と、今後の活用を図る						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	提案に対して自ら調査や想定を行い表現を行う。						◎
		② 働きかけ力	制作において発展的な提案を行う。						○
		③ 実行力	発展的な提案に対して実際に形として表す。						△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	意図を明確にして伝える内容を明らかにする。						○
		② 計画力	材料、時間、人員などの制約を守り、計画に基づき成果作品とその発表を完成させる。						○
		③ 創造力	ねらいを明確にして工夫を行い実行する。						○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	伝える技術を習得し発表で生かす。						◎
		② 傾聴力	他者の意見を取り入れる 他者の作品や発表をしっかりと注意深く見聞きして評価する。						○
		③ 柔軟性	異なる意見や提案に対して、利点欠点を考察して建設的な対応を行い制作に生かす。						△
		④ 状況把握力	得意分野や立場の違いを伝え合い理解を図る。						△
		⑤ 規律性	提出日、発表時間を把握して守る。						○
		⑥ ストレスコントロール力	発表を行い意図した内容を伝える体験をする。						△
4. 倫理観		① 倫理性	教諭としての責任と自覚を持ち、子どもの発達特性を理解して相手の立場に立った行動を心がける。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		15	15	15	15		100
評価 の 指標	知識に関する評価		30							30
	技能に関する評価						15	15		30
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価					15				15
	関心・意欲に関する評価		15		10					25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>領域「表現」のねらい及び内容と子どもの発達について理解し自ら調査模索を進め、造形表現実践とその振替りにおいて必要な知識と技術の習得に加えて発展的な提案を行い現場を想定し実行に移す。</p> <p>協同制作に積極的に取り組みグループの状況を把握し意見の折衝を行い、表現活動の共有と相互評価を体験し主体的な学びを今後の課題解決に繋げる。</p>					<p>領域「表現」のねらい及び内容と子どもの発達について理解し、造形表現実践とその振り返りを行い必要な知識と技術を身につける。</p> <p>協同制作に取り組み、表現活動の共有と相互評価を体験し主体的な学びを行う。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	授業概要の説明 持ち物と授業形態、課題について 描画造形表現実践 にじみ絵	資料と教科書を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	領域「表現」への理解、実践のまとめと振り返り			
第2回 /	描画造形表現実践 糸ひっぱり転がし絵	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第3回 /	描画造形表現実践 マーブリング	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第4回 /	描画造形表現実践 はじき絵	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第5回 /	工作造形表現実践 丸い形を生かした工作	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第6回 /	工作造形表現実践 立体-円錐	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第7回 /	工作造形表現実践 飛び出すカード 切2折1	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第8回 /	工作造形表現実践 小麦粉粘土	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第9回 /	領域「表現」の意義と多領域の融合実例	資料を使用した講義形式	参考資料を用いて復習を行う	30
	領域を意識した学び			
第10回 /	伝える技術 3_ドキュメンテーションの手法	資料を使用した講義形式	参考資料を用いて体験の振り返りを行う	30
	ICTの活用と関わり			
第11回 /	グループワーク導入と概説 造形と音楽の表現について 楽器づくりと演奏	資料を使用した面接授業と協同制作	取り組みのテーマを明らかにする	30
	テーマ設定への取り組みと意欲			
第12回 /	アクティブ・ラーニング、グループワーク 楽器作りと絵本の選定 グループ制作1	個別対応面接授業と協同制作	協同制作に関する調査と作業進行	30
	協同制作への取り組みと意欲			
第13回 /	アクティブ・ラーニング、グループワーク 楽器作りと絵本の選定 グループ制作2	個別対応面接授業と協同制作	協同制作に関する調査と作業進行	30
	協同制作への取り組みと意欲			
第14回 /	制作発表と講評	発表への講評と資料を使用した講義形式	他者からの評価をふまえて表現や意図を考察する	30
	協同で表現活動を行い、意図を伝える 他者の評価を行う			
第15回 /	自己点検振り返り、学期末試験内容告知	資料を使用した講義形式	発表後の考察を行い課題を見つける 学期末試験内容に備える	30
	自己課題、他者からの評価をふまえて活動を振り返り次回へ活かす			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	幼児と健康 Infants and Health	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>身体発達、運動発達を中心とした乳幼児期の発達について理解を深める。また、現代の乳幼児の健康に関する課題を意識し、乳幼児の健康に関わる保育者の役割について学ぶ。生命の保持と情緒の安定を図る保育において、子どもの保健をめぐる医学的、社会的課題を理解するとともに、子どもの健康の保持増進のための知識と能力を養う。</p>
--------	--

キーワード	<p>予防的な保健活動の重要性 身体発達 運動発達 健康 保育者</p>	学修教育目標	<p>【第1回～第12回】 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達について理解する。 3. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題等について理解する。 5. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。 6. 施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。 【第13回～第15回】 乳幼児期からの身体発達、運動発達を説明することができる。 乳幼児期における発達を理解し、保育者としての役割を説明できる。 乳幼児期の発達と健康に関する現代の課題について、保育者としての自分なりの考えをもつことができる。</p>
-------	--	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>【第1回～第12回】 乳幼児期の健康管理、保育保健活動には小児の成長発達に関する知識が土台となります。また、子どもの心身の育ちには子どもを取り巻くすべての環境が大きく影響します。保育者として、子どもたちの健康な育ちにとって適切な環境とはどのようなものか、その実現のためにどうすべきかなど、保健的な視点で、教科書に沿ってパワーポイントを使用し講義形式で行います。健康観察のポイント、病気や異常に気づくための知識や応急処置、及び保護者への対応や支援について学びます。また必要によりDVDを教材として視聴することもあります。概ね教科書に沿って授業を進めますが、授業で扱わなかった項目は各自で学習すること。シラバスに毎回の授業内容に対応する教科書の単元を記していますので、事前に教科書の該当部分に目を通しておいてください。授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めてください。教科書に沿ったパワーポイントです。教科書を必ず持参してください。講義内容は各自ノートに記し、DVD視聴した場合はその内容をメモしてください。必要により、課題レポートの提出を求める場合があります。</p> <p>【第13回～第15回】 身体発達、運動発達を中心とした乳幼児の発達を理解するとともに、保育実践に関する動画の視聴、それに基づくグループワークを通して乳幼児の発達を支える保育者の役割について考える。演習、グループワークは当然のことながら、講義においても受動的ではなく主体的に考えながら授業に参加すること。</p>
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「子どもの保健」「子どもの保健演習」と関連する。

教科書	参考書・リザーブブック
<p>書名：新時代の保育双書 図解 子どもの保健Ⅰ 第2版 著者名：服部右子・大森正英 編 出版社：株式会社 みらい</p>	<p>書名：子どもの姿からはじめる領域・健康 著者名：秋田喜代美（監） 出版社：株式会社 みらい</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	保育や教育環境を安全で衛生的に管理できる。乳幼児期における発達を理解し、保育者としての役割を説明できる。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	教育・保育に必要な専門知識を基に成長発達を支援できる。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達に関する知識を身につけ、保育や教育に活かす。乳幼児期からの身体発達、運動発達を説明することができる。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもの疾病とその予防法及び適切な対応方法を身につけ、実践できる。	◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	子どもの心身の健康増進を図る保健活動ができるようになる。乳幼児期の発達と健康に関する現代の課題について、保育者としての自分なりの考えをもつことができる。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解し、実践することができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。グループワークに主体的、積極的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	相手を納得させるために、協力することの必然性（意義・理由・内容等）を伝えることができる。	○
	③ 実行力	強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。	◎
	② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。	○
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。他者の意見も踏まえながら自分自身の意見を明確にし、それをまとめることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	事例や客観的なデータ等を用いて、具体的にわかりやすく伝えることができる。自分の考えをグループで積極的に発言できる。	◎
	② 傾聴力	内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる。グループワークにおいて他者の意見を聞き、尊重することができる。	◎
	③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	周囲の人の状況（人間関係、忙しさ等）に配慮して、良い方向へ向かうよう行動することができる。	○
	⑤ 規律性	相手に迷惑をかけたとき、適切な行動を取ることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスの原因を見つけて、自力で、または他人の力を借りてでも取り除くことができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20	20				10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	20	4				2	36
	技能に関する評価		10		4				2	16
	応用力に関する評価		10		4				2	16
	チームワークに関する評価		10		4				2	16
	関心・意欲に関する評価		10		4				2	16
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
学修教育目標（達成目標）1～6の達成度が80%である。					学修教育目標（達成目標）1～6の達成度が70%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	子どもの健康と保健の意義と目的 子どもの保健の内容について 健康の概念と健康指標	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	日頃から社会の動きに関心を持ち、保育・教育者の視点で考えておく。 予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第2回 /	子どもの発育・発達と保健	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	日頃から社会の動きに関心を持ち、保育・教育者の視点で考えておく。 予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第3回 /	身体の発育と保健 出生後の各時期の臓器・器官の発育（脳、骨、歯）	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	日頃から社会の動きに関心を持ち、保育・教育者の視点で考えておく。 予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第4回 /	生理機能の発達と保健 循環 呼吸 消化 排泄 免疫 体温 DVD「命の始まり」	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示 DVD 視聴	予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第5回 /	子どもの運動機能の発達	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第6回 /	子どもの精神保健	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第7回 /	子どもの生活環境と精神保健 子どもの心の健康とその課題（習癖障害 登園拒否 児童虐待等）	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第8回 /	保健年間計画	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第9回 /	子どもの生活習慣と健康	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第10回 /	清潔習慣 気になる子どもとその保護者対応	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第11回 /	子どもの事故と安全指導及び応急処置 応急処置の実際と基本的な考え方	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第12回 /	乳幼児期の子どもの発育と栄養 母子保健行政母子保健対策の現状と動向	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第13回 /	幼児期の発達と健康Ⅰ：遊びと運動発達 コメントシート、演習	講義、演習	復習：授業内容に関する小レポート	30
第14回 /	幼児期の発達と健康Ⅱ：運動発達と環境、保育者の役割 コメントシート、演習、グループワーク	講義、演習、グループワーク	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	30 30
第15回 /	幼児期の発達と健康Ⅲ・まとめ 小テスト、レポート	講義	予習：前回の復習	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	幼児と人間関係 Infants and Human Relationship	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	子どもの人間関係のひろがり理解し、それぞれの段階における身近な人との関わりの中で、どのように自立心が育ち、人とかかわる力が養われていくのかを学修する。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	人間関係 自立心 指導力	学修教育目標	幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」のねらい及び内容について、幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画、実行できる。			
-------	--------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

保育の5領域の中の「人間関係」とは、何を学ぶのかを深く理解する。乳幼児がかかわる身近な人とはどのような人か、子どもはその人たちから何を学び成長していくのかを学修する。 また、自らがかわってきた人たちが、自分の生き方にどのように影響しているのかを考察する。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「幼児理解の理論と方法」「乳幼児保育」での、発達の理解との関連があるので、乳幼児の発達を理解しておくこと。						
---	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

書名：新時代の保育双書 保育内容 人間関係（第2版） 著者名：濱名 浩 編 出版社：（株）みらい			授業内において適宜指示する。			
--	--	--	----------------	--	--	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。					
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。					
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	幼児教育・保育の場における諸問題と、その解決のための指導力を身につける。				◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	課題や問題に対して、解決のために積極的に取り組む。				○
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を分析し、目的や問題を明らかにする。				◎
	② 計画力	明らかにされた課題や問題の解決のための指導案を作成する。				△
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性	他者との意見の食い違いや、立場の違いを理解する。				△
	④ 状況把握力	課題や問題の起こる状況を把握し、行動する。				◎
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	保育者としての倫理観を身に付ける。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		50					100
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画して実行できる。</p>					<p>幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」のねらい及び内容について理解する。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	保育内容（人間関係）とは 授業参加状況による意欲の評価	講義、演習	教科書の予習、復習	30
第2回 /	人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」の基本 授業参加状況による意欲の評価	講義、演習	教科書の予習、復習	30
第3回 /	人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」のねらい 授業参加状況による意欲の評価	講義、演習	教科書の予習、復習	30
第4回 /	人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」の内容 授業参加状況による意欲の評価	講義、演習	教科書の予習、復習	30
第5回 /	乳幼児の「人との関わり」① －乳幼児の発達と人とのかかわり 授業参加状況による意欲の評価	講義、演習	教科書の予習、復習	30
第6回 /	乳幼児の「人との関わり」② －人とのかかわりと遊び、遊びの中での人とのかかわり 授業参加状況による意欲の評価	講義、演習	教科書の予習、復習	30
第7回 /	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法① －指導案の作成、教材や情報機器の研究及び活用 授業参加状況による意欲の評価	講義、演習	教科書の予習、復習	30
第8回 /	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法② －指導上の留意事項 授業参加状況による意欲の評価	講義、演習	教科書の予習、復習	30
第9回 /	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法③ －評価と改善 授業参加状況による意欲の評価	講義、演習	教科書の予習、復習	30
第10回 /	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法④ －模擬保育実践事例を通しての理解－ 授業参加状況による意欲の評価	講義、演習	教科書の予習、復習	30
第11回 /	人とのかかわりが難しい子どもへの支援 授業参加状況による意欲の評価	講義、演習	教科書の予習、復習	30
第12回 /	園、家庭、地域の生活と人とのかかわり 授業参加状況による意欲の評価	講義、演習	教科書の予習、復習	30
第13回 /	小学校の授業と保育内容（人間関係）の違い 授業参加状況による意欲の評価	講義、演習	教科書の予習、復習	30
第14回 /	これからの保育と人との関わりに関する領域 「保育内容(人間関係)」の内容 授業参加状況による意欲の評価	講義、演習	教科書の予習、復習	30
第15回 /	人生の基礎を培う乳幼児期の「保育内容（人間関係）」 授業参加状況による意欲の評価	講義、演習	教科書の予習、復習	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	幼児と環境 Infants and Environment	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	現代の子ども(幼児)を取り巻く現状について知り、子どもがどのように環境とかかわりながら育つことが望ましいかを踏まえた上で、保育・教育施設における環境構成を考える力を身に付けることを学修教育目的とする。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	子どもを取り巻く環境 幼児 保育・教育施設的环境	学修教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の子ども(幼児)を取り巻く環境について知り、子どもがどのように環境とかかわりながら育つことが望ましいかを理解できるようにする。 2. 保育・教育施設における物的環境を捉え、さまざまな環境構成を考えることができるようにする。 3. 子ども理解に基づく環境を通じた保育・教育実践計画を立てることができるようにする。 4. 保育における環境の重要性および具体的な指導方法や環境構成について説明することができるようにする。 			
-------	--------------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

さまざまな演習を通して「幼児と環境」への理解を深めることを目指す。 手づくり教材見本づくりにおいては材料の一部が自己負担となる場合があります。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

現代の子どもを取り巻く環境に関する新聞記事などに関心を持ち、目を通しておく。 子どもを取り巻く環境における自然に興味を持ち、普段から自身が目にする生き物や植物などに関心を持つようにしておく。 ボランティアなどで保育・教育施設に行くことを保育・教育施設の環境を知るという観点からも推奨する。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書		参考書・リザーブブック				
書 名：実践事例から学びを深める 保育内容・領域環境指導法 著者名：小櫃智子編著 出版社：わかば社		書 名：保育所保育指針解説 平成30年3月 著者名：厚生労働省編 出版社：フレーベル館 書 名：幼稚園教育要領解説 平成30年3月 著者名：文部科学省編 出版社：フレーベル館 書 名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成30年3月 著者名：内閣府 文部科学省 厚生労働省編 出版社：フレーベル館				

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	現代の子どもを取り巻く物的・人的環境を理解する。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	教育・保育施設的环境構成図を作成する。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの発達にかかわる身近な環境について理解する。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもを取り巻く自然環境について調べる。また、手づくり教材見本を作成する。	◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	子どもを取り巻く環境下の命ある生き物や植物などの好ましい取り扱いができる。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	子どもを取り巻く環境の課題について考える。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	子どもを取り巻く環境に積極的に関わろうとする。	○
	② 働きかけ力	子どもを取り巻く環境に自分から働きかけようと努力する。	○
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現代の子どもを取り巻く環境について課題を見つける。	◎
	② 計画力	環境を通じた保育・教育の実践における計画の重要性を理解する。	○
	③ 創造力	身近な自然物を使った保育内容を考えることができる創造性を身に付ける。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	現代の子どもを取り巻く環境について課題について発信し、共有する。	○
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	命ある生き物や植物に関する好ましい取り扱いができる。	○

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			20	30			100
評価 の 指標	知識に関する評価		50			5	5			60
	技能に関する評価					5	20			25
	応用力に関する評価					5	5			10
	チームワークに関する評価									0
	関心・意欲に関する評価					5				5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>さまざまな教材見本づくりや調べ学習に意欲的に取り組み、創造的な指導案・環境構成図を作成することができる。</p>					<p>さまざまな教材見本づくりや調べ学習、指導案作成、環境構成図作成に取り組むことができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 子どもと環境について学ぼう-幼児を取り巻く環境とは-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart1. 第1章を読んでおく。 予習：授業で学んだ幼児を取り巻く環境について自身でまとめておく。	60
第2回 /	保育内容・領域「環境」について学ぼう-保育内容の全体構成と領域「環境」-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart1. 第2章を読んでおく。 予習：授業で学んだ幼児と環境について自身でまとめておく。	60
第3回 /	保育内容・領域「環境」の展開について学ぼう-0歳・1歳以上3歳未満児・3歳以上児における領域「環境」の展開-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart1. 第3章を読んでおく。 予習：授業で学んだ保育内容・領域「環境」の展開について自身でまとめておく。	60
第4回 /	保育の過程について学ぼう-保育の過程・計画・評価-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart1. 第4章を読んでおく。 予習：授業で学んだ保育の過程について自身でまとめておく。	60
第5回 /	ものとかかわりの実践について学ぼう-0歳・1歳以上3歳未満・3歳以上児とものとかかわり-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart2. 第1章を読んでおく。 予習：授業で学んだものとかかわりの実践について自身でまとめておく。	60
第6回 /	自然とかかわりの実践について学ぼう-自然の特性や酒類・子どもと自然とかかわり-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart2. 第2章を読んでおく。 予習：授業で学んだ自然とかかわりの実践について自身でまとめておく。	60
第7回 /	数量・図形とかかわりの実践について学ぼう-子どもの生活や遊びと数量・図形-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart2. 第3章を読んでおく。 予習：授業で学んだ数量・図形とかかわりの実践について自身でまとめておく。	60
第8回 /	標識・文字とかかわりの実践について学ぼう-子どもの生活や遊びと標識・文字-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart2. 第4章を読んでおく。 予習：授業で学んだ標識・文字とかかわりの実践について自身でまとめておく。	60
第9回 /	身近な情報とかかわりの実践について学ぼう-子どもを取り巻く情報環境-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart2. 第5章を読んでおく。 予習：授業で学んだ身近な情報とかかわりの実践について自身でまとめておく。	60
第10回 /	身近な施設・地域、さまざまな文化とかかわりの実践について学ぼう-地域の施設や人々・様々な文化-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart2. 第6章を読んでおく。 予習：授業で学んだ身近な施設・地域、さまざまな文化とかかわりに関して自身でまとめておく。	60
第11回 /	行事とかかわりの実践について学ぼう-行事の意義・行事の種類-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart2. 第7章を読んでおく。 予習：授業で学んだ行事とかかわりの実践について自身でまとめておく。	60
第12回 /	遊びを通した総合的な指導の展開について学ぼう-主体的・対話的で深い学びにつながる活動実践-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart3. 第1章を読んでおく。 予習：授業で学んだ遊びを通した総合的な指導の展開について自身でまとめておく。	60
第13回 /	小学校との連携・接続の実践について学ぼう-接続期カリキュラムとその実践-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart3. 第2章を読んでおく。 予習：授業で学んだ小学校との連携・接続の実践について自身でまとめておく。	60
第14回 /	領域「環境」にかかわる現代的課題について学ぼう-ESD・多文化共生・ユニバーサルデザイン・インクルーシブと保育-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart3. 第3章を読んでおく。 予習：授業で学んだ領域「環境」にかかわる現代的課題にかかわる現代的課題について自身でまとめておく。	60
第15回 /	総括-子どもを取り巻く環境のまとめ-	講義、グループトーク、発表	予習：テキストの今まで習ったPartと章を読んでおく。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
専門教育科目 幼児教育学領域	幼児と言葉 Infants and Language	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標							
学修教育目的	言葉を通じた表現の広がりや深まりを追究し、保育者と子ども相互間の「表現と理解」について再認識する。						
	キーワード	学修教育目標	絵本 読み語り 制作 文化				保育者として子どもの発達段階の応じた豊かな表現を引き出す指導方法と技法を学び、保育の場で実践できることを目指す。
授業科目の概要及び学修上の助言							
<p>授業では、教材の選択・読み聞かせの実践法を学び、教材を作成して発表する等、実習での実践に役立つものとする。</p> <p>0歳から3歳未満児の言語発達とボディランゲージを学び、オノマトピアを強調した絵本を作り、読み聞かせをする。3歳から6歳未満児の言語発達と保育財（該当年齢のこども文化）を学び、ストーリーとセリフを強調した絵本を作り、読み語りをする。</p>							
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能							
保育内容（言葉）の理論と方法、乳幼児の言語発達に関する科目、言語表現・身体表現・造形表現に関する科目が必要です。手遊びや歌唱力が予備技能として必要です。							
教科書				参考書・リザーブブック			
なし				『保育所保育指針』厚生労働省 『幼稚園教育要領』文部科学省 『認定こども園教育要領』内閣府			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	乳幼児の言語発達状態を理解し、発達特性の差異に対応する。				○	
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	3歳未満児への読み聞かせ、3歳以上児への読み語りができる。				◎	
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	非言語表現とオノマトピアを理解する。				○	
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	ボディランゲージと言語最近接領域の支援を身につける。				○	
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	ひとり一人の乳幼児に寄り添う意味を考える。				○	
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	乳幼児の興味・関心を反映する。				△	
授業科目における社会人基礎力の育成目標							
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分でプロットを立案する。				△	
	② 働きかけ力						
	③ 実行力	3歳未満児と3歳以上児の絵本をつくる。				◎	
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力						
	② 計画力	乳幼児の興味・関心を取り入れる。				◎	
	③ 創造力	オリジナルの絵本をめざす。				△	
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	読み聞かせや読み語りのポイントを評価しあう。				○	
	② 傾聴力						
	③ 柔軟性	臨機応変にアレンジする方法を学ぶ。				△	
	④ 状況把握力	模擬保育で乳幼児の反応を想定する。				△	
	⑤ 規律性						
	⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観	① 倫理性	生命を伝える内容を目指す。				○	

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		10	20	20	5		100
評価 の 指標	知識に関する評価		9		2	4	4			19
	技能に関する評価		9		2	4	4			19
	応用力に関する評価		9		2	4	4			19
	チームワークに関する評価		9		2	4	4			19
	関心・意欲に関する評価		9		2	4	4	5		24
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
乳幼児一人ひとりの持ち味に対応した言語表現ができる。					乳幼児を意識した言語表現ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	言語表現とは	講義	子供と遊び、文化の概念を 大きくりとらえる	30
	ガイダンス 子どもの文化理解 わたしと親とのあそび文化比較			
第2回 /	保育の中で児童文化を考える（メディアの中の子ども）	講義	主人公の人生を考える	20
第3回 /	児童文化の歴史と子どもの生活	講義	子どもの生活とあそびと社会についてとらえる	30
	オンデマンドに沿って課題を作成し、提出をする。			
第4回 /	おはなしをおぼえる	講義及び演習	おはなしをもう一つ覚える。	30
	お話をおぼえて 発表しあうレポート作成			
第5回 /	乳幼児のあそびうた ～わらべうた～	講義及び演習	わらべ歌を振り返り、絵描き歌をつくる	30
	わらべ歌を知る、 絵描き歌をつくる			
第6回 /	言葉を育てる環境① おはなしに関する用語 p36	講義及び演習	様々な絵本と出会う、絵本の分類	30
	よみかかせの実際から学ぶ			
第7回 /	今日的な課題を扱った絵本	講義及び演習	テーマにあった絵本を選ぶ	20
	LGBT シングル家庭などを扱った絵本から考え、分析をすることができる			
第8回 /	絵本の分類絵本と出会う p48	講義及び演習	絵本を分類し、よみかかせの練習をする	20
	紙芝居の文化、紙縛りの活用 紙芝居づくりの準備			
第9回 /	おはなしづくり 1	演習	ものを主人公にみだてて おはなしをつくる	40
	ものに命を吹きかける			
第10回 /	おはなしづくり その2	演習	お話づくり 応用編	30
	素話の仕方の理解 身振り手振り②			
第11回 /	ペープサートづくり	実習	ペープサートの練習	40
	お話づくりワークショップ			
第12回 /	ペープサートの発表	演習	パペットを作ってみる	60
第13回 /	パペットとお話づくり②	演習	パペットとお話づくり	30
	パペットの操作とおはなしづくり			
第14回 /	折り紙人形	実習 演習	既知の絵本表現をアレンジすることについて深める	90
	表現についてまなぶ			
第15回 /	まとめ おはなしかい	演習	ふりかえり	90
	今までの学修をふりかえる			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 幼児教育学領域	幼児と造形表現 Infants and Molding Expression	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	領域「表現」のねらい及び内容、子供の表現の在り方や発達、特性について理解し、幼児教育に携わる教育者として必要な感性や創造性を豊かにする多様な表現あそびや環境構成などの基本的な知識・技能を実践的に学ぶ。
--------	--

キーワード	造形表現 乳児幼児の表現活動 実践授業、対話型授業 アクティブラーニング プレゼンテーション ペーパーアート	学修教育目標	領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 子どもの表現のあり方や描画の発達について理解する。 実制作を行った後に指導に必要な事項を振り返り記述し、現場で役立つ経験を身に付け資料を作成する。 共通のテーマで協同制作に取り組み、表現活動の共有と相互評価を行い主体的な学びを行う。 伝える技術を習得し実践を行い、発表後の考察を行い課題を見つける。
-------	---	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

個人制作、協同制作の発表と評価を行う。 個人で取り組む造形表現の実践制作とその振り返りは、成果を提出する。欠席した場合も課外時間に取り組み提出することが望ましい。
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

保育内容(表現)の理論と方法

教科書	参考書・リザーブブック
幼稚園教育要領/保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領	《感じること》からはじまる子どもの造形表現-理論と実践事例から学び、考えよう(教育情報出版)

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	領域「表現」のねらい及び内容を理解し、制作とその振り返りを通じて専門的な知識を得る。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	制作と振り返りを通じて、必要な技能を身につけ現場で活用できるようになる。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの発達について学び、発達を意識した振り返りを行い知識の確認を行う。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもの発達について学び、発達を意識した制作を行い技能の習得と発達に合わせた関わりを意識する。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	子どもの教育・支援に関する工夫について学び、専門職として使命感、責任感、倫理観の伴う行動を意識する。	△
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	制作発表後に考察と振り返りを行い、課題解決のための取り組み手法の体験と、今後の活用を図る。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	提案に対して自ら調査や想定を行い表現を行う。	◎
	② 働きかけ力	制作において発展的な提案を行う。	○
	③ 実行力	発展的な提案に対して実際に形として表す。	△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	意図を明確にして伝える内容を明らかにする。	○
	② 計画力	材料、時間、人員などの制約を守り、計画に基づき成果作品とその発表を完成させる。	○
	③ 創造力	ねらいを明確にして工夫を行い実行する。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	伝える技術を習得し発表で生かす。	◎
	② 傾聴力	他者の意見を取り入れる 他者の作品や発表をしっかりと注意深く見聞きして評価する。	○
	③ 柔軟性	異なる意見や提案に対して、利点欠点を考察して建設的な対応を行い制作に生かす。	△
	④ 状況把握力	得意分野や立場の違いを伝え合い理解を図る。	△
	⑤ 規律性	提出日、発表時間を把握して守る。	○
	⑥ ストレスコントロール力	発表を行い意図した内容を伝える体験をする。	△
4. 倫理観	① 倫理性	教諭としての責任と自覚を持ち、子どもの発達特性を理解して相手の立場に立った行動を心がける。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		10	15	15	15		100
評価 の 指標	知識に関する評価		30							30
	技能に関する評価						15	15		30
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価					15				15
	関心・意欲に関する評価		15		10					25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>領域「表現」のねらい及び内容と子どもの発達について理解し自ら調査模索を進め、造形表現実践とその振り返りにおいて必要な知識と技術の習得に加えて発展的な提案を行い現場を想定し実行に移す。</p> <p>協同制作に積極的に取り組みグループの状況を把握し意見の折衝を行い、表現活動の共有と相互評価を体験し主体的な学びを今後の課題解決に繋げる。</p>					<p>領域「表現」のねらい及び内容と子どもの発達について理解し、造形表現実践とその振り返りを行い必要な知識と技術を身につける。</p> <p>協同制作に取り組み、表現活動の共有と相互評価を体験し主体的な学びを行う。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	授業概要の説明 持ち物と授業形態、課題について 描画造形表現実践 カーボン紙絵	資料と教科書を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	領域「表現」への理解、実践のまとめと振り返り			
第2回 /	描画造形表現実践 クレパスカーボン、ひっかき絵	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第3回 /	描画造形表現実践 クレパスステンシル	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第4回 /	描画造形表現実践 こすり出し 自然と子どもの関わり	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第5回 /	工作造形表現実践 2つ折からの造形	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第6回 /	工作造形表現実践 複数折と切り抜き飾り	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第7回 /	工作造形表現実践 飛び出すカード 切1折2	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第8回 /	工作造形表現実践 ふわふわふうせん ペーパーサートの制作と実演	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第9回 /	領域「表現」の意義と描画発達分類について	資料を使用した講義形式	参考資料を用いて復習を行う	30
	領域を意識した学び			
第10回 /	伝える技術1_話し方	資料を使用した講義形式	参考資料を用いて体験の振り返りを行う	30
	ICTの活用と関わり			
第11回 /	グループワーク導入と概説 ペーパーサートについて	資料を使用した面接授業と協同制作	取り組みのテーマを明らかにする	30
	テーマ設定への取り組みと意欲			
第12回 /	アクティブ・ラーニング、グループワーク ペーパーサート グループ制作1	個別対応面接授業と協同制作	協同制作に関する調査と作業進行	30
	協同制作への取り組みと意欲			
第13回 /	アクティブ・ラーニング、グループワーク ペーパーサート グループ制作2	個別対応面接授業と協同制作	協同制作に関する調査と作業進行	30
	協同制作への取り組みと意欲			
第14回 /	制作発表と講評	発表への講評と資料を使用した講義形式	他者からの評価をふまえて表現や意図を考察する	30
	協同で表現活動を行い、意図を伝える 他者の評価を行う			
第15回 /	自己点検振り返り、学期末試験内容告知	資料を使用した講義形式	発表後の考察を行い課題を見つける 学期末試験内容に備える	30
	自己課題、他者からの評価をふまえて活動を振り返り次回へ活かす			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教育心理学 Educational Psychology	2単位	必修	講義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>教育心理学は、学校や家庭、さらに社会における人格の発達に及ぼす諸要因を心理学的に解明し、幼児・児童の心身の望ましい発達や人格形成を目指すものである。教育に関連する諸事象、教授・学習過程、評価、発達、人格・適応領域、並びに集団における人間関係や障がいのある子ども達への理解、発達心理学領域もその対象となる。また、人間そのものの本質を理解することは教育心理学の重要な課題の一つでもある。「人間とは?」「生きるとは?」これらの視点も含めて、広く教育心理学を学んでいくことを目的とする。</p>					
キーワード	教授・学習過程 評価 発達 人格 障がい 人間関係	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴が理解できる。 ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方が理解できる。 			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>教師になるために必要な心理学の理論を中心に学ぶ。本講義は教職関連科目であるため、15回の授業を通して、授業態度や物事に取り組む姿勢についても身に付けていく必要がある。「教師になる」という高い目的意識が求められる科目であることを自覚して履修すること。主体的な学びとなるよう、各自授業ノートを準備し、学びに活かしていくことが望ましい。さらに、講義形式ではあるが、ペアワークやディスカッションを取り入れながら授業を進めていくため、積極的な姿勢で授業に臨むこと。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
「教育相談の基礎Ⅰ」と関係づけて学んでいくことで学びが深くなっていきます。						
教科書			参考書・リザーブブック			
プリント配布			書名：『精選 コンパクト教育心理学』 著者名：北尾倫彦・中島実 他 出版社：北大路書房			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。					
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	教育心理学（子どもの望ましい発達や人格形成）に関する知識を身につけることができる。				◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。				○
	② 働きかけ力	集団や組織（チーム）の中でリーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）や組織を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。				△
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し現状を把握する中で、課題を抽出し問題を解決することができる。				○
	② 計画力					
	③ 創造力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探ることができる。				△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状態が発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35							35
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15						20	35
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価								25	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>子どもの望ましい発達や人格形成に関する知識を十分に理解している。 子ども・保護者への対応に役立つカウンセリングの知識や技法を十分に理解している。 各項目の理解度が80%以上である。</p>					<p>子どもの望ましい発達や人格形成に関する知識を理解している。 子ども・保護者への対応に役立つカウンセリングの知識や技法を理解している。 各項目の理解度が60%～80%である。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション - 教育心理学とは	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第2回 /	発達と教育および発達の諸理論 - ハヴィガーストとエリクソンの発達課題 -	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第3回 /	発達の諸理論 - ピアジェ・フロイト・ヴィゴツキーの理論 -	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第4回 /	心身の発達（1） 幼児期から青年期における心身の発達の概要	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第5回 /	心身の発達（2） 幼児期から青年期の運動発達、言語発達、認知発達及び社会性	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第6回 /	心身の発達（3） 自己概念の発達と学校教育。社会性や道徳性の発達と学校教育	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第7回 /	心身の発達（4） 障がいのある幼児・児童・生徒の心身の発達及び学習の過程	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第8回 /	人格・個性・適応 幼児・児童の人格形成や個性	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第9回 /	学習のメカニズムと動機づけ（1） 主体的学習を促す効果的な学習法及び教授法	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第10回 /	学習のメカニズムと動機づけ（2） 集団における人間関係、動機づけとやる気の持続	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第11回 /	学習のメカニズムと動機づけ（3） 教育評価の種類と方法	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第12回 /	学校文化 家庭での学習と学校での学習の違いと指導法	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第13回 /	カウンセリングの知識や技法を活かした児童・生徒理解（1） カウンセリングの知識と技法	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第14回 /	カウンセリングの知識や技法を活かした児童・生徒理解（2） 実践事例からみる指導法	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第15回 /	まとめ 確認と振り返り	講義・質疑応答	復習：復習：講義内容・試験範囲の振り返り	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教職概論 Introduction to Teacher Education	2単位	必修	講義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	教育職員免許法施行規則で定められた「教職に関する科目」の「教職の意義等に関する科目」に対応する教職課程の必修科目である。 ① 「教職入門（初等）」において、初等教育の教員個人の職務内容を理解し、教員として働く意欲を高めることを学修した上で、教育に関する法令を詳しく理解し、それに基づく教職のあり方（服務及び身分保障、研修等）を理解することを目的とする。 ② 学校は法令に基づいた教育活動を展開することを目的とした一つの組織体であり、「組織」と学校経営の視点に立ち、組織の中の一員としての責任感と使命感のある教職を理解することを目的とする。 ③ 教職への道に進む上で、最近の教育改革の動きを認識して、新しい学校づくりをするための教育評価の概要を理解することを目的とする。					
	キーワード	教職の意義・学校法令・教職の特性 アクティブ・ラーニング	学修教育目標	① 学校園という組織の中での責任感と使命感のある教員のあり方を理解できる。 ② 教育法令に基づき、学校経営の取り組みや学校改革の動きを理解できる。 ③ 学校づくりをするための教育評価の概要を理解できる。		

授業科目の概要及び学修上の助言

教職科目の意義や教員養成の歴史を踏まえて、教育に関する基本的な用語を理解したうえで、受講生の教職志望理由を確認する。また、新学習指導要領においても、教員養成課程におけるアクティブ・ラーニングの重要性が説明されており、受講生自身の積極性や主体性を重視したい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

新学習指導要領では、教員養成課程でも「主体的・対話的で深い学び」を求めている。また、「いじめ対策防止推進法」第18条では、「いじめ防止等のための対策が専門的知識に基づき適切に行われるよう教員の養成及び研修の充実を通じた教員の資質の向上」が明記されており、いじめ問題を含めた学校教育の課題について、受講者が主体的に問題意識を持つことが要求される。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：『教職入門 概論』改訂版 著者名：梨木 昭平 出版社：三恵社	書名：『新しい時代の教職入門』 著者名：秋田喜代美・佐藤学 出版社：有斐閣アルマ 書名：『教育キーワード137』 著者名： 出版社：時事通信社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	学校法令を含め、学校教育に関する基本知識を理解する。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	教育実習での講話を想定して、話し方や伝え方の技能を身につける。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの発達に関する基本的用語を理解する。	△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子ども同士のいじめ問題に対応できる技能を身につける。	◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	教職志望理由や教育実習に向けての抱負を発表することができる。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	実際の教育の状況を踏まえて学校現場に立ち向かう熱意を持つ。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	教職に対する主体的な日常的な興味関心を継続する。	○
	② 働きかけ力	教職に対する主体的な日常的な問題意識を継続する。	○
	③ 実行力	教職に対する主体的な日常的な興味関心を発表する。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	教育情勢に対する主体的な日常的な興味関心を継続する。	○
	② 計画力	教育情勢に対する主体的な日常的な興味関心を記録する。	◎
	③ 創造力	教育情勢に対する主体的な日常的な興味関心を文章にまとめる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	教育情勢に対する主体的な興味関心を他者と交換する。	◎
	④ 状況把握力	教育情勢に対する主体的な興味関心を整理する。	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	自分自身の道徳的教育観を確認する。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45	20	5	20		10		100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	15	5					55
	技能に関する評価			5		5				10
	応用力に関する評価		10			15				25
	チームワークに関する評価							5		5
	関心・意欲に関する評価							5		5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>教育公務員特例法等を踏まえた教職の特性、校務分掌を中心とした教職に関する用語、教務、生徒指導、保健指導、キャリア教育等の教育用語、学校教育法における校長、教頭等の職務がよく理解され明確な教職志望理由を公表できる。</p>					<p>教育公務員特例法等を踏まえた教職の特性、校務分掌を中心とした教職に関する用語、教務、生徒指導、保健指導、キャリア教育等の教育用語、学校教育法における校長、教頭等の職務がおおむね理解され教職志望理由を公表できる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	教育法令について（1） 教育法令の範囲と体系、日本国憲法	講義	<復習>シラバスを読み、本授業の内容と目的を確認 授業用ノートを中心に講義で得た知識を確認	45
	教育法令の範囲と体系の理解度			
第2回 /	教育法令について（2） 教育基本法、学校教育法、教員免許法、地教行法 等	講義	<予習>本授業を履修した理由を確認 <復習>「教員に求められる資質」について自分の考えをまとめる	45
	法令を踏まえての学校の特性の理解度			45
第3回 /	教員の服務と身分保障（1） ー教育公務員としての教員ー 法令にもとづく教育公務員のあり方	講義	<予習>「教員の服務」について考える <復習>「教員に求められる資質」について発表できる準備をする	45
	学校教育に関わる制度の理解度			45
第4回 /	教員の服務と身分保障（2） ー教育公務員としての教員ー 任用と勤務条件等	講義	<予習>「教員の身分保障」について調べる <復習>「教員の服務」について教育法令と関連づけて考える	45
	教育公務員の特性の理解度			90
第5回 /	教員の服務と身分保障（3） ー教育公務員としての教員ー 服務	講義	<予習>教員の身分保障の歴史を調べる <復習>教育公務員特例法についてまとめる	45
	教育公務員の特性の理解度			45
第6回 /	教員の資質と能力（1） 生徒の求める教師像	講義	<予習>教員の資質能力の形成を調べる <復習>教育公務員の特性をまとめる	45
	教職の特性を踏まえての志望理由の説得力			45
第7回 /	教員の資質と能力（2） 保護者から見た望ましい教員	講義	<予習>校務分掌について調べる <復習>小テスト準備	45
	経験・年齢による職務変化の理解度			45
第8回 /	教員の資質と能力（3） 同僚の求める望ましい教員の姿	講義	<予習>第7回までの内容を確認する <復習>小テスト	45
	校務分掌関係の用語の理解度			45
第9回 /	教員の資質と能力（4） 教育行政機関の求める教員像	講義	<予習>校長について調べる <復習>分掌の任務について確認する	45
	校務分掌の内容の理解度			45
第10回 /	教員の資質能力の形成と研修 法令研修・教員のキャリアステージ	講義	<予習>学校経営・学校評価について調べる <復習>校長の任務を確認する	45
	カリキュラムマネジメント・日本の学校教育の特色の理解度			45
第11回 /	学校組織 校務分掌組織、職員会議、主任制度等	講義	<予習>教育改革について調べる <復習>教職の意義レポートの構想	45
	学校評価制度の理解度			45
第12回 /	学校経営について 校長のリーダーシップ、学校経営目標・学校教育目標等	講義	<予習>21世紀の改革について調べる <復習>従来の教育改革を確認	45
	最新の教育情勢の理解度			90
第13回 /	学校評価について 学校評価の目的・意義・役割・法制について	講義	<予習>採用試験について調べる <復習>最近の教育改革を確認	45
	最新の学習指導要領の理解度			45
第14回 /	まとめ 確認と振り返り	講義	<予習>これまでの講義内容を確認 <復習>ポートフォリオを完成	45
	採用試験における時事問題領域の理解度			45
第15回 /	全体のまとめ	講義	授業全体の総まとめ・テスト	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教育学概論 Introduction to Education	2単位	必修	講義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	① 教育という現象の全体像を把握し、教育（特に初等教育）に関する理念と実際をおおまかに理解することを目的とする。 ② 日本及び世界の教育の歴史と発展を理解し、現代社会の変化を把握して、教育の思想について理解することを目的とする。					
	キーワード	教育学の概念、教育の本質、教育制度、教育課題	学修教育目標	① 教育学の基礎理論を理解できる。 ② 社会の変化に伴いながら、変化してきた学校園の歴史や授業方法、教育課程、学力観を理解できる。 ③ 日本及び世界の教育の歴史と思想を理解できる。		
授業科目の概要及び学修上の助言						
教育学の概念、教育の本質、教育制度、教育課題を理解し、自身の教育の意義を確立するために、以下の内容で授業を進める。なお、毎授業終了前に学修した内容の要約、感想、疑問点などのワーク・シートに記入して提出する。ワークシートは次回の授業の最初に返却する。						
1. 教育学の概念 2. 教育の本質 3. 教育制度 4. 教育課題						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
「教職入門」「教育課程論」。予習・復習をしっかりと行うこと。						
教科書				参考書・リザーブブック		
書名：『教育原理』 著者名：坂越正樹・湯川秀樹・湯川嘉津美・神長美津子編著 出版社：光生館				なし		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	教諭・保育士として必要な専門知識について理解できる。				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの発達に関する知識、教師の職務について基本事項を理解できる。				○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観、望ましい教師像について、理解できる。				○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	真摯に学修に取り組み、教育現場などでの基本的な課題を理解できる。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。				◎
	② 働きかけ力	授業中の私語を注意することができる。				○
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	課題解決が難しい事例研究において、新しい解決策を見つけることができる。				◎
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べた事柄について、十分に説明できる。				◎
	② 傾聴力	他の人の意見をしっかりと聴き、そのことについてコメントができる。				◎
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性	授業に遅れず出席できる。				○
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を体現できる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30				20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50							50
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				30					30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								20	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
教育学の全般にわたる知識を獲得するとともに、それらを有機的に関連させて、現代の教育問題を分析し、課題を指摘することができる(80%以上)。					教育学の全般にわたる知識を獲得するとともに、現代の教育問題を指摘することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	教授・陶冶・訓育とは 「教育」の語源：養育から教育へ（教育の基本的概念）	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【復習】 ・本講義の目標を理解し、学習計画をたてる。 ・配布資料を熟読し、教育学概論(初等)とは何かを理解する。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第2回 ／	教育とは・・・教育の語義 教育の目的を考える(教育の基本的概念)	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第3回 ／	社会と教育（教育の基本的概念）	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第4回 ／	教育の必要性と可能性・・・人間と環境、野生児の研究 (教育に関する様々な思想)	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第5回 ／	第1章 教育とは・・・【プロジェクト学習】（教育に関する歴史） 教育の語義 社会と教育 人間と環境 野生児の研究 動物学から見た人間の特殊性	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第6回 ／	動物学から見た人間の特殊性（教育に関する様々な思想）	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第7回 ／	第6章 近代学校教育の成立と展開・・・【プロジェクト学習】 (教育に関する歴史) 「学制」の実施 「諸学校令」の制定 「教育勅語」の制定 小学校令の改正 と義務教育制度の確立戦後の教育改革	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第8回 ／	近代教育の成立（教育に関する歴史）	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第9回 ／	教育的関係における教えることと学ぶこと	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第10回 ／	教えることの復権 (1)学習と教育 (2)障壁としての教育者	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第11回 ／	教育と福祉 子どもの権利としての教育と福祉 子どもの権利条約	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第12回 ／	生涯学習社会と教育 生涯学習とは	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第13回 ／	第9章 教育の実践・・・【プロジェクト学習】 教育基本法、学校教育法、「生きる力」の考え方、教え方や学び方の質と 「資質・能力の育成」、幼稚園教育における育みたい資質・能力、教育課程の 基準	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第14回 ／	第10章 特別支援教育・・・【プロジェクト学習】 特別支援教育と障害について 特殊教育から特別支援教育へ 特別支援教育に変わったきっかけ 幼児期の特別支援教育 特別支援教育の今	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第15回 ／	まとめ:教育とは	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
試験	最終試験あり (テスト配点 50 点満点、授業態度点 50 点満点 の 合計 100 点満点 で成績判定をすること。※第一回目の授業は最終試験の注意事項も実施する)			
注意	【プロジェクト学習】 ・・・この学習時には必ず教科書が必要であるため、持参することを忘れないように(忘れると学習ができなくなるため大幅な減点となる)			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教育史 History of Education	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	歴史上に現れた様々な教育思想、(特に初等教育)、教育制度について通史的に概観する。教員採用試験の教職教養分野において、教育史に関する試験はある程度の割合を占めている。試験対策を視野に入れた授業を行う。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	西洋教育史 日本教育史	学修教育目標	① 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付ける。 ② 多様な教育の理念と関わり、過去から現在に至るまでの教育及び学校の変遷を理解できる。 ③ 教育に関する思想を理解できる。			
-------	----------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

教材をPDF等の形式で配信するので、インターネット接続可能なノートPC、iPad、スマートフォン等を準備しておくこと。大きな画面のノートPCやタブレットをすすめる。西洋古代から現代にいたるまでの主要な教育思想家をとりあげ、その教育思想(特に初等教育)を概観する。また日本の教育史も取り上げる。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

教職の専門科目すべてに関連する。						
------------------	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブドブック
なし	書名：『西洋の教育の歴史と思想』 著者名：山崎英則・徳本達夫 編 出版社：ミネルヴァ書房 書名：『近現代教育史』 著者名：柴田義松・斉藤利彦 編 出版社：学文社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	歴史上の重要な教育思想に関する知識を身につけることができる。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	集団や組織の中でリーダーシップを発揮し、他者や組織を動かしながら目標達成に向けて働きかけることができる。	△
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとすることができる。	△
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	様々な知識・技能等を組み合わせ、問題の解決に対して新たな方法を考えることができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引きだすことができる。	○
	③ 柔軟性	自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し、他人の意見やアドバイスを受け入れ、自己向上につなげようとする事ができる。	○
	④ 状況把握力	全体に及ぼす影響を意識し、自分の置かれている環境や状況を把握し、どのような役割が求められるのかを理解する(自分の役割を理解する)ことができる。	○
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じる状況が生じた時、原因に対して適切な対処方法を理解し、ポジティブ(積極的)に行動することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41		30				29	100
評価 の 指標	知識に関する評価		11		10				4	25
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15		10				5	30
	チームワークに関する評価								10	10
	関心・意欲に関する評価		15		10				10	35
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
授業で学んだ教育史の様々な知識を、教育実習等で授業を行う際あるいは指導案を作成するときに想起し、応用して、使うことができる。					教育史の様々な知識を身につけて、教員採用試験の勉強に役立てることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 1. 古代ギリシアの教育 (1) アテネとスパルタの教育	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第2回 /	(2) ソクラテスの教育思想	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第3回 /	2. 古代ローマの教育 3. 中世キリスト教社会の教育	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第4回 /	4. 近世の教育思想 (1) コメニウスの教育思想①	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第5回 /	(1) コメニウスの教育思想②	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第6回 /	(2) ロックの教育思想①	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第7回 /	(2) ロックの教育思想②	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第8回 /	(3) ルソーの教育思想①	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第9回 /	(3) ルソーの教育思想②	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第10回 /	5. 近代の教育思想 (1) ペスタロッチの教育思想	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第11回 /	(2) フレーベルの教育思想	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第12回 /	(3) ヘルバルトの教育思想	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第13回 /	6. 現代の教育思想 (1) デューイの教育思想 (2) その他の教育思想家	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第14回 /	7. 日本の教育史①	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第15回 /	8. 日本の教育史②	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教育社会学 Sociology of Education	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	教育者として必要な、教育に対する社会的な見方・とらえ方を学ぶ。子どもが初等教育を通して社会の中でどのように位置付けていくのかを学ぶ。また、近年の教育問題に焦点を当て、社会学的手法で分析・考察していくことにより理解する。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	社会学的手法 批判的思考力 教育問題 エビデンス	学修教育目標	(1) 社会構造の中で教育をとらえ、その機能が理解できる。 (2) 教育の場における様々な問題を社会学的手法で分析・考察し、理解できる。 (3) 学校と地域の連携について、その意義や協働の仕方を事例に基づき理解できる。 (4) 学校保健安全法に基づく学校での危機とその管理について理解できる。			
-------	-----------------------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

この授業では、「教育」「社会」「学校」の関連について知識を得るというよりも、素朴な疑問をもとにその社会的背景や影響について考えることを重視したい(考える訓練)。そのために、テキストを資料にして各グループで協力して考え、提案と発表を行い、全体のディスカッションにより考えを深めたい。緊張感を持って、真面目に授業に向かうことが必要。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

本講義は、教育学に関わる専門科目である。すでに教育学関連の基礎的な関連科目、例えば「教職入門」「教育学概論」「教育心理学」といった諸科目を履修している。将来自分が教えるかもしれない子どもたちに恥じぬよう、真摯な態度で、真面目に授業に向かうこと。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
書名：『現代社会と教育』 著者名：汐見稔幸 監修 出版社：ミネルヴァ書房	有本 章他 『教育社会学概論』 ミネルヴァ社 若槻健・西田芳正編 『教育社会学への招待』 大阪大学出版会 荻谷剛彦他 『教育の社会学(新版)』 有斐閣 文部科学省 『学校安全(最新版)』 渡邊正樹編著 『学校安全と危機管理 改訂版』

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標(※1)	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	教育をめぐる必要な専門知識を理解できる。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	教育をめぐる必要な技能を理解できる。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	教育をめぐる諸問題の理解や考察を深めることができる。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	真摯に学修に取り組み、教育現場などで課題解決のための仕組みを理解できる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標(※2)	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中に自ら進んで質問することができる。	◎
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	プレゼンテーションのテーマを発表時の情報伝達内容を意識して決定することができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べた事柄について十分に説明できる。	◎
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントできる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を体現できる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		5	20			30	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35							35
	技能に関する評価		10			5			10	25
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価				5	5			20	30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育者として必要な、教育に対する社会学的な見方・とらえ方を十分理解している(80%以上)。 ・必要な知識の理解と知識等を活用した実践力を十分つける(80%以上)ことができる。 					<ul style="list-style-type: none"> ・教育者として必要な、教育に対する社会学的な見方・とらえ方を理解している。 ・必要な知識の理解と知識等を活用した実践力をつけることができる。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	オリエンテーション 教育社会学とは、社会学的方法について	講義・質疑応答 グループ編成	【復習】 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			
第2回 ／	社会の中の教育（1） 教育環境としての地域社会の役割と変化	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教育環境としての地域社会の役割と変化」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第3回 ／	社会の中の教育（2） 学校のある社会	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学校のある社会」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第4回 ／	社会としての学校（1） 子どもの社会学、教室	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学校教育の発展過程と現状」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第5回 ／	社会としての学校（2） 教育問題、教師の理想と現実	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教育改革」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第6回 ／	学校と地域の連携の歴史	講義・質疑応答 グループ討議	【予習】 教科書「子どもの社会学」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第7回 ／	学校と地域の連携による効果 子ども、学校（教員）、地域住民にとっての効果	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教室」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第8回 ／	学校と地域の連携の目指す姿	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教育問題」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第9回 ／	コーディネートに必要な基礎的な知識	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教師の理想と現実」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第10回 ／	学校安全・危機管理の概要 学校保健安全法等	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学力問題(学力低下と学力格差)」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第11回 ／	子どもを取り巻く危険と事件・事故	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「地域社会と学校」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第12回 ／	学校安全・危機管理の進め方	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学力向上と格差是正のための教育」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第13回 ／	体育・スポーツ活動と負傷・障害	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「ジェンダーと教育」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第14回 ／	学校安全・危機管理における教職員の役割	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学歴社会」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第15回 ／	まとめ 確認と振り返り	講義・質疑応答 グループ討議	【予習】 教科書「社会構造と教育」を読む。 【復習】 ・グループ討議を振り返り、内容を整理する。 ・これまでの講義内容を総復習する。 ・ポートフォリオを完成させる。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教育課程論 Curriculum Theory	2単位	必修	講義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>初等教育における教育課程の重要性を理解し、学校・園での実際の運用や教育行政の法制上、実務上の関与について学修する。 本学修を通して、教育課程編成全体にわたる視野を持ち、教育課程編成に取り組むことができる小学校教師としての基礎力を養成する。</p>
--------	--

キーワード	<p>教育課程の編成方法、指導計画、教師としての使命感・倫理観</p>	学修教育目標	<p>教育課程の原理、編成の方法を学び、幼稚園教育・小学校教育を推進するために必要な、実践に即した教育課程編成に関わる基礎的な素養を身につける。 現行『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』の「領域」「目標」「内容」がわかり、幼稚園教諭・小学校教諭として、教育課程作成に取り組もうとする意欲を持つことができる。 学習指導要領等に基づいたカリキュラム・マネジメントの意義や重要性、カリキュラム評価を理解することができる。</p>
-------	-------------------------------------	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>教育課程、カリキュラムとは、学校の教育内容の組織を指し示す。それは望ましい学習が展開されるように配慮して作成される学校の教育内容の組織のことである。本講義では、教育課程とは何か、幼稚園と小学校の教育課程はどのように編成されるか、その編成の違いを明らかにしながら、子ども理解に基づいた教育課程はどのような特徴をもつか等について、基本的な理解ができるようになることを目指す。教育現場での経験に基づき、小学校教師に求められる子ども理解と教材研究の重要性を認識する。</p>
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「教職入門」「教育学概論」の理解につながる。

教科書

参考書・リザーブブック

なし 授業開始時に学修内容に関するワークシートを配付する。	なし
-------------------------------	----

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	『幼稚園教育要領』、『小学校学習指導要領』及びそれらの解説書の主な内容を知り、カリキュラム・デザインの違いを説明できる。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	子どもの実態や地域の特性を生かした教育・保育内容の具体例を指導案として作成することができる。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの発達に関するピアジェやヴィゴツキー等の代表的な理論を知って、子ども一人ひとりの理解に活かすことができる。	△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもの発達特性や個人差を理解し、自発的な学びや育ちを促すための指導・援助ができる。	△
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	小学校教師としての使命感、責任感、倫理観を持って実習や学校支援ボランティアなどに臨むことができる。	△
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	指導計画を作成し、自らの保育・授業の振り返りと評価に基づき、指導力の改善に努める。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	知識や理解を深めるため、授業の予習や復習を積極的に行っている。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自らの学びを振り返り、知識や理解の不十分な点に気づくことができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	集団活動において自らの役割を見出し、積極的に活動に参加することができる。	◎
	② 傾聴力	チーム内の多様な意見に耳を傾け、チームをまとめることができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	日頃から社会生活上の基本的なルールを守っている。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	教師としての使命感を持って教育実習や学校支援ボランティアに臨んでいる。	◎

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30				20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50							50
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				30					30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								20	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>教育課程とは何か、小学校や幼稚園の教育課程はどのように編成されるか、その違いはどこにあるのか、わが国の教育課程は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小学校と幼稚園の教育課程はどのような特徴をもつか等について理解し、説明することができる。</p>					<p>教育課程の意義と目的について理解し、教育課程及び学習指導要領編成の内容について説明することができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	教育課程論オリエンテーション—教育課程とは—	講義・グループワーク・質疑応答	【復習】 ・本講義の目標を理解し、学習計画をたてる。 ・配布資料を熟読し、教育課程論(初等)とは何かを理解する。	30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第2回 ／	「教育課程」の定義・公教育の原理、教育基本法 ①要約の学習	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する	30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			30
第3回 ／	公教育制度を構成している教育関係法規	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			30
第4回 ／	学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け ②要約の学習	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			30
第5回 ／	学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			30
第6回 ／	学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			30
第7回 ／	教育課程が社会において果たしている役割や機能	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			30
第8回 ／	教育課程編成の基本原理	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			30
第9回 ／	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			30
第10回 ／	単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童及び生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画の検討	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			30
第11回 ／	学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			30
第12回 ／	カリキュラム評価の基礎的な考え方	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			30
第13回 ／	教育課程の基本構造、教育課程編成の主体 ③要約の学習	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			30
第14回 ／	学力と教育評価	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			30
第15回 ／	まとめ 教育課程の目指すもの・教師としてあるべきもの	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			30
試験	最終試験あり （テスト配点50点満点、授業態度点50点満点の合計100点満点で成績判定をする）			
注意	【①.②.③ 要約の学習】 … この学習時には長文を要約する力が必要である。…この学習は1年次(教育学概論)で実施した「プロジェクト学習」の応用編となる。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教育方法論 Methodology of Education	1単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	本科目は授業を展開する上で技術的な手法や原理を学ぶものであり、歴史的背景を踏まえて、今日の教育システムが抱える問題点（特に初等教育）を考察するものである。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	教育方法の歴史及び理論	学修教育目標	社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、技術に関する基礎的な知識・技術を身に付ける。			
-------	-------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

教育には、あらゆる分野の知識や知恵が役立つことを知ってほしい。						
---------------------------------	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「教育方法論Ⅱ（初等）」と関連する。						
--------------------	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

書名：『教育方法論【改訂版】』 著者名：谷田貝公昭・林邦雄・成田國英編 出版社：一藝社	書名：『小学校学習指導要領解説・総則編（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：東洋館出版社
---	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	教育の本質を理解する。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	教育の目的と手段の関係を理解する。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	年齢ごと、学年ごとの子どもの特性を理解する。	△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	学習指導案作成などを通して発達段階に応じた対応を理解する。	△
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	教師としてあるべき姿を追求する。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	教育実習を想定しながら、実践への活用法を考える。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	教員志望者として求められるものをつかめるようにする。	◎
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。	○
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	教育における課題を見つけ、その難題に向き合うための基礎を養う。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	他者の話をよく聴き、様々な資料にふれることで多様な状況、相手の気持ちを理解する。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	◎
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	多様な価値観を知り、判断し、行動できるようにする。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15	15			5	10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	15	5					55
	技能に関する評価				10					10
	応用力に関する評価		20							20
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価							5	5	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子どもの発達段階に応じた指導を、意図的、計画的に実践できる。					子どもの年齢、学年に応じた学習指導や生徒指導、諸活動を構想できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 教育方法論の意義	講義・質疑応答	【復習】 シラバス・テキストを確認する	45
第2回 /	学びの本質 学びの構造と様態	講義・質疑応答	【復習】 ・配布資料をよく読み直しておく ・教育の目的を確認しておく	45
第3回 /	教育方法の基礎理論 教育方法の歴史の変遷の概観	講義・質疑応答	【復習】 配布資料とテキストを読み直しておく	45
第4回 /	教育評価 教育評価の機能、教育評価の概観	講義・質疑応答 ディスカッション	【予習】 小・中・高校時の通知表の形式を想起しておく 【復習】 配布資料とテキストを読み直しておく	45
第5回 /	教育方法のあり方 －主体的、対話的な学習を引き出す教育方法	講義・質疑応答 ディスカッション	【復習】 配布資料とテキストを読み直しておく	45
第6回 /	学習指導案の作成と模擬授業 －学習指導、教育方法等を踏まえた学習指導案の作成	講義・質疑応答 ディスカッション	【予習】 「学習指導案」作成について考えておく 【復習】 「学習指導案」作成	45
第7回 /	対象となる児童及び生徒等への理解 －授業等を構成する基本的な要素	講義・質疑応答	【予習】 自分が小・中学校等で過ごした学級を想起しておく	45
第8回 /	まとめ 確認と振り返り	講義・質疑応答	【復習】 これまでの内容を確認し、自分なりの教育観を想起する	45

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教育方法論（初等） Methodology of Education (Elementary)	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	幼児期にふさわしい教育の方法についての理解を深めながら、子どもたち一人一人の主体的な育ちを支える具体的な援助や指導のあり方について理論的・実践的に学ぶ。					
キーワード	幼児教育 小学校教育 情報機器の活用	学修教育目標	社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技術を身に付ける。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
教育には、あらゆる分野の知識や知恵が役立つことを知ってほしい。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
「教育方法論Ⅰ（初等）」と関連する。						
教科書			参考書・リザーブブック			
追って指示する。			書 名：『幼稚園教育要領（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：教育出版			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	教育の本質を理解する。				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	教育の目的と手段の関係を理解する。				◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	年齢ごと、学年ごとの子どもの特性を理解する。				△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	学習指導案作成などを通して発達段階に応じた対応を理解する。				△
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	教師としてあるべき姿を追求する。				○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	教育実習を想定しながら、実践への活用法を考える。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	教員志望者として求められるものをつかめるようにする。				◎
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。				○
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	教育における課題を見つけ、その難題に向き合うための基礎を養う。				◎
	② 計画力					
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力	他者の話をよく聴き、様々な資料にふれることで多様な状況、相手の気持ちを理解する。				◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。				◎
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。				○
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	多様な価値観を知り、判断し、行動できるようにする。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15	15			5	10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	15	5					55
	技能に関する評価				10					10
	応用力に関する評価		20							20
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価							5	5	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子どもの発達段階に応じた指導を、意図的、計画的に実践でき、教育・保育現場で起こりうるあらゆる事態に対処できる。					子どもの年齢、学年に応じた学習指導や生徒指導、諸活動を想定でき、教育・保育現場で起こりうる事態に備えられる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	幼児教育方法の基礎 －幼児期の教育にふさわしい方法	講義・質疑応答	【復習】 配布資料を確認する	45
第2回 /	幼児教育方法の系譜	講義・質疑応答	【復習】 配布資料を読み直す	45
第3回 /	子どもの発達と幼児教育 －3～5歳児の発達特性と教育	講義・質疑応答	【復習】 配布資料を読み直す	45
第4回 /	環境構成と幼児教育 －子どもの主体性と環境、物的環境(情報環境を含む)と人的環境	講義・質疑応答	【復習】 配布資料を読み直す	45
第5回 /	遊びと学習の関係 －なぜ遊びが学習につながるのか、遊びの意義と特徴	講義・質疑応答	【復習】 ・配布資料を読み直す ・遊びの教育的意義を考える	45
第6回 /	遊びの指導 －幼稚園教育要領における遊びの位置づけ、遊びの種類とその展開	講義・質疑応答、ディスカッション	【復習】 配布資料を読み直す	45
第7回 /	生活の指導 －基本的生活習慣の自立に向けた指導、道徳性の芽生えを培う指導	講義・質疑応答	【予習】 就学前に身につけておきたい基本的生活習慣について想起する 【復習】 配布資料を読み直す	45
第8回 /	総合的な活動の指導と展開 －遊びと活動、行事の進め方	講義・質疑応答、ディスカッション	【復習】 配布資料を読み直す	45
第9回 /	幼児教育における様々な形態 －個人の活動とグループ活動、一斉保育と自由保育、チーム保育	講義・質疑応答、ディスカッション	【復習】 配布資料を読み直す	45
第10回 /	個と集団のかかわり	講義・質疑応答、ディスカッション	【復習】 配布資料を読み直す	45
第11回 /	知的好奇心の育成 －知的好奇心を育む基盤としての安定感、知的好奇心を育む保育方法と技術（情報技術を含む）	講義・質疑応答、ディスカッション	【復習】 配布資料を読み直す	45
第12回 /	幼児教育と小学校教育の連携 －教科の学びの萌芽に満ちた遊び	講義・質疑応答、ディスカッション	【予習】 就学前・後の子どもの違いを想起する 【復習】 配布資料を読み直す	45
第13回 /	情報機器とその活用① －電子紙芝居の利用 －マルチメディア（音楽・映像）教材、双方向通信の活用 －インターネット(映像コンテンツ)、ソフト等を利用した教材の使用	講義・質疑応答	【復習】 ・配布資料を読み直す ・これまでの内容を確認しておく	45
第14回 /	情報機器とその活用② －電子紙芝居の利用 －マルチメディア（音楽・映像）教材、双方向通信の活用 －インターネット(映像コンテンツ)、ソフト等を利用した教材の使用	講義・質疑応答	【復習】 ・配布資料を読み直す ・これまでの内容を確認しておく	45
第15回 /	まとめ 確認と振り返り	講義・質疑応答	【復習】 ・配布資料を読み直す ・これまでの内容を確認しておく	45

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教育における ICT 活用 ICT Utilization in The Education	1 単位	選 択	講 義	2 年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	情報通信技術を効果的に活用した学習指導や、校務の推進の在り方、並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	情報通信技術、教育の情報化、情報活用能力、デジタル教材、個別最適な学び、協働的な学び、教育データ、情報モラル、校務支援システム、ICT 支援員、教育情報セキュリティ、遠隔・オンライン教育	学修教育目標	情報通信技術の活用の意義と理論を理解し、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解するとともに、児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。			
-------	---	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

情報通信技術を活用した教育の「理論」と、各学校でどのように実現するかを説明する「方法」をバランスよく取り上げる。また、ICT を活用する授業や校務がイメージできるように、可能な限り実践例を示しながらわかりやすく説明する。また、本科目の授業においても、「TGU e-Learning」を使いながら情報通信技術を活用した授業を展開していき、児童生徒「1 人 1 台端末」環境での授業や教育支援を構想し、実施の準備ができるようにする。グループワークや探究的な学習を取り入れることから、能動的に学修する態度を求める。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

各学部で開講されている情報通信技術関連の科目を積極的に学修し、自ら情報通信技術を身に付けて教育に活用できるように準備しておくこと。また、教育の基礎的理解に関する科目の教育学概論、教職概論、教育心理学、および教育方法論で学習する内容に関する知識を持つことが望ましい。

教科書

参考書・リザーブブック

書 名：情報通信技術を活用した教育の理論および方法 著者名：西野和典編著 出版社：実教出版	書 名：教育の情報化に関する手引（追補版）（令和 2 年 6 月） 著者名：文部科学省 出版社：文部科学省
---	---

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	ICT を授業や校務等に活用して教育効果を高めることができる。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの情報活用能力育成に関する知識を身につける。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもの情報活用能力育成に関する技能を身につける。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	ICT を活用して教育現場での課題解決に資することができる。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	ICT を活用したの教育について、自ら考え、工夫して教育への導入を構想することができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	ICT を活用することで可能になる教育の課題を見つけ、解決に向けて ICT の活用について考えることができる。	◎
	② 計画力	ICT を活用した教育を実施するまでの計画を適切に立てることができる。	△
	③ 創造力	ICT の効果的な活用について構想することができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	構想した ICT を活用した教育内容について、わかりやすく説明することができる。	△
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	教員や他の学生からの助言を受け入れ、学習を改善することができる。	△
	④ 状況把握力	児童生徒の状況について把握し、適切に ICT の教育活用を考えることができる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	自ら適切に情報を取り扱うとともに、情報モラルに関する教育を推進するための基礎的な知識を持っている。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20			30		100
評価 の 指 標	知識に関する評価		30		10			10		50
	技能に関する評価				10			10		20
	応用力に関する評価		10							10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10					10		20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>情報通信技術の活用の意義と理論に関して深く理解し、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について体系的に理解するとともに、児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身に付け、授業に応用できる準備ができている。 各学修項目の達成度が80%以上である。</p>					<p>情報通信技術の活用の意義と理論を理解し、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解するとともに、児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。 各学修項目の達成度が60%～80%未満である。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	教育の情報化 －情報社会に求められる能力、ICT活用の意義と在り方、教育の情報化の概要 ポートフォリオを入力する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	第1回の授業で ・学修した内容の復習	復習 30
第2回 /	情報活用能力の育成 －情報活用能力の定義、情報活用能力の内容と指導、児童のICT活用の指導法 ポートフォリオを入力する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	第2回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
第3回 /	ICTを活用した教材開発と指導法 －ICTを活用した学習指導、ICTを効果的に活用した指導事例、ICTを活用した教材開発 ポートフォリオを入力する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。学習者が指導事例を構想し、他学習者と内容を交換し、確認する。	第3回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
第4回 /	教育データを活用した評価 －教育データの学習評価と指導への活用、教育情報セキュリティの重要性 ポートフォリオを入力する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	第4回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
第5回 /	情報モラル教育 －情報活用能力としての情報モラル、情報モラル教育のための必要な知識と連携、各教科での情報モラル教育 ポートフォリオを入力する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。学習者が情報モラル教育の指導事例を構想し、他学習者と内容を交換し、確認する。	第5回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
第6回 /	ICTを活用した特別支援教育 －特別支援教育でのICT活用、特別支援教育でのICT活用の留意点 ポートフォリオを入力する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	第6回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
第7回 /	校務の情報化とICT環境の整備 －統合型校務支援システム、校務への活用と推進、ICT環境の整備、外部機関との連携 ポートフォリオを入力する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。学習者がICT環境の整備について、他学習者と情報交換する。	第7回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
第8回 /	遠隔・オンライン教育 －遠隔・オンライン教育の意義と分類、遠隔教育システムとオンライン学習での学び ポートフォリオを入力する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。学習者が実際にオンラインでの教育活動を体験する。	第8回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	特別支援教育 Special Needs Education	1単位	必修	講義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>通常の学級にも在籍をしている発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害等により、特別の支援を必要としている幼児、児童が授業において学習活動に参加をしている実感や達成感を持ちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるようにそれぞれの困難さや特性、発達のみちすじなどについて理解を深め、関係機関や他の教員と連絡、連携をとり、組織的に支援をしていくことのできる知識、技術、支方法について理解をし、実践ができるようにする。</p>					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	発達障害 特別の教育的ニーズ 特別支援教育コーディネーター 発達のみちすじ	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童に対する支援の方法について例示をすることができる。 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけを理解している。 不登校や社会的マイノリティ等、障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童の把握や支援の意義と方法を理解している。 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の支援計画及び、個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。 特別支援教育コーディネーターの役割と連携の重要性について理解をしている。 			
-------	--	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>特別支援教育の現状を概説し、発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害のある幼児、児童及び生徒が、発達の観点からの教育的支援をなぜ必要とするのかを様々な角度から論じる。 これまでの特殊教育と特別支援教育の違いを、歴史的背景を概観しながら理解するとともに、「障害」のある幼児、児童及び生徒の支援を充実させていくために、「障害」についての基本的な知識、支援方法について習得する。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし						
------	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
学研「教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト：気付き、工夫して、つなげる」	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	特別な教育的ニーズのある児童について理解し、支援の意義と方法を学びながら、教諭としての使命感や責任感を学ぶ。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分の強み・弱みを把握するとともに、支援の必要な児童の強み・弱みを把握し、主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	学校現場で起きている事象について認識し、情報収集や分析ができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	グループワークやペアワークで、課題の内容を把握し話そうとすることを順序立てて伝えることができる。	○
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	グループワークやペアワークで、意見の異なる相手の背景や事情を理解することができる。	○
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	児童の意思決定や権利を守りながら、支援をすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			20			30	100
評価 の 指標	知識に関する評価		45						20	65
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価		5			10				15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>特別支援教育の現状を把握し、その意義を充分理解している。 特別な教育的ニーズのある児童の学習上又は生活上の困難とその対応を充分理解している。 特別支援教育に対して自分の意見を持ち、相手に伝わるように表現することができる。 各項目の理解度が、80%以上である。</p>					<p>特別支援教育の現状を把握し、その意義を理解している。 特別な教育的ニーズのある児童の学習上又は生活上の困難とその対応を理解している。 特別支援教育に対して自分の意見を持ち、表現することができる。 各項目の理解度が、60～80%である。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	特別支援教育とは・特別支援教育の歴史・制度 （発達障害支援法を軸に）	講義、演習	復習：授業内容に関するコメント用シート	15
第2回 /	特別なニーズのある子どもたちの地域生活支援 －学校・家庭・地域・関係機関との連携による支援	講義、グループワーク	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15
第3回 /	発達障害児・自閉スペクトラム障害児の理解と支援 －知的障害児の理解と支援	講義、グループワーク	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15
第4回 /	肢体不自由児、病弱児の理解と支援 －視覚障害、聴覚障害児の理解と支援	講義、演習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15
第5回 /	社会的マイノリティの子どもたち（外国人、弱者 貧困）や不登校の子どもたちの実際とかかわり～特別な教育的ニーズのある子ども、家庭の支援～	講義、演習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15
第6回 /	支援の実際を考える～個別教育支援計画と指導について	講義、演習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15
第7回 /	支援の実際を考える～声掛け 教材作り～	講義、グループワーク	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15
第8回 /	教室でともに育つための指導について －困っている子を困った子にしない学級づくりについて考える	講義、グループワーク	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	国語科概論 Introduction to Japanese Language	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	『小学校学習指導要領(国語)』の目標に則して国語指導の在り方について学ぶ。物語文および説明文の指導案作成の演習を行う。					
----------------------------	---	--	--	--	--	--

キ ー ワ ー ド	学 修 教 育 目 標	小学校国語	日本語に対する基礎的な知識を理解し、小学校教員として現場で、国語科の授業の指導ができる基礎を培う。
-----------------------	----------------------------	-------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

授業形態としてはシラバスにのっとり、講義には視聴覚教材やプリントを用意する。学習指導要領に重心を置く。小学生にとってのふさわしい教材の発見や指導の仕方なども学ぶ。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の専門教育科目はすべて関連性があるのでよく予習復習すること。履修に必要な最低の予備知識としては、できれば自分の小学生のころの教科書やノートを探して手元に置いてほしい。						
--	--	--	--	--	--	--

教 科 書	参 考 書 ・ リ ザ ー ブ ド ブ ッ ク
『初等国語科教育』（ミネルヴァ書房） 小学校学習指導要領（平成29年3月告示版）解説国語編 小学校国語教科書	・ 保育所保育指針（平成29年3月告示版） ・ 幼稚園教育要領（平成29年3月告示版）

No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1)	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	主として学習指導要領の知識と理解を深めることができる。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	実践的な教材の発見等を通して指導技術を身につける。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標 (※2)	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。	◎
	② 計画力	計画を立てプレゼンをする力を養う。	◎
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	相手の意思決定や権利を守りながら行動することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30			20		100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		10					60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				10					10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				10			20		30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
学習指導要領の理解と、国語科の指導案の作成ができ、かつ教員になるために必要な基本的な姿勢が十分に身についている。					学習指導要領の主な内容が理解できており、国語科の指導案の書き方を理解し、かつ教員になるに必要な資質についても理解を示すことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	授業ガイダンス、初等国語科教育の意義と目標 初等国語科教育の構造と変遷 初等国語科教育の意義と目標について理解できる。 ・子どもの実態（言語生活）と教科としての専門的内容 ・子どもの実態（言語生活）と他の教科等における教科内容との関連について理解できる。	講義と演習 ・教科書（「初等国語科教育」）第1章・第2章要点パワーポイント提示	・学修該当箇所教科書の復習 ・次回学修該当箇所教科書の予習	予習 30 復習 30
第2回 /	初等国語科教育の学習指導と評価 国語の特質に関する事項の指導 学習評価の観点と方法に関する基礎的・基本的な事柄について理解できる。 日常生活に必要なものを実際の言語運用を通して身につけさせる指導について理解できる。	講義と演習 ・教科書（「初等国語科教育」）第3章・第4章要点パワーポイント提示	・学修該当箇所教科書の復習 ・次回学修該当箇所教科書の予習	予習 30 復習 30
第3回 /	情報の扱い方 伝統的な言語文化の指導 新設「情報の扱い方に関する事項」について理解できる。 我が国の言語文化に関する事項について理解できる。	講義と演習 ・教科書（「初等国語科教育」）第5章・第6章要点パワーポイント提示	・学修該当箇所教科書の復習 ・次回学修該当箇所教科書の予習	予習 30 復習 30
第4回 /	書写の指導（演習） 文字の「形（書き）」「音（読み）」「義（意味）」の指導について理解できる。	講義と演習 ・教科書（「初等国語科教育」）第7章要点パワーポイント提示	・学修該当箇所教科書の復習 ・次回学修該当箇所教科書の予習	予習 30 復習 30
第5回 /	読むことの指導①—説明的文章— 説明的文章とは何かについて理解できる。	講義と演習 ・教科書（「初等国語科教育」）第11章・要点パワーポイント提示	・学修該当箇所教科書の復習 ・説明的文章教材研究の予習	予習 30 復習 30
第6回 /	説明的文章教材研究（指導案作成①） 説明的文章の構造を理解できる。	講義と演習 ・説明的文章教材指導案の書き方資料	・学修該当箇所教科書の復習 ・説明的文章指導案作成の予習	予習 30 復習 30
第7回 /	説明的文章指導案作成（指導案作成②） 説明的文章の単位時間の授業の導入・展開・まとめの流れを理解できる。	講義と演習 ・説明的文章教材指導案の書き方資料	・学修該当箇所教科書の復習 ・自作説明的文章指導案工夫したところプレゼン準備	予習 30 復習 30
第8回 /	説明的文章指導案発表会（指導案作成③） 説明的文章の教材の指導案を創ることの楽しさ、難しさを実感することができる。	講義と演習 ・説明的文章教材指導案の書き方資料	・学修該当箇所教科書の復習 ・次回学修該当箇所教科書の予習	予習 30 復習 30
第9回 /	読書指導 話すこと・聞くことの指導 様々な読書の学習指導法について理解できる。 コミュニケーションは、直接的、対面的関係に支えられていることが理解できる。	講義と演習 ・教科書（「初等国語科教育」）第8章・第9章・要点パワーポイント提示	・学修該当箇所教科書の復習 ・次回学修該当箇所教科書の予習	予習 30 復習 30
第10回 /	書くことの指導 日常生活における書く力を育成し、自律した書き手を育てることが理解できる。	講義と演習 ・教科書（「初等国語科教育」）第10章・要点パワーポイント提示・資料 「先生ってすばらしい」冊子	・学修該当箇所教科書の復習 ・次回学修該当箇所教科書の予習	予習 30 復習 30
第11回 /	読むことの指導②—文学的文章— 自力で文学的文章を読めるようにすることができる。 物語の効用や楽しみを知っている大人に育てることができる。	講義と演習 ・教科書（「初等国語科教育」）第12章・要点パワーポイント提示	・学修該当箇所教科書の復習 ・文学的文章教材研究の予習	予習 30 復習 30
第12回 /	文学的文章教材研究（指導案作成④） 文学的文章の特徴を理解することができる。	講義と演習 ・文学的文章教材指導案の書き方資料	・学修該当箇所教科書の復習 ・文学的文章指導案作成の予習	予習 30 復習 30
第13回 /	文学的文章指導案作成（指導案作成⑤） 文学的文章の単位時間の授業の導入・展開・まとめの流れを理解できる。	講義と演習 ・文学的文章教材指導案の書き方資料	・学修該当箇所教科書の復習 ・自作文学的文章指導案工夫したところプレゼン準備	予習 30 復習 30
第14回 /	文学的文章指導案発表会（指導案作成⑥） 文学的文章の教材の指導案を創ることの楽しさ、難しさを実感することができる。	講義と演習 ・文学的文章教材指導案の書き方資料	・学修該当箇所教科書の復習 ・次回学修該当箇所教科書の予習	予習 30 復習 30
第15回 /	入門期の指導 メディアリテラシー・ICTの指導 小学校での学習スタイルに習熟できるようにする。 国語科における情報活用能力の育成について理解できる。	講義と演習 ・教科書（「初等国語科教育」）第13章・第14章要点パワーポイント提示	・学修該当箇所教科書の復習	予習 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	社会科概論 Introduction to Social Studies	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	小学校社会科の歴史や特質、現状の課題についての理解を深めるとともに、各学年の社会科の内容に関して、それを教える際に必要な基礎的知識の習得を図るとともに、具体的な授業構成を行う際に求められる教材研究の方法について理解を深めることをねらいとする。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	社会科教育 市民的資質 地域学習 産業学習 歴史学習 政治学習	学修教育目標	社会科教育の歴史や地域比較から、中等科社会科教育の意義が理解できる。適切な教科内容の教材化をすすめ、授業方針を決定することができる。			
-------	--	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

社会科とはから、これまでに社会科がどのように教育されてきたか考え、具体的に小学校で教えなければいけない社会科の内容について考える。授業の内容で分からないことは、授業の後や授業以外でもどんどん質問して、解決しておくこと。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

教科教育法（社会）などの理解につながります。できるだけ新聞などの教育・社会関係の記事を読んで、社会の動きを理解しておくこと。						
--	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
書 名：小学校学習指導要領解説 社会編 著者名：文部科学省編 出版社：			適宜指示する。			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	小学校で社会科を教えるための基礎的な知識を理解出来る。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	地図帳や統計資料、年表などの資料を効果的に活用することができる。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけて解決しようとする事ができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	40					10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		40	30						70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10	10						20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
社会科教育の変遷を十分理解している。 小学校社会科の教科内容を十分理解している。					社会科教育の変遷を理解している。 小学校社会科の教科内容を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	社会科模擬授業を体験する。社会科の授業観の転換	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第2回 /	社会科授業づくりにおける教師の役割を考える	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第3回 /	社会科で何を教えるのか。学習指導要領に示された各学年の目標・内容を解説書から読み解く①	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第4回 /	社会科で何を教えるのか。学習指導要領に示された各学年の目標・内容を解説書から読み解く②	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第5回 /	3・4学年の教科内容論（1）学習内容・地域学習の内容、及び、関連する学問的知見	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第6回 /	3学年の教科内容論（2）地域の土地利用または地域の産業に関連する教科内容論、地域の公共事業に関連する教科内容論	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第7回 /	4学年の教科内容論（3）地域の土地利用または地域の産業に関連する教科内容論、地域開発の歴史に関連する教科内容論	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第8回 /	学習指導案をどのように作成したらよいか。単元の目標と評価規準、単元の指導、計画本時の目標、本時の展開の書き方	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第9回 /	5学年の教科内容論（1）地域学習の内容（2）国土・環境学習（日本の地形など）に関連する教科内容論	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第10回 /	5学年の教科内容論（3）産業学習（日本経済・産業の現状）に関連する教科内容論	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第11回 /	5学年の教科内容論（4）社会の情報化と産業の関わりに関連する教科内容論	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第12回 /	6学年の教科内容論（1）政治学習（憲法、三権、政治の働き）に関連する教科内容論	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第13回 /	6学年の教科内容論（2）歴史学習（人物・文化遺産の歴史）に関連する教科内容論	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第14回 /	6学年の教科内容論（3）国際学習（他国の文化、生活）に関連する教科内容論	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第15回 /	学修のまとめ、教科内容論（教科内容を振り返って）	講義・質疑応答	復習：30分	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	算数科概論 Introduction to Mathematics	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	算数科の内容を数学的・教育的な視点からとらえ、算数の学習を系統的な見地から学修する。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科の目標 ・数学的活動 ・算数科における五領域 ・評価の観点・規準 	学修教育目標	数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用など、各領域の数学的意味と内容を理解することができる。			
-------	---	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

算数科における各領域の内容とその領域に応じた指導方法の概略を学修します。その際、具体的な数学的活動を通して、理解を深めていきます。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

教科教育法（算数）						
-----------	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
書 名：『小学校学習指導要領解説(平成 29 年告示)算数編』 著者名：文部科学省 出版社：日本文教出版			授業中に適宜指示する。			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	算数科における基礎的な理論や指導するために必要な内容・方法等の専門的な知識を身につける。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	単元全体を見通した指導案をつくることができる。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	学年（1年～6年）に応じた指導内容の系統性を理解する。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50				30		20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30						10	40
	技能に関する評価						20			20
	応用力に関する評価		20				10			30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> 算数科における基礎的な理論を十分理解している。 指導内容と指導方法についての十分な理解をもとに、指導案を作成することができる。 各項目の理解度が80%以上である。 					<ul style="list-style-type: none"> 算数科における基礎的な理論を理解している。 指導内容と指導方法についての理解をもとに、指導案を作成することができる。 各項目の理解度が60%以上である。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス、算数・数学教育の意義	・講義 ・グループ・ディスカッション	算数・数学教育についての復習	30
第2回 /	算数・数学教育の変遷と今日的課題 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	算数・数学教育についての復習	30
第3回 /	数学的な活動、数学的な表現について 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	数学的活動、数学的な表現についての予習	30
第4回 /	学習指導要領（算数科）の目標と内容 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	学習指導要領についての予習	30
第5回 /	「数と計算」領域の内容(1) ー整数についてー 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	「数と計算」領域の予習	30
第6回 /	「数と計算」領域の内容(2) ー小数・分数についてー 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	「数と計算」領域の復習	30
第7回 /	「測定」領域の内容 ー量の概念と測定の4段階についてー 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	「測定」領域の復習	30
第8回 /	「図形」領域の内容(1) ー図形の構成要素についてー 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	「図形」領域の予習	30
第9回 /	「図形」領域の内容(2) ー図形の相互関係についてー 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	「図形」領域の復習	30
第10回 /	「変化と関係」領域の内容 ー関数についてー 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	「変化と関係」領域の復習	30
第11回 /	「データの活用」領域の内容 ー統計についてー 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	「データの活用」領域の復習	30
第12回 /	教材と情報機器の研究及び活用と指導案の作成(1) ー領域ごとの系統性を考慮してー 指導案を作成する	・講義 ・グループ・ディスカッション	指導案作成のための資料収集	30
第13回 /	教材と情報機器の研究及び活用と指導案の作成(2) ー単元間の関係を考慮してー 指導案を作成する	・講義 ・グループ・ディスカッション	指導案の作成	30
第14回 /	授業の実際 ー作成した指導案に基づく模擬授業と具体的な指導についてー 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	指導案作成のための改善	30
第15回 /	算数・数学教育のまとめ、評価と指導について 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	算数の評価についての復習	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	理科概論 Introduction to Science	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	理科に対する基礎知識を修得することと理科教育に対する興味関心を持つこと。	
	キーワード	理科教育

学修教育目標

教員として必要な理科知識を身につける。理科の面白さを児童生徒に伝えることができるようになることが目標である。

授業科目の概要及び学修上の助言

授業では基本事項の説明を行い、それに基づいた演習や課題を課す。テーマを決めて全員の前で模擬授業を行う機会も与える。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

小学校教職免許取得希望者はB判定以上で合格する必要がある。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：小学校学習指導要領解説 理科編
著者名：
出版社：

なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	小学校教員になるために必要な理科の素養を身につけること。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	問題意識を持って積極的に授業に参加できる。	◎
	② 働きかけ力	分からないことがあっても、自分で調べたり質問することができる。	○
	③ 実行力	授業への参加だけでなく、試験、課題や模擬授業に備えた授業外での学修ができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	どのように学修すればできるようになるか自分で見いだすことができる。	◎
	② 計画力	模擬授業や試験に合わせ、計画的に学修を進めることができる。	◎
	③ 創造力	新しい疑問の解決に自ら取り組むことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	模擬授業で準備した内容を発表できる。	○
	② 傾聴力	他者の発表を聞き、その内容に対してコメントすることができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55		5	30			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		45			10				55
	技能に関する評価		5			10				15
	応用力に関する評価		5		5	5				15
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価					5			10	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
理科学全般について基本事項を理解し説明することができる。					授業で扱った基本事項を理解し、説明することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	生物分野（1）生物と無生物、進化論	講義	授業内容の復習	60
	課題			
第2回 /	生物分野（2）動物（成長・動き）、人間	講義	授業内容の復習と発表準備	60
	課題			
第3回 /	生物分野（3）植物（発芽成長）	講義と発表	授業内容の復習と発表準備	60
	発表			
第4回 /	生物分野（4）遺伝子（DNA、RNA）	講義と発表	授業内容の復習と発表準備	60
	発表			
第5回 /	物理分野（1）素粒子、エネルギー	講義と発表	授業内容の復習と発表準備	60
	発表			
第6回 /	物理分野（2）運動	講義と発表	授業内容の復習と発表準備	60
	発表			
第7回 /	物理分野（3）電気、磁気	講義と発表	授業内容の復習と発表準備	60
	発表			
第8回 /	物理分野（4）光の性質、レーザー	講義と発表	授業内容の復習と発表準備	60
	発表と課題			
第9回 /	化学分野（1）空気（酸化・還元）、水	講義と発表	授業内容の復習と発表準備	60
	発表			
第10回 /	化学分野（2）無機化学	講義と発表	授業内容の復習	60
	発表と課題			
第11回 /	化学分野（3）有機化学	講義	授業内容の復習	60
	課題			
第12回 /	化学分野（4）身の回りの化学製品（プラスチック、薬）	講義	授業内容の復習	60
	課題			
第13回 /	地学分野（1）宇宙：太陽と星の動き	講義	授業内容の復習	60
	課題			
第14回 /	地学分野（2）地球：地表の動きと天候	講義	授業内容の復習	60
	課題			
第15回 /	地学分野（3）プレートテクトニクスと地震	講義	授業内容の復習	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	生活科概論 Introduction to Domestic Behavior	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	生活科教育についての基礎的な理論や学習活動を展開するうえで必要な内容構成・指導方法について学修する。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の目標 評価の3観点 	学修教育目標	生活科の変遷をたどり、生活科の必要性を理解する。また、生活科の教科特性に注意し、授業展開を考えることができる。			
-------	--	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

生活科における内容とそれに応じた指導方法の概略を学修します。その際、具体的な活動を通して、理解を深めていきます。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

教科教育法(生活)						
-----------	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
書 名：小学校学習指導要領解説 生活科（平成29年告示） 著者名：文部科学省 出版社：東洋館出版社			なし			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	生活科における基礎的な理論や指導するための内容・方法の専門的な知識を身につける。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	単元全体を見通した学習をつくることができる。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	学年（1年～2年）に応じた指導内容の系統性を理解する。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のために活かそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50				30		20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20						10	30
	技能に関する評価						20			20
	応用力に関する評価		30							30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価						10		10	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> 生活科における基礎的な理論を十分理解している。 指導内容と指導方法についての十分な理解をもとに、作品を作成することができる。 各項目の理解度が80%以上である。 					<ul style="list-style-type: none"> 生活科における基礎的な理論を理解している。 指導内容と指導方法についての理解をもとに、作品を作成することができる。 各項目の理解度が60%以上である。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス、子どもの生活の変化と学びの変化	講義、演習	生活科についての復習	30
第2回 /	生活科誕生の経緯 ― 生活科とは ― 作品・振り返りシート	講義、演習	生活科についての予習	30
第3回 /	生活科の目標と内容(1) ― 学習指導要領の概要 ― 作品・振り返りシート	講義、演習	生活科についての復習	30
第4回 /	生活科の目標と内容(2) ― 24ヶ月のカリキュラム ― 作品・振り返りシート	講義、演習	カリキュラムについての復習	30
第5回 /	生活科の目標と内容(3) ― 小学校第1学年の内容 ― 作品・振り返りシート	講義、演習	生活科についての復習	30
第6回 /	生活科の目標と内容(4) ― 小学校第2学年の内容 ― 作品・振り返りシート	講義、演習	生活科についての復習	30
第7回 /	生活科と総合的な学習の時間との関連について 作品・振り返りシート	講義、演習	生活科についての復習	30
第8回 /	生活科と総合的な学習の時間における体験活動やフィールドワークの意義 作品・振り返りシート	講義、演習	学習指導要領についての予習	30
第9回 /	生活科と総合的な学習の時間における体験活動やフィールドワークの実際 ワークシート	講義、演習	学習指導要領についての予習	30
第10回 /	生活科の指導計画・指導内容について ワークシート	講義、演習	学習指導要領についての予習	30
第11回 /	生活科授業の実際 ワークシート	講義、演習	ワークシートのまとめ（復習）	30
第12回 /	生活科学習指導案の構想と作成（1） 振り返りシート	講義、演習	ワークシートのまとめ（復習）	30
第13回 /	生活科学習指導案の構想と作成（2） 振り返りシート	講義、演習	ワークシートのまとめ（復習）	30
第14回 /	生活科で育みたい資質・能力とその評価 振り返りシート	講義、演習	ワークシートのまとめ（復習）	30
第15回 /	生活科のまとめ	講義、演習	ワークシートのまとめ（復習）	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	家庭科概論 Introduction to Domestic Behavior	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	家庭科教育は子どもに日常生活を営むための知識と技術を体得させ、実践できる能力を獲得させることである。講義では、指導者としてこれに必要な知識・技能の修得をめざす。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	家庭、家族、衣食住、食育、消費、環境、SDGs	学修教育目標	1. 家庭科指導の意義と目的、学校教育における家庭科の役割を理解している。 2. 小学校家庭科の教育目標と内容、指導方法、学習評価の考え方等を理解している。			
-------	-------------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

・教材は身の回りにあふれています。新聞や文献、日常生活に気を配り、常日頃から情報を得よう心がけましょう。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「教科教育法（家庭）」、「教科教育法（生活）」						
-------------------------	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
書 名：文部科学省検定済教科書小学校家庭科用「わたしたちの家庭科 5.6」 著者名：鳴海多恵子 石井克枝 堀内かおる 他 出版社：開隆堂出版株式会社			なし			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）			
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	学習指導要領「家庭」の内容が説明できる。			◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	衣食住に関する実技の実践ができる。			○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの生活実態について説明できる。			○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもの生活実態における改善方法を知っている。			○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	家庭科教育の重要性を認識し、生きる力につなげた考え方ができる。			◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	家庭生活における課題を的確にとらえ、改善案を効果的に提案することができる。			○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）			
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	課題解決に向けて、モノ・ヒト・コトに関わりながら自発的に取り組むことができる。			○
	② 働きかけ力				
	③ 実行力				
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分の生活を振り返り、課題設定することができる。			○
	② 計画力				
	③ 創造力				
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	聞き手にわかりやすい伝達手法やポイントを押さえた的確な話し方ができる。			○
	② 傾聴力	他者の考えや案を肯定的に聞き、視野を広げることができる。			○
	③ 柔軟性				
	④ 状況把握力				
	⑤ 規律性				
	⑥ ストレスコントロール力				
4. 倫理観	① 倫理性	正義感や公正さを重んじ、生命を大切にし、人権を尊重することができる。			○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55		15	15	15			100
評価 の 指標	知識に関する評価		35		5					40
	技能に関する評価					5	5			10
	応用力に関する評価		10		5		5			20
	チームワークに関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価		10		5	5	5			25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>家庭科教育の重要性を認識している。 子どもに日常生活を営むための知識と技術を体得させ、実践できる能力を獲得させるための、指導者として必要な知識・技能を修得している。 生活科での内容を取り入れることができる。</p>					<p>家庭科教育の重要性を認識している。 指導者として必要な最低限の知識・技能を修得している。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第2回 /	小学校家庭科の目標と意義、育てたい力	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第3回 /	内容A「家族・家庭生活」	演習	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ・レポート	30
	ワークシート			30
第4回 /	内容A「家族・家庭生活」（課題発表と討議）	グループ・全体セッション	予習：レポート発表の準備 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート・討議内容			30
第5回 /	内容B「衣食住の生活」	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第6回 /	内容B「衣食住の生活」食（理論と実践）	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第7回 /	内容B「衣食住の生活」食（調理体験の理論と実践）	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第8回 /	内容B「衣食住の生活」食（調理体験）	演習（実技）	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第9回 /	内容B「衣食住の生活」住（理論と実践）	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第10回 /	内容B「衣食住の生活」衣（理論と実践）	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第11回 /	内容B「衣食住の生活」衣（作品についての理論と実践）	講義・演習（実技）	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ・レポート	30
	ワークシート			30
第12回 /	内容B「衣食住の生活」衣（作品についての討議）	グループ・全体セッション	予習：レポート発表の準備 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート・作品・討議内容			30
第13回 /	内容C「消費生活・環境」・持続可能な社会に向けてSDGs①	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第14回 /	内容C「消費生活・環境」・持続可能な社会に向けてSDGs②	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第15回 /	復習・まとめ	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	体育科概論 Introduction to Physical Education	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	小学校体育に必要な体育学の基礎と小学校体育の保健領域の内容について学習し学習指導要領の理解を深め、授業を実践していくために必要な基本事項を理解し習得することを目的とする。					
	キーワード	よい体育授業	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の特性を理解し、小学校教育における体育の必要性を把握することで、運動に親しむ資質や能力の育成がなぜ必要なのかを理解することができる。 ・身体の発育発達や運動能力の発達といった身体の構造を把握することで、なぜ体力向上が必要なのかを理解することができる。 ・保健領域のねらいを把握することで、なぜ健康の保持増進が必要かを理解することができる。 		
授業科目の概要及び学修上の助言						
体育教科に必要な知識を学ぶ。（スポーツの本質、スポーツ指導法、学習形態、学習方法）						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
スポーツマンシップ、フェアプレーの精神、学習指導要領解説（体育編）						
教 科 書			参考書・リザーブブック			
なし			書 名：小学校学習指導要領解説 体育編 著者名：文部科学省 出版社：東洋館出版社			
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	体育教科の特性を理解することができる。				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	学習方法を理解することができる。				△
③	子どもの発達に関する知識を身につける。					
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	ルールや約束を守り授業に参加することができる。				○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	体育教科における諸問題を理解することができる。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織（チーム）の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力	リーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。				◎
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し目標を設定して行動することができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し現状を把握し、課題を見つけ解決しようとするすることができる。				◎
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。				◎
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。				◎
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。				◎
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力	全体に及ぼす影響を意識して、考えながら行動することができる。				◎
	⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。				◎
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	自分の持てる能力を他の人の為に活かし周りに喜びを与えることができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20	10			20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		20	10				80
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								20	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
体育教科に必要なスポーツの本質、スポーツ指導法、学習形態、学習方法、学習評価を理解する。					体育教科に必要なスポーツの本質、スポーツ指導法、学習形態を理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / コメントシート	オリエンテーション 授業の進め方、評価について、受講時の諸注意事項 体育科とは コメントシート	講義 コメントシート	・体育、スポーツについて考える（体育、スポーツに求められるもの）	60
第2回 / コメントシート	体育学の基礎的理解 コメントシート	講義 ペアワーク（体育、スポーツに求められるものを考える） コメントシート	・良い授業について考える	60
第3回 / コメントシート	体育科の学習内容論 コメントシート	講義 ペアワーク（良い授業について考える） コメントシート	・学習指導の形態について考える	60
第4回 / コメントシート	体育科の学習指導とその形態 コメントシート	講義 ペアワーク（学習指導の形態について考える） コメントシート	・評価の種類を調べる	60
第5回 / コメントシート	体育科の評価論 コメントシート	講義 ペアワーク（指導と評価の一体化について考える） コメントシート	・スキャモンの発育曲線を調べる	60
第6回 / コメントシート	身体の発育と発達 コメントシート	講義 ペアワーク（スキャモンの発育曲線を分析） コメントシート	・体力向上がなぜ必要かを考える	60
第7回 / コメントシート	運動能力・体力の発達 コメントシート	講義 ペアワーク（体力向上の必要性を考える） コメントシート	・体育における安全確保、安全管理について考える	60
第8回 / コメントシート	安全な身体活動のために コメントシート	講義 ペアワーク（体育の安全について考える） コメントシート	・体力要素を調べ、必要なトレーニングについて考える	60
第9回 / コメントシート	身体運動論（トレーニング論） コメントシート	講義 ペアワーク（必要な体力要素を考える） コメントシート	・環境が健康に及ぼす影響を考える	60
第10回 / コメントシート	保健領域（1） 毎日の生活と健康 コメントシート	講義 ペアワーク（環境と健康の関係性を考える） コメントシート	・薬物乱用について考える	60
第11回 / コメントシート	保健領域（2） 思春期の体の変化 喫煙 飲酒 薬物乱用 コメントシート	講義 ペアワーク（健康を害するおそれのあるものについて考える） コメントシート	・メンタルヘルスについて考える	60
第12回 / コメントシート	保健領域（3） 心の健康 病気の予防 コメントシート	講義 ペアワーク（心のあり方が健康にどのような影響を及ぼすかを考える） コメントシート	・傷害の発生要因について考える	60
第13回 / コメントシート	保健領域（4） けがの防止1（活動中のけがの防止） コメントシート	講義 ペアワーク（どのような環境が傷害に繋がるかを考える） コメントシート	・心肺蘇生法を調べる	60
第14回 / コメントシート	保健領域（5） けがの防止2（救急法） コメントシート	講義 ペアワーク（心肺蘇生法の意義を考える） コメントシート	・体育科の必要性や役割をまとめる	60
第15回 / コメントシート	体育科の必要性（まとめ） コメントシート	講義 ペアワーク（体育科の必要性や役割を考える） コメントシート	・体育科の必要性や役割をまとめる	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	音楽科概論 Introduction to Music	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	幼稚園・保育所における音楽表現や小学校における音楽教育に必要なピアノ演奏法に必要な知識と技術を習得する。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	楽典・ピアノ演奏・弾き歌い	学修教育目標	ピアノ演奏技法の基礎を習得する。 - 主要三和音による簡易伴奏のピアノ演奏法を習得する。 身体表現のためのリズム曲のピアノ演奏法を習得する。（幼稚園・保育所・小学校） 小学校歌唱共通教材曲や子どもの歌の伴奏法、および弾き歌いの技法を習得する。（小学校）			
-------	---------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

幼児教育や初等教育において、教師が行うピアノ伴奏や弾き歌いが必要となる知識・技能を習得する。自己の知識や技能の向上を図るとともに、教師としての指導力・実践力の獲得をめざす。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

・幼児教育、初等教育における自らの音楽経験 ・ト音記号・ヘ音記号で表記される楽譜の読み方						
---	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
書名：おんがくのしくみ 歌って動いてつくってわかる音楽理論 著者名：今川 恭子 出版社：教育芸術社	書名：改訂ポケットいっぱいのおた 実践こどものうた簡単に弾ける 144選 著者名：監修・編著：鈴木恵津子 富田英也 出版社：教育芸術社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	楽典に関する基礎的知識を身につける。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	ピアノ伴奏に必要なピアノ演奏技能、弾き歌いの基本的な技能を習得する。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	幼児・児童の声域及び音楽的発達の特徴に関する知識を身につける。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	幼児・児童の音楽的発達に即した演奏技法を身につける。	◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	子どもの思いや願いに寄り添う指導・支援の在り方について省察することができる。	△
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	教育実習における器楽指導を想定し、人前で演奏する機会を積極的につくることことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	課題意識をもって授業に臨むことができる。	◎
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。	○
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。	△
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。	◎
	③ 創造力	知識と技能との関連について思考・判断することができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。	○
	② 傾聴力	他者の表現のよさに気付くことができる。	○
	③ 柔軟性	困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。	△
	④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。	◎
	⑤ 規律性	他者と協力してより質の高い音楽表現の創造をめざすことができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20		30				100
評価の指標	知識に関する評価		20	20						40
	技能に関する評価		20			10				30
	応用力に関する評価		10							10
	チームワーク力に関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価					10				10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽典に関する基礎的知識を確実に身につけることができる。 ・ 曲想を理解し、それを表すために適切なテンポや強弱を工夫しながらピアノ演奏をすることができる。 					<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽典に関する基礎的知識を概ね身につけることができる。 ・ 楽譜に記された記号等を理解し、一定程度正しくピアノ演奏をすることができる。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス	講義	予習：楽典について 復習：楽典予備課題	予習：30 復習：30
	参加態度			
第2回 /	初歩的な楽典 － 楽譜の読み方、楽譜と鍵盤の相互関係の理解、タッチの方法等	講義・演習	予習：楽典予備課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、参加態度			
第3回 /	音、音の読み方、リズム、記譜法について	講義・演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、参加態度			
第4回 /	音程について	講義・グループワーク	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、参加態度			
第5回 /	個別指導（1）音と音程について個別指導	個別演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			
第6回 /	個別指導（2）楽譜と音・音程について個別指導	個別演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			
第7回 /	個別指導の総評と弱点克服ならびに小テスト	グループワーク・発表	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	発表の内容、参加態度			
第8回 /	音階について	講義・演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、参加態度			
第9回 /	個別指導（1）音階	個別演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			
第10回 /	個別指導（2）総評と総仕上げ	グループワーク・発表	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	発表の内容、参加態度			
第11回 /	和音（コードネーム）について	講義・演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、参加態度			
第12回 /	メロディについて	講義・演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、参加態度			
第13回 /	個別指導（1）独奏と伴奏について	個別演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			
第14回 /	個別指導（2）総評と総仕上げ	グループワーク・発表	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	発表の内容、参加態度			
第15回 /	個別指導（3）総評と総仕上げ	グループワーク・発表	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	発表の内容、参加態度 振り返り			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	図工科概論 Introduction to Arts and Crafts	2単位	必修	講義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	子どもの造形表現の発達や造形の意味について理解を深める。 小学校学習指導要領における図画工作科の指導において必要とされる知識及びその内容を理解し、子どもの表現能力を引き出す教育についての理論と実際を学修する。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	図工科概論 子ども・造形・表現・特性・素材・教材	学修教育目標	子どもの造形表現の発達段階を学習し、造形教育のありようを理解し、説明できる。 教科の目標と内容を理解するとともに実際の体験を通して授業における基礎技法習得や指導の実践力と評価を身につけ、造形素材のもつ特性や教材としての可能性に注目し、素材を生かした教材作りができる。			
-------	-----------------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<ul style="list-style-type: none"> 理論と実際を学修することで、相互に理解を深め造形の概念の統合を図る。 作品の評価基準については、グループワーク等でのディスカッションを通し、共に考え造形表現の意味について考察する。 授業での配布物はワークシートとして保存し、受講時に持参する。 単元ごとの授業終了後に必要に応じて課題レポートを提出、授業内容の習得状況と振り返りをする。 事前学習・ふり返りを重視する。 作品の評価等については、グループワークや発表を実施し、活発な討議を期待する。 						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<ul style="list-style-type: none"> 保育所（園）、幼稚園施設などへのボランティアやインターンシップ活動には積極的に参加を促し、現地レポーターとして授業等で発表する。 保育所、幼稚園、小学校等における行事の参観や美術館のイベントに積極的に出向き、自身の感性をより豊かにするように推奨・期待する。 毎回の授業での配布物は、ファイリング保存しポートフォリオとして活用する。 						
---	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
書名：小学校図画工作の基礎 著者名：樋口一成 他 出版社：萌文書林	小学校学習指導要領解説「図画工作」文部科学省（文教出版）

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・保育士・小学校教諭に必要な専門知識（教育要領・保育指針・学習指導要領等）を身につける。	子どもの心身の発達段階が理解できる。	△
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	様々な素材の表現方法を知る。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	素材体験を通して、子どもの表現活動についての発達段階を知る。	△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	素材の特性や教材としての可能性に触れ、子どもの造形表現について理解できる。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	幼児教育（間接教育）から小学校教育課程（直接教育）への教育の連続性に鑑み、子どもを支援していく方策を考える。	△
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	実際の体験を通じて、造形素材のもつ特性や教材を生かし造形教育の可能性に注目する。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類（4つの力）	能力要素（13の要素）	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	① 主体性	自分なりに判断して自発的にとりくむことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	① 課題発見力		
	② 計画力		
	③ 創造力	自身の発想を生かし、豊かな創造性が発揮できる。	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	① 発信力	自分の意見を具体的に分かりやすく伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手の意見を最後までしっかり聞くことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (受講態度等)	合計
総合評価割合			41		15	9	25		10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		25		5	2	5			37
	技能に関する評価		10		5	2	10			27
	応用力に関する評価		3		2	3	5			13
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		3		3	2	5		10	23
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>子どもの造形表現の発達や造形の意味について理解する。また、造形表現の理論と技能の習得および実践の相互に理解を深め、統合した取り組みができる。</p>					<p>子どもの造形表現の発達を知り、実際の体験を通じて子どもの表現教育についての理論と実際を理解する。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	オリエンテーション（講義内容の説明、進め方、成績評価の説明等） 子どもの発達と造形表現、『表現』とは何か。H. リードの「表現活動を通じた教育」および 子どもの表現について① ミニ作品制作 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ	事前にシラバスを読んでおく。 授業時に適時指示した課題（以下、毎回、時間共に同じ）	60
第2回 ／	制作した作品の相互評価と講評 テキスト配布「幼児の造形表現から図画工作教育へ」 子どもの表現について② ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第3回 ／	幼児の「あそびと造形表現」、幼児教育における目標と内容を知る（幼稚園・こども園教育要領・保育所指針） ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第4回 ／	子どもの表現についての発達過程 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第5回 ／	幼児造形教育から図画工作教育への連続性、学習指導要領とは何か？ ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第6回 ／	図画工作のねらい（「A 表現」） ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第7回 ／	図画工作のねらい（「B 鑑賞」、共通事項について） ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第8回 ／	図画工作教育の目標と内容 材料をもとにした造形遊びをする活動（低学年・中学年） ミニ作品制作 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第9回 ／	図画工作教育の目標と内容 材料をもとにした造形遊びをする活動（中学年・高学年） ミニ作品制作 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第10回 ／	「造形遊び」の実践と作品制作① 作品制作と個別指導 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ 作品制作の実践		
第11回 ／	「造形遊び」の実践と作品制作② 作品制作と個別指導と講評 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ、 作品制作の実践		
第12回 ／	作品制作に役立つ様々なモダンテクニックの実践① 制作と個別指導 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ、 実践と制作		
第13回 ／	作品制作に役立つ様々なモダンテクニックの実践② 制作と個別指導 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ、 実践と制作		
第14回 ／	作品制作に役立つ様々なモダンテクニックの実践③ 制作と個別指導 制作した作品の相互評価と講評 試験にむけて ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ、 実践と制作		
第15回 ／	図画工作における評価、評価の意義、評価活動の要点図画工作の学習指導 学習指導案の作成、試験内容および振り返り ワークシート・課題レポート	講義、グループトーク、発表、まとめ		

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	外国語概論（児童英語） Introduction to Foreign Language (Child English)	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要とされる「実践的な英語運用力」及び「背景的な知識」を実際の授業場面を想定し、身に付ける。また中学校との連携も踏まえる。					
キーワード	英語運用能力 異文化理解 第二言語習得	学修教育目標	《実践的英語力》 授業実践に必要とされる「聞く力・話す力・読む力・書く力」を身に付ける。 《背景的な知識》 英語に関する基本的な事柄「音声・語彙・文構造・文法・正書法等」、「第二言語習得」、「児童文学」、「異文化理解」を理解している。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
2020年4月1日から第3～6学年において英語の授業が必修化された。この英語の教育改革を踏まえ、将来の小学校教員が英語での授業を通して、生徒に教えなければならない重要事項が何であるかをしっかりと理解した上で、グローバル化の時代を生き抜いてゆくためにはどのような英語教育を生徒に施さなければならないかを受講生は学修する。受講生は各自、積極的に意見を述べるよう心掛けること。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
「教科教育法（児童英語）」：英語でのコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語でコミュニケーションを図ることができる基礎を生徒に身に付けさせるような指導法を受講生は学修しなければならない。						
教 科 書				参考書・リザーブブック		
My TGU.net の授業資料に教材を掲示しています。				書 名：小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 平成29年7月—平成29年告示 著者名：文部科学省 出版社：開隆館出版販売		
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	小学校教員にとって、英語授業が必要不可欠となっている現在、その目的と目標を理解し、スムーズな授業運営ができること。				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。					
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分で考えて授業を組み立てられる。				◎
	② 働きかけ力	分からないことは質問する。				◎
	③ 実行力	組み立てたことを行動にうつす。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	上手いかなかった理由、原因を考える。				◎
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の知識、アイデアを仲間と共有する。				◎
	② 傾聴力	他人の意見を聴く。				◎
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41		59					100
評価 の 指標	知識に関する評価									55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		41		59					45
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小学校外国語活動（英語）の目的と目標を理解し指導につなげることができる。					小学校外国語活動（英語）の目的と目標を理解し指導への興味と関心をもつ。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	(一般論：導入) 日本の英語教育：なぜ、「英単語帳」で英単語を覚えさせるのか？	講義	第1回目の授業内容について課題提出	60
第2回 /	(一般論：導入) 日本の英語教育：「受験英語」の指導で「話す・聞く」の実際に通用する英語運用能力を向上させることができるのか？	講義と演習(提出課題について意見交換)	第2回目の授業内容について課題提出	60
第3回 /	(一般論：導入) 英検・TOEICなどで「話す・聞く」の実際に通用する英語運用能力を正しく評価することができるのか？	講義と演習(提出課題について意見交換)	第3回目の授業内容について課題提出	60
第4回 /	小学校英語教育の現実と問題点：文部科学省のホームページから	講義と演習(提出課題について意見交換)	第4回目の授業内容について課題提出	60
第5回 /	英語で伝え合ったときに、児童に満足感や達成感を持たせるには？	講義と演習(提出課題について意見交換)	第5回目の授業内容について課題提出	60
第6回 /	児童に「考えさせる」授業とは？	講義と演習(提出課題について意見交換)	第6回目の授業内容について課題提出	60
第7回 /	英語で児童に発表させるとき、児童が「話したくなる」テーマをどのように選べばよいのか？	講義と演習(提出課題について意見交換)	第7回目の授業内容について課題提出	60
第8回 /	TPR 教授法	講義と演習(提出課題について意見交換)	第8回目の授業内容について課題提出	60
第9回 /	英語教育と ICT	講義と演習(提出課題について意見交換)	第9回目の授業内容について課題提出	60
第10回 /	小学校英語教育で文法を教えることは必要なのか？	講義と演習(提出課題について意見交換)	第10回目の授業内容について課題提出	60
第11回 /	小学校英語教育とグローバル化	講義と演習(提出課題について意見交換)	第11回目の授業内容について課題提出	60
第12回 /	小学校英語教育と異文化理解	講義と演習(提出課題について意見交換)	第12回目の授業内容について課題提出	60
第13回 /	児童が英語で日本の文化を伝えることができるようになるためには、何から始めていけばよいのか？	講義と演習(提出課題について意見交換)	第13回目の授業内容について課題提出	60
第14回 /	日本の児童英語教育と海外の児童英語教育	講義と演習(提出課題について意見交換)	第14回目の授業内容について課題提出	60
第15回 /	小学校英語教育と道徳教育	講義と演習(提出課題について意見交換)	第15回目の授業内容について課題提出	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	音楽演習 I（声楽） Exercise to Music I (Vocal)	1単位	必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	発声法、子どもの歌の歌唱・合唱等、教育の場で必要な声楽の基礎知識や技能を学び、子どもへの音楽表現の基礎と子どもの音楽表現に対する楽しさを導くことを目指す。
--------	---

キーワード	音楽教育・声楽	学修教育目標	歌唱では、無理のない発声法により子どもの歌や小学唱歌やその他歌曲を歌唱できる歌唱法を修得することを目指す。合唱では、他のパートと合わせることによるハーモニー感覚を体得することを目指す。
-------	---------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

実技中心です。歌唱指導する際のポイントに留意しながら積極的に受講すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「音楽科概論」「教科教育法（音楽）」「音楽演習 I（器楽）」「音楽演習 II（声楽応用）」「音楽演習 II（器楽応用）」「教職実践実習（初等）」「教育実習（小学校）」と関連する。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：ポケットいっぱい 著者名：鈴木恵津子 出版社：教育芸術社	書名：わらべうたあそび120 著者名：阿部直美 出版社：ナツメ社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	楽譜がすらすら読める。ソルフェージュや楽典により、音楽基礎知識を習得する。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	無理のない発声で、求められている歌唱表現ができる。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの年齢によって臨機応変に対応できる能力をつけるために、できるだけ多くの曲を知る。	△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	わらべうた・こどもの歌・唱歌等、幅広い曲を歌唱できるようにする。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	これから指導者となる者の自覚を持ち、行動できる。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	様々なことに気づく能力をつける。自分の意思を発言でき、協調性を持って子ども達と接することができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	課題意識をもって授業に臨むことができる。	◎
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。	◎
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。	◎
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。	△
	③ 創造力	知識と技能との関連について思考することができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。	◎
	② 傾聴力	他者の表現のよさに気付くことができる。	◎
	③ 柔軟性	困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。	○
	④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。	○
	⑤ 規律性	他者と協力してより質の高い音楽表現をめざすことができる。	△
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。	△
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	5	10	35				100
評価 の 指標	知識に関する評価		20	2	5	5				32
	技能に関する評価		25	3		15				43
	応用力に関する評価				2	3				5
	チームワークに関する評価					3				3
	関心・意欲に関する評価		5		3	9				17
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
楽譜を難なく読める。無理のない発声法で豊かな音楽表現ができ、尚且つ周りの様子を 確認して子ども達に歌唱指導できる。					無理のない正しい発声法で豊かな音楽表現できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス 発声法と身体の使い方	実技	ガイダンスと発声法	90
第2回 /	音階の読み方	実技	音階の読み方を理解し、実技演習	90
第3回 /	呼吸について（1）音程、リズム、発音	実技	音階の読み方を理解した上で、個人指導を含めた実技演習。	90
第4回 /	呼吸について（2）総合・発表	実技	呼吸と発声法について学び、実技演習を行う	90
第5回 /	楽譜の読み方	実技	楽譜の読み方を理解する	90
第6回 /	楽譜の読み方 総合 日本語の発音について	実技	日本語の発音について学習した後、プリントワークと実技演習	90
第7回 /	歌唱指導	実技	総合的な歌唱法についての個人指導。	90
第8回 /	反復記号について	実技	楽譜の読み方について理解し、プリントワークと実技演習	90
第9回 /	歌唱 音程とリズム（コールキューブンゲン）	実技	個人指導を含めた実技演習。	90
第10回 /	調について	実技	調についての学習したのち、プリントワーク	90
第11回 /	子どもへの歌唱指導法について	実技	子どもに歌唱指導するにあたり、気をつけなければならない注意点などを学ぶ。	90
第12回 /	模擬授業の為の曲の内容について、また指導法について考える	演習	次週行う模擬授業の内容をグループで考える。	90
第13回 /	模擬授業	実技	模擬授業を行う。	90
第14回 /	総合 個別指導 課題曲による歌唱と指導	実技	試験曲の発表と個別による歌唱指導。	90
第15回 /	総合 音楽の基礎能力	演習	総合的に理解できているか筆記テストで確認する	50

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	音楽演習 I（器楽） Exercise to Music I（Instrumental）	1単位	選 択	演 習	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	基礎的な音楽理論についての理解と器楽の特質について学修する。鍵盤ハーモニカ、リコーダー、ハンドベル、木琴、鉄琴、打楽器など幼保、小学校で必要な器楽の基礎的な奏法、及びピアノ奏法を習得する。					
	キーワード	器楽表現活動・ピアノ伴奏・楽典	学修教育目標	器楽合奏を指導できること。他のさまざまな楽器と合奏することにより、豊かなハーモニーが作り出せることを学修してほしい。		

授業科目の概要及び学修上の助言

幼児教育や初等教育において用いられることの多い楽器について、基礎的知識を身につけるとともに、基本的奏法を習得する。また、歌唱曲及び器楽曲のピアノ伴奏に必要な知識と演奏技能を習得する。自己の知識や技能の向上を図るとともに、教師としての指導力・実践力の獲得をめざす。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

・幼児教育、初等教育における自らの音楽経験
・ト音記号・ヘ音記号で表記される楽譜の読み方

教科書	参考書・リザーブブック
書名：改訂 ポケットいっぱいのおうた 実践 子どものうた 簡単に弾ける 144 選 著者名：監修・編著：鈴木恵津子 富田英也 出版社：教育芸術社	書名：小学校教諭のための 歌唱共通教材ピアノ伴奏集 選べる 3 ステップ 映像 QR コード付き 著者名：編曲：大海由香 古谷和子 長谷川恭子 出版社：学研プラス 児童・幼児事業部 音楽事業室

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	楽器に関する基礎的知識、及び三和音等伴奏に関する基礎的知識を身につける。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	音楽活動に用いる楽器の基本的奏法及びピアノ伴奏の基本的奏法を身につける。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	幼児・児童の声域及び音楽的発達の特徴に関する知識を身につける。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	幼児・児童の音楽的発達に即した演奏技法を身につける。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	子どもの思いや願いに寄り添う指導・支援の在り方について省察することができる。	△
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	教育実習における器楽指導を想定し、人前で演奏する機会を積極的につくることことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	課題意識をもって授業に臨むことができる。	○
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。	△
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。	○
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	知識と技能との関連について思考することができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。	◎
	② 傾聴力	他者の表現のよさに気付くことができる。	○
	③ 柔軟性	困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。	△
	④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。	○
	⑤ 規律性	他者と協力してより質の高い音楽表現をめざすことができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	○

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20	30				100
評価 の 指標	知識に関する評価		10		20					30
	技能に関する評価		20			10				30
	応用力に関する評価		20							20
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価					10				10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> 各楽器の基本的奏法を習得するとともに、音楽活動における楽器の役割や器楽指導上の留意点を十分に理解することができる。 曲想を理解し、それを表すために適切なテンポや強弱を工夫しながらピアノ伴奏をすることができる。 					<ul style="list-style-type: none"> 各楽器の基本的奏法を習得し、その役割や効果を理解することができる。 楽譜に記された記号等を理解し、一定程度正しくピアノ伴奏をすることができる。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	楽器学の基礎「いろいろな楽器にふれてあそんでみよう」	講義	予習：楽器について 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	参加態度・小テスト			
第2回 /	「ボディパーカッションで音楽づくり」	個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			
第3回 /	「叩く、こする、振る楽器をつくってリズムであそぼう」タンブリン、太鼓、ギロ、鈴など	個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			
第4回 /	「はじく楽器をつくって音のダイナミックを工夫してあそぼう」ギター、箏、ウクレレなど	個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			
第5回 /	「吹く楽器をつくって音高を工夫してあそぼう」リコーダー、カズー、ストロー笛など	個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			
第6回 /	「鍵盤楽器を使ってみんなでアンサンブルをしよう」	個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			
第7回 /	三和音（コードネーム）の演奏	個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度・テキスト課題			
第8回 /	「コードをつけて伴奏しよう」伴奏の種類と演奏	個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度・テキスト課題			
第9回 /	「移調にチャレンジしてみよう」	個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度・テキスト課題			
第10回 /	ピアノ奏法（1）2人1組での演奏、独奏の模範演奏ならびに個別指導	個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			
第11回 /	ピアノ奏法（2）2人1組の演奏、独奏の模範演奏ならびに個別指導	個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			
第12回 /	ピアノ奏法（3）2人1組の演奏、独奏の模範演奏ならびに個別指導	個別演習・発表	予習：前回の学修内容 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			
第13回 /	ピアノ奏法（4）2人1組の演奏、伴奏の模範演奏ならびに個別指導	個別演習・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			
第14回 /	ピアノ奏法（5）課題曲による奏法と個別指導 及び講義のまとめ	個別演習・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			
第15回 /	ピアノ奏法 総仕上げ発表 及び講義のまとめ	個別演習・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	音楽演習Ⅱ（器楽応用） Exercise to Music II (Instrumental)	1単位	選 択	演 習	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	器楽演奏において指導者に求められる資質は、曲の内容を把握しどのように表現するか、また子どもにどのように伝え、音楽表現力を引き出して高められる指導をするかである。そのため必要な読譜力・歌唱力・演奏技法を一層向上させることを目指す。これにより子どもに器楽を使用した音楽表現の力を高めることができる。					
	キーワード	器楽演奏 ピアノ伴奏	学修教育目標	音楽表現のためのリズム曲の指導と、子どもの歌のピアノ伴奏とその指導ができることを目指す。		

授業科目の概要及び学修上の助言

授業は実技と音楽理論の演習形式で進める。						
----------------------	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし。						
-------	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

なし			追って指示する。			
----	--	--	----------	--	--	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	器楽演奏に必要な音楽理論の知識を身につける。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	子どもの歌のピアノ伴奏と指導技能を身につける。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	課題意識をもって授業に臨むことができる。	◎
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。	◎
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。	◎
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。	◎
	③ 創造力	知識と技能との関連について思考することができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。	○
	② 傾聴力	他者の表現のよさに気付くことができる。	○
	③ 柔軟性	困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。	○
	④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。	○
	⑤ 規律性	他者と協力してより質の高い音楽表現をめざすことができる。	△
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。	△
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	10	20			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		15	10	10					35
	技能に関する評価		15			10				25
	応用力に関する評価		10			10				20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10						10	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
音楽理論の知識を身につけ、子どもの歌のピアノ演奏及び弾き歌いができる。					音楽理論の知識を身につけ、ピアノ技術を一層向上させる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス、音楽理論の基礎	講義・実技	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第2回 /	演習（1）ピアノ課題	講義・実技	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第3回 /	演習（2）ピアノ課題	講義・実技	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第4回 /	演習（3）ピアノ課題	講義・実技	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第5回 /	演習（4）ピアノ伴奏課題、弾き歌い	講義・実技	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第6回 /	演習（5）ピアノ伴奏課題、弾き歌い	講義・実技	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第7回 /	演習（6）ピアノ伴奏課題、弾き歌い	講義・実技	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第8回 /	演習（7）ピアノ伴奏課題、弾き歌い	講義・実技	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第9回 /	演習（8）コード伴奏課題、弾き歌い	講義・実技	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第10回 /	演習（9）コード伴奏課題、弾き歌い	講義・実技	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第11回 /	演習（10）コード伴奏課題、弾き歌い	講義・実技	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第12回 /	演習（11）コード伴奏課題、弾き歌い	講義・実技	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第13回 /	音楽理論総合	講義・実技	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第14回 /	総合（1）課題曲によるピアノ奏法と指導 レポート	講義・実技	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第15回 /	総合（2）課題曲によるピアノ奏法と指導	講義・実技	実技練習課題 音楽理論プリント	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	美術創作 I Creation to Art I	1単位	必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	美術創作においては、表現素材や技法の特性とその多様性に注目し、表現内容にふさわしい素材と技法が選択できること。これにより子どもはふさわしい素材を通じて造形表現ができることを知る。					
	キーワード	感じる力	学修教育目標	表現内容と表現方法を通じて素材体験や表現を感得することを目指す。また、作品のディスカッションを通じて客観的な評価へ到達する。		

授業科目の概要及び学修上の助言

子供の発育段階に応じた感性のあり方、ものを生み出す力、表現することの意味を美術創作の基礎的な表現方法を学びつつ考察する。共感性が必要である。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

履修に必要な予備知識や技能は特になし。						
---------------------	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

なし			なし			
----	--	--	----	--	--	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	美術表現による教育のための基礎的内容を理解する。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	美術表現による教育のための基礎的内容を身につける。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	発達段階に於ける感性を考察し、理解を深める。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	発達段階に於ける感性を考察し、それに応じた表現方法を学ぶ。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	相手の立場に立ち物事を考える力を持つ。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	柔軟な思考力を身につける。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる。	△
	③ 実行力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。	◎
	② 計画力	進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正できる。	○
	③ 創造力	複数のもの（もの、考え方、技術など）を組み合わせ、新しいものを作り出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。	◎
	② 傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。	◎
	③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	周囲の人の状況（人間関係、忙しさ等）に配慮して、良い方向へ向かうよう行動することができる。	○
	⑤ 規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。	△
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受けとめすぎないようにしている。	△
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45			55				100
評価 の 指標	知識に関する評価		5			10				15
	技能に関する評価		10			10				20
	応用力に関する評価		10			10				20
	チームワークに関する評価		5			10				15
	関心・意欲に関する評価		15			15				30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
美術を学び、その表現方法を知ることにより実践で役に立つまでの理解と思考力を持ち得る。					美術を学び、作品表現の為の素材の特性を理解し、作る楽しさや表現の喜びを感じることにより、生み出す力の大切さを知る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	絵画の史的変遷について	講義及び実習	自分の好きな絵画を調べておく。	10
	絵画への関心と知識			
第2回 /	絵画の構造と体系	講義及び実習	美術史の思想や運動について調べる。	10
	絵画への関心と知識			
第3回 /	創作実習（1）絵画制作実習	講義及び実習	自分の好きな美術の分野や作家を調べる。	10
	制作意欲 表現力			
第4回 /	鑑賞教育の意義と問題	講義及び鑑賞	鑑賞教育について調べる。	10
	自分の意見をしっかりと述べるができる。			
第5回 /	絵画と指導（1）絵画制作実習と個別指導	講義及び実習	具象絵画と抽象絵画の違いを調べる。	10
	発想力 表現力 技術力			
第6回 /	創作実習（2）デザイン作品制作実習	講義及び実習	色の特性を調べる。	10
	アイデアの発想力 技術力			
第7回 /	絵画と指導（2）絵画制作（続）制作の指導法	講義及び実習	制作した作品を検証する。	10
	自作品の分析 他作品の評価			
第8回 /	現代美術について	講義及び実習	現代美術について調べる。	10
	アイデアの発想力			
第9回 /	創作実習（3）図画工作の実習と指導	講義及び実習	構成について考える。	10
	制作意欲 表現力 技術力			
第10回 /	創作実習（4）デザイン作品制作実習	講義及び実習	物と言葉をデザインする。	10
	発想力 表現力 技術力			
第11回 /	創作実習（5）絵画制作実習	講義及び実習	色彩の効果と描画材料について調べる。	10
	発想力 表現力 技術力			
第12回 /	図画工作の実習と指導（1）素材の特徴と使用例	講義及び実習	工作に適した素材を調べる。	10
	発想力 表現力 技術力			
第13回 /	図画工作の実習と指導（2）作品制作と個別指導	講義及び実習	今までに制作した工作を思い出してみる。	10
	発想力 表現力 技術力			
第14回 /	図画工作と作品講評、制作の指導法	講義及び実習	他者の作品を読み取る。理解する。	10
	自作品の分析			
第15回 /	まとめ 確認と振り返り	講義及び実習	教育における美術の役割について考える。	10
	美術への関心と理解			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	美術創作Ⅱ Creation to Art Ⅱ	1単位	選 択	演 習	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	「美術創作Ⅰ」を更に発展させ、実作を通じて造形表現の広がりや限界、造形表現の多様性と制約等、造形表現をめぐる諸問題を取り上げ、創作活動とは何かを問い直す契機とする。子どもの造形表現を高める創作活動との多様性と限界を見極める契機としたい。					
	キーワード	乳幼児の造形活動の取り組みと理解	学修教育目標	創作活動を通じて表現過程を追体験し、美術創作の指導に役立てることを目指す。		

授業科目の概要及び学修上の助言

- ・乳幼児の造形活動に関する絵本・専門書を出来るだけ読んでおく。
- ・課題についてよく理解して授業に臨むこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

- ・幼稚園や保育園での造形活動で一般的な材料用具を駆使し、子ども達の発達段階に即した題材を演習する。

教科書

参考書・リザーブブック

適時、教材プリントを配布する。

書 名：みんなで造形4、5歳児“絵を描こう！”
著者名：舟井 賀世子
出版社：サクラクレパス出版部
書 名：みんなで造形2、3歳児“描こうよ！作ろうよ！”
著者名：舟井 賀世子
出版社：サクラクレパス出版部

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	・教育・保育理念を理解する。 ・教育課程を理解する。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	実践を通して具体的な保育技術・実践内容の習得をする。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	身体の育ち・情緒の育ち・ことばの育ち・知的な育ちを知る（ピアジェ・ファンツ・モンテッソリーなど）。	△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	保育現場の実践資料を基に実技をする。	◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	多様な演習課題を通して感性や想像力を高めると共に小幼保の造形指導に対応できる能力や知識を身につける。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	子どもの発達に見合った教材・環境作りへの理解を深め、技術力・能力を高めることをねらいとする。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分の取り組みの目的・役割を認識する。	◎
	② 働きかけ力	状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる。	△
	③ 実行力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	保育のねらいを理解し意識する。	◎
	② 計画力	経験・環境・発達に合わせて指導計画が立案できる。	○
	③ 創造力	自分なりの思いを色や形でイメージを豊かに広げる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	壁面製作の取り組みの話し合いに主体的に考えを伝える。	◎
	② 傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。	◎
	③ 柔軟性	友達の思いや意見に共感し、寄り添う気持を持つ。	◎
	④ 状況把握力	自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる。	△
	⑤ 規律性	チームでの規律を尊重することができる。	△
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている。	△
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			20		10	40	30			100
評価 の 指標	知識に関する評価		10		10					20
	技能に関する評価		10			10	10			30
	応用力に関する評価					10				10
	チームワークに関する評価					10	10			20
	関心・意欲に関する評価					10	10			20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> 多様な実践を通して、思いを育てる造形表現の手だてなどを学ぶとともに保育者としての豊かな感性を育て、発想力・技術力を高めることをねらいとする。 色や形で表現することの楽しさを身体や感性で理解する。 表現を幼児とともに楽しみながら、指導していくための力を身につける。 					<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の主体的な表現活動を理解し、保育者として個性や自主性の育成を大切にしたい指導ができる能力や技術・応用力を身につけることをねらいとする。 幼児の造形あそびを知る。 様々な画材の特性を知り、技法を習得する。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	乳児期の造形的発達を知る（1） ①なぐり描きの発達・特徴を知る	乳児の絵画発達を資料・作品から学ぶ。	みんなで造形4、5歳児“絵を描こう！”	60
	レポート提出			
第2回 /	乳児期の造形的発達を知る（2） ①乳児の造形あそび（絵の具を使ってのごっこ遊び）	乳幼児の色彩表現の発達・色の作り方を実践を通して学ぶ。	みんなで造形4、5歳児“絵を描こう！”	60
	課題提出			
第3回 /	乳児期の造形的発達を知る（3） ①乳児の造形あそび（のり・はさみの指導法・応用）	作ることの発達に合わせての取り組みを実践する。	みんなで造形2、3歳児“描こうよ！作ろうよ！”	60
	課題提出			
第4回 /	壁面製作（1）	製作の目的・方法を学び、理解し、共同で取り組む。	「新造形表現・実技編」 三晃書房	60
	作品展示			
第5回 /	壁面製作（2）	前回同様取り組む。	「新造形表現・実技編」 三晃書房	60
	作品展示			
第6回 /	幼児期の造形的発達を知る（1） 描画の発達段階と題材例（3・4・5歳児）	幼児期の発達の特徴を作品を通して理解し絵のよみとり・見方を学び描く。	「新造形表現・理論編」 三晃書房	60
	作品提出			
第7回 /	幼児期の造形的発達を知る（2） ①題材・材料の組み合わせ・色の作り方	幼児にとって取り組みやすい題材を知り描く。	みんなで造形4、5歳児“絵を描こう！”	60
	課題提出			
第8回 /	見立てあそびから作品展への展開（3・4・5歳児）（1）	作ることの発達について理解し作品展の取り組みを立案し製作する。	みんなで造形4、5歳児“絵を描こう！”	60
	製作活動			
第9回 /	見立てあそびから作品展への展開（3・4・5歳児）（2）	発達を配慮し、廃材を使い色・形で立体化して製作に取り組む。	みんなで造形4、5歳児“絵を描こう！”	60
	製作活動			
第10回 /	見立てあそびから作品展への展開（3・4・5歳児）（3）	取り組みを深め、出来たものを展示する。	みんなで造形4、5歳児“絵を描こう！”	60
	作品展示			
第11回 /	行事の造形（平面）	幼稚園・保育園では行事にちなんだ活動が行なわれることが多い。いくつかの行事に適した題材に取り組む。	「新造形表現・実技編」 三晃書房	60
	作品提出			
第12回 /	行事の造形（立体）	前回同様行事の造形に取り組む。	「新造形表現・実技編」 三晃書房	60
	作品提出			
第13回 /	ポップアップカード（1）（技法の基礎）	保育者としてポップアップカードの技法を知ることは有意義である。技法を用いてのカード作りを行う。	「新造形表現・実技編」 三晃書房	60
	作品提出			
第14回 /	ポップアップカード（2）（応用①）	前回同様取り組む。	「新造形表現・実技編」 三晃書房	60
	作品提出			
第15回 /	ポップアップカード（3）（応用②）	前回同様取り組む。	「新造形表現・実技編」 三晃書房	60
	作品提出			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	体育実技（子ども体操） Physical Education (Children's Gymnastics)	1単位	必修	実技	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	前半は幼児体育の基本的な運動と指導者としての基礎技能の体得・安全な実技指導について学び、後半においては子どもの持つ豊かな感性が表現できるよう、子どもの身体表現方法の技法について学修する。これにより子ども独自の身体表現ができるように指導できるようにする。					
キーワード	発育 発達 あそび 指導法	学修教育目標	子どもの表現能力を高めるために必要なことを、適切な時期に与えることができる技能の獲得を目指す。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
この授業は、子ども達と身体運動を通して係わることのできる実践力を養うことと、自分自身で実演できることを目的としている。授業においては、幼児を対象とした身体運動を紹介し、それを実技として実施し、さらに学生自身に授業を立案させ、模擬授業として実践させる。 準備学習として、参考書を中心とした事前学習を1h、授業後の振り返りと、授業内容を踏まえて再度参考書を中心とした学習で知識の定着をはかる事後学習を1h程度行うことが望ましい。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
幼児期は月齢での差も大きい為、幼児期の発育発達について基礎的な知識を習得していることが望ましい。						
教科書			参考書・リザーブブック			
なし			書名：体育あそび 著者名：米谷 光弘 出版社：ひかりのくに株式会社 書名：幼児のリズム体操集 著者名：松本 民子 出版社：チャイルド社 書名：保育のあそび200 著者名：高橋 系吾、山本 ツタ子 監修 出版社：チャイルド本社			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	発育段階に応じた指導内容を習得する。				○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	発育段階に応じた指導方法を習得する。				○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	発達とあそびについて理解を深める。				◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	発達を促すあそびの実践力を身に付ける。				○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	あそびは、情緒、基礎運動能力、コミュニケーション能力を同時に育むことを理解し、重要性を認識する。				○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	コミュニケーションをとりながら、表情豊かに実践できる力を養う。				◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	指導者としての自覚、意思を明確に持つ。				◎
	② 働きかけ力	自分の役割を認識し、チーム全体で課題達成を目指す。				◎
	③ 実行力	達成目標を明確化し、確実に実行する。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現代における幼児の発育の現状を認識し、課題を明らかにする。				◎
	② 計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する。				◎
	③ 創造力	既存の思考に囚われず、柔軟な発想で課題を解決する。				◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく伝える。				◎
	② 傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く。				◎
	③ 柔軟性					◎
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する。				◎
	⑤ 規律性	大学生として、マナー、ルールを守り、法令順守を心がける。				◎
	⑥ ストレスコントロール力					◎
4. 倫理観	① 倫理性					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			50				100
評価 の 指標	知識に関する評価		50							50
	技能に関する評価					30				30
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価					20				20
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>幼児期における体育の授業づくりの原理と方法を理解し、実技演習において実施することができる。 「体育遊び」の指導ポイントを理解し、実技演習を行うことができる。</p>					<p>幼児期の身体発達や運動発達など特性を踏まえて、実際の子どもの活動の姿や指導のあり方について理解できる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / コメントシート	オリエンテーション ①授業を受ける姿勢について ②単位を修得するとは ③授業の進め方、評価について ④受講時の諸注意事項 ⑤幼児体育について コメントシート	講義形式 コメントシート	・幼児体育についてまとめる	60
第2回 / コメントシート	幼児の運動遊びと体操1（ゆったりとした体操） ①体操の目的を意識しながら動きを覚える コメントシート	コメントシート	・ゆったりとした体操の目的理解し体操のポイントをまとめる	60
第3回 / コメントシート	幼児の運動遊びと体操2（ゆったりとした体操） ①体操の動きを覚えポイントを作成 コメントシート	コメントシート	・各自の課題を発見し解決策を考える	60
第4回 / 自己観察、他者観察シート、コメントシート	幼児の運動遊びと体操3（ゆったりとした体操） ①体操のポイントを理解し、自己観察と他者観察を行う 自己観察、他者観察シート、コメントシート	自己観察、他者観察シート コメントシート	・自己観察、他者観察から体操のポイントを整理し、レベルアップ方法を考え実技テストに備える	60
第5回 / 評価シート、コメントシート	幼児の運動遊びと体操4（ゆったりとした体操） ①他者観察・評価 評価シート、コメントシート	評価シート コメントシート	・他者観察、評価から得た内容を参考にし、ゆったりとした体操の必要性をまとめる	60
第6回 / コメントシート	幼児の運動遊びと体操5（リズムカルな体操） ①体操の目的を意識しながら動きを覚える コメントシート	コメントシート	・リズムカルな体操の目的理解し体操のポイントをまとめる	60
第7回 / コメントシート	幼児の運動遊びと体操6（リズムカルな体操） ①体操の動きを覚えポイントを作成 コメントシート	コメントシート	・各自の課題を発見し解決策を考える	60
第8回 / 自己観察、他者観察シート、コメントシート	幼児の運動遊びと体操7（リズムカルな体操） ①体操のポイントを理解し、自己観察と他者観察を行う 自己観察、他者観察シート、コメントシート	自己観察、他者観察シート コメントシート	・自己観察、他者観察から体操のポイントを整理し、レベルアップ方法を考え実技テストに備える	60
第9回 / 評価シート、コメントシート	幼児の運動遊びと体操8（リズムカルな体操） ①他者観察・評価 評価シート、コメントシート	評価シート コメントシート	・他者観察、評価から得た内容を参考にし、リズムカルな体操の必要性をまとめる	60
第10回 / コメントシート	幼児の運動遊びと体操9（ラジオ体操） ①体操のポイントを理解し、自己観察と他者観察を行う コメントシート	コメントシート	・自己観察、他者観察から体操のポイントを整理し、レベルアップ方法を考え実技テストに備える	60
第11回 / 評価シート、コメントシート	幼児の運動遊びと体操10（ラジオ体操） ①他者観察・評価 評価シート、コメントシート	評価シート コメントシート	・他者観察、評価から得た内容を参考にし、ラジオ体操の必要性をまとめる	60
第12回 / コメントシート	幼児の運動遊びと体操11（ヒップホップな体操） ①体操のポイントを理解し、自己観察と他者観察を行う コメントシート	コメントシート	・ヒップホップな体操の目的理解し体操のポイントをまとめる	60
第13回 / コメントシート	幼児の運動遊びと体操12（ヒップホップな体操） ①発達段階に応じたリズムダンスとその指導法のまとめ コメントシート	コメントシート	・他者観察、評価から得た内容を参考にし、ヒップホップな体操の必要性をまとめる	60
第14回 / 自己観察、他者観察シート、コメントシート	模擬授業1 自己観察、他者観察シート、コメントシート	自己観察、他者観察シート コメントシート	・自が課題を設定し、模擬指導による自己・他者観察から得た評価、内容を参考に、体操の目的理解を深める	60
第15回 / 自己観察、他者観察シート、コメントシート	模擬授業2 自己観察、他者観察シート、コメントシート	自己観察、他者観察シート コメントシート	・自が課題を設定し、模擬指導による自己・他者観察から得た評価、内容を参考に、体操の目的理解を深める	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	生徒指導の理論と方法 Theory and Method on Student Guidance	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>「生活指導」は、大正期末あたりから教育実践のなかから生み出され、理論的にも深められてきた日本に固有の概念である。この講義では、我が国の生活指導の実践と理論の歴史に学びながら、「子どもの荒れ」「学級崩壊」「いじめ」「登校拒否・不登校」などの今日的な問題の克服方途を考えてみたい。</p>					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	自己指導能力、道徳教育、キャリア教育、いじめ、不登校、反社会的問題行動	学修教育目標	<p>(1) 生徒指導の意義や原理が理解できる。 (2) 児童・生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方が理解できる。 (3) 児童・生徒の抱える生徒指導上の課題の様態、養護教諭等の教職員及び外部の専門家、関係機関等と学内外の連携も含めた対応のあり方が理解できる。</p>			
-------	-------------------------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>子どもたちの自己指導能力（自らを律し、自ら高まろうとする能力）を育成するためにはどのような指導が大切なのかを考える力を育成する。そのために、今の自分を振り返るとともに、子どもたちにそのようなことを考えさせるためにはどのような指導が有効なのかを考えてもらいたい。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>生徒指導は全教育活動の中で行われなければならない。つまり、各教科、道徳、総合的な学習や朝の会、終わりの会、HR、給食、掃除、登下校すべてで行われなければならない。その中でマイナスをプラスに、プラスをよりプラスにして行く指導をしなければならない。だから、生徒指導を考える上では基本的な知識や、教養はもとより、人格形成も豊かにして行くことで、率先垂範できてモデリングされるような人物として自分を高めて行く必要がある。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブドブック			
書 名：生徒指導論・道徳指導法 著者名：梨木 昭平 出版社：三恵社			講義中に指示する。			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	自然に対する感性と教養を身につける。	△
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	素話、絵本を読む力、読み聞かせの能力を高める。	△
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	幼児・児童の道徳性発達段階に関する知識を身につける。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	幼児・児童を観察しながらその子がどの発達段階にいるのか見極める。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	その子のもつ能力を最大限に高めたいと思う思いを強く持つとともに、教師としての倫理観を意識する。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	PDCA を理解し、そのことを自分の教育活動に当てはめて、次の教育過程に活用できる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとするすることができる。	○
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30	10			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		20					70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				10	10			5	25
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								5	5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
生徒指導の目標・内容・方法について十分理解できている。					生徒指導の目標・内容・方法について概ね理解できている。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	生徒指導の意義と原理について	講義	社会人基礎力事前評価シートの記入	30
	コメントシート			
第2回 /	生徒指導の歴史と理論展開	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第3回 /	学校における生徒指導（1） －生徒指導の組織化、教科等における生徒指導	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第4回 /	学校における生徒指導（2） －生徒指導と道徳教育、生徒指導とキャリア教育	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第5回 /	生徒指導の組織と計画 －生徒指導の組織体制	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第6回 /	生徒指導の方法 －集団指導の意味と意義	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第7回 /	生徒指導の方法 －個別指導 教育相談の意義と目的	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 小テスト準備 復習：授業内容のまとめ	60 30
	小テスト、コメントシート			
第8回 /	生徒指導のあり方の理解	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：小テスト	30 30
	コメントシート			
第9回 /	校則・懲戒・体罰（法令の内容の理解を含む）	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書、ニュース等） 復習：授業内容のまとめ プレゼンテーションのまとめ（レポート）	30 60
	プレゼンテーション、ワークシート			
第10回 /	いじめ問題の指導 －歴史的経緯、背景と現状・具体事例について理解	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第11回 /	不登校問題の指導	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第12回 /	暴力・非行問題の指導	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第13回 /	発達障害児への指導	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書、ニュース等） 復習：授業内容のまとめ プレゼンテーションのまとめ（レポート）	30 30
	コメントシート			
第14回 /	専門機関や地域との連携と課題	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 60
	コメントシート・レポート			
第15回 /	最終まとめ	講義	授業全体の総まとめ・テスト	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	進路指導の理論と方法 Theory and Method on Career Guidance	2単位	選 択	講 義	3年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	小学校における進路指導について解説するとともに、現代社会におけるキャリア教育の必要性について解説する。					
キーワード	キャリア教育、キャリア発達	学修教育目標	(1) 進路指導・キャリア教育の意義や原理が理解できる。 (2) 児童・生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導のあり方が理解できる。 (3) 児童・生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導についての考え方と具体的な指導のあり方が理解できる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
教科書として使用する「小学校キャリア教育の手引き」に掲載されている「職業観・勤労観を育む学習プログラム」等の内容を中心に、自分自身のキャリア発達について考え、さらに、小学校におけるキャリア教育の指導について学修していく。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
特別活動指導法、教科教育法（生活）、道徳、社会人基礎力						
教科書				参考書・リザーブブック		
<ul style="list-style-type: none"> 『小学校学習指導要領（最新版）』 文部科学省 『小学校キャリア教育の手引き<改訂版>』 文部科学省 『小学校現場での事例紹介資料（自主制作）』 				<ul style="list-style-type: none"> 『自分に気付き、未来を築くキャリア教育—小学校におけるキャリア教育推進のために—』（国立教育政策研究所） 		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	進路指導における基礎的な理論や指導するための内容・方法の専門的な知識を身につける。				○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	キャリア発達を見通した指導案をつくることができる。				○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	学年や教科との関連を図った指導を考えることができる。				○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	自分のキャリア発達の振り返りをもとに、子どものキャリア発達を見通した指導や学級経営に生かすことができる。				◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性					
	② 働きかけ力	集団や組織の中でリーダーシップを発揮し、他者や集団を動かしながら目標達成に向けて働きかけることができる。				○
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力					
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。				◎
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。				◎
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引きだすことができる。				○
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			20	10		20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30				10			30
	技能に関する評価					10				20
	応用力に関する評価		20						10	30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価					10			10	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の内容を十分理解し、自分のキャリア発達の振り返りを子どものキャリア発達を見通した指導や学級経営に生かすことができる。 各項目の理解度が80%以上である。 					<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の内容を理解し、自分のキャリア発達の振り返りを子どものキャリア発達を見通した指導や学級経営に生かすことができる。 各項目の理解度が60%以上である。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	小学校における進路指導の意義	・講義 ・グループ・ディスカッション	進路指導についての復習	30
第2回 /	進路指導の歴史① －これまでの進路指導－ 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	進路指導についての予習	30
第3回 /	進路指導の歴史② －これからの進路指導としてのキャリア教育－ 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	進路指導についての復習	30
第4回 /	小学校教育における進路指導の位置づけ 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	進路指導についての復習	30
第5回 /	進路指導及びキャリア教育と教育課程 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	進路指導についての復習	30
第6回 /	キャリア教育と特別活動、生活科、総合的な学習の時間との関係 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	生活科、総合的な学習の時間の目標と内容についての予習	30
第7回 /	小学校低学年（1、2年）の進路指導＜理論編＞ アドバイス・シートを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	パワーポイントによるプレゼンテーション資料作成	30
第8回 /	小学校中学年（3、4年）の進路指導＜理論編＞ アドバイス・シートを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	パワーポイントによるプレゼンテーション資料作成	30
第9回 /	小学校高学年（5、6年）の進路指導＜理論編＞ アドバイス・シートを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	パワーポイントによるプレゼンテーション資料作成	30
第10回 /	進路指導（キャリア教育）の「指導と評価」 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	特別活動、生活科、総合的な学習の時間の評価についての復習	30
第11回 /	キャリアガイダンスとカウンセリング（1） －基本的な考え方とカウンセリングの技法－ 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	指導案作成のための資料収集	30
第12回 /	キャリアガイダンスとカウンセリング（2） －具体的実践案の作成－ 指導案の作成	・講義 ・グループ・ディスカッション	指導案作成のための資料収集	30
第13回 /	キャリアガイダンスとカウンセリング（3） －実践案の発表と意見交換－ 指導案の作成	・講義 ・グループ・ディスカッション	指導案作成のための資料収集	30
第14回 /	学校組織と関係機関・家庭との連携 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	キャリア教育についての復習	30
第15回 /	まとめ 確認と振り返り －キャリア教育と社会人基礎力との関係－ 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	キャリア教育についての復習	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教育相談の基礎 Base of Educational Counseling	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>幼児・児童の教育上の問題に関し、教師がカウンセリング相談をする上で、幼児・児童および親に対して望ましい適切な援助や助言を実施するための教育相談をはじめとして、人の心をケアするカウンセリング実務の技法について学ぶことを目的とする。</p>	
	キーワード	学修教育目標

教育相談
カウンセリング
援助
助言

学修教育目標

幼児・児童・保護者をはじめとする他者に対して、より適切な援助ができるために、自己理解をベースにしつつ、人間の心に関する理解を深めていき、カウンセリングの諸理論や方法等、カウンセリングに関する基礎的な知識を身につける。

授業科目の概要及び学修上の助言

教師になるために必要な教育相談の理論と技法を学ぶ。本講義は教職関連科目であるため、15回の授業を通して、授業態度や物事に取り組む姿勢について身に付けていく必要がある。「教師になる」という高い目的意識が求められる科目であることを自覚して履修すること。主体的な学びとなるよう、各自授業ノートを準備し、学びに活かしていくことが望ましい。さらに、講義形式ではあるが、ペアワークやディスカッションを取り入れながら授業を進めていくため、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「教育心理学」と関係づけて学んでいくことで学びが深くなっていきます。

教科書

参考書・リザーブブック

プリント配布

書名：『よくわかる！教職エクササイズ③ 教育相談』
著者名：森田健宏・吉田佐治子（編著）
出版社：ミネルヴァ書房

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	「教育相談」に関する基礎的な知識を理解できる。	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	「教育相談」に関する基礎的な技能を修得することができる。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力	授業中の私語を注意することができる。	△
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35							35
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15						20	35
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価								25	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
「教育相談」に関する基礎的な知識を十分に理解している。 「教育相談」の基礎的な技法を十分に習得できている。 各項目の理解度が80%以上である。					「教育相談」に関する基礎的な知識を理解している。 「教育相談」の基礎的な技法を習得できている。 各項目の理解度が60%～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	教育現場における臨床心理学的諸問題（1） －「不登校・引きこもり・いじめ」等の問題について	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第2回 /	教育現場における臨床心理学的諸問題（2） －教育相談におけるスクール・カウンセリングの技法	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第3回 /	教育現場における臨床心理学的諸問題（3） －保護者対応について	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第4回 /	教育相談における心理アセスメント －心理検査を用い、幼児・児童の自己理解や対人関係のあり方の把握	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第5回 /	心理アセスメント（1） －教育現場や社会で用いられているさまざまな心理アセスメントについて	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第6回 /	心理アセスメント（2） －心理検査による自己理解	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第7回 /	カウンセリング技法について（1） －幼児・児童や保護者との信頼関係の確立	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第8回 /	カウンセリング技法について（2） －具体的なカウンセリング技法	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第9回 /	幼児・児童に対する療法 －認知行動療法、ロジャーズの自己理論と来談者中心療法、箱庭療法	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第10回 /	教育相談の具体的な進め方（1） －目標、進め方	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第11回 /	教育相談の具体的な進め方（2） －「不登校・引きこもり・いじめ」等に対する進め方	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第12回 /	教育相談の具体的な進め方（3） －相談体制、組織的取組み	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第13回 /	教育相談の具体的な進め方（4） －学校外諸機関との連携と必要性	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第14回 /	教師のメンタルヘルス	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第15回 /	これからの教育相談 確認と振り返り	講義・質疑応答	復習：講義内容・試験範囲の振り返り	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教科教育法（国語） Teaching Method (Japanese Language)	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	国語科教育の基礎的・基本的な理論を理解し、小学校現場で実際の指導ができるように、教材研究の方法と留意点について、実践的基礎能力を身に付けさせることをめざす。					
	キーワード	学修教育目標	国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>（概要） 小学校学習指導要領解説 国語編』（文部科学省）、各回要点のまとめプリント（含む・教材）によって及び、国語科教育の基礎理論についての学習と、具体的な教材（テキストとしての小学校国語教科書）を使つての指導案作成と模擬授業とを通し、教材研究・授業の創りかたの実際を指導する。</p> <p>（助言） 夢に見た教師になるために必要な講義と心得、自主的・意欲的に受講すること。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>（関連）「国語科概論」および、他教科の「教科教育法」や「子ども発達学基礎演習Ⅱ」における、模擬授業・指導案の書き方等との関連。</p> <p>（予備知識等）「小学校学習指導要領解説 国語編」の通読。</p>
--

教科書	参考書・リザーブブック
<ul style="list-style-type: none"> 『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編』（文部科学省） 各回要点のまとめプリント（自主制作）・光村図書版全学年上巻小学校国語教科書 佐々木豊 著『あいうえおからのおくりもの—私のイメージ辞典』（メディアアイランド刊） 	野地潤家著『国語教育学研究』（溪水社刊）

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	保・幼・小各時期における子どもの言葉の表出について理解することができる。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	子どもたちを意識した音読の仕方や、板書の書き方等の技能を身につけている。	△
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」に、発達段階に応じた指導の違いがあることを理解する。	△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	具体的な教材を模擬指導することを通して、子どもの発達段階に応じた指導を意識することができる。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	教職に就くという意識をもって、保・幼・小各時期における子どもたち一人ひとりを思い浮かべて、授業の準備に臨もうとする。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	模擬授業等で、自分なりに工夫した指導案を作成し、よく考えながら取り組むことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類（4つの力）	能力要素（13の要素）	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとするすることができる。	○
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	◎
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	① 発信力		
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20		30				100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	4		6				20
	技能に関する評価		10	4		6				20
	応用力に関する評価		10	4		6				20
	チームワークに関する評価		10	4		6				20
	関心・意欲に関する評価		10	4		6				20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
国語とは、どのような教科か、どのような学力をめざすのかを考えて、小学校国語科教育の知識や技能を身に付けるとともに、教材や授業について具体的に研究が行える。					小学校国語科教育の知識や技能を身に付けるとともに、教材や授業について具体的に研究が行える。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	国語科で何を教えるのか 指導案の書き方—教材研究—（説明文）	講義と演習	・配布資料予復習	40
	言葉の正しさとふさわしさ/説明文の教材研究の仕方を理解する			
第2回 /	授業時間は45分 指導案の書き方—単元計画—（説明文）	講義と演習	・配布資料予復習	40
	45分という時間感覚/単元計画の立て方を理解する			
第3回 /	発問について/情報教材取扱い 指導案の書き方—評価規準・基準—（説明文）	講義と演習	・配布資料予復習	40
	発問の出し方/評価規準・基準の設定の仕方について理解する			
第4回 /	板書の仕方/読書指導 指導案の書き方—導入・展開・整理—（説明文）	講義と演習	・配布資料予復習	40
	誰のための板書か/1時間の授業の創り方を理解する			
第5回 /	物語の授業 指導案の書き方<指導案発表会>（説明文）	講義と演習	・配布資料予復習	40
	場面の読み取り/資料を参照しながら説明文の指導案が書ける			
第6回 /	説明文の授業 指導案の書き方—教材研究—（物語文）	講義と演習	・配布資料予復習	40
	着目の場所/物語文の教材研究の仕方を理解する			
第7回 /	作文の指導 指導案の書き方—単元計画—（物語文）	講義と演習	・配布資料予復習	40
	原稿用紙での句読点、「」の書き方がわかる（作文指導用黒板シート） /単元計画を立てることができる			
第8回 /	伝統的教材（古典）の取扱い 指導案の書き方—評価規準・基準—（物語文）	講義と演習	・配布資料予復習	60
	声に出して読みたい日本語 /評価規準・基準を設定することができる			
第9回 /	討論・発表の授業 指導案の書き方—導入・展開・整理—（物語文）	講義と演習	・配布資料予復習	40
	日常生活における話し合い活動 /1時間の授業案を作成することができる			
第10回 /	漢字指導 指導案の書き方<指導案発表会>（物語文）	講義と演習	・配布資料予復習	40
	漢字を創る/他人の作成した指導案について批評的に理解することができる			
第11回 /	書写指導について/実技模擬授業①	講義と演習	・配布資料予復習	60
	毛筆、硬筆での書写指導の仕方を理解する。（水書板） /教育実習研究授業を想定し、自分で選んだ教材による模擬授業ができる			
第12回 /	机間巡視/実技模擬授業②	講義と演習	・配布資料予復習	40
	一斉指導と個別指導 /教育実習研究授業を想定し、一斉指導や個別指導を意識して模擬授業ができる			
第13回 /	先生の言葉遣いについて/実技模擬授業③	講義と演習	・配布資料予復習	60
	授業参観 /教育実習研究授業を想定し、他人の展開する模擬授業に対して優れたところ、改善すべきところを指摘することができる			
第14回 /	評価・ポートフォリオについて/実技模擬授業④	講義と演習	・配布資料予復習	40
	「評価」の意味 /模擬授業を通して、指導と評価について理解することができる			
第15回 /	この教科のまとめ—教育実習で国語の授業ができる意気込みを持つ—	講義と演習	・配布資料予復習	40
	履修カルテを作成することができる			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るように努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教科教育法（社会） Teaching Method (Society)	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	学習指導要領を中心に社会科に求められる児童の学力を追求する。					
	キーワード	問題解決学習	学修教育目標	社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>小学校学習指導要領解説 社会編を熟読しておくこと。授業に際しては、各自の問題意識を大切にしながら、教育実習への心構えを学修します。自分にとっての社会学とは何かを考えながら受講すること。自身の周囲を問題意識をもって見直すこと。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「社会科概論」、「教職実践実習（初等）」、「教育実習指導（小学校）」、「教育実習（小学校）」
--

教科書

参考書・リザーブブック

『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編』文部科学省 小学校社会科教科書、地図帳	なし
---	----

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	地域産業や消費生活、地理的環境や生活の変化、わが国の国土の様子や産業の様子について、また、我が国の歴史や文化、政治について理解し、社会の形成者を育てることができる。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	観察・調査したり、地図や地球儀、統計、年表などの資料を効果的に活用したり、社会事象の意味や働きなどのついて考え、表現したりする力を育てることができる。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。	◎
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			30			20	100
評価 の 指 標	知識に関する評価		20						10	30
	技能に関する評価					20				20
	応用力に関する評価		30							30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価					10			10	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
社会科の問題解決的学習に向けた指導案の作成及び、子どもが意欲的に探究できる教材開発や授業展開ができる。					社会科学習のめあてをつかみ、課題を明確に設定して問題解決的な学習を展開することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	学習指導要領における小学校社会科の目標・内容を構造的にまとめる	・講義	・第3・4学年の指導内容（予習）	30
第2回 /	学習指導（1） －第3学年 第4学年	・講義 ・グループによるディスカッション	・第3・4学年の指導内容（復習） ・第5学年の指導内容（予習）	30
第3回 /	学習指導（2） －第5学年	・講義 ・グループによるディスカッション	・第5学年の指導内容（復習） ・第6学年の指導内容（予習）	30
第4回 /	学習指導（3） －第6学年	・講義 ・グループによるディスカッション	・第6学年の指導内容（復習）	30
第5回 /	教材研究と情報機器の活用（1） －第3学年・地域の生産	・講義 ・グループによるディスカッション	・地域素材の教材化について（復習）	30
第6回 /	教材研究と情報機器の活用（2） －第4学年・くらしの移り変わり	・講義 ・グループによるディスカッション	・地図利用、地球儀、年表等教材活用について（復習）	30
第7回 /	教材研究と情報機器の活用（3） －第5学年・情報、産業、国土	・講義 ・グループによるディスカッション	・絵地図作成の活動について（復習）	30
第8回 /	教材研究と情報機器の活用（4） －第6学年・歴史、政治	・講義 ・グループによるディスカッション	・第3学年 指導案作成（復習）	30
第9回 /	教材研究と情報機器の活用（5） －地域素材の教材化、地図利用、読図の基本、地球儀・年表等教材教具の活用	・講義 ・グループによるディスカッション	・第4学年 指導案作成（復習）	30
第10回 /	指導計画の作成 －指導計画作成上の配慮事項 －各学年にわたる内容の取扱いと指導上の配慮事項	・講義 ・グループによるディスカッション	・第5学年 指導案作成（復習）	30
第11回 /	学習指導案の作成及び模擬授業（1） －指導課程と教材を中心に	・講義 ・グループによるディスカッション	・第6学年 指導案作成（復習）	30
第12回 /	学習指導案の作成及び模擬授業（2） －学習者の反応と発問を中心に	・講義 ・グループによるディスカッション	・模擬授業（3・4年）実施のまとめ（復習）	30
第13回 /	学習指導案の作成及び模擬授業（3） －模擬授業とその振り返りを中心に	・講義 ・グループによるディスカッション	・模擬授業（5年）実施のまとめ（復習）	30
第14回 /	学習指導案の作成及び模擬授業（4） －模擬授業とその振り返りを中心に	・講義 ・グループによるディスカッション	・模擬授業（6年）実施のまとめ（復習）	30
第15回 /	授業における評価 －評定、評価（相対・絶対、規準・基準）	・講義 ・グループによるディスカッション	・模擬授業（6年）実施のまとめ（復習）	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教科教育法（算数） Teaching Method (Mathematics)	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	算数科の教材研究、学習指導案の作成を学修し、それをもとに模擬授業を行うことで、実践的な算数の教育法を身に付ける。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・単元目標と評価の観点・規準 ・問題解決的な学習と言語活動の活性化 ・アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び） 	学修教育目標	算数科における教育目標、育成をめざす資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
-------	---	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

子どもを前にした実際の授業を想定した学習指導案を作成することが重要です。さらに、子どもの関心・意欲や思考力・判断力・表現力を高める指導のあり方を模索するために進んで模擬授業に取り組んでください。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

算数科概論						
-------	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
書名：『小学校学習指導要領解説(平成29年告示)算数編』 著者名：文部科学省 出版社：日本文教出版			授業中に適宜指示する。			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	指導内容についての専門的な知識を身につける。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	指導方法についての専門的な技能を身につける。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもの発達に応じた指導方法を工夫する。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	授業に対する関心・意欲・態度や言葉遣いをはじめ、子どもに対する配慮や人権感覚を身につける。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	様々な知識・技能等を組み合わせ、問題の解決に対して新たな方法を考えることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			20	10		20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30						10	40
	技能に関する評価					10	10			20
	応用力に関する評価		20			10				30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> 算数科における指導内容と指導方法についての十分な理解をもとに、指導の具体的な計画を立てることができる。 模擬授業を想定した問題解決的な学習（指導案）を計画することができる。 各項目の理解度が80%以上である。 					<ul style="list-style-type: none"> 算数科における指導内容と指導方法についての理解をもとに、指導の具体的な計画を立てることができる。 模擬授業を想定した指導を計画することができる。 各項目の理解度が60%以上である。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、およその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	学習指導要領（算数科）の目標について	・講義 ・グループによるディスカッション	学習指導要領についての復習	30
第2回 /	学習指導要領（算数科）について －内容：領域の系統性、関係性－ 振り返りを書く	・講義 ・グループによるディスカッション	学習指導要領についての予習	30
第3回 /	算数科学習指導の基礎理論（1） －学習指導の目標と評価（評価の観点と規準）－ 振り返りを書く	・講義 ・グループによるディスカッション ・模擬授業（算数的活動）	学習指導要領についての復習	30
第4回 /	算数科学習指導の基礎理論（2） －アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）等－ 振り返りを書く	・講義 ・グループによるディスカッション	アクティブラーニングについての予習	30
第5回 /	算数科学習指導の基礎理論（3） －問題解決的な学習、言語活動の活性化 等－ 振り返りを書く	・講義 ・グループによるディスカッション	問題解決的な学習、言語活動の活性化についての復習	30
第6回 /	算数科学習指導の基礎理論（4） －児童理解と発問・板書・机間指導 等－ 振り返りを書く	・講義 ・グループによるディスカッション	算数科学習指導についての復習	30
第7回 /	模擬授業の方法とその意義 －単元決定と内容・教材研究、情報機器の活用、指導の構想－ 振り返りを書く	・講義 ・グループによるディスカッション	模擬授業に関する資料収集	30
第8回 /	指導案作成と模擬授業(1) －「数と計算」領域（1～3年）の教材分析－ アドバイスカードを書く、指導案の作成	・模擬授業 ・全体での意見交流 ・指導助言	教材研究・指導案の作成	30
第9回 /	指導案作成と模擬授業(2) －「数と計算」領域（4～6年）の教材分析－ アドバイスカードを書く、指導案の作成	・模擬授業 ・全体での意見交流 ・指導助言	教材研究・指導案の作成	30
第10回 /	指導案作成と模擬授業(3) －「測定」領域の教材分析－ アドバイスカードを書く、指導案の作成	・模擬授業 ・全体での意見交流 ・指導助言	教材研究・指導案の作成	30
第11回 /	指導案作成と模擬授業(4) －「図形」領域の教材分析－ アドバイスカードを書く、指導案の作成	・模擬授業 ・全体での意見交流 ・指導助言	教材研究・指導案の作成	30
第12回 /	指導案作成と模擬授業(5) －「変化と関係」領域の教材分析－ アドバイスカードを書く、指導案の作成	・模擬授業 ・全体での意見交流 ・指導助言	教材研究・指導案の作成	30
第13回 /	指導案作成と模擬授業(6) －「データの活用」領域の教材分析－ アドバイスカードを書く、指導案の改善	・模擬授業 ・全体での意見交流 ・指導助言	模擬授業についての復習	30
第14回 /	算数教育の視点からの模擬授業の振り返りと意見交流 振り返りを書く	・模擬授業 ・グループによるディスカッション	指導案の改善	30
第15回 /	授業における評価 －評定、評価（相対・絶対、規準・基準）－ 振り返りを書く	・模擬授業 ・グループによるディスカッション	算数科学習指導についてのまとめ	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教科教育法（理科） Teaching Method (Science)	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	理科の系統的な理解のために必要な知識、教材、授業方法、評価などを学修する。					
----------------------------	---------------------------------------	--	--	--	--	--

キ ー ワ ー ド	新学習指導要領 問題解決学習 問題解決能力 認知・動機 自然観 リボイシング 授業デザイン	学 修 教 育 目 標	理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
-----------------------	---	----------------------------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

理科における問題解決学習の意味を知り、学習プロセスにおける認知・動機の働きの理解を図ることで、理科を授業することの意味を分かるとともにどのように授業を行うのか、その方法を講義や授業ビデオを通して学ぶ。 同じ授業のビデオを視聴しても、理科教育の知識を増すことにより授業の見えてくる世界が増えてくることを自覚できるようになってほしい。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

人がどのように認知（思考・判断・知識）するのかは基本的構造は変わらない。教科によって使う知識は異なるが、その知識を活用して新しい知識を構成していく構造は共通性が多い。また、人の動機を含む情意的側面は認知にとって欠かすことが出来ないものであり、情意的側面は認知によって影響を受ける。その視点で他の科目も見てほしい。						
--	--	--	--	--	--	--

教 科 書	参考書・リザーブブック
書 名：小学校学習指導要領解説 理科 平成30年2月発行版 著者名：文部科学省 出版社：東洋館出版	なし

No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1)	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	理科教育及び理科授業デザインの知識を使える。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	理科授業方法についての技能を身につける。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	自然認識の発達についての知識を授業デザインで使える。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	発達に応じた教材提示や実験技能の知識を身につける。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	理科授業を通して自然に親しみ、自然科学についての批判的思考を行える。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	理科教育の実践知を身に着ける努力をレポートなどで行う。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標(※2)	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自然は主体的に見ないと見えてこない。子どもに対しても主体的でないと見えてこない。	◎
	② 働きかけ力	自然に働きかけることで、自然も答えをくれる。それは教職においても同じであること。	○
	③ 実行力	理科の問題解決を実行する力は、教職での問題解決する実行力に繋がる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自然の何の問題を解決する必要があるのかを発見する力は、教職での問題発見能力に繋がる。	○
	② 計画力	理科の問題解決を構想する力は、教員として授業をデザインする力に繋がる。	○
	③ 創造力	理科の問題解決を考え続ける力は、創造力に繋がる。	△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	理科の問題解決においてどのように表現（仮説・実験方法等）すれば良いのかは、発信力に繋がる。	○
	② 傾聴力	問題解決において、自然や友達の声を聴くことは大切な力。社会人としても同じ。	◎
	③ 柔軟性	自然を多面的・多層的に見る柔軟性が豊かな問題解決を生む。社会人としても同じ。	○
	④ 状況把握力	理科の問題解決において自然の様々な状況を把握し分析する力は大切。社会人としても同じ。	○
	⑤ 規律性	理科の実験や観察はチームで行う。そこでの規律性が問題解決の可否を生む。社会人としても同じ。	△
	⑥ ストレスコントロール力	自然の変化はこちらの思うようにはいかない。理科の問題解決はその連続。社会人としても同じ。	△
4. 倫理観	① 倫理性	人の心の命を預かっているという自覚と行動	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			10	10		30	100
評価 の 指標	知識に関する評価		25				5		15	45
	技能に関する評価					10	5			15
	応用力に関する評価		25						15	40
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
試験、模擬授業、指導案レポートの内容に、学修したことを基にした理科授業における子どもの具体的な姿を含めて表現できている。					授業で学修した理科授業の要点を表現できている。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	学習指導要領の変遷・優秀授業ビデオ視聴とその感想	講義	社会人基礎力事前評価シートの記入	30
	コメントシート			
第2回 /	学習指導要領の目標及び内容・優秀授業ビデオ視聴とその感想	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第3回 /	理科における子どもの問題解決（1） －事象提示と指導 ・問題解決授業ビデオ視聴とその感想	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第4回 /	理科における子どもの問題解決（2） －観察・実験と考察・結論 ・問題解決授業ビデオ視聴とその感想	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第5回 /	「A物質・エネルギー」に関する教材研究（1） －粒子 ・粒子授業ビデオ視聴とその感想	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	ワークシート			
第6回 /	「A物質・エネルギー」に関する教材研究（2） －エネルギー ・エネルギー授業ビデオ視聴とその感想	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	ワークシート			
第7回 /	「B生命・地球」に関する教材研究（1） －生命 ・生命授業ビデオ視聴とその感想	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	ワークシート			
第8回 /	「B生命・地球」に関する教材研究（2） －地球 ・生命授業ビデオ視聴とその感想	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	ワークシート			
第9回 /	教材研究と情報機器の活用 －地域素材や学校外施設・人材及びメディアの効果的な活用	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	ワークシート			
第10回 /	理科学習指導案（1） －観察、実験における安全指導（薬品管理）	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	ワークシート			
第11回 /	理科学習指導案（2） －学習指導案作成	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30 90
	ワークシート（指導案）			
第12回 /	理科学習指導案（3） －模擬授業	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	ワークシート			
第13回 /	理科学習指導案（4） －模擬授業・質疑応答	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	ワークシート			
第14回 /	理科学習指導案（5） －模擬授業・事後研究	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：レポート作成	30 90
	ワークシート			
第15回 /	理科授業まとめと自分への課題	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	ワークシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教科教育法（生活） Teaching Method (Life)	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	生活科は、現代の児童にとって、より重要になってきています。その理由は、今後の講義で明らかになってきますが、その生活科の誕生や果たす役割について学修します。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・目標と評価の3観点 ・自立への基礎 	学修教育目標	生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
-------	---	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

子どもを前にした実際の授業を想定した学習指導案を作成することが重要です。さらに、子どもの関心・意欲・態度や思考力・判断力・表現力を高める指導のあり方を模索するために進んで模擬授業の資料作成及び発表に取り組んでください。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

生活科概論						
-------	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）生活編』文部科学省			なし			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	指導内容についての専門的な知識を身につける。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	指導方法についての専門的な技能を身につける。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもの発達に応じた指導方法を工夫する。	◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	授業に対する関心・意欲・態度や言葉遣いをはじめ、子どもに対する配慮や人権感覚を身につける。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	様々な知識・技能等を組み合わせ、問題の解決に対して新たな方法を考えることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			30	10		10	100
評価 の 指 標	知識に関する評価		20				10			30
	技能に関する評価					20				20
	応用力に関する評価		30							30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価					10			10	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> 生活科における指導内容と指導方法についての十分な理解をもとに、指導の具体的な計画を立てることができる。 模擬授業を想定した問題解決的な学習を計画することができる。 各項目の理解度が80%以上である。 					<ul style="list-style-type: none"> 生活科における指導内容と指導方法についての理解をもとに、指導の具体的な計画を立てることができる。 模擬授業を想定した学習を計画することができる。 各項目の理解度が60%以上である。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	生活科の目標（1） －教科目標の構成、趣旨－	講義、演習	生活科についての復習	30
第2回 /	生活科の目標（2） －学年の目標の設定、趣旨－ 振り返りシート	講義、演習	生活科についての予習	30
第3回 /	生活科の内容 －内容構成の考え方、内容－ 振り返りシート	講義、演習	生活科についての復習	30
第4回 /	生活科の内容 －（1）～（4）と指導法－ ワークシート	講義、演習	ワークシートのまとめ（復習）	30
第5回 /	生活科の内容 －（5）～（9）と指導法－ ワークシート	講義、演習	ワークシートのまとめ（復習）	30
第6回 /	指導計画案の作成と内容の取扱い －配慮する事項－ 振り返りシート	講義、演習	生活科についての復習	30
第7回 /	指導計画案の作成と学習指導 振り返りシート	講義、演習	幼稚園・保育園の活動についての予習	30
第8回 /	年間指導計画案作成についての配慮事項 振り返りシート	講義、演習	総合的な学習の時間についての予習	30
第9回 /	生活科の学び（1） －思いや願いを追求する学習過程と効果的な教材（教材研究を含む） や情報機器の活用－ 振り返りシート	講義、演習	模擬授業資料作成（予習）	30
第10回 /	生活科の学び（2） －気づき、思考、表現と効果的な教材（教材研究を含む）や情報機器 の活用－ 振り返りシート	講義、演習	模擬授業資料作成（予習）	30
第11回 /	生活科の学び（3） －評価－ 振り返りシート	講義、演習	模擬授業資料作成（予習）	30
第12回 /	生活科の学習指導案の作成 振り返りシート	講義、演習	模擬授業資料作成（復習）	30
第13回 /	模擬授業を通じた学習指導の進め方 模擬授業資料	講義、演習	模擬授業資料作成（復習）	30
第14回 /	生活科から「総合的な学習の時間」へ 模擬授業資料	講義、演習	模擬授業資料作成（復習）	30
第15回 /	まとめ 確認と振り返り 振り返りシート	講義、演習	ワークシートのまとめ（復習）	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教科教育法（家庭） Teaching Method (Domestic Behavior)	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	講義による家庭科教育の理解と実技・実習を通じての実践的な取り組みにより、家庭科の教師としての必要な知識、技能を獲得する。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	家庭、衣食住、生活、食育	学修教育目標	家庭科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
-------	--------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

・集中講義のため、模擬授業までの時間が限られています。事前に家庭科の教科書の内容を復習し理解しておくこと。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「家庭科概論」、「教科教育法（生活）」						
---------------------	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
『小学校学習指導要領解説（最新版） 家庭科編』（文部科学省）			追って指示する。			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	学習指導要領「家庭」の内容が説明できる。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	衣食住に関する実技の実践、指導ができる。	△
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの生活実態について説明できる。	△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもの生活実態における具体的な改善方法を知っている。	△
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	家庭科教育の重要性を認識し、生きる力につなげた考え方、指導ができる。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	家庭生活における課題を的確にとらえ、改善案を効果的に提案し指導することができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	課題解決に向けて、モノ・ヒト・コトに関わりながら自発的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	自ら他者と共同して課題解決などに取り組むことができる。	○
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分の生活を振り返り、課題設定することができる。	○
	② 計画力	課題解決に向けて計画を立てられる。計画が遂行できない場合は、計画を見直すことができる。	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	相手の気持ちになって考え、行動することができる。グループ作業が円滑に進むよう行動できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	正義感や公正さを重んじ、生命を大切に、人権を尊重することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		15	40				100
評価 の 指標	知識に関する評価		15			10				25
	技能に関する評価		10		10	15				35
	応用力に関する評価		10			5				15
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価		10		5					15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>児童の実態に適した教材・教具や発問を工夫して指導案を作成し、児童役の学生が楽しかった・わかった・できるようになったと振り返りを書くような模擬授業が実施できた。</p>					<p>児童の実態に適した教材・教具や発問を工夫して自分なりに指導案を作成することができた。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	小学校家庭科教育の意義とねらい	講義	社会人基礎力事前評価シートの記入	30
	ワークシート			
第2回 /	小学校家庭科教育のあゆみ －変遷と教育課程	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第3回 /	家庭科の学習指導要領 －家庭科の目標、内容	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30
	ワークシート			60
第4回 /	家庭科における学習指導 －考え方、育てたい力、方法、より充実した指導	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第5回 /	家庭科における学習評価 －意義、方法、活かし方	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30
	ワークシート			60
第6回 /	指導と評価の計画（1） －考え方、年間指導計画案作成上の留意点	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第7回 /	指導と評価の計画（2） －学習指導案の作成	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30
	ワークシート、コメントシート			60
第8回 /	小学校家庭科の授業づくり（1） －「家庭生活と家族」の学習 今日の課題と学習のねらい、授業例、教材研究、情報機器の活用	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30
	ワークシート			60
第9回 /	小学校家庭科の授業づくり（2） －「日常の食事と調理の基礎」の学習 今日の課題と学習のねらい、授業例、教材研究、情報機器の活用	講義、演習（実技）	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30
	ワークシート、コメントシート			60
第10回 /	小学校家庭科の授業づくり（3） －「快適な衣服」の学習 今日の課題と学習のねらい、授業例、教材研究、情報機器の活用	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30
	ワークシート			60
第11回 /	小学校家庭科の授業づくり（4） －「快適な住まい」の学習 今日の課題と学習のねらい、授業例、教材研究、情報機器の活用	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30
	ワークシート			60
第12回 /	小学校家庭科の授業づくり（5） －「生活に役立つ物の製作」の学習 今日の課題と学習のねらい、授業例、教材研究、情報機器の活用	講義、演習（実技）	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30
	ワークシート、コメントシート			60
第13回 /	小学校家庭科の授業づくり（6） －「身近な消費生活と環境」の学習 今日の課題と学習のねらい、授業例、教材研究、情報機器の活用	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30
	ワークシート			60
第14回 /	模擬授業	講義、演習（模擬授業）	予習：模擬授業発表準備 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	90
	コメントシート			60
第15回 /	模擬授業の振り返り まとめ	講義、演習（プレゼンテーション）	予習：プレゼンテーション準備 復習：授業内容のまとめ レポート作成 社会人基礎力事後評価シート作成	60
	コメントシート			60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教科教育法（体育） Teaching Method（Physical Education）	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>教育職員免許法施行規則で定められた「教職に関する科目」の「教育課程及び指導法に関する科目」に対応する教職課程の必修科目である。 わが国の小学校体育科における、目的、内容、方法について理解するとともに、学習指導要領の理解を深め、生徒に応じた適切な指導をするために必要な基礎的知識について体得することを目的とする。</p>
--------	--

キーワード	<p>体育科の目標、内容、指導法</p>	学修教育目標	<p>体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p>
-------	----------------------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<ol style="list-style-type: none"> 1. 体育科の理念の変遷と学習指導要領の目標、内容、方法及び児童の発達課題について理解する。 2. 各領域における内容と指導上の留意点を理解する。 3. 指導案の作成の留意点と作成の手順を理解する。 4. 小学校教諭を目指す学生としての心構え・姿勢など望ましい態度を養う。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>児童の成長・発達に応じた運動課題の適時性などの基本的知識</p>

教科書	参考書・リザーブブック
<p>書名：『小学校学習指導要領解説（最新版）体育編』 著者名：文部科学省 出版社：東洋館出版社</p>	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	小学校体育科における目標・内容・方法について基本的内容を理解する。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	学習目標に応じた指導方法についての基本的技能を身に付ける。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	児童の発達段階を踏まえた運動特性の理解	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	児童の発達段階を踏まえた指導技能を身に付ける。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	小学校体育の指導を行う上での使命感、安全確保などの責任感、並びに個人情報や特別な支援を有する子への合理的配慮などの倫理観を身に付ける。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	小学校体育科教育法の知識や技能を実習などの教育現場において活用することができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。	○
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。	◎
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	○
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	○
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		40				10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		20					70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				10					10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				10				10	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
1. 講義内容を配布のレジメにまとめる。さらに自分のコメントを書き込める。 2. 調べ学習では積極的に行動する。さらに調べたことを発表することができる。					1. 講義内容を配布のレジメにまとめる。 2. 調べ学習では積極的に行動する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	体育科の変遷と改訂のねらい 体育科の目標、内容 －教科の目標、学年の目標、内容構成、各領域の内容	講義	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			
第2回 /	各学年の目標及び内容（1） －第1学年及び第2学年の目標及び内容	講義	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			
第3回 /	各学年の目標及び内容（2） －第3学年及び第4学年の目標及び内容、体育の内容	講義	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			
第4回 /	各学年の目標及び内容（3） －第5学年及び第6学年の目標及び内容体育の内容	講義	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			
第5回 /	指導計画案の作成と内容 －指導計画案作成上の配慮事項（認知特性・合理的配慮） －内容の取扱い －体育・健康に関する指導	講義	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			
第6回 /	学習指導のポイントと指導案の作成・運動領域（1） －体づくり運動、器械運動	講義・演習	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			
第7回 /	学習指導のポイント指導案の作成・運動領域（2） －走・跳の運動、陸上運動	講義・演習	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			
第8回 /	学習指導のポイント指導案の作成・運動領域（3） －水泳	講義・演習	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察、協働活動の観察			
第9回 /	学習指導のポイント指導案の作成・運動領域（4） －ボール運動	講義・演習	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			
第10回 /	学習指導のポイント指導案の作成・運動領域（5） －表現運動	講義・演習	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			
第11回 /	学習指導のポイント指導案の作成・保健領域（6） －保健 体育の評価方法	講義・演習	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察、協働活動の観察			
第12回 /	模擬授業（1）	講義・演習	資料の収集と整理	30
	協働活動の観察、他者評価			
第13回 /	模擬授業（2）	講義・演習	資料の収集と整理	30
	協働活動の観察、他者評価			
第14回 /	模擬授業（3）	講義・演習	資料の収集と整理	30
	協働活動の観察、他者評価			
第15回 /	まとめ ー全体の確認と振り返りー	講義	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教科教育法（音楽） Teaching Method (Music)	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	音楽教育の意義、表現方法・評価など、必要な知識・技能の習得を果たす。また、進んで音楽指導者として、それぞれの楽曲の意味内容の理解と表現力の涵養を目指す。					
キーワード	音楽科教育・指導法	学修教育目標	音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、模擬授業を通して想定した授業設計を行う方法と実践力を身に付ける。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
小学校音楽科の目標・内容・方法など、教科の構成理論について学ぶとともに、領域ごとの教材研究及び事例研究を通して、授業計画や学習指導案の作成について理解する。これらに関する知見を活かし、音楽科の授業を担当するために必要な演奏技能や指導法の習得をめざす。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの基本的奏法 ・歌唱、器楽に関する基本的知識 						
教 科 書				参考書・リザーブブック		
書 名：『小学校音楽 音楽1～6』 文部科学省検定教科書 著者名：小原光一監修他 16名 出版社：教育芸術社 ISBN978-4-87788-816-9C4373/ISBN978-4-87788-817-6C4373/ISBN978-4-87788-818-3C4373/ISBN978-4-87788-819-0C4373/ISBN978-4-87788-820-6C4373/ ISBN978-4-87788-821-3C4373				書 名：『三訂版 小学校音楽科の学習指導』 監 修：小島律子 出版社：廣済堂あかつき		
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1)				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	小学校音楽科の授業構成原理について理解する。				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	小学校音楽科の授業を実施するために必要な演奏技能及び指導・支援に必要な技能を身につける。				◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	幼児・児童の声域及び音楽的発達の特徴に関する知識を身につける。				◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	幼児・児童の音楽的発達に即した演奏技法を身につける。				○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	子どもの思いや願いに寄り添う指導・支援の在り方について省察することができる。				○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	教育実習における器楽指導を想定し、人前で演奏する機会を積極的につくることができる。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標 (※2)				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自己の課題を明確にして授業に臨むことができる。				◎
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。				○
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。				○
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。				◎
	③ 創造力	知識と技能との関連について思考することができる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。				◎
	② 傾聴力	他者の表現のよさに気付くことができる。				○
	③ 柔軟性	困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。				○
	④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。				○
	⑤ 規律性	他者と協力してより質の高い音楽表現をめざすことができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20	30				100
評価の指標	知識に関する評価		25		10					35
	技能に関する評価		10			10				20
	応用力に関する評価		10			10				20
	チームワーク力に関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価		5		10	5				20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校音楽科の指導内容や指導上の留意点等について十分理解することができる。 ・人前での演奏や助言に関して、教師として適切な判断や行動をすることができる。 					<ul style="list-style-type: none"> ・小学校音楽科の指導内容や指導上の留意点等について、一定程度理解することができる。 ・人前での演奏や助言に関して、教師の役割を意識した振る舞いができる。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	音楽教育の意義・目的について	講義	予習：学習指導要領の通読 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	発言、ワークシート、参加態度			
第2回 /	音楽科の目標と内容（学習指導要領解説）	個別演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：楽典課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、演奏技能、参加態度			
第3回 /	各領域および「共通事項」の内容	個別演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：楽典課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、演奏技能、参加態度			
第4回 /	指導計画案作成上の配慮事項	講義・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	発言、ワークシート、参加態度			
第5回 /	内容の取扱いにおける配慮事項	演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：歌唱練習	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度、模擬授業			
第6回 /	A表現「歌唱」の教材研究と情報機器の活用、指導法 －低学年、中学年、高学年に応じた教材	演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：器楽練習	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度、模擬授業			
第7回 /	A表現「歌唱」の指導法 －声づくりでの注意及び男子の変声期の指導方法	個別演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：編曲課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、演奏技能、参加態度			
第8回 /	A表現「器楽」の指導法 －音符の長さとの息の使い方 ソプラノリコーダー	講義・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	発言、ワークシート、参加態度			
第9回 /	A表現「器楽」の指導法と模擬授業 －鍵盤楽器と指使い、五線紙との関係	演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：歌唱練習	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度、模擬授業			
第10回 /	A表現「音楽づくり」の指導法と模擬授業 －手作り楽器による音楽づくり	演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：器楽練習	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度、模擬授業			
第11回 /	A表現「音楽づくり」の指導法と模擬授業 －ボディパーカッションによる音楽づくり	個別演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：編曲課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、演奏技能、参加態度、模擬授業			
第12回 /	B鑑賞の指導法 －歌唱・鑑賞共通教材の鑑賞	講義・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	発言、ワークシート、参加態度			
第13回 /	B鑑賞の指導法と模擬授業 －郷土の伝統音楽や民謡の鑑賞	演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：歌唱練習	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度、模擬授業			
第14回 /	学習指導案の作成 －A表現及びB鑑賞 評価の方法	演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：器楽練習	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度、模擬授業			
第15回 /	模擬授業及び、相互評価	演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：器楽練習	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教科教育法（図工） Teaching Method (Arts and Crafts)	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	図画工作科の意義を知り、素材の特色から子どもの特性に応じた表現が選択できるように多彩な表現方法を学ぶ。					
	キーワード	生み出す力	学修教育目標	図工科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		

授業科目の概要及び学修上の助言

子どもの表現力について学び、発達段階における表現について考察する。 また、図工の教育での結果だけではないプロセスの大切さを学ぶ。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

履修に必要な予備知識や技能は特になし						
--------------------	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

『小学校学習指導要領解説（最新版）図画工作編』文部科学省			その都度、授業で示す。			
------------------------------	--	--	-------------	--	--	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	美術表現による教育のための基礎的内容を理解する。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	美術表現による教育のための基礎的内容を身につける。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	発達段階に於ける感性を考察し、理解を深める。	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	発達段階に於ける感性を考察し、それに応じた表現方法を学ぶ。	◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	相手の立場に立ち物事を考える力を持つ。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	柔軟な思考力を身につける。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる。	◎
	③ 実行力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。	○
	② 計画力	進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正できる。	◎
	③ 創造力	複数のもの（もの、考え方、技術など）を組み合わせて、新しいものを作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。	◎
	② 傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。	◎
	③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	周囲の人の状況（人間関係、忙しさ等）に配慮して、良い方向へ向かうよう行動することができる。	◎
	⑤ 規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。	△
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受けとめすぎないようにしている。	○
4. 倫理観	① 倫理性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45			55				100
評価 の 指標	知識に関する評価		5			10				15
	技能に関する評価		10			10				20
	応用力に関する評価		10			10				20
	チームワークに関する評価		5			10				15
	関心・意欲に関する評価		15			15				30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
美術（図工）を学び、その表現方法を知ることにより実践で役に立つまでの知識と理解と思考力を持ち得る。					美術（図工）を学び、作品表現の為の素材の特性を理解し、作る楽しさや表現の喜びを感じるにより、生み出す力の大切さを知る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	小学校学習指導要領「図画工作」の解説（目的と性格）	講義及び演習	指導要領「図画工作」について学ぶ。	10
	戦後の教育課程の返還と社会の変化について知る。			
第2回 /	図画工作の目標及び内容 －「表現」、「鑑賞」	講義及び演習	鑑賞教育について学ぶ。	10
	自分の意見をしっかりと述べるができる。			
第3回 /	子どもの発達特性と学年目標、内容との関連	講義及び演習	図画工作における子どもの発達段階について学ぶ。	10
	年齢による児童の変化を知る。			
第4回 /	各学年の造形的な創造活動の特徴	講義及び演習	描画材料について調べる。	10
	描画材料の種類を知色彩の知識を得る。			
第5回 /	内容と指導法（1） －A表現「造形遊び」	講義及び演習	造形遊びを調べる。	10
	造形遊びへの理解			
第6回 /	内容と指導法（2） －A表現「絵や立体」	講義及び演習	描画材料について学ぶ。	10
	子供の作品への理解			
第7回 /	内容と指導法（3） －A表現「工作」	講義及び演習	工作材料について学ぶ。	10
	素材への理解			
第8回 /	内容と指導法（4） －B鑑賞	講義及び演習	色彩心理を調べる。	10
	積極性			
第9回 /	授業の組み立て方（年間指導計画案）と教材研究、評価について	講義及び演習	子供の発達段階に応じた図工課題を考える。	10
	課題の適正			
第10回 /	子どもの発達特性と指導に関する配慮事項	講義及び演習	発達段階と指導上の留意点を学ぶ。	10
	課題への取り組み方			
第11回 /	図画工作科と「環境」「福祉」等との横断的な取り扱い	講義及び演習	共同制作に適した課題を考える。	10
	積極性			
第12回 /	学習指導案の作成方法	講義及び演習	学習指導案の書き方を学ぶ。	10
	指導案の内容			
第13回 /	指導案作成の課題提示	講義及び演習	学習指導案を書く。	10
	指導案の内容			
第14回 /	表現と鑑賞の関連を図った指導法	講義及び演習	学習指導案を書く。	10
	指導案の内容			
第15回 /	まとめ 確認と振り返り	講義及び演習	教育における美術の役割について考える。	10
	課題への取り組み方			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	教科教育法（児童英語） Teaching Method (Child English)	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	英語の教育理論を導入として小学校の英語指導者に求められる能力について考察し、必要な技能の習得を果たす。					
	キーワード	英語指導者 実習	学修教育目標	小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基礎的な知識や指導技術を身に付ける。		

授業科目の概要及び学修上の助言

「外国語概論（児童英語）」を基礎知識として、実際の授業運営に必要な技能を学んでいく。「Hi、 friends! 1、2」を使用して教案をたて、英語授業を実践する。はずかしがらず常に工夫し能動的であること。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「外国語概論（児童英語）」と全ての英語授業に関連する。英語力をあげていくこと。						
---	--	--	--	--	--	--

教 科 書

参考書・リザーブドブック

書 名：『小学校英語教育法入門』 著者名：樋口 忠彦 他 出版社：研究社	『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 外国語活動・外国語』文部科学省
--	---

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	小学校における英語教育の在り方を知り、英語授業の運営方法を理解する。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	英語で授業ができるようになること。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分で考えて授業を組み立てられる。	◎
	② 働きかけ力	クラスを動かしていくことができる。	◎
	③ 実行力	組み立てたことを行動にうつし、クラス運営を行う。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	上手いかなかった理由、原因を考える。	◎
	② 計画力	教案の工夫。	◎
	③ 創造力	自分のアイデアをもつ。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の知識、アイデアを仲間と共有する。	◎
	② 傾聴力	他人の意見を聴く。	◎
	③ 柔軟性	自分の考えに固執しない。	◎
	④ 状況把握力	クラス全体を把握する。	◎
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。	△
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。	△
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。	△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	10	30				100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		10					60
	技能に関する評価			10		10				20
	応用力に関する評価					15				15
	チームワークに関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
教材、副教材を自由に使いこなし、英語でクラスの運営と授業ができる。					教材、副教材の使い方がわかり、教案、指導案がかける。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	学習指導要領における外国語活動 －教科化の経緯と目的、理念、目標	講義、グループワーク	第2回授業の予習	40
	講義シート			
第2回 /	外国語教育における小学校の役割 －小・中・高の外国語教育	講義、演習	第3回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第3回 /	授業観察 －授業映像を通じた小・中・高の授業観察及び振り返り	演習、グループワーク	第4回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第4回 /	外国語の意義と方向性（1） －母語習得と第二言語習得、発達心理学と学習者要因	講義、演習	第5回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第5回 /	外国語の意義と方向性（2） －コミュニケーション能力、神経言語学、国際理解教育	講義、演習	第6回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第6回 /	児童の発達段階に即した授業づくり	講義、演習、グループワーク	第7回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第7回 /	授業体験 －教員による模擬実演と振り返り	演習、グループワーク	第8回授業の予習 レポート作成	40
	演習、講義シート、小テスト			
第8回 /	指導者の役割、資質と能力 －指導者と指導形態、指導者の役割、求められる資質と能力	講義、演習	第9回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第9回 /	教材の構成と内容 －教材の役割と使用法、テキスト作成の基本方針	講義、演習、グループワーク	第10回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第10回 /	指導目標、領域別目標、指導案、年間指導計画の立て方 －指導目標、領域別目標、指導案、年間指導計画の設定と具体例	講義、演習	第11回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第11回 /	4技能の指導	演習、グループワーク	第12回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第12回 /	模擬授業（教材の研究及び教材、教具の活用法） －望ましい活動の条件と活動の選択・開発の視点及び具体例 －情報機器の活用法（ICT等の情報機器）、作成方法、留意点	学生による授業とそれに対するコメント指導、講義	第13回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第13回 /	模擬授業（指導方法と指導技術） －活用できる・望ましい指導法（チーム・チーティング等）、活用したい指導技術	学生による授業とそれに対するコメント指導、講義	第14回授業の予習	40
	講義シート、小テスト			
第14回 /	模擬授業（評価のあり方） －評価、評価方法（パフォーマンス評価等）、望ましい評価のあり方、留意点	学生による授業とそれに対するコメント指導、講義	第15回授業の予習	40
	講義シート、小テスト			
第15回 /	模擬授業 －計画から実施、振り返り	学生による授業とそれに対するコメント指導、講義	レポート作成	40
	講義シート、小テスト			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	道徳教育の指導法 Teaching Theory of Moral Education	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>道徳教育では、児童自らが基本的な生活習慣を身に付け、家族や自然、社会との関わりの中でよりよい生き方を追求することにより、道徳性の発達を促し、実践力を高めることをめざす。そこで価値観が多様化する社会において、児童の心に響き、内面から実践力へと繋がる道徳教育のあり方について、自ら考えられる力を養う。</p>
--------	---

キーワード	道徳教育、特別の教科道徳、基本的な生活習慣、規範意識	学修教育目標	<p>道徳教育の意義や原理等を踏まえ、学校教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる特別の教科道徳の目標や内容、指導計画等が理解できる。 また教材の研究や学習指導案の作成、模擬授業等により実践的な指導力を身に付ける。</p>
-------	----------------------------	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

道徳教育のあゆみから現状と課題、役割を概説し、授業の実際を演習や模擬授業、指導案の作成などにより学修する。学校現場における今日的な話題について、関心を持っておくこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

小学校教育職員免許課程の「教職に関する科目」の「教育課程及び指導法に関する科目」の「道徳の指導法」に該当する科目である。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（最新版）』
著者名：文部科学省
出版社：廣済堂あかつき

授業中に適宜指示する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	道徳教育に含めるべき内容を理解している。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	道徳の授業の指導案を作成できる。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	道徳教育の役割を理解できる。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	演習等に積極的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	他者に働きかけ、一緒に取り組むよう促すことができる。	○
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	テーマに対し、自分なりの課題を見つけることができる。	○
	② 計画力	課題に取り組む手順を考えることができる。	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	伝えたい内容をわかりやすく伝えることができる。	○
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	様々な意見や考えを受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	状況を理解して、ふさわしい行動をとることができる。	○
	⑤ 規律性	ルールや約束事を守って取り組むことができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			20	10		20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30			10			10	50
	技能に関する評価						10			10
	応用力に関する評価		20			10				30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
道徳教育の役割を理解して、指導案を作成し効果的な授業をすることができる。					道徳教育の役割を理解して、指導案を作成できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	道徳教育のあゆみ（1） －戦前の道徳教育－	講義	復習：授業内容のまとめ	30
	学修内容の要約			
第2回 /	道徳教育のあゆみ（2） －戦後の道徳教育－	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	学修内容の要約			
第3回 /	道徳教育の現状と課題	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	学修内容の要約			
第4回 /	道徳教育の位置と役割	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	学修内容の要約			
第5回 /	道徳性の発達と道徳教育	講義、演習（グループワーク）	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	学修内容の要約、ワークシート			
第6回 /	特別の教科道徳の目標と内容	講義、演習（グループワーク）	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	学修内容の要約、ワークシート			
第7回 /	道徳科の指導（1） －学習指導案の内容とその作成－	講義、演習（グループワーク）	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	学修内容の要約、ワークシート			
第8回 /	道徳科の指導（2） －学習指導の多様な展開－	講義、演習（グループワーク）	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	学修内容の要約、ワークシート			
第9回 /	道徳科の指導（3） －道徳の時間の指導における配慮－	講義、演習（グループワーク）	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	学修内容の要約、ワークシート			
第10回 /	道徳科の指導の手だて（1） －読み物資料の活用－	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	学修内容の要約			
第11回 /	道徳科の指導の手だて（2） －ロールプレイ、構成的グループ・エンカウンターの活用－	講義、演習（指導案作成）	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	学修内容の要約、指導案			
第12回 /	道徳科の指導の手だて（3） －情報モラル等資料の活用－	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	学修内容の要約			
第13回 /	児童理解にもとづく道徳科の評価	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	60 30
	学修内容の要約、ワークシート			
第14回 /	学習指導案にもとづく授業とその分析（1） －自分自身や人との関わりに関して－	講義、演習（授業）	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	60 30
	学修内容の要約、ワークシート			
第15回 /	学習指導案にもとづく授業とその分析（2） －集団や社会、生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること－	講義 演習（授業）	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	学修内容の要約			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 児童教育学領域	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 Theory and Practice of Extra Curriculum and Periods for Integrated Study in School	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>特別活動は、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を重視しながら、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせて、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を改善していくことを目的としている。</p> <p>総合的な学習の時間では、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通して、よりよく問題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成をめざしている。</p> <p>そこで、教育課程における特別活動や総合的な学習の時間の位置付けやその関連を理解し、各教科等との関連を見据えた活動や取り組みについて、それぞれの特質や内容、指導計画について、企画担当者や学級担任の立場から具体的な立案や指導のあり方を修得する。</p>
--------	--

キーワード	<p>集団活動、人間関係形成、社会参画、自己実現 探究学習、横断的な学習、カリキュラムマネジメント</p>	学修教育目標	<p>学習指導要領における特別活動と総合的な学習の時間の意義、目標および内容を理解の上、各教科との関連を考えた年間指導計画を立案することができる。課題の発見から取り組みの振り返りに至る各段階において、子どもの主体的・対話的な学びを促す単元計画を立て、指導案を作成し、実践することができる。特別活動および総合的な学習の時間の評価の方法と留意点を理解している。</p>
-------	---	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

特別活動についての基礎的な理論の理解をもとに、学級活動等の模擬授業を行います。事前に具体的な資料や情報を収集しておきましょう。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

生活科概論、教科教育法（生活）、進路指導の理論と方法

教科書	参考書・リザーブブック
<p>書名：『小学校学習指導要領解説 特別活動編（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：東洋館出版社</p> <p>書名：『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：東洋館出版社</p>	適宜、講義中に紹介します。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	特別活動における基礎的な理論や指導するための内容・方法の専門的な知識を身につける。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	望ましい集団づくりに向けての子どもの主体的な活動を推進する指導案をつくることができる。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	学年や教科等との関連を図った指導を考えることができる。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	特別活動の理論や指導をもって、望ましい集団づくりのための指導や学級経営に生かすことができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力	集団や組織の中でリーダーシップを發揮し、他者や組織を動かしながら目標達成に向けて働きかけることができる。	◎
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとするすることができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引きだすことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に發揮できる力が身に付く ○:通常の状況で發揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			10	20		20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30						10	40
	技能に関する評価					10	20			30
	応用力に関する評価		20							20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の内容を十分理解し、望ましい集団づくりのための指導や学級経営に生かすことができる。 ・各項目の理解度が80%以上である。 					<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の内容を理解し、望ましい集団づくりのための指導に生かすことができる。 ・各項目の理解度が60%以上である。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	特別活動の役割 －学校教育の現状と特別活動の意義・目標－	・講義 ・グループ・ディスカッション	特別活動の内容についての復習	30
第2回 /	総合的な学習の時間の役割 －学校教育の現状と横断的・総合的な学習の意義・目標－ 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	総合的な学習の時間の内容についての予習	30
第3回 /	特別活動の内容（1） －児童会活動・クラブ活動の目標と内容－ 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	特別活動の内容についての復習	30
第4回 /	特別活動の内容（2） －学校行事の目標と内容－ 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	特別活動の内容についての復習	30
第5回 /	特別活動の内容（3） －学級活動の目標と内容：望ましい人間関係の形成、諸問題の解決－ 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	特別活動の内容についての復習	30
第6回 /	特別活動の指導内容 －教科等、総合的な学習の時間との関連と指導のあり方－ 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	特別活動の内容についての予習	30
第7回 /	キャリア教育、防災教育等の協働活動 －家庭・地域や関係機関との連携とカリキュラムマネジメント－ 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	特別活動及び総合的な学習の時間の内容についての復習	30
第8回 /	総合的な学習の時間の指導内容 －各教科との関連、目標・内容の設定と年間計画・単元計画－ 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	総合的な学習の時間の内容についての復習	30
第9回 /	総合的な学習の時間の指導方法 －探究的な学習を実現するための具体的な方法（事例）－ アドバイス・シートを書く、指導案作成	・講義 ・グループ・ディスカッション	総合的な学習の時間の内容についての復習	30
第10回 /	特別活動及び総合的な学習の時間の指導案作成と授業について(1) －活動のめあての設定について－ アドバイス・シートを書く、指導案作成	・講義 ・グループ・ディスカッション	指導内容と指導方法についての改善	30
第11回 /	特別活動及び総合的な学習の時間の指導案作成と授業について(2) －発問の仕方やよりよい板書について－ アドバイス・シートを書く、指導案作成	・講義 ・グループ・ディスカッション	指導内容と指導方法についての改善	30
第12回 /	特別活動及び総合的な学習の時間の指導案作成と授業について(3) －児童の主体的・協働的な活動に対する支援－ アドバイス・シートを書く、指導案作成	・講義 ・グループ・ディスカッション	指導内容と指導方法についての改善	30
第13回 /	特別活動及び総合的な学習の時間の指導案作成と授業について(4) －児童の合意形成に向けた対話的な話し合いに対する支援－ アドバイス・シートを書く、指導案作成	・講義 ・グループ・ディスカッション	指導内容と指導方法についての改善	30
第14回 /	特別活動及び総合的な学習の時間の指導案作成と授業について(5) －活動の振り返り（取組の評価と改善活動）について－ 指導案作成	・講義 ・グループ・ディスカッション	実践の振り返りからの指導案の改善	30
第15回 /	特別活動及び総合的な学習の時間の評価について －評価の方法と留意点－ 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	特別活動及び総合的な学習の時間の評価についての復習	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 教育・保育実習領域	子ども発達学基礎演習 Basic Exercise on Child Development Study	1単位	必修	演習	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会において幼少年期からの保育・教育が重要視される中で、保育・教育の現状や課題を認識し、幅広い教養や教育に関わる専門的知識を学ぶ。 ・乳幼児時期から青年期までの子どもの発達ごとの特徴と重視すべき課題を理解し、各発達段階に応じた支援の方法を知る。 					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	子どもの発達・教育の現状や課題 子どもの発達段階	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階を理解し、個々の子どもの成育をめぐる課題の中で支援の方法を考えることができる 			
-------	-----------------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

文部科学省の資料を細かく読み解きながら、乳幼児期から青年期へとつながる子どもの発達段階を理解できるようにする。また、現代社会の中で各発達段階での課題を知り支援の方法を考えられるようになるために、資料に基づき個々で作成したパワーポイントを用いて発表していく。保育者・教育者になるという自覚をもち、発表者に対して意見や感想を述べることを求める。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

子どもの発達に関して学修してきた科目全て、及び今後履修する各現場での保育・教育実習と関連することを理解しておく。保育所保育指針・幼稚園教育要領・小学校学習指導要領の事前学習。子どもの発達に関して学び直すこと。

教科書	参考書・リザーブブック
文部科学省「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」 文部科学省「各発達段階における子どもの成育をめぐる課題等について」 資料は、各自で準備する（初講で説明を行う）	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針（平成29年3月公示版） ・幼稚園教育要領（平成29年3月公示版） ・小学校学習指導要領（平成29年3月公示版）

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	保・幼・小各年代における子どもの発達について理解することができる。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	個別の場面における子どもとの関わりについて演習することができる。	△
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	具体的な事例に沿って子どものものの見方や考え方を理解することができる。	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	具体的な事例に沿って子どもとコミュニケーションをとることができる。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	保育者・教育者を目指す学生として、当たり前のことを当たり前に行うことができる。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	保・幼・認・小での実習に必要なとの明確な意識をもち、演習課題に取り組める。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	場面や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとするすることができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問する等相手の意見を引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	保育者・教育者を目指す者として、挨拶や相手を敬う態度等の礼儀をはじめルールや約束を遵守できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			30	20		50				100
評価 の 指標	知識に関する評価		30	20		30				80
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価					20				20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子どもの発達段階を理解し、保育所・幼稚園・小学校での指導や支援の実際を理解することができる。					子どもの発達を踏まえて、保育所・幼稚園・小学校の指導の実際を理解することができる。また、発表等では期限を遵守し学ぶ意欲をもって取り組むことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	「子ども発達学基礎演習」の授業の構成、授業の進め方、授業の受け方資料の発表箇所を決定する	講義・演習	これまで授業や実際に子どもとかかわる中で学んできた、子どもの発達段階について復習しておく。	60
	授業参加による意欲の評価			
第2回 /	子どもの発達段階に応じた支援の必要性 コメントシートに記入し提出	講義・演習	・資料の予習復習、及びパワーポイント作成 ・資料の発表練習	60
	授業参加による意欲の評価・発表内容・提出資料 毎回のコメントシート内容			
第3回 /	子どもの発達段階ごとの特徴（乳児期 0～2 歳頃） コメントシートに記入し提出	講義・演習	・資料の予習復習、及びパワーポイント作成 ・資料の発表練習	60
	授業参加による意欲の評価・発表内容・提出資料 毎回のコメントシート内容			
第4回 /	子どもの発達段階ごとの特徴（幼児期 3～6 歳頃） コメントシートに記入し提出	講義・演習	・資料の予習復習、及びパワーポイント作成 ・資料の発表練習	60
	授業参加による意欲の評価・発表内容・提出資料 毎回のコメントシート内容			
第5回 /	子どもの発達段階ごとの特徴（小学校低学年） コメントシートに記入し提出	講義・演習	・資料の予習復習、及びパワーポイント作成 ・資料の発表練習	60
	授業参加による意欲の評価・発表内容・提出資料 毎回のコメントシート内容			
第6回 /	子どもの発達段階ごとの特徴（小学校高学年） コメントシートに記入し提出	講義・演習	・資料の予習復習、及びパワーポイント作成 ・資料の発表練習	60
	授業参加による意欲の評価・発表内容・提出資料 毎回のコメントシート内容			
第7回 /	子どもの発達段階ごとの特徴（青年前期 中学校） コメントシートに記入し提出	講義・演習	・資料の予習復習、及びパワーポイント作成 ・資料の発表練習	60
	授業参加による意欲の評価・発表内容・提出資料 毎回のコメントシート内容			
第8回 /	子どもの発達段階ごとの特徴（青年後期 高等学校） コメントシートに記入し提出	講義・演習	・資料の予習復習、及びパワーポイント作成 ・資料の発表練習	60
	授業参加による意欲の評価・発表内容・提出資料 毎回のコメントシート内容			
第9回 /	各発達段階における子どもの成育をめぐる課題（背景・趣旨） コメントシートに記入し提出	講義・演習	・資料の予習復習、及びパワーポイント作成 ・資料の発表練習	60
	授業参加による意欲の評価・発表内容・提出資料 毎回のコメントシート内容			
第10回 /	各発達段階における子どもの成育をめぐる課題 （乳児期・幼児期前期 0～2 歳頃） コメントシートに記入し提出	講義・演習	・資料の予習復習、及びパワーポイント作成 ・資料の発表練習	60
	授業参加による意欲の評価・発表内容・提出資料 毎回のコメントシート内容			
第11回 /	各発達段階における子どもの成育をめぐる課題 （幼児期後期 3～6 歳頃） コメントシートに記入し提出	講義・演習	・資料の予習復習、及びパワーポイント作成 ・資料の発表練習	60
	授業参加による意欲の評価・発表内容・提出資料 毎回のコメントシート内容			
第12回 /	各発達段階における子どもの成育をめぐる課題 （学童期 小学校低学年） コメントシートに記入し提出	講義・演習	・資料の予習復習、及びパワーポイント作成 ・資料の発表練習	60
	授業参加による意欲の評価・発表内容・提出資料 毎回のコメントシート内容			
第13回 /	各発達段階における子どもの成育をめぐる課題 （学童期 小学校高学年） コメントシートに記入し提出	講義・演習	・資料の予習復習、及びパワーポイント作成 ・資料の発表練習	60
	授業参加による意欲の評価・発表内容・提出資料 毎回のコメントシート内容			
第14回 /	各発達段階における子どもの成育をめぐる課題 （青年・前期 思春期） コメントシートに記入し提出	講義・演習	・資料の予習復習、及びパワーポイント作成 ・資料の発表練習	60
	授業参加による意欲の評価・発表内容・提出資料 毎回のコメントシート内容			
第15回 /	各発達段階における子どもの成育をめぐる課題 （青年・中期） コメントシートに記入し提出	講義・演習	・資料の予習復習、及びパワーポイント作成 ・資料の発表練習	60
	授業参加による意欲の評価・発表内容・提出資料 毎回のコメントシート内容			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 教育・保育実習領域	介護体験 Care Experiences for Person with Handicap	2単位	選 択	実 習	3年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>教職に就くことを前提とした学生のために、特別支援学校の児童・生徒と教職員及び、社会福祉施設の利用者と職員に、貴重な学習や生活の時間を提供してもらい介護等体験が実施されることを十分に理解し、その責任と積極的・主体的に介護等体験に望む意識を持つことを、授業のねらいとする。</p>					
キーワード	教職・特別支援学校・社会福祉施設・介護等体験	学修教育目標	<p>◎社会福祉施設等の内容、介護等体験への姿勢、基本的マナー、言葉使い、個人情報秘匿、私語、身だしなみ等について理解する。 ◎次に挙げる目的を自分なりに意識して臨む。 ・弱者への人権意識をどれだけ高められるか。 ・ノーマライゼーションの思想をどれくらい受容できるか。 ・相手との共感的・受容的人間関係という観点で成長できるか。</p>			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>(概要) 教職に就くことを前提とした学生が、特別支援学校及び社会福祉施設での体験実習を通して、教職の責任と介護等体験に積極的・主体的に臨む意識を持つことができるようになるための科目。 (助言) 単なる知識で分かったとするのではなく、体験実習を通して自ら考え、実感することができるようにしたい。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>(関連) 介護等体験と、小学校・中学校での教育実習とを受講生自らが、意識して関連づけながら履修すること。 (予備知識) これまでの保・幼・小・中・高等で、身体や心に障害を持った仲間との出会い。身内にいる高齢者との関わり等。</p>						
教科書			参考書・リザーブブック			
自作プリント資料			なし			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。					
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	実習校や施設で、在籍する児童・生徒、成人や高齢者等の皆さんに話しかけ、聞き取ることができる。				◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。					
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	規律を守り、礼儀をわきまえ、適切な態度・行動をとることができる。				○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	与えられた計画による実習の履修だけではなく、実習現場の状況を把握し、課題について計画的に取り組むことができる。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性					
	② 働きかけ力	入所者や在籍の児童・生徒への積極的な挨拶や話しかけができる。				○
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	施設や支援学校で働く人たちの行動や言葉から、その意図を理解し何をなすべきかを考えることができる。				○
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力	入所者や在籍の児童・生徒に話しかけたとき、そのことに対する態度や様子から、相手の気持ちや意図を理解しようとしている。				◎
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力	瞬時に生起、展開する事態に慌てることなく、落ち着いて状況をつかむことができる。				◎
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合					35		35	30		100
評価 の 指標	知識に関する評価				7		7	6		20
	技能に関する評価				7		7	6		20
	応用力に関する評価				7		7	6		20
	チームワークに関する評価				7		7	6		20
	関心・意欲に関する評価				7		7	6		20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>特別支援学校の児童・生徒と教職員及び、社会福祉施設の利用者と職員から学び、介護等体験が実施されることの意義を十分に理解し、責任と積極的・主体的に介護等体験に臨むことができる。</p>					<p>特別支援学校の児童・生徒と教職員及び、社会福祉施設の利用者と職員から学び、介護等体験が実施されることの意義を十分に理解することができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	事前学修① ～介護体験の意義について～ (事前・社会人基礎力評価を含む)	講義	介護体験を受ける心構え(事前作文)	40
	介護体験の意義について理解できる。			
第2回 /	事前学修② ～社会福祉施設とは～	講義 —社会福祉施設から講師招聘—	事前配布資料予習—要点レポート—	40
	社会福祉施設の概要について理解できる。			
第3回 /	事前学修③ ～特別支援学校とは～	講義 —特別支援学校から講師招聘—	事前配布資料予習—要点レポート—	40
	特別支援学校の概要について理解できる。			
第4回 /	介護体験から社会人基礎力を身につける ～事前自己評価シートの記入～	講義と事前自己評価シートの記入	社会人基礎力資料事前予習—要点レポート—	40
	事前自己評価シートの記入を通して傾聴力、状況把握力を身につけようとしている。			
第5回 /	介護体験① ～社会福祉施設での実習（第1日目）～	社会福祉施設での実習	実習施設からの課題の取り組み	40
	社会福祉施設に慣れ、あいさつができる。			
第6回 /	介護体験② ～社会福祉施設での実習（第2日目）～	社会福祉施設での実習	実習施設からの課題の取り組み	40
	社会福祉施設での学びの課題を見つけることができる。			
第7回 /	介護体験③ ～社会福祉施設での実習（第3日目）～	社会福祉施設での実習	実習施設からの課題の取り組み	40
	社会福祉施設での学びの課題に自分なりに取り組むことができる。			
第8回 /	介護体験④ ～社会福祉施設での実習（第4日目）～	社会福祉施設での実習	実習施設からの課題の取り組み	40
	社会福祉施設での学びの課題に取り組みの振り返りができる。			
第9回 /	介護体験⑤ ～社会福祉施設での実習（第5日目）～	社会福祉施設での実習	実習施設からの課題の取り組み	30
	社会福祉施設での学びの成果と課題を振り返ることができる。			
第10回 /	介護体験⑥ ～特別支援学校での実習（第1日目）～	特別支援学校での実習	実習支援学校からの課題の取り組み	40
	特別支援学校での実習に課題を持って取り組むことができる。			
第11回 /	介護体験⑦ ～特別支援学校での実習（第2日目）～	特別支援学校での実習	実習支援学校からの課題の取り組み	40
	自分の実習での取り組み目標の達成に心がけることができる。			
第12回 /	事後学修① ～社会福祉施設での実習の振り返り～ グループワークを通して情報の共有、まとめを行う	講義と演習(実習まとめ)	実習事前まとめ	40
	グループワークを通して情報の共有、まとめを行うことができる。			
第13回 /	事後学修② ～特別支援学校での実習の振り返り～ グループワークを通して情報の共有、まとめを行う	講義と演習(実習まとめ)	実習事前まとめ	40
	グループワークを通して情報の共有、まとめを行うことができる。			
第14回 /	事後学修③ ～グループ発表～ 特別支援学校・社会福祉施設での振り返りのまとめと発表	講義と演習(発表)	プレゼン事前準備	40
	介護体験の振り返りのまとめと発表ができる。			
第15回 /	介護体験から社会人基礎力を身につける ～事後自己評価シートの記入～	講義と演習(発表)	介護等体験のまとめ準備	40
	事後自己評価シートの記入を通して傾聴力、状況把握力を身につけることができる。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 教育・保育実習領域	教職実践演習（初等） Exercise for Teaching Profession (Elementally)	2単位	必修	演習	4年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	教職に関する基本的な理解を確かなものとし、教職現場における対人関係能力、児童生徒を理解し、学級経営の基本的な能力および教科内容の理解とそれを活かした授業を構想し、実現する力など、基本的な指導力に関する能力を修得する。					
キーワード	基本的な指導力に関する能力の修得	学修教育目標	学校教育の場で直面する問題点を整理し、それに対応する実践的な能力を身に付ける。自己評価・相互評価を通じて各自が養成段階で修得すべき最小限必要な資質能力（教員としての使命感や責任感、教育的愛情をもって教科指導や生徒指導などの職務を著しい支障が生じることが無く実践できる資質能力）の確立を行う。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>(概要) 教職に関わる課題・教科教育（特に授業現場）における課題それぞれのテーマごとに、ロールプレイング・グループディスカッション・模擬授業などを行い、問題点を整理し対応策を考える。</p> <p>(助言) ・教育に対する使命感や責任感をもち、子どもに対する愛情が豊かであること。 ・社会性や対人関係、コミュニケーションの能力が適切であること。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>(他の科目) 教育実習(小学校)、教育実習(幼稚園)、教育実習(保育所)</p> <p>(予備知識) ・児童、園児の理解や学級経営等に関する必要な能力の基礎を身に付けていること。 ・教科等の指導力の基礎を形成していること。</p>						
教科書				参考書・リザーブブック		
学習指導要領（最新版） 文部科学省				授業ごとに必要資料を配付		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	各幼稚園、小学校、保育所での実習のための事前指導で学んだこと、又、実習で学んだことを知識と実感をもって理解することができる。				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	座学を通して幼稚園、小学校、保育所の子どもについての理解を深め、実習体験をもとに指導するという技術を身につけることができている。				○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもたちの成長の歩みを確かに把握し理解しようとしている。				○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	座学や実習を通してなお足りない技能を修得しようとしている。				△
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	実習を通して、いっそう強く教職の現場人になりたいと切望し、その職にふさわしい資質を身につける努力を惜しまない。				○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	これまでの教職の学修を、教職履修カルテをもとに振り返り、卒業までに取り組まなければならない課題について努めようとしている。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	各幼稚園、小学校、保育所での実習のための事前指導で学んだこと、又、実習で学んだことを知識と実感をもって理解することができる。				◎
	② 働きかけ力	座学を通して幼稚園、小学校、保育所の子どもについての理解を深め、実習体験をもとに指導するという技術を身につけることができている。				△
	③ 実行力	子どもたちの成長の歩みを確かに把握し理解しようとしている。				△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	座学や実習を通してなお足りない技能を修得しようとしている。				○
	② 計画力	実習を通して、いっそう強く教職の現場人になりたいと切望し、その職にふさわしい資質を身につける努力を惜しまない。				○
	③ 創造力	これまでの教職の学修を、教職履修カルテをもとに振り返り、卒業までに取り組まなければならない課題について努めようとしている。				△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	各幼稚園、小学校、保育所での実習のための事前指導で学んだこと、又、実習で学んだことを知識と実感をもって理解することができる。				◎
	② 傾聴力	座学を通して幼稚園、小学校、保育所の子どもについての理解を深め、実習体験をもとに指導するという技術を身につけることができている。				△
	③ 柔軟性	子どもたちの成長の歩みを確かに把握し理解しようとしている。				△
	④ 状況把握力	座学や実習を通してなお足りない技能を修得しようとしている。				○
	⑤ 規律性	実習を通して、いっそう強く教職の現場人になりたいと切望し、その職にふさわしい資質を身につける努力を惜しまない。				△
	⑥ ストレスコントロール力	これまでの教職の学修を、教職履修カルテをもとに振り返り、卒業までに取り組まなければならない課題について努めようとしている。				△
4. 倫理観	① 倫理性	各幼稚園、小学校、保育所での実習のための事前指導で学んだこと、又、実習で学んだことを知識と実感をもって理解することができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		10	20			20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		25						10	35
	技能に関する評価					10				10
	応用力に関する評価		25							25
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				10	10			10	30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>教員の使命や職務に関すること、教育現場における社会性・対人能力に関すること、児童・生徒の理解と学級経営に関すること、および教科内容と授業の構想・実現に関することに関して、基本的な認識と能力を身につけている。</p>					<p>教員の使命や職務に関すること、教育現場における社会性・対人能力に関すること、児童・生徒の理解と学級経営に関することに関して基本的な認識と能力を身につけている。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法（全対面授業）	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	○「教職に関わる課題の理解と実践演習」(小学校・佐々木豊・幼稚園・近藤真理子) イントロダクションA (実習の振り返り・教職の意義及び教員の役割) 自身の教育実習の振り返りシートを書くことができる。	講義と演習	・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第2回 ／	学校教育の課題（地域・保護者との連携、学校評価）(佐々木豊／近藤真理子) 学校教育の課題の振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第3回 ／	学級経営の課題（学級の活性化、不登校・学級崩壊への対応）(佐々木豊／近藤真理子) 学級経営の課題の振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第4回 ／	学校組織・協働（校務分掌、危機管理、資質向上と研修・服務）(佐々木豊／近藤真理子) 学校組織・協働の振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第5回 ／	特別活動・総合的な学習の時間の取り組み（意義と課題）(佐々木豊／近藤真理子) 特別活動・総合的な学習の時間の取り組みについて振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点（予習）	30
第6回 ／	特別支援教育の現状と課題（近藤真理子／佐々木豊） 特別支援教育の現状と課題の振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第7回 ／	事例研究A（学校教育・学級経営の側面での課題について）(近藤真理子／佐々木豊) 学校教育・学級経営の側面での課題についての振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによる演習（体育館）	・実習期間中の指導案整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第8回 ／	○「教科教育（特に授業現場）における課題の理解と実践演習」(佐々木豊／近藤真理子) イントロダクションB（教科に関する基礎知識の確認・補完） 教科に関する基礎知識のシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第9回 ／	教科に関する知識の授業への具体化・1（指導案）(近藤真理子／佐々木豊) 指導案についての振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第10回 ／	教科に関する知識の授業への具体化・2-1（模擬授業） 実技中心の授業－指導案発表会－（近藤真理子／佐々木豊） 模擬授業についての批評的振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・模擬授業のための黒板計画作成	30
第11回 ／	教科に関する知識の授業への具体化・2-2（模擬授業） グループワークを含む授業－指導案発表会－（佐々木豊／近藤真理子） 模擬授業についての批評的振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・模擬授業のための指導案作成	30
第12回 ／	教科に関する知識の授業への具体化・2-3（模擬授業） 習熟度に差があるクラスでの授業－指導案発表会－（佐々木豊／近藤真理子） 模擬授業についての振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・模擬授業振り返り	30
第13回 ／	授業運営（教科の指導力、生徒への対応）－事例研究－（佐々木豊／近藤真理子） 振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第14回 ／	教科教育における課題について演習（自らの実習での経験・体験から学ぶ）(佐々木豊／近藤真理子) 振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第15回 ／	「まとめ」 教員としての能力・資質の確認（自己分析・評価を含む）(佐々木豊／近藤真理子) 教職カルテの整理をすることができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・教職カルテの整理	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 教育・保育実習領域	教育実習指導（初等） Guidance for School Nursing Practicum (Elementally Education)	1単位	自由	講義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>事前指導では教育実習生として学校の教育活動の参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題を省察するとともに教員免許取得まで修得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。</p>					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	教育実習指導 教育実習生の義務 教育実習参加の心構え 学校・園の理解	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ・教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許状取得までにさらに修得することが必要な知識や技能等を理解している。 			
-------	---	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>教育実習の意義や目的、内容や留意事項等を理解し、実習への心構えをつくる。実習を有意義で実り多いものにするために、教師としての使命感や子ども理解、教科に関する専門的知識や教科等の実践的指導力等の獲得に関する課題を持つ。また、実習を終えてからは、実習で学んだ内容と大学の講義で学んだことを関連付け整理して行動できるようにする。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>教員免許状取得に必要な科目全般。特に「幼・領域及び保育内容の指導法」「小・教科及び教科の指導法」の既履修科目で学んだこと。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブドブック			
「教育実習の手引き」（授業で配布する） その他、適宜資料を配布する。			小学校学習指導要領解説（最新版） 文部科学省 幼稚園教育要領解説（最新版） 文部科学省 幼稚園・保育所・施設実習ワーク認定こども園対応改訂版 小林育子・長嶋和代・権藤真織・小櫃智子 萌文書林 保育の学びスタートブック 善本真弓・片川智子・金瑛珠・坪井瞳・大村あかね・久富陽子編著 萌文書林			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	教職で学修した内容を実践に移せるように努力している。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	教科・保育内容の指導をイメージし、小学校・幼稚園での指導に必要な技能の修得に努力している。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	実習で、どの学年・年齢の子どもでも指導できるように、子どもの発達の特徴について理解しようとしている。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	小学校・幼稚園の実習で必要な指導技術を整理し修得しようとしている。	◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	学生ではあるが、子どもの前ではひとりの教員であるという自覚を持って実習に臨むことができている。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	役に立つ先生を目指し、誠実に、懸命に実習に取り組もうとしている。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとすることができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のために生かそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状態では発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	10	10		10	10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	2	2	2		2	2	20
	技能に関する評価		10	2	2	2		2	2	20
	応用力に関する評価		10	2	2	2		2	2	20
	チームワークに関する評価		10	2	2	2		2	2	20
	関心・意欲に関する評価		10	2	2	2		2	2	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、不足していた知識や技能を理解して修得している。 					<ul style="list-style-type: none"> 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで教育実習に参加することができる。 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに修得することが必要な知識や技能を理解している。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	事前指導①—実習の手引き—（事前学習に対応）（小学校・佐々木）（幼稚園・新川） 教育実習の意義・目的、概要、実習における諸注意 教育実習生としての心構え ワークシート・課題レポート	講義と演習	授業時に適時指示した課題 社会人基礎力事前評価作成	60
第2回 /	事前指導②—実習日誌の書き方—（小学校・佐々木）（幼稚園・新川） 教師のサービスの理解・学校の現状と諸問題と対応について ワークシート・課題レポート	講義と演習	授業時に適時指示した課題	60
第3回 /	事前指導③—実習前指導案発表会—（小学校・佐々木）（幼稚園・新川） 指導の実際（1）実習生として子どもとの接し方・言葉づかい・態度 ワークシート・課題レポート	講義と演習	授業時に適時指示した課題	60
第4回 /	事前指導④—実習前指導案発表会—（小学校・佐々木）（幼稚園・新川） 指導の実際（2）指導実践の実際（指導案（計画）の作成・実践） ワークシート・課題レポート	講義と演習	授業時に適時指示した課題	60
第5回 /	事後指導①（小学校・佐々木）（幼稚園・新川） 実習の報告と振り返り（1）個人 ワークシート・課題レポート	講義と演習 ディスカッション、まとめ	授業時に適時指示した課題	60
第6回 /	事後指導②（小学校・佐々木）（幼稚園・新川） 実習の報告と振り返り（2）事例研究 ワークシート・課題レポート	講義と演習 ディスカッション、まとめ	授業時に適時指示した課題	60
第7回 /	事後指導③（小学校・佐々木）（幼稚園・新川） 実習の報告と振り返り（3）テーマに基づくグループワーク ワークシート・課題レポート	講義と演習 グループワーク	授業時に適時指示した課題	60
第8回 /	事後指導④（小学校・佐々木）（幼稚園・新川） 実習報告会 ワークシート・課題レポート	講義と演習 発表、まとめ	発表準備 社会人基礎力事後評価作成	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 教育・保育実習領域	教育実習（初等） Teaching Practicum (Elementally Education)	4単位	自由	実習	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	教育実習（幼稚園）は、保育者を希望する学生が、実践現場において子どもとの関わりを通して、保育者としての必要な能力を獲得することを目的とする。 教育実習（小学校）は、教員の仕事の全量域にわたって理解を深める。また、実践現場において学級経営の実際や教育活動の仕組み、及び社会における役割を理解することを目的とする。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	意義・目的・観察・評価・記録	学修教育目標	・幼児・児童や園・小学校の環境等に対して適切な観察を行うとともに、園・学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校・園の幼児、児童の実態と、これを踏まえた園・学校経営及び教育活動の特色を理解する。 ・大学で学んだ専門的な知識・理論・技術等を、実習校・園の活動場面で実践するための基礎を身に付ける。			
-------	----------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

一定の実践指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。 教科指導における学習指導案作成、保育計画の作成等、積極的に予習をし、実習校・園にて当日学んだことを自宅にて復習する。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

教員免許状取得に必要な科目全般。特に「幼・領域及び保育内容の指導法」「小・教科及び教科の指導法」の既履修科目で学んだこと。						
---	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
小学校学習指導要領解説（最新版） 文部科学省 幼稚園教育要領解説（最新版） 文部科学省 「教育実習の手引き」 太成学院大学	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	教職で学修した内容を実践に移せるように努力している。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	教科の指導や保育の場面をイメージし、学校・園での指導に必要な技能の修得に努力している。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	実習で、どの学年・年齢の子どもでも指導できるように、子どもの発達の特徴について理解しようとしている。	△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	学校・園の実習で必要な指導技術を整理し修得しようとしている。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	教諭であるという自覚をもち、実習に臨むことができる。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	担当教諭からの指導を真摯に受け止め、改善しようとする事ができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにして、優先順位をつけて計画を立てることができる。	◎
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	教員・保育者としての責任と自覚を持ち、ご指導いただく教員・保育者や子どもたちに感謝の気持ちをもって実習に取り組める。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合					20	50		20	10	100
評価 の 指標	知識に関する評価				4	10		4	2	20
	技能に関する評価				4	10		4	2	20
	応用力に関する評価				4	10		4	2	20
	チームワークに関する評価				4	10		4	2	20
	関心・意欲に関する評価				4	10		4	2	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>実習校・園での子どもとの関わりを通して把握した実態や課題に基づき、適切な指導案（計画）を作成し実践することができる。 クラス担任の役割りと職務内容を理解して補助的に実践することができる。 様々な活動の場面で保育者・教育者として子どもと適切に関わることができる。</p>					<p>学習指導要領・幼稚園教育要領に基づき適切な指導案（計画）を作成し、実践することができる。 各クラス担任の役割りと職務内容を理解している。 様々な活動の場面で子どもと適切に関わることができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	実習開始前に社会人基礎力事前評価シートを記入する。 実習終了後に社会人基礎力事後評価シートを記入する。			
第2回 /		授業担当教員、大学の担当教員、実習校の指導教員の指導を受け、実習校で4週間の実習を行う。 実習スケジュールの詳細は、実習校・園の指示に従う。		
第3回 /				
第4回 /				
第5回 /				
第6回 /				
第7回 /				
第8回 /				
第9回 /				
第10回 /				
第11回 /				
第12回 /				
第13回 /				
第14回 /				
第15回 /				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 子ども心理学領域	幼児児童心理学 Psychology to Infancy	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	ヒトの一生における幼児期・児童期の特徴や、幼児児童心理学の基本的な概念の理解を深める。幼児期および児童期の認知発達、パーソナリティの発達、あるいは生活環境について学修する。					
	キーワード 心理発達 生涯発達 乳幼児期から児童期 家庭・学校	学修教育目標	1. 定型発達を理解することにより、子どものよりよい発達を促す環境と援助について理解する 2. 子どもの学びの過程や特性の基本知識を習得し、発達の課題に応じた援助や関わりを考えることができる			

授業科目の概要及び学修上の助言

授業科目の概要
本科目では乳幼児期から児童期に至る心理発達における基礎的な理論を学ぶ。
学修上の助言
学修課題を意欲的に取り組むこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目との関連
人間の心・教育心理学・発達心理学・障がい児心理学
履修に必要な予備知識や技能
心理学領域科目の履修が望ましい。

教科書

参考書・リザーブブック

なし

書 名：幼児・児童の発達心理学
著者名：中澤 潤 監修 中道圭人・榎本淳子（編）
出版社：ナカニシヤ出版

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	心理学の専門的な用語を学び、子どもの発達の变化について説明することができる。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	幼児児童心理学の用語を説明することができる。	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	発達支援について説明することができる。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	本授業で学んだ知識を、教育現場にどのように活かすことができるかを説明することができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	集団や組織の中でリーダーシップを発揮し、他者や組織を動かしながら目標達成に向けて働きかけることができる。	△
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとするすることができる。	○
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	様々な知識・技能等を組み合わせ、問題の解決に対して新たな方法を考えることができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。	△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状態が発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55						45	100
評価 の 指 標	知識に関する評価		55						25	80
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
乳幼児期から児童期に至る心理発達における基礎的な理論を理解し、説明できる。					乳幼児期から児童期に至る心理発達における基礎的な理論を理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション —幼児児童心理学の概観—	講義	社会人基礎力事前・事後評価シートの記入	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			
第2回 /	人間の発達と幼児児童期の位置づけ	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第3回 /	からだと運動 —未分化から分化へ—	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第4回 /	記憶 —記憶の様々な側面—	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第5回 /	思考 —具体的な思考から抽象的な思考へ—	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第6回 /	概念発達 —素朴な概念から科学的概念へ—	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第7回 /	言語 —話し言葉から書き言葉へ—	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第8回 /	遊び —遊びが育むもの—	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第9回 /	自己と情動 —情動表出の調整について—	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第10回 /	社会性 —他律から自律へ—	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第11回 /	対人関係（1） 親子関係について	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第12回 /	対人関係（2） 仲間関係について	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第13回 /	集団生活 —幼稚園・保育園から小学校へ—	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第14回 /	子どもの障がいと非定型発達の理解	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第15回 /	幼児児童心理学の研究方法の理解	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 子ども心理学領域	幼児児童心理学演習 Early Childhood psychology exercise	1単位	選 択	演 習	3年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。子どもの体験や遊びの過程において、子どもを理解するための基本的な考え方と具体的な方法を理解する。また、保育実践における子どもの状況や課題に応じた発達援助の具体的な方法を理解する。					
キーワード	乳幼児期から児童期 定型発達 環境と支援	学修教育目標	ヒトの一生における幼児期・児童期の特徴や、幼児児童心理学の基本的な概念の理解を深める。定型発達を理解することにより、幼児児童のよりよい発達を促す環境と支援について考えことができるようになる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>授業科目の概要 本科目では乳幼児期から児童期に至るよりよい心理発達を促す環境と支援について実践的に学ぶ。</p> <p>学修上の助言 学修課題を意欲的に取り組むこと。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>他の科目との関連 幼児児童心理学・人間の心・教育心理学・発達心理学・障がい児心理学</p> <p>履修に必要な予備知識や技能 心理学領域科目の履修が望ましい。</p>						
教 科 書			参考書・リザーブブック			
書 名：人とかかわるためのカウンセリング入門 著者名：西見奈子 出版社：萌文書林			別途指示する。			
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	心理学の専門的な用語を学び、子どもの発達の变化について説明することができる。				○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	幼児児童心理学の用語を説明することができる。				○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	幼児児童心理学の知識を技能に応用することができる。				◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	発達支援について説明することができる。				◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	本授業で学んだ知識を、教育現場にどのように活かすことができるかを説明することができる。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。				○
	② 働きかけ力	集団や組織の中でリーダーシップを発揮し、他者や組織を動かしながら目標達成に向けて働きかけることができる。				○
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとするすることができる。				○
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。				○
	③ 創造力	様々な知識・技能等を組み合わせ、問題の解決に対して新たな方法を考えることができる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。				○
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。				○
	③ 柔軟性	自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し、他人の意見やアドバイスを受け入れ、自己向上につなげようとするすることができる。				○
	④ 状況把握力	全体に及ぼす影響を意識し、自分の置かれている環境や状況を把握し、どのような役割が求められるのかを理解する(自分の役割を理解する)ことができる。				○
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じる状況が生じた時、原因に対して適切な対処方法を理解し、ポジティブ(積極的)に行動することができる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55		20	15			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30		20	10			5	65
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		25			5				30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								5	5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
乳幼児期から児童期に至るよりよい心理発達を促す環境と支援について理解し、説明できる。					乳幼児期から児童期に至るよりよい心理発達を促す環境と支援について理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション ① この授業で何を学ぶか ②発達の基本概念	講義	社会人基礎力事前・事後評価シートの記入	30
	自身の課題とテーマを明らかにする			
第2回 /	発達を通じた子どもの理解	講義、演習	復習：授業内容のまとめ	30
	コメントシート			30
第3回 /	発達を通じた子ども理解	講義 討議	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	子どもの権利から行事を考える			30
第4回 /	環境としての保育者と子どもの発達	講義、討議	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	コメントシート			30
第5回 /	子どもの発達とあそび	講義、演習	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	発達とあそびについての 演習講義 あそびについてのディスカッション			30
第6回 /	年齢に応じたおもちゃづくり①	実習	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	課題にそって おもちゃを製作する			30
第7回 /	年齢に応じたおもちゃづくり②	実習	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	演習 グループでおもちゃづくり			30
第8回 /	認知の発達	実習	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	課題作成、評価			30
第9回 /	言葉の発達① わらべ歌 あそびうた	実習	予習：テーマに関する要点整理 復習：テーマのまとめ	30
	成果の評価			30
第10回 /	年齢に応じた絵本	演習	予習：テーマに関する要点整理 復習：テーマのまとめ	30
	成果の評価			30
第11回 /	子どもの発達と臨床的課題	演習	予習：テーマに関する要点整理、発表準備 復習：テーマのまとめ	30
	コメントシート			30
第12回 /	障がいのある子への支援の実際	演習	予習：テーマに基づき、必要なものの準備 復習：テーマのまとめ	30
	支援グッズの製作			30
第13回 /	発達の課題に応じた援助や関わり	演習	予習：テーマに関する要点整理、発表準備 復習：テーマのまとめ	30
	コメントシート 成果物			30
第14回 /	保育の場面でイメージを広げる	演習	予習：テーマに関する要点整理 復習：テーマのまとめ	30
	コメント			30
第15回 /	まとめ	演習	まとめ	60
	学修のふりかえり			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 子ども心理学領域	子どもの家庭支援の心理学 Psychology of Child and Family Support	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を理解し、その視点から家庭や家族の意義や機能、親子関係や家族関係について学修する。また、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解し、そこで育つ子どもの精神保健とその課題について学修する。					
キーワード	子育て家庭、親子関係、家族関係、生涯発達	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 ・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を修得する。 ・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ・子どもの精神保健とその課題について理解する。 ・社会的関心の高いテーマや専門的内容について学びを深める。 			
授業科目の概要及び学修上の助言						
人間の発達を理解した上で、様々な発達段階の人間が構成する家族について理解する。様々な家庭の状況とそれを取り巻く環境と課題を理解し、支援のあり方について学ぶ。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
「子ども家庭福祉論」「子ども家庭支援論」等の科目と合わせ必要な知識を学び、「子育て支援演習」につなげ、子育て家庭の支援に関して総合的な力を養う。						
教科書			参考書・リザーブブック			
書名：事例で楽しく学ぶ 子ども家庭支援の心理学 著者名：芝野松次郎 編集代表 新川泰弘・榎本祐子 編集 出版社：中央法規			書名：『保育所保育指針』 著者名：厚生労働省 編 出版社：フレーベル館 その他：授業内で適宜指示する。			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	家庭の意義とその機能について理解する。 子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する。				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	子育て家庭の支援体制について理解する。 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。				○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	年齢に応じた発達の特徴と初期経験の重要性を理解する。				○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	保育者としての立場で子育て支援を考えることができる。				○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。				○
	② 働きかけ力	状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる。				○
	③ 実行力	強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	成果のイメージを明確にして、その実現のために現段階でなすべきことを的確に把握できる。				○
	② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。				○
	③ 創造力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	事例や客観的なデータ等を用いて、具体的にわかりやすく伝えることができる。				○
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	5	20	25				100
評価 の 指標	知識に関する評価		40	5	15	10				70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価					5				5
	チームワークに関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価		10		5	5				20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>子育て家庭の課題を発達の観点から見た家族関係や社会状況に基づき理解し、必要な支援を考えることができる。 子どもの心身の健康に関する課題について理解し、必要な支援を考えることができる。</p>					<p>子育て家庭の課題を発達の観点から見た家族関係や社会状況に基づき理解することができる。 子どもの心身の健康に関する課題について理解することができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	乳児期の発達の特徴と課題	講義・演習	(予習)各回のテキストを通読しておくこと。日頃より、子育て家庭に関わる諸問題について関心を持ち、新聞等から情報を得るよう努めること。 (復習)日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、演習課題等に反映させること。	予習 30 復習 30
	小レポート			
第2回 /	幼児期前期の発達の特徴と課題	講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第3回 /	幼児期後期の発達の特徴と課題	講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第4回 /	児童期の発達の特徴と課題	講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第5回 /	青年期の発達の特徴と課題	講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第6回 /	成人期・老年期の発達の特徴と課題	講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第7回 /	子どもの生活・生育環境とその影響	講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第8回 /	子どもの心の健康にかかわる問題	講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第9回 /	子育てを取り巻く社会的状況	講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第10回 /	ライフコースと仕事・子育て	講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第11回 /	多様な家庭とその理解	講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第12回 /	特別な配慮を必要とする家庭	講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第13回 /	家族・家庭の意義と機能	講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第14回 /	親子関係・家族関係の理解	講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第15回 /	子育ての経験と親としての育ち	講義・演習	同上	同上
	小レポート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 子ども医療保健学領域	子ども医療概論 Introduction to Child Medical Care	2単位	必修	講義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>児童・生徒はそれぞれの生活背景があり、個々の健康課題をもっている。保健学習は、「教科外の諸活動を主要な領域として展開される教育活動で、生活の中での健康に関わる子どもの考え方や行動のしかたを育てることに重きを置いて取り組まれる活動」である。しかし、実践に結び付かない保健学習や科学的根拠のない保健指導は好ましくない。特に、最近では、感染症や環境問題が将来を担う子ども達の健康問題に及ぼす影響が注目されている。</p> <p>よって、本講義では、社会環境や医療問題・環境問題から子ども、家族がおかれている状況、子どもと家族に対する課題や役割を考える。子どもの心身の健康保持増進を図る保健活動の意義や子どもについての理解を深めることを目的とする。</p>
--------	---

キーワード	小児医療・発育発達・遺伝・環境問題・生活習慣	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 小児疾患の種類と発育段階による特徴的な症状を理解することができる。 幼稚園や小学校教諭に必要な小児医療の病態や治療に関する基礎的知識が習得できる。 小児疾患の発症要因と予防対策を理解することができる。 特徴的な症状を呈する小児疾患に適切なケアが提供できる基本的技術が習得できる。 小児疾患や家庭内事故を予防・防止するための保健指導が提供できる。
-------	------------------------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

幼少児は可塑性に富んでいるので、どのような家庭で養育されるかによって獲得する行動も異なってくる。幼稚園や小学校の教諭は、急速に発育発達しつつある幼少児の発症時に適切に対処すると同時に、発症予防に関する知識や技術を教唆しなければならない。具体的には、基本的な生活習慣である食事、睡眠、運動などの行動様式を学習する段階で、身体発育に応じた行動体力や病気への防衛体力である免疫力や予防につながる生活リズムを獲得していくのである。

発症の前段階で未然に発症を予防や早期発見で重篤な症状に陥ることを阻止することは可能である。講義中には、病態のスライドもありますが、健やかな成長を願う子ども達のための教諭の責務として、小児疾患に関する基本的知識を理解し、効果的な保健指導に役立ててほしい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

病気の発症要因は、遺伝、環境、生活習慣に大別できることから、発育発達学や病理学をはじめ、生理学や遺伝学、精神衛生学、公衆衛生学、環境学など広範な専門領域が基盤にあり、それぞれの基礎的知識を事前に有することで、より学習内容が理解できる。しかし、これらの学問を事前に学習することは不可能であり、各自が興味ある領域を一つ選択して検索することで、他の領域との関連性が理解できるようになるものである。

教科書	参考書・リザーブブック
小児疾患に関する基本的内容を抜粋し、毎時プリントを配布します。	特に指定はありませんが、小児医療や小児保健領域の関連書籍は有用です。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	病理学や栄養学、生理学など医科学の基本的知識とともに精神障害や感染症、アレルギー疾患など今日的な小児医療に関する基礎的知識を習得することができる。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	子ども達の急病や症状の急変とともに頭痛や腹痛、嘔吐など日常的に数多く見られる愁訴に対し、迅速かつ適切な対応できる技術や能力を身につけることができる。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	発達段階の特徴的な感染症や病態の変化などを理解することができる。	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	発達段階の行動特性を理解し、日常的な症状や傷害に適切な処置ができる知識や技能が獲得できる。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	子ども達の健康増進を実現させるため、免疫力を高め病気を予防するための生活習慣への介入や傷害防止や感染症予防、食中毒予防など有用な保健指導を実践することができる。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	子ども達の発症予防の観点から、家庭との連携を通して食事、睡眠、運動などの生活習慣の改善とともに子ども達の健康意識を高揚させる保健指導を企画・推進することができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	子ども達の疾病予防を目指した、有用かつ効果的な保健指導を実践することができる。	◎
	② 働きかけ力	適切な生活習慣への介入を通して、疾病予防や感染症予防教育を推進することができる。	◎
	③ 実行力	生活習慣と健康が関わっている内容の具体的な行動様式が持てるよう指導することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	日常的な健康観察を適切に評価し、疾病発症の前段階を見逃すことのない知識や能力が獲得できる。	◎
	② 計画力	子ども達の健康を観察する能力を通して健康状態に的確に対応できる具体的な保健指導ができる。	◎
	③ 創造力	発育について理解できる指導を通して、健康で安全な生活を営む資質や能力を育てることができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	最新の医科学情報を的確に判断し、望ましい生活習慣を身につける保健指導に活用できる。	◎
	② 傾聴力	子ども達の行動や言動から、不安や悩みなど精神面の不安定さに対応することができる。	○
	③ 柔軟性	発達段階の子ども達の特徴的な行動様式を理解し、個々の子どもに応じた保健指導ができる。	◎
	④ 状況把握力	急病や災害・事故発生時に、症状悪化や被害の拡大を防ぐ的確かつ迅速な行動ができる。	◎
	⑤ 規律性	疾病予防や感染症予防の観点から、清潔習慣を確立させる保健指導を推進することができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	多様な生活体験を通してメンタルヘルスの発達を促す保健指導ができる。	△
4. 倫理観	① 倫理性	発達段階の個人差を理解し、差別や偏見のない基本的権利である健康を獲得させる指導ができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
指標と評価割合		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合		50	30	10				10	100
評価 の 指標	知識に関する評価	30	15	5					50
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	10	10					10	30
	チームワークに関する評価								
	関心・意欲に関する評価	10	5	5					20
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安				
<ul style="list-style-type: none"> 小児疾患の治療や免疫機構に関する基本的な知識がある。 過去の保健指導を精査し、小児期に有用な保健指導指針が構築できる。 子ども達の養育環境を的確に評価し、エビデンスに基づいた助言ができる。 最新の医科学情報を積極的に収集し、独自のテキストが作成できる。 将来の環境問題に積極的に取り組むことができる。 					<ul style="list-style-type: none"> 小児疾患の種類や発症要因、予防医学に関する基本的知識がある。 医科学情報を収集し、疾病予防や生活習慣改善の資料として活用できる。 日常的な行動観察から、小児期特有の疾患の早期に発見できる。 急性の疾患や傷害に対する迅速かつ適切に対応できる。 				

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	健康概念と疾病異常 ① 小児疾患の歴史的背景と今日的な健康概念 ② 子どもの疾病の特徴と原因	健康の概念を通して、小児期の疾病について、P.Pを中心とした講義を展開する。	復習：健康概念と小児疾患の発症要因の理解	20
	確認テスト（小テスト）			
第2回 /	小児期の身体発達と行動評価 ① 発育段階と身体的機能の評価 ② 情緒的発達と情緒の分化	発育発達期の身体的、精神的疾患の特徴について、P.Pを中心とした講義を展開する。	復習：発育発達期の身体的機能の理解 予習：遺伝子病や染色体異常の検索	20
	確認テスト（小テスト）			20
第3回 /	遺伝子と先天異常 ① 遺伝病と染色体異常の理解 ② 主な先天疾患や染色体異常	発生学も含め、先天異常や染色体異常について、P.Pを中心とした講義を展開する。	復習：先天疾患や染色体異常の理解 予習：小児生活習慣病の検索	20
	確認テスト（小テスト）			20
第4回 /	小児期の生活習慣病 ① 生活習慣病の危険因子 ② 小児期の肥満症と高血圧症	現在の子ども達の生活習慣の問題点から、小児生活習慣病について、P.Pを中心とした講義を展開する。	復習：小児生活習慣病の理解 予習：呼吸器の構造と機能を検索	20
	確認テスト（小テスト）			20
第5回 /	小児期の呼吸器系疾患 ① 呼吸器疾患の概要 ② 特徴的な小児期の呼吸器疾患	環境問題も含め、小児に診られる呼吸器疾患とその予後について、P.Pを中心とした講義を展開する。	復習：小児期に多い呼吸器疾患の理解 予習：循環器の構造と機能を検索 レポート I の提出準備	20
	確認テスト（小テスト）			30
第6回 /	小児期の循環器系疾患 ① 循環器疾患の概要 ② 小児期の主な循環器と不整脈	先天異常や臓器移植も含め小児の循環器疾患について、P.Pを中心とした講義を展開する。	復習：小児期に多い循環器疾患の理解 予習：肝臓・消化器の構造と機能を検索	20
	確認テスト（小テスト）・レポート提出 I			20
第7回 /	小児期の肝機能・消化器系疾患 ① 肝疾患・消化器系疾患の概要 ② 小児期の内科的慢性疾患と肝疾患	若年性糖尿病も含め小児期に多い消化器系疾患について、P.Pを中心とした講義を展開する。	復習：小児期に多い消化器疾患の理解 予習：腎臓・排泄器の構造と機能を検索	20
	確認テスト（小テスト）			20
第8回 /	小児期の腎・泌尿器系疾患 ① 腎疾患の概要 ② 小児期の特徴的な腎疾患や泌尿器疾患	慢性腎炎や院内学級の実態など、小児期に診られる腎臓病、泌尿器疾患について、P.Pを中心とした講義を展開する。	復習：小児期の腎臓・泌尿器疾患の理解 予習：ホルモン・免疫系の種類や機序を検索	20
	確認テスト（小テスト）			20
第9回 /	小児期の内分泌異常と免疫疾患 ① 内分泌・免疫機能の概要 ② 小児期の血液異常と内分泌異常	ホルモン異常や糖代謝異常など、小児期の内分泌疾患と免疫機能について、P.Pを中心とした講義を展開する。	復習：内分泌異常や免疫疾患の理解 予習：骨格・筋系の名称と機能を検索	20
	確認テスト（小テスト）			20
第10回 /	小児期の整形外科的疾患 ① 身体機能と整形外科的疾患の概要 ② 小児期の特徴的な運動器の外傷や障害	側弯症や骨粗鬆症と発育期の運動機能障害について、P.Pを中心とした講義を展開する。	復習：小児期の運動機能障害の理解 予習：脳の構造と神経系の名称を検索 レポート II の提出準備	20
	確認テスト（小テスト）			30
第11回 /	小児期中枢神経系疾患 ① 中枢神経系疾患の概要 ② 小児期の神経系疾患や運動機能障害	大脳機能やてんかん、麻痺など小児の神経系疾患について、P.Pを中心とした講義を展開する。	復習：小児期の神経系障害の理解 予習：主な感染症の種類と感染源を検索	20
	確認テスト（小テスト）・レポート提出 II			20
第12回 /	小児期の感染症や食中毒 ① 感染症や食中毒の概要 ② 小児期の主な感染症と食中毒	小児期に多い感染症の種類と予防および食中毒について、P.Pを中心とした講義を展開する。	復習：小児期に多い感染症の種類と食中毒の理解 予習：アレルギーの種類を検索	20
	確認テスト（小テスト）・レポート提出 II			20
第13回 /	小児期のアレルギー疾患と皮膚疾患 ① アレルギー疾患の概要 ② 小児期のアレルギー疾患と皮膚疾患	現在のアレルギー疾患に関する知見と小児期に多い皮膚疾患について、P.Pを中心とした講義を展開する。	復習：小児期のアレルギー疾患や皮膚疾患の理解 予習：感覚器の構造と機能を検索	20
	確認テスト（小テスト）			20
第14回 /	小児期の感覚器系疾患 ① 感覚器系疾患の概要 ② 小児期の眼科・耳鼻咽喉疾患・口腔疾患	生活習慣に起因した感覚器の異常について、P.Pを中心とした講義を展開する。	復習：小児期の感覚器系疾患の理解 予習：配布資料の整理と定期考査準備	20
	確認テスト（小テスト）			20
第15回 /	小児期の慢性疾患の現状と課題 ① 慢性疾患児の現状 ② 慢性疾患児に対する教育的指導のあり方	慢性疾患児が抱える課題について、P.Pを中心とした講義を展開する。	復習：小児期の感覚器系疾患の理解 予習：配布資料の整理と定期考査準備	20
	確認テスト（小テスト）			40

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 子ども医療保健学領域	子どもの保健 Health of Child	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	子どもの心身の健全な発達や健康増進のために、身体的発育・発達を理解し、それぞれの発達段階に必要な保健に対する考えかたを理解する。また、観察や健康診断、保護者との情報共有等による子どもの心身の健康状態を把握する方法を理解し、疾病の特徴やその予防、適切な対応について学ぶ。					
----------------------------	--	--	--	--	--	--

キ ー ワ ー ド	子どもの健康 子どもの心身の発達 子どもの安全	学 修 教 育 目 標	1. 子どもにとっての健康とその重要性の理解。 2. 子どもの身体に関する基礎的な生理機能を科学的に理解する。 3. 受精から出生後の子どもの発達、発育について具体的に理解する。 4. 小児のかかりやすい疾患について学ぶ。 5. 子どもの安全な生活について学ぶ。
-----------------------	-------------------------------	----------------------------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

授業の前半は主に子どもの身体の発達を修得し、後半では子どもの生理機能について科学的に理解し、子どものかかりやすい疾病について学ぶ。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「子どもの保健演習」						
------------	--	--	--	--	--	--

教 科 書	参考書・リザーブブック
書 名：子どもの保健 著者名：佐藤 直子／中根 淳子 編著 出版社：ななみ書房	子どもの保健（巷野悟郎編・診断と治療社）・厚生労働省・文部科学省出版 各種ガイドライン等

No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	子どもの健康について基礎的な知識を身につける。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	子どもの健康を守るために必要な技能を知る。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの健康な心身の発達に必要な基礎的な知識を知る。	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもの健康な心身の発達に必要な基礎的な技能を知る。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	子どもの健康に関して専門職としての使命感、責任感、倫理観を知る。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	授業で得た子どもの健康に関する知識を教育現場で生かすことができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	子どもの健康について積極的に学ぶ。	○
	② 働きかけ力	状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる。	△
	③ 実行力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力	複数のもの（もの、考え方、技術など）を組み合わせ、新しいものを作り出すことができる。	△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。	△
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。	△
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		40				10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30		20				5	55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				10					10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		10				5	35
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子どもの健康について科学的な根拠に基づいた知識を習得する。					子どもの健康について基礎的な知識を修得する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション ・子どもの健康と保健の意義	講義	自分の今までの健康について考え考察する。	30
第2回 /	子どもの発育・発達	講義	自分の母子手帳の記録を参考に発達を考える。	20
第3回 /	乳幼児の身体発達	講義	それぞれの年齢の身体発達について調べる。	30
第4回 /	生理機能の発達（呼吸機能・循環機能・免疫機能）	講義	胎児と出生後の循環の違いを調べる。	30
第5回 /	生理機能の発達（消化機能・尿排泄機能・水分代謝・体温調節）	講義	自分の生理機能について調べ、乳幼児との差異を考察する。	30
第6回 /	生理機能の発達（内分泌機能・睡眠、覚醒リズム・感覚機能）	講義	・自分の一週間の生活リズムを記録し、健康状態との関係を考察する。 ・感覚機能は脳のどの部分で働くのか調べる。	40
第7回 /	生理機能の発達（神経機能・精神機能・情緒、行動発達）	講義	それぞれの発達段階における行動特性から精神、情緒などの関連を考察する。	40
第8回 /	小児の主な病気（小児の主な病気の特徴・保育の現場でよくある疾患1）	講義	小児の疾患について原因、症状、対処法などを調べる。	30
第9回 /	小児の主な病気（保育の現場でよくある疾患2）	講義	小児の疾患について原因、症状、対処法などを調べる。	30
第10回 /	子どもの精神保健	講義	子どもの問題行動にはどのような背景があるのか調べる。	40
第11回 /	環境と衛生管理・安全管理	講義	子どもの遊び場や遊具について、近所の公園などで調べる。	30
第12回 /	保育現場の事故防止と安全対策	講義	保育現場でおこった事故等についてネットなどで調べる。	30
第13回 /	健康および安全の実施体制	講義	実際に保育現場ではどのような対策が行なわれているか調べる。	30
第14回 /	子どもの健康指導の発表1 子どもへの健康指導の実際を教材など用いてグループごとに発表する	講義	幼児への健康指導を様々な教材を用いて考える。	30
第15回 /	子どもの健康指導の発表2 子どもへの健康指導の実際を教材など用いてグループごとに発表する	講義	幼児への健康指導を様々な教材を用いて考える。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 子ども医療保健学領域	子どもの保健演習 Child Health Exercise	1単位	選 択	演 習	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	保健的観点から踏まえた保育環境や援助について学修する。「子どもの保健」の講義で得た知識をもとに、保育の現場での健康と安全管理、体調不良への適切な対応、感染症対策、配慮を必要とする子どもへの対応について具体的事例をもとに理解する。また、健康と安全管理のための組織的取り組みとその評価、家庭・自治体・専門機関等との連携の具体的方法についても学修する。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	子どもの心身の発達と健康	学修教育目標	子どもの健康状態の把握、異常の発見、病気の予防や救急処置、事故防止や安全な保育環境づくりなどについて理解し、実践できる知識と技能を身に付ける。			
-------	--------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

「子どもの保健」で習得した知識をさらに授業の中で実習し、身につける。						
------------------------------------	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「子どもの保健」						
----------	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
書名：子どもの保健 演習ガイド 著者名：高内 正子 編著 出版社：建帛社			なし			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	「子どもの保健」で学んだことをさらに深める。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	子どもの健康に関する知識を実際の保育現場で活かせるように学校実習を通して身につける。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの心身の発達と健康課題の知識を知る。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもの心身に発達に応じた健康指導、健康管理ができるようにする。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	子どもの健康に関して保育者としての責任感を養う。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	実際の保育現場において活用できるような知識、技能を身につける。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる。	△
	③ 実行力	修得した知識や技術を具体的な行動として実行できる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。	△
	② 計画力	実際に保育現場で保育どのように活用するのか計画を立てる。	◎
	③ 創造力	子どもへの指導方法を考え、工夫できる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。	○
	② 傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。	△
	③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	周囲の人の状況（人間関係、忙しさ等）に配慮して、良い方向へ向かうよう行動することができる。	○
	⑤ 規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。	△
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受けとめすぎないようにしている。	△
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30	20				100
評価 の 指標	知識に関する評価		20		20					40
	技能に関する評価		10			10				20
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		10	10				40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
科学的な知識に基づいた演習が理解できる。					理解度80%を目標とする。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 保育における保健活動	講義	保健所ではどのような健康管理が行なわれているのか調べる。	30
第2回 /	保育者の自己管理とその必要性	講義・演習	手洗いの仕方を学ぶ。	20
第3回 /	乳幼児の身体測定	講義・演習	乳幼児の人形を用いて、身体測定を実習する。	70
第4回 /	子どもの保健と環境	講義・演習	自分の生理機能を測定してみる。	40
第5回 /	子どもの発達援助と保健活動	講義・演習	乳幼児の人形を用いて、抱き方、衣服の着脱を実習する。	50
第6回 /	身体の清潔	講義・DVD・演習	乳児の人形を用いて沐浴を実習する。	80
第7回 /	感染症の予防と対策	講義・演習	子どもの感染症はどのようなものがあるか調べる。	40
第8回 /	個別的な配慮を必要とする子供への対応1	講義・演習	子どもの疾患とその対応について調べる。	40
第9回 /	個別的な配慮を必要とする子供への対応2	講義・演習	子どもの疾患とその対応について調べる。	40
第10回 /	事故防止および健康管理・安全管理	講義・DVD	保育園などで実際におこった事故について、ネットなどで調べる。	40
第11回 /	救急処置および救急蘇生法	講義・DVD・演習	DVDを見て乳幼児の人形を使い、心肺蘇生法を実習する。	50
第12回 /	乳幼児の事故と応急手当	講義・演習	包帯の巻き方や三角巾の使用方法を実習する。	60
第13回 /	子どもに起こりやすい症状とケア	講義・演習	子どもに起こりやすい症状とケアを調べる。	60
第14回 /	幼児への健康指導1 幼児への健康指導を自分で考え教材などを用いて発表する	講義・口頭発表	幼児への健康指導	50
第15回 /	幼児への健康指導2 幼児への健康指導を自分で考え教材などを用いて発表する	講義・口頭発表	幼児への健康指導	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 特別講座	絵本講座 I Picture Books (I) (Lecture)	2単位	選 択	講 義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育、学校教育において、絵本を通じて子どもとつながりあえようになることを目指す。 ・自分が勤める保育所や幼稚園・小学校等、地域の読書活動に寄与できるに足る「絵本の力」を身につける。
--------	--

キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の魅力 ・読書活動 	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の魅力や可能性について学修し、保育所や幼稚園、小学校等を含む地域の読書活動の発展に寄与できるようになる。 ・本学修を通して、地域や現場において絵本、読書推進に貢献することができる。
-------	---	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

近年、絵本の魅力や可能性を伝え地域の読書活動を充実させる役割が期待されている。本講座の学修を通して地域の読書活動の推進に寄与できる人材の育成をめざしている。「絵本講座Ⅱ」を続けて履修するとともに、講座で学んだことを、実際に演習できるよう学修してもらいたい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「絵本講座Ⅰ」との関連を意識して学修すること。
履修者自身が多くの絵本に親しみ、その楽しさ、子どもや人間にとっての有効性を理解できるように努力してほしい。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：ベーシック 絵本入門 著者名：田美秋・石井光恵・藤本朝巳 出版社：ミネルヴァ書房	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	保・幼・小各年代における子どもの発達の違いについて理解することができる。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	個別の場面における子どもとの関係の取り方について演習することができる。	△
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	具体の事例に沿って子どものものの見方や考え方を理解することができる。	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	具体の事例に沿って子どもとコミュニケーションをとる演習ができる。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	教職をめざす学生としての自覚が表れるような、学習態度が見て取れる。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	近隣の学校訪問や、演習課題への取り組みに自分なりの目当てをもって真剣に取り組もうとする。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	場面や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとするすることができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問する等相手の意見を引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	環境や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>絵本を通して、保育所・幼稚園・小学校における子どもの発達を理解し、地域での読書指導の実際を理解することができる。 また、実技への取り組みにおいて、自らも創意工夫し、楽しんで取り組むことができる。</p>					<p>絵本を通して、保育所・幼稚園・小学校における子どもの発達を理解し、地域での読書指導の実際を理解することができる。 また、実技への取り組みにおいて、最後まで取り組むことができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	ガイダンス 絵本を紹介する・おはなし会実施についての説明	講義	絵本を選んでくる。10冊以上手にして検討をする。	40
	相手にインタビューをして絵本を手渡せるように準備をする			
第2回 ／	絵本を手渡そう ・読み合い	講義と演習	お薦め絵本を2冊持参する。読む練習もしてくる。	40
	絵本を手渡す			
第3回 ／	素話をしてみよう	講義と演習	お話を覚えて復習をする。	40
	お話を覚える			
第4回 ／	素話発表	講義と演習	事振り返りを行う。	40
	素話発表と振り返り			
第5回 ／	お話の続きを考える	演習と講義	1/3の学びを振り返る。	40
	桃太郎の一場面をきりとおはなしをつくる			
第6回 ／	おはなしのもりづくり さまざま素材を使って、おばけをつくる	演習と講義	おはなし作りの振り返り	40
	絵の具等々を使用してお話を創る準備をする			
第7回 ／	おはなしのもりづくり ②	講義と演習	絵本の仕上げ	40
	お話を作って文字に起こしてPPTに貼り付けて絵本にする			
第8回 ／	おはなしのもりづくり ③	講義と演習	おはなしの文字おこし	40
	おはなし発表会			
第9回 ／	おはなし会をつくろう	講義と演習	おはなし会を企画してくる。	40
	ゲスト 五島丸太さん おはなし会を体感しよう			
第10回 ／	お話会のスキルアップ	講義と演習	おはなし会のスキルを身につける。	40
	おはなし会のスキルアップ ゲスト 五島丸太さん			
第11回 ／	しかけ絵本をつくろう	講義と演習	しかけえほんについてイメージを膨らませ、準備しておく。	40
	発達における絵本			
第12回 ／	しかけえほんの発表	講義と演習	しかけ絵本についての振り返りレポート	40
	模擬紙芝居発表会を開く			
第13回 ／	おはなし会の準備	講義と演習	これまでの学修で自分の一番の表現作品を考えてくる。	40
	これまでの学修で学んだ絵表現の発表の練習をする			
第14回 ／	おはなし会をしてみよう	演習	子どもの前での公演をイメージして練習してくる。	60
	おはなし会を公演する			
第15回 ／	おはなし会のふりかえり 絵本エッセイ提出	講義と演習	絵本エッセイの提出。	60
	絵本学修の振り返り			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 特別講座	絵本講座Ⅱ Picture Books（Ⅱ）（Lecture）	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育、学校教育において、絵本を通じて子どもとつながりあえようになることを目指す。 ・自分が勤める保育所や幼稚園・小学校等、地域の読書活動に寄与できるに足る「絵本の力」を身につける。
--------	--

キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の魅力 ・読書活動 	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の魅力や可能性について学修し、保育所や幼稚園、小学校等を含む地域の読書活動の発展に寄与できるようになる。 ・本学修を通して、地域や現場において絵本、読書推進に貢献することができる。
-------	---	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

近年、絵本の魅力や可能性を伝え地域の読書活動を充実させる役割が期待されている。本講座の学修を通して地域の読書活動の推進に寄与できる人材の育成をめざしている。「絵本講座Ⅰ」を先に受講するとともに、講座で学んだことを、実際に演習できるよう学修してもらいたい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「絵本講座Ⅰ」との関連を意識して学修すること。
履修者自身が多くの絵本に親しみ、その楽しさ、子どもや人間にとっての有効性を理解できるように努力してほしい。

教科書	参考書・リザーブブック
書 名：ベーシック 絵本入門 著者名：田美秋・石井光恵・藤本朝巳 出版社：ミネルヴァ書房	なし

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	保・幼・小各年代における子どもの発達の違いについて理解することができる。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	個別の場面における子どもとの関係の取り方について演習することができる。	△
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	具体の事例に沿って子どものものの見方や考え方を理解することができる。	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	具体の事例に沿って子どもとコミュニケーションをとる演習ができる。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	教職をめざす学生としての自覚が表れるような、学習態度が見て取れる。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	近隣の学校訪問や、演習課題への取り組みに自分なりの目当てをもって真剣に取り組もうとする。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	場面や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとするすることができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問する等相手の意見を引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	環境や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>絵本を通して、保育所・幼稚園・小学校における子どもの発達を理解し、地域での読書指導の実際を理解することができる。 また、実技への取り組みにおいて、自らも創意工夫し、楽しんで取り組むことができる。</p>					<p>絵本を通して、保育所・幼稚園・小学校における子どもの発達を理解し、地域での読書指導の実際を理解することができる。 また、実技への取り組みにおいて、最後まで取り組むことができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	イントロダクション 絵本を紹介する技術（書評・紹介文の書き方）	講義と演習	新聞・雑誌等から、絵本の書評・紹介文を集めて読んで持参する。	40
	絵本の書評・紹介文のめあて、表現法を知る。			
第2回 /	書評を書こう 書評の読み合い	講義と演習	お薦め絵本を2冊持参し、お薦め理由を考えてくる。	40
	お薦めの絵本の紹介文、課題絵本の書評を書く			
第3回 /	おはなしづくり	講義と演習	見開き4ページの絵本のストーリーの構想を考えてくる。	40
	絵本のストーリーを創作する			
第4回 /	いろいろな絵本（赤ちゃん絵本）	講義と演習	赤ちゃん絵本についてA4レポート1枚作成してくる。	40
	いろいろな絵本について理解する。			
第5回 /	おはなし会をひらこう	講義と演習	おはなし会についてA4レポート1枚作成してくる。	40
	絵本の読み聞かせの実際を学び、おはなし会を開く準備をする。			
第6回 /	おはなし会の実際	講義と演習	場面を想定した、お薦め絵本の読み聞かせを考えてくる。	40
	模擬おはなし会を開催する。			
第7回 /	本を手渡す	講義と演習	書店での本の紹介の工夫についてA4レポート1枚作成してくる。	40
	書店で働く人の喜び、願いを知る。			
第8回 /	帯づくり	講義と演習	お薦め絵本についての構想を考えてくる。	40
	お薦め絵本と、課題絵本の帯を創り、模擬帯コンクールを開催する。			
第9回 /	紙芝居	講義と演習	紙芝居についてのA4レポート1枚作成してくる。	40
	基本的な紙芝居について理解する。			
第10回 /	紙芝居づくり	講義と演習	紙芝居ストーリーについて構想を考えてくる。	40
	紙芝居のストーリーを考える。			
第11回 /	紙芝居づくり	講義と演習	紙芝居の色彩について試し塗理をしてくる。	40
	紙芝居の絵を描く。			
第12回 /	紙芝居の発表	講義と演習	絵の抜き方・タイミング等練習してくる。	40
	模擬紙芝居発表会を開く。(大学祭等も含む)			
第13回 /	おはなし会の準備	講義と演習	これまでの学修で自分の一番の表現作品を考えてくる。	40
	これまでの学修で学んだ絵表現の発表の練習をする。			
第14回 /	おはなし会に行こう	講義と演習	子どもの前での公演をイメージして練習してくる。	60
	教室外でおはなし会を公演する。			
第15回 /	まとめ 帯の提出	講義と演習	帯コンクールへの応募作品の構想を考えてくる。	60
	絵本学修を振り返り、公募の本の帯コンクールへの出品をめざす。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 特別講座	教職教養講座A Basic Course on Teaching Profession A	1単位	自由	講義	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・教員となるための基礎的・基本的な知識を確実に習得し、これらを活用して課題を解決させるために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学修に取り組む態度を養うことを目指す。 ・「教職の意義等に関する科目」「教育の基礎理論に関する科目」の要点とその分野における課題を理解する。 					
キーワード	教員採用試験 教職の意義 教育の基礎理論	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験における教職教養テストに対応できる。 ・「教職の意義等に関する科目」「教育の基礎理論に関する科目」の要点とその分野における課題を理解することができる。 			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>教員採用試験における教職教養テスト（「教職の意義等に関する科目」「教育の基礎理論に関する科目」）の要点とその分野におけるテーマを個人またはグループで学修する。事前学修、復習は必ず行うこと。 教員採用試験における教職教養テスト（「教職の意義等に関する科目」「教育の基礎理論に関する科目」）の要点とその分野におけるテーマを個人またはグループで学修する。適宜集中講義（宿泊を伴う場合もある）も実施をするので参加をすること。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>教職教養講座B、教職教養講座Cも受講することが望ましい。教職・教育支援センターも積極的に活用をすること。</p>						
教科書				参考書・リザーブブック		
『TwinBooks 完成シリーズ教職教育の要点理解』時事通信社 『TwinBooks 完成シリーズ教職教養の演習問題』時事通信社				『生徒指導提要』（教育図書）文部科学省のページからのダウンロードでも構わないので用意をする。 自分に合っていると思う教員採用試験対策問題集 参考書など用意して自習をすること。（わからないときは相談に来ること）		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	自らの弱点を把握し、自主学習にも取り組むこと				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	グループワークや面接練習を通じて、必要の技能を会得し、高めるよう努める。				◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	テキストをしっかりと理解をするよう努めること。				◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	発達について理解をし、実習等で再確認を行う。				○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	教育法規の条文をしっかりと理解をし、イメージをふくらませること。				○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	教職教養テスト「教育課程及び指導法に関する科目」に対応できる。				◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自主的に学修に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力	周囲と共に学修する雰囲気を作り出すことができる。				◎
	③ 実行力	自ら演習課題を見つけ出すことができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自己のウィークポイントを明らかにすることができる。				○
	② 計画力	ウィークポイントを克服するための学修計画を立てることができる。				◎
	③ 創造力	ウィークポイントを克服するための学修方法を見つけ出すことができる。				◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	説明をすることができる。				○
	② 傾聴力	説明を聴いて理解することができる。				○
	③ 柔軟性	取組みに対する様々な姿勢を受け入れることができる。				○
	④ 状況把握力	何をすべきか判断できる。				○
	⑤ 規律性	ルールを守って適切に行動できる。				○
	⑥ ストレスコントロール力	楽しんで取り組むことができる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えて行動することができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常で発揮できる力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価の指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見つけ、積極的に取り組む。 説明をした事項については覚えて、現場の子どもや自分の指導をイメージができること。 					課題に対して積極的に取り組むことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間（分）
第1回 /	西洋教育史概説(古代、コメニウス～新教育運動)	講義・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第2回目に確認テストを行う。	240
	ミニテスト			
第2回 /	西洋教育史概説 前回の復習、20世紀の教育まで	講義・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第3回目に確認テストを行う。	240
	ミニテスト			
第3回 /	日本教育史概説 明治期を中心に	講義・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第4回目に確認テストを行う。	240
	ミニテスト			
第4回 /	日本教育史概説 大正期から戦前	講義・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第5回目に確認テストを行う。	240
	ミニテスト			
第5回 /	日本教育史概説 戦後の制度 学習指導要領の変遷	講義・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第6回目に確認テストを行う。	240
	ミニテスト			
第6回 /	生徒指導提要	発表	説明をした事項について覚えておくこと、第7回目に確認テストを行う。	240
	振り返りシート			
第7回 /	教育心理(発達)	講義・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、最終の確認テストを行う。	240
	ミニテスト			
第8回 /	教育心理(発達) まとめテスト	講義 テスト	今までの復習をし、既習内容を会得し、自学を続行すること。	240
	まとめテスト			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 特別講座	教職教養講座B Basic Course on Teaching Profession B	1単位	自由	講義	3年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・教員となるための基礎的・基本的な知識を確実に習得し、これらを活用して課題を解決させるために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学修に取り組む態度を養うことを目指す。 ・「教育課程及び指導法に関する科目」の要点とその分野における課題を理解することを目的とする。 					
キーワード	教員採用試験 教職課程及び指導法	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験における教職教養テストに対応できる。 ・「教育課程及び指導法に関する科目」の要点とその分野における課題を理解する 			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>教員採用試験における教職教養テスト（「教育課程及び指導法に関する科目」）の要点とその分野におけるテーマを個人またはグループで学修する。事前学修、復習は必ず行うこと。通常の講義の教職教養科目は、すべて関連をしているので 取りこぼしのないようにすること。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>教職教養講座A、教職教養講座Cも受講することが望ましい。</p>						
教科書			参考書・リザーブブック			
<p>別途指示をする。</p>			<p>『生徒指導提要』（教育図書）文部科学省のページからのダウンロードでも構わない。 『教員採用試験対策オープンセサミシリーズ セサミノート』七賢出版</p>			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	自らの弱点を把握し、自主学習にも取り組むこと				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	グループワークや面接練習を通じて、必要の技能を会得し、高めるよう努める。				◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	テキストをしっかりと理解をするよう努めること。」				◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	発達について理解をし、実習等で再確認を行う。				○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	教育法規の条文をしっかりと理解をし、イメージをふくらませること				○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	教職教養テスト（「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」）に対応できる。				◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自主的に学修に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力	周囲と共に学修する雰囲気を作り出すことができる。				○
	③ 実行力	自ら演習課題を見つけ出すことができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自己のウィークポイントを明らかにすることができる。				○
	② 計画力	ウィークポイントを克服するための学修計画を立てることができる。				○
	③ 創造力	ウィークポイントを克服するための学修方法を見つけ出すことができる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	説明をすることができる。				○
	② 傾聴力	説明を聴いて理解することができる。				○
	③ 柔軟性	取組みに対する様々な姿勢を受け入れることができる。				○
	④ 状況把握力	何をすべきか判断できる。				○
	⑤ 規律性	ルールを守って適切に行動できる。				○
	⑥ ストレスコントロール力	楽しんで取り組むことができる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えて行動することができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>自ら課題を見つけ、計画的に取り組むことができる。 既習の内容を身に付け、学校現場や子どもの姿に照らして考えることができる。</p>					<p>課題に対して積極的に取り組むことができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	西洋教育史・日本教育史確認テスト 解説	講義・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第2回目に確認テストを行う。	240
第2回 /	西洋教育史・日本教育史・教育心理確認テスト(再 解説	講義・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第3回目に確認テストを行う。	240
第3回 /	教育法規（教育基本法を中心に） 教員採用試験過去問 小テスト	講義・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第4回目に確認テストを行う。	240
第4回 /	教育法規(教育基本法を中心に) 教員採用試験過去問 小テスト	講義・小テスト グループワーク	説明をした事項について覚えておくこと、第5回目に確認テストを行う。	240
第5回 /	教育法規(発達障害者支援法、日本国憲法を中心に) 教員採用試験過去問 小テスト	講義・小テスト グループワーク	説明をした事項について覚えておくこと、第6回目に確認テストを行う。	240
第6回 /	生徒指導提要3章 教員採用試験過去問 小テスト	講義・発表	説明をした事項について覚えておくこと、第7回目に確認テストを行う。	300
第7回 /	生徒指導提要4章 教員採用試験過去問 小テスト	講義・発表	説明をした事項について覚えておくこと、最終の確認テストを行う。	300
第8回 /	まとめのテスト	講義・テスト	今までの復習をし、既習内容を会得し、自学を続行すること。	300

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 特別講座	教職教養講座C Basic Course on Teaching Profession C	1単位	自由	講義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・教員となるための基礎的・基本的な知識を確実に習得し、これらを活用して課題を解決させるために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学修に取り組む態度を養うことを目指す。 ・「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」の要点とその分野における課題を理解することを目的とする。 					
	キーワード	教員採用試験 生徒指導 教育相談 進路指導	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験における教職教養テストに対応できる。 ・「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」の要点とその分野における課題を理解することができる。 		

授業科目の概要及び学修上の助言

教員採用試験における教職教養テスト（「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」）の要点とその分野におけるテーマを個人またはグループで学修する。事前学修、復習は必ず行うこと。教員採用試験における教職教養テスト（「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」）の要点とその分野におけるテーマを個人及びグループで学修する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

教職教養講座A、教職教養講座Bも受講することが望ましい。

教科書

参考書・リザーブブック

『教職教養の要点理解(2025年度版)』時事通信社

『Hyper 実践シリーズ②教員採用試験 25年度 一般教養』時事通信社

『Hyper 実践シリーズ②教員採用試験 25年度 教職教養の過去問』時事通信社

『2025年度版 教員採用試験面接』時事通信社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	自らの弱点を把握し、自主学習にも取り組むこと。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	グループワークや面接練習を通じて、必要の技能を会得し、高めるよう努める。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	テキストをしっかりと理解をするよう努めること。	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	発達について理解をし、実習等で再確認を行う。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	教育法規の条文をしっかりと理解をし、イメージをふくらませること。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	教職教養テスト（「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」）に対応できる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自主的に学修に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲と共に学修する雰囲気を作り出すことができる。	○
	③ 実行力	自ら演習課題を見つけ出すことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自己のウィークポイントを明らかにすることができる。	○
	② 計画力	ウィークポイントを克服するための学修計画を立てることができる。	◎
	③ 創造力	ウィークポイントを克服するための学修方法を見つけ出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	説明をすることができる。	○
	② 傾聴力	説明を聴いて理解することができる。	○
	③ 柔軟性	取組みに対する様々な姿勢を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	何をすべきか判断できる。	○
	⑤ 規律性	ルールを守って適切に行動できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	楽しんで取り組むことができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えて行動することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見つけ、積極的に取り組む。 説明をした事項については覚えて、現場の子どもや自分の指導をイメージができること。 					課題に対して積極的に取り組むことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	「教育基本法、教員採用試験の教師に求められる力」を考える	講義・演習・テスト	面接ノートの作成	90
第2回 /	「志望動機、自分の長所・短所、自己アピール」を考える 小テスト	講義、演習・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第3回目に確認テストを行う。できなかった箇所は覚えなおしておく。	90
第3回 /	「いじめ防止法、いじめ・不登校の指導」に関すること 小テスト	講義・演習・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第4回目に確認テストを行う。できなかった箇所は覚えなおしておく。	90
第4回 /	服務規程、職の自覚・服務についての理解に関すること 小テスト	講義・演習・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第5回目に確認テストを行う。できなかった箇所は覚えなおしておく。	90
第5回 /	「先生方との連携・チーム学校」を考える 小テスト	講義・演習・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第6回目に確認テストを行う。できなかった箇所は覚えなおしておく。	90
第6回 /	場面指導「保護者・地域の方々への対応」を考える 小テスト	講義・発表	説明をした事項について覚えておくこと、第7回目に確認テストを行う。できなかった箇所は覚えなおしておく。	90
第7回 /	場面指導、懲戒、体罰、「こんな時、どんな指導をするか」 小テスト	講義・発表	説明をした事項について覚えておくこと、最終の確認テストを行う。できなかった箇所は覚えなおしておく。	90
第8回 /	面接(入室から退室のマナー・ことば使い等)をトライする	講義 テスト	今までの復習をして、既習内容を実際に行う。	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ゼミ	基礎ゼミ I Foundation Seminar I	1単位	必修	演習	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	卒業論文作成に向けた総合演習（卒論ゼミ）形式で進める。これまでの課程で獲得した知識を他へ自己表現する能力（プレゼンテーション能力）を身につける。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	卒業研究	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 各回のテーマに応じて必要となる知識を獲得することができる。 テーマに関するディスカッションに、積極的に関わることができる。 			
-------	------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

詳細は「基礎ゼミ I・II テーマ一覧表」で確認すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

詳細は「基礎ゼミ I・II テーマ一覧表」で確認すること。

教科書

別途、教員から指示する。

参考書・リザーブブック

別途、教員から指示する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	「基礎ゼミ I・II テーマ一覧表」及び、第1回目の授業で説明する。
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。	○
	③ 実行力	目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を把握して、課題を抽出することができる。	○
	② 計画力	課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。	○
	⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価				到達度の評価方法は第1回目の授業 で担当教員から説明する。					
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
					第1回目の授業で担当教員から説明する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第1回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第1回目の授業の中で説明する。	
第2回 /				
第3回 /				
第4回 /				
第5回 /				
第6回 /				
第7回 /				
第8回 /				
第9回 /				
第10回 /				
第11回 /				
第12回 /				
第13回 /				
第14回 /				
第15回 /				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ゼミ	基礎ゼミⅡ Foundation Seminar Ⅱ	1単位	必修	演習	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	総合演習形式で卒業論文作成に向けた演習を行う。受講生の討論から対比的に学ぶことで、様々な知識を身につける。自らが獲得した知識に対する他者からの評価を建設的に受け止めることができる。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	卒業研究	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> まとめた内容を他者が理解できるよう説明できる。 他者の意見を取り入れて自らの知識・理解の枠を広げることができる。 他者の発表に対して建設的な意見を述べるができる。 			
-------	------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

詳細は「基礎ゼミⅠ・Ⅱ テーマ一覧表」で確認すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

詳細は「基礎ゼミⅠ・Ⅱ テーマ一覧表」で確認すること。

教科書

別途、教員から指示する。

参考書・リザーブブック

別途、教員から指示する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ テーマ一覧表」及び、第1回目の授業で説明する。
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる	○
	② 働きかけ力	すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。	○
	③ 実行力	目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を把握して、課題を抽出することができる。	○
	② 計画力	課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる	○
	③ 柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。	○
	⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。	○

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価の指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
					第1回目の授業で担当教員から説明する。					

到達度の評価方法は第1回目の授業で担当教員から説明する。

第1回目の授業で担当教員から説明する。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第1回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第1回目の授業の中で説明する。	
第2回 /				
第3回 /				
第4回 /				
第5回 /				
第6回 /				
第7回 /				
第8回 /				
第9回 /				
第10回 /				
第11回 /				
第12回 /				
第13回 /				
第14回 /				
第15回 /				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必修区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ゼミ	ゼミ I Seminar I	1単位	必修	演習	4年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	卒業論文のためのテーマを設定し解決のための仮説の組み立てを行う。	
	キーワード 卒業研究	学修教育目標 ・テーマに関する先行論文を検索・研究し、理解して発表できる。 ・自らの研究内容に対して批判的に考察できる。 ・他者の発表に対して、批判的に意見を述べることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

第1回目の授業で担当教員から説明する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

第1回目の授業で担当教員から説明する。

教科書

参考書・リザーブブック

別途、教員から指示する。	別途、教員から指示する。
--------------	--------------

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	第1回目の授業で担当教員から説明する。
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。
	② 働きかけ力	すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。
	③ 実行力	目的を理解し、目標を設定して行動することができる。
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を把握して、課題を抽出することができる。
	② 計画力	課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。
	③ 創造力	考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。
	③ 柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。
	④ 状況把握力	自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。
	⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価				到達度の評価方法は第1回目の授業 で担当教員から説明する。					
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
					第1回目の授業で担当教員から説明する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第1回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第1回目の授業の中で説明する。	
第2回 /				
第3回 /				
第4回 /				
第5回 /				
第6回 /				
第7回 /				
第8回 /				
第9回 /				
第10回 /				
第11回 /				
第12回 /				
第13回 /				
第14回 /				
第15回 /				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ゼミ	ゼミⅡ Seminar Ⅱ	1単位	必修	演習	4年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>今まで学んできたことを基礎として、各自が設定したテーマについて考察した内容をまとめ、テーマに対する知識・理解を定着させる。また、相互批判を受け止め、互いに高めあう関係を構築することができる能力を身につける。</p>					
キーワード	卒業研究	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに関する研究をまとめることができる。 ・自らの研究内容に対する他者の批判的意見を受け入れさらに内容を改善できる。 ・相互学修を通して他者と共に成長することができる能力を身につける。 			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">第1回目の授業で担当教員から説明する。</div>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">第1回目の授業で担当教員から説明する。</div>						
教科書			参考書・リザーブブック			
別途、教員から指示する。			別途、教員から指示する。			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。					
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">第1回目の授業で担当教員から説明する。</div>				
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力	すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。				◎
	③ 実行力	目的を理解し、目標を設定して行動することができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を把握して、課題を抽出することができる。				◎
	② 計画力	課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。				◎
	③ 創造力	考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。				◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。				◎
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。				◎
	③ 柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。				◎
	④ 状況把握力	自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。				◎
	⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。				◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。				◎
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価				到達度の評価方法は第1回目の授業 で担当教員から説明する。					
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
					第1回目の授業で担当教員から説明する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第1回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第1回目の授業の中で説明する。	
第2回 /				
第3回 /				
第4回 /				
第5回 /				
第6回 /				
第7回 /				
第8回 /				
第9回 /				
第10回 /				
第11回 /				
第12回 /				
第13回 /				
第14回 /				
第15回 /				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。